

学科到達目標

【学校目標】
A (教養) : 地球的視点で自然・環境を考え、歴史、文化、社会などについて広い視野を身につける。
B (倫理と責任) : 技術者としての倫理観や責任感を身につける。
C (コミュニケーション) : 日本語で記述、発表、討論するプレゼンテーション能力と国際的な場でコミュニケーションをとるための語学力の基礎能力を身につける。
D (工学基礎) : 数学、自然科学、情報技術および工学の基礎知識と応用力を身につける。
E (継続的学習) : 技術者としての自覚を持ち、自主的、継続的に学習できる能力を身につける。
F (専門の実践技術) : ものづくりに関係する工学分野のうち、得意とする専門領域を持ち、その技術を実践できる能力を身につける。
G (複合領域の実践技術) : 他の専門領域も理解し、自身の専門領域と複合して考察し、境界領域の問題解決に適用できる応用技術を身につける。
H (社会と時代が求める技術) : 社会や時代が要求する技術を工夫、開発、システム化できる創造力、デザイン能力、総合力を持った技術を身につける。
I (チームワーク) : 自身の専門領域の技術者とは勿論のこと、他領域の技術者ともチームを組み、計画的かつ円滑に仕事を遂行できる能力を身につける。

【学科目標】
D (工学基礎) : 数学、自然科学、情報技術および計算機システムⅠ・Ⅱ、オペレーティングシステムⅠ・Ⅱ、情報理論などを通して、工学の基礎知識と応用力を身につける。
F (専門の実践技術) : ものづくりに関係する工学分野のうち、情報工学実験、情報通信Ⅰ・Ⅱ、システム工学などを通して、得意とする専門領域を持ち、その技術を実践できる能力を身につける。
H (社会と時代が求める技術) : ソフトウェア工学Ⅰ、情報学特論、卒業研究などを通して、社会や時代が要求する技術を工夫、開発、システム化できる創造力、デザイン能力、総合力を持った技術を身につける。
I (チームワーク) : 情報工学実験、学外実習などを通して、自身の専門領域の技術者とは勿論のこと、他領域の技術者ともチームを組み、計画的かつ円滑に仕事を遂行できる能力を身につける。

科目区分	授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数										担当教員		
					1年		2年		3年		4年		5年				
					前	後	前	後	前	後	前	後	前	後			
一般	必修	国語	J3-1100	履修単位	2					2	2						山際 明利
一般	必修	日本語(留学生)	J3-1110	履修単位	4					4	4						山際 靖子
一般	必修	政治・経済	J3-1210	履修単位	2					2	2						佐々木 彩
一般	必修	数学Ⅲ A	J3-1380	履修単位	4					4	4						熊崎 耕太
一般	必修	数学Ⅲ B	J3-1385	履修単位	2					2	2						村本 充
一般	必修	物理	J3-1410	履修単位	2					2	2						藤石 碧
一般	必修	体育	J3-1500	履修単位	2					2	2						中島 広基
一般	必修	英語Ⅲ A	J3-1605	履修単位	3					3	3						東 俊文
一般	必修	英語Ⅲ B	J3-1606	履修単位	2					2	2						佐藤 奈々恵
専門	必修	回路理論	J3-4010	履修単位	2					2	2						大西 孝臣
専門	必修	電子工学Ⅰ	J3-4021	履修単位	2					2	2						稲川 清
専門	必修	論理回路	J3-4030	履修単位	2					2	2						三上 剛
専門	必修	計算機システムⅠ	J3-4041	履修単位	2					2	2						阿部 司
専門	必修	情報基礎(留学生)	J3-4050	履修単位	3					3	3						大西 孝臣
専門	必修	プログラム設計演習	J3-4069	履修単位	3					3	3						原田 恵雨
専門	必修	情報工学実験	J3-4810	履修単位	3					3	3						三上 剛
一般	選択	哲学	J4-1240	学修単位	2									3			多田 光宏
一般	選択	法学	J4-1250	学修単位	2										3		佐々木 彩
一般	選択	経済学	J4-1260	学修単位	2										3		松原 智雄
一般	選択	日本史	J4-1270	学修単位	2										3		坂下 俊彦
一般	必修	英語Ⅳ C	J4-1607	学修単位	3							2	2				沖本 正憲
一般	選択	英会話	J4-1640	学修単位	2									3			若木 愛弓
一般	選択	日本文化論	J4-9010	学修単位	2										3		片山 ふゆき, 藤沼 正美
一般	選択	社会学	J4-9025	学修単位	2									3			坂 敏宏

一般	選択	日本事情	J4-9030	学修単位	2						3				佐々木 彩
一般	選択	第二外国語 B	J4-9110	学修単位	2						3				Andrea Hatakeyama
一般	選択	英語特論 A	J4-9120	学修単位	2						3				東 俊文
一般	選択	英語特論 B	J4-9130	学修単位	2						3				堀 登代彦
一般	選択	日本語コミュニケーション	J4-9140	学修単位	2						3				小西 正人
一般	選択	数学特別講義 A	J4-9200	学修単位	2						3				上木 政美
一般	選択	数学特別講義 B	J4-9210	学修単位	2						3				藤島 勝弘
一般	選択	地球科学概論	J4-9240	学修単位	2						3				長田 光司
一般	選択	スポーツ社会科学	J4-9250	学修単位	2						3				中島 広基
専門	必修	応用数学	J4-1800	学修単位	4						4	4			高橋 芳太
専門	必修	応用物理	J4-1810	学修単位	3						4	2			長澤 智明 柿並 義宏
専門	必修	電子工学Ⅱ	J4-4022	学修単位	2						3				稲川 清
専門	必修	計算機システムⅡ	J4-4042	学修単位	1						2				阿部 司
専門	必修	システムソフトウェア	J4-4070	学修単位	2						3				大橋 智志
専門	必修	オペレーティングシステムⅠ	J4-4081	学修単位	2						3				吉村 斎
専門	必修	情報数学	J4-4100	学修単位	3						2	2			川口 雄一
専門	必修	データベース	J4-4110	学修単位	2						3				三河 佳紀
専門	必修	信号処理Ⅰ	J4-4119	学修単位	2						3				大西 孝臣
専門	必修	情報通信Ⅰ	J4-4131	学修単位	2						3				阿部 司
専門	必修	情報工学セミナー	J4-4161	学修単位	1						2				阿部 司
専門	必修	情報工学実験	J4-4810	履修単位	4						4	4			原田 恵雨
専門	選択	学外実習	J4-4940	履修単位	1						2				三河 佳紀
一般	選択	哲学	J5-1240	学修単位	2									3	多田 光宏
一般	選択	法学	J5-1250	学修単位	2									3	佐々木 彩
一般	選択	経済学	J5-1260	学修単位	2								3		松原 智雄
一般	選択	日本史	J5-1270	学修単位	2									3	坂下 俊彦
一般	必修	英語 V C	J5-1608	学修単位	3							2	2		山下 徹
一般	選択	英会話	J5-1640	学修単位	2									3	若木 愛弓
一般	選択	国際文化論	J5-9005	学修単位	2									3	Andrea Hatakeyama
一般	選択	社会学	J5-9025	学修単位	2									3	坂 敏宏
一般	選択	第二外国語 A	J5-9100	学修単位	2									3	山際 明利
一般	選択	第二外国語 B	J5-9110	学修単位	2									3	Andrea Hatakeyama
一般	選択	英語特論 B	J5-9130	学修単位	2									3	堀 登代彦
一般	選択	日本語コミュニケーション	J5-9140	学修単位	2									3	小西 正人
一般	選択	科学史	J5-9220	学修単位	2									3	加藤 初儀
一般	選択	数理科学	J5-9230	学修単位	2								2		長澤 智明 高橋 芳太
一般	選択	地球科学概論	J5-9240	学修単位	2									3	長田 光司
専門	必修	ソフトウェア工学Ⅰ	J5-4090	学修単位	2									3	土居 茂雄
専門	必修	コンピュータグラフィクス	J5-4105	学修単位	2									3	中村 庸郎
専門	必修	情報理論	J5-4120	学修単位	2									3	中村 庸郎
専門	必修	システム工学	J5-4140	学修単位	2									3	土居 茂雄
専門	必修	組込みシステム総論	J5-4180	学修単位	2									3	吉村 斎
専門	必修	信頼性工学	J5-4200	学修単位	1									2	土居 茂雄
専門	選択	情報学特論	J5-4500	学修単位	1									2	原田 恵雨
専門	選択	知識情報工学	J5-4510	学修単位	2									3	三上 剛

専門	選択	オペレーティングシステムⅡ	J5-4515	学修単位	2										3	阿部 司	
専門	選択	信号処理Ⅱ	J5-4525	学修単位	2										3	佐々木 幸司	
専門	選択	情報通信Ⅱ	J5-4531	学修単位	1										2	阿部 司	
専門	選択	ソフトウェア工学Ⅱ	J5-4540	学修単位	1										2	中村 嘉彦	
専門	必修	経営工学	J5-4550	学修単位	1										2	吉村 斎	
専門	選択	制御工学	J5-4570	学修単位	2										3	吉村 斎	
専門	必修	情報工学実験	J5-4810	履修単位	2										4	原田 恵雨	
専門	必修	卒業研究	J5-4900	履修単位	8										8	8	土居 茂雄

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国語
科目基礎情報					
科目番号	J3-1100		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	情報工学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	『探求現代文B』 桐原書店 / 国語便覧				
担当教員	山際 明利				
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 論理的な文章について、その論理の展開や要旨を的確に捉えることができる。 ・ 文学的文章について、その登場人物、情景、心情などについて、的確に捉えることができる。 ・ 様々な文章を通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり、発展させたりすることができる。 ・ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色を捉えることができる。 					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
論理的文章の読解	論理的文章の論理の展開や要旨を的確に捉えることができる		論理的文章の論理の展開や要旨をおおむね捉えることができる		論理的文章の論理の展開や要旨を捉えることができない
文学的文章の読解	文学的文章の内容を的確に捉えることができる		文学的文章の内容をおおむね捉えることができる		文学的文章の内容を捉えることができない
考えの深化発展	読解・論述を通して自分の考えを深め、発展させることができる		読解・論述を通して自分の考えを深め、発展させる手法を知る		読解・論述を通して自分の考えを深め、発展させることができない
学科の到達目標項目との関係					
学習目標 I, 学習目標 II, 学習目標 III, 本科の点検項目 A - i, 本科の点検項目 C - iii, 本科の点検項目 E - ii					
教育方法等					
概要	近代以降の様々な文章や作品を読解し鑑賞する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、人生を豊かにする態度を育てる。また、言語文化に対する関心を深め、言語感覚を豊かにし、積極的に国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。				
授業の進め方と授業内容・方法	教室での一斉座学。 中間試験35%、定期試験40%、小テストや提出課題など20%、授業中の発言記録5%、以上を総合して評価する。合格点は60点である。なお特段の事情ある場合を除いて再試験は実施しない。				
注意点	国語辞典を意用のこと。電子辞書を排除しないが、授業中に携帯電話を辞書として使用することは禁止する。授業で扱う教材については、必ず授業前に目を通しておき、授業後は教授された内容を確認しながら、再度教材にあたっておくこと。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	ガイダンス	授業の目的・方針等を理解する。		
	2週	1. 評論 1-1 オブジェとイマージュ	作品の読解を通して、筆者のものの見方、考え方を理解することができる。		
	3週	1-1 オブジェとイマージュ	評論としての論理の展開や、その要旨を的確にとらえることができる。		
	4週	1-1 オブジェとイマージュ	作品の読解を通して、筆者のものの見方、考え方を理解することができる。		
	5週	1-2 言葉の〈意味〉と〈表徴〉	評論としての論理の展開や、その要旨を的確にとらえることができる。		
	6週	1-2 言葉の〈意味〉と〈表徴〉	作品の読解を通して、筆者のものの見方、考え方を理解することができる。		
	7週	1-2 言葉の〈意味〉と〈表徴〉 (中間試験)	評論としての論理の展開や、その要旨を的確にとらえることができる。		
	8週	2. 小説 2-1 夏目漱石について	夏目漱石に関する事項を記憶する。		
	9週	2-1 夏目漱石について	夏目漱石に関する事項を記憶する。		
	10週	2-2 こころ	長編小説の特色を理解し、登場人物の行動や心理を読み取ることができる。		
	11週	2-2 こころ	長編小説の特色を理解し、登場人物の行動や心理を読み取ることができる。		
	12週	2-2 こころ	長編小説の特色を理解し、登場人物の行動や心理を読み取ることができる。		
	13週	2-2 こころ	長編小説の特色を理解し、登場人物の行動や心理を読み取ることができる。		
	14週	2-2 こころ	長編小説の特色を理解し、登場人物の行動や心理を読み取ることができる。		
	15週	2-2 こころ	長編小説の特色を理解し、登場人物の行動や心理を読み取ることができる。		
	16週	前期定期試験			
後期	1週	3. 評論 3-1 「である」ことと「する」こと	論理の展開や要旨を的確に捉え、筆者の発想や視点、論の構成を理解することができる。		
	2週	3-1 「である」ことと「する」こと	論理的な文章を展開する上での語句の意味、用法を的確に理解することができる。		
	3週	3-1 「である」ことと「する」こと	論理的な文章を展開する上での語句の意味、用法を的確に理解することができる。		
	4週	3-2 市民社会化する家族	論理の展開や要旨を的確に捉え、筆者の発想や視点、論の構成を理解することができる。		

5週	3-2 市民社会化する家族	論理的な文章を展開する上での語句の意味、用法を的確に理解することができる。
6週	3-2 市民社会化する家族	論理的な文章を展開する上での語句の意味、用法を的確に理解することができる。
7週	3-2 市民社会化する家族 (中間試験)	論理的な文章を展開する上での語句の意味、用法を的確に理解することができる。
8週	4. 小説 4-1 森鷗外について	森鷗外に関する事項を記憶する。
9週	4-2 舞姫	小説の文体や修辞について、その表現上の特色を捉え、登場人物のものの見方、感じ方、考え方を理解することができる。
10週	4-2 舞姫	小説の文体や修辞について、その表現上の特色を捉え、登場人物のものの見方、感じ方、考え方を理解することができる。
11週	4-2 舞姫	小説の文体や修辞について、その表現上の特色を捉え、登場人物のものの見方、感じ方、考え方を理解することができる。
12週	4-2 舞姫	小説の文体や修辞について、その表現上の特色を捉え、登場人物のものの見方、感じ方、考え方を理解することができる。
13週	4-2 舞姫	小説の文体や修辞について、その表現上の特色を捉え、登場人物のものの見方、感じ方、考え方を理解することができる。
14週	4-2 舞姫	小説の文体や修辞について、その表現上の特色を捉え、登場人物のものの見方、感じ方、考え方を理解することができる。
15週	4-2 舞姫	小説の文体や修辞について、その表現上の特色を捉え、登場人物のものの見方、感じ方、考え方を理解することができる。
16週	後期定期試験	

評価割合

	中間試験	定期試験	提出課題	発言	合計
総合評価割合	35	40	20	5	100
基礎的能力	30	35	15	5	85
専門的能力	5	5	5	0	15
分野横断的能力	0	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	日本語 (留学生)
科目基礎情報					
科目番号	J3-1110		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	情報工学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	4	
教科書/教材	土岐哲他「日本語中級 J501—中級から上級へ—」スリーエーネットワーク/梶本総子・宮谷敦美「聞いて覚える話し方 日本語生中継・中～上級篇」くろしお出版				
担当教員	山際 靖子				
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 文法・語彙については日本語能力試験1～2級のレベルを定着・運用を目標とする ・ レポートや論文に必要な論理的な文章の文体・文型・書式を理解することを目標とする ・ 学生生活を円滑に進めるためのコミュニケーションスキルを身につけることを目標とする ・ 幅広い分野の文章を読むことで十分な読解力をつけることを目標とする 					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
文法・語彙	目標を十分に満たしている	目標を必要な程度に満たしている	目標を満たしていない		
文体・文型・書式	目標を十分に満たしている	目標を必要な程度に満たしている	目標を満たしていない		
コミュニケーションスキル	目標を十分に満たしている	目標を必要な程度に満たしている	目標を満たしていない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	中・上級 (JLPT2級以上) の日本語の習得及び運用。 専門科目における課題推進能力の補強を目標とする。 特に学生生活に支障なくコミュニケーションがとれることに留意する。				
授業の進め方と授業内容・方法	開講にあたり、学生の習熟度・ニーズを知るためにプレイズメントテスト及びニーズ調査を実施する テキストを「読む・書く」を柱に、論理的に相手に「話す」ことができるよう日本語能力を運用してゆく コミュニケーション能力については、講義中の質疑応答はもとより必要と思われる会話練習を適宜挿入する 年間を通して文法の練習問題のプリントを配布・隔週毎に漢字の小テストを行なう 定期試験40% 中間試験40% 小テスト及び課題提出20%の割合で評価する 合格点は60点以上である				
注意点	提出課題プリントをとじるファイルを用意すること 会話の聞き取り練習1.2はCDで予習しておくこと 文法プリントは自習/テキスト項目との関連で適宜復習 漢字のテストの前後に重要語句の予習/復習				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	0.プレイズメントテスト・ニーズ調査	既習項目の確認と今後の達成目標が自覚できる		
	2週	1.文化と偏見	一般論とそれに対する自分の意見が言える		
	3週	1.文化と偏見	状態を表す動詞「～ている」「～た」+名詞		
	4週	2.マナーもいっしょに「携帯」	複合動詞 + 「する」動詞		
	5週	2.マナーもいっしょに「携帯」	類義語 身体語彙を使った慣用句		
	6週	3.会話 勧誘する	誘い方・断り方を通して日本文化を理解する		
	7週	4. 「在外」日本人 1 段落 (中間試験)	指示語・接続語を適切に用い段落構成ができる		
	8週	4. 「在外」日本人 1 段落	事柄に視点を置き時間的経過を説明できる		
	9週	-2 経過の説明	動詞のテンス/アスペクトを整え文章が書ける		
	10週	-2 経過の説明	自他動詞・受身・使役形の書き換えができる		
	11週	-2 経過の説明	語や文の名詞化ができる 句読点を適切に打てる		
	12週	-2 経過の説明	文章の基本表記ができる (原稿用紙600字程度)		
	13週	-3 発表/質疑応答	作文の発表ができる 内容について質疑応答ができる		
	14週	5. 会話 5-1 確かな情報/不確かな情報	他人からの情報を確認することができる		
	15週	5-1 確かな情報/不確かな情報	情報を第三者に正確に伝えることができる		
	後期	1週	5-2 許可を求める	カジュアル・フォーマルの使い分けができる	
2週		6 洋服の色で知る今日のわたし	抽象的な概念を具体的に説明できる		
3週		-1 分類	和語・漢語・外来語の特徴が理解できる		
4週		-2 定義	テーマに関わる重要語について定義できる		
5週		7.ひとしずくの水にあふれる個性	科学的なトピックを平易な言葉で説明できる		
6週		-1 現象	専門用語を平易な語彙で説明できる		
7週		-2 変化 (中間試験)	適切な自他動詞の選択ができる		
8週		8. 会話 提案する	提案の方法を理解する		
9週		-2 接遇表現を理解する	賛成・反対の伝え方を理解する		
10週		9. ソウの時間ネズミの時間 -1 要約	長文の要約ができる (原稿用紙800字程度)		
11週		-2 資料の利用	数値を分析し説明・考察することができる		

12週	-2 資料の利用	変化・数量を表す表現を適切に使える
13週	-3 レポート	ある実験や調査について報告することができる
14週	10. 会話 依頼・指示する	立場・状況に応じて間接的な表現ができる
15週	会話 依頼・指示する	状況に応じて適切な表現を選択することができる
16週	定期試験	

評価割合

	定期試験	中間試験	小テスト・課題提出	合計
総合評価割合	40	40	20	100
基礎的能力	40	40	20	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	政治・経済
科目基礎情報					
科目番号	J3-1210	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	情報工学科	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	教科書: 間宮陽介他『政治・経済』(東京書籍) / 参考図書: 必要に応じて適宜紹介する				
担当教員	佐々木 彩				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 民主政治の基本原則、日本国憲法の成り立ちやその特性について説明できる。 2. 資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について説明できる。 3. 現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて説明できる。 4. 知財等を通して現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について説明できる。 5. 知財等を通して社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について説明できる。 6. 今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について説明できる。 7. 環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について説明できる。 8. 国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みについて説明できる。 					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
1. 民主政治の基本原則、日本国憲法の成り立ちやその特性について説明できる。	民主政治の基本原則、日本国憲法の成り立ちやその特性について説明できる。	民主政治の基本原則、日本国憲法の成り立ちやその特性に関する基本的な問題が解ける。	民主政治の基本原則、日本国憲法の成り立ちやその特性に関する基本的な問題が解けない。		
2. 資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について説明できる。	資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について説明できる。	資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割に関する基本的な問題が解ける。	資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割に関する基本的な問題が解けない。		
3. 現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて説明できる。	現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて説明できる。	現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みに関する基本的な問題が解ける。	現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みに関する基本的な問題が解けない。		
4. 知財等を通して現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について説明できる。	知財等を通して現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について説明できる。	知財等を通して現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響に関する基本的な問題が解ける。	知財等を通して現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響に関する基本的な問題が解けない。		
5. 知財等を通して社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について説明できる。	知財等を通して社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について説明できる。	知財等を通して社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方に関する基本的な問題が解ける。	知財等を通して社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について基本的な問題が解けない。		
6. 今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について説明できる。	今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について説明できる。	今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景に関する基本的な問題が解ける。	今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景に関する基本的な問題が解けない。		
7. 環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について説明できる。	環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について説明できる。	環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景に関する基本的な問題が解ける。	環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景に関する基本的な問題が解けない。		
8. 国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みについて説明できる。	国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みについて説明できる。	国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みに関する基本的な問題が解ける。	国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みに関する基本的な問題が解けない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習目標 I, 学習目標 III, 本科の点検項目 A - i, 本科の点検項目 A - ii, 本科の点検項目 B - i, 本科の点検項目 B - ii					
教育方法等					
概要	歴史的背景を踏まえながら、政治・経済に関する基礎知識を習得する。社会科学的な視点から人間、社会、文化について多面的に理解し、国際社会の一員として社会的諸問題の解決に向けて主体的に貢献する自覚と素養を培う。人間活動や科学技術の役割と影響に関心を持ち、幸福とは何かを追究しながら、技術者として社会に貢献する自覚と素養を培う。				
授業の進め方と授業内容・方法	・ 授業は、配布プリントを用いて、主に講義形式で進める。適宜、練習問題を取り入れて、受講者の理解度を確認しながら授業を行う。 ・ 成績は、定期試験 50%、到達度試験 (中間試験) 40%、課題等 10% で評価する。なお、合格点に達しない場合は再試験を行う予定。				
注意点	・ 授業の理解を深めるために、新聞・ニュース等を通じて、政治・経済に関する内容に関心を持つこと。 ・ 教科書及び配布プリントを用いて予習・復習を行うこと。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	政治・経済を学ぶために	政治システム・経済システムが私たちの生活を支えていることを、具体例を通して理解し説明することができる。		
	2週	法の支配①	「法の支配」の原則の確立を理解し説明できるとともに、それに伴う人権獲得の歴史、民主主義国家の成立、世界の主な政治体制について理解し説明することができる。		
	3週	法の支配②	「法の支配」の原則の確立を理解し説明できるとともに、それに伴う人権獲得の歴史、民主主義国家の成立、世界の主な政治体制について理解し説明することができる。		
	4週	法の支配③	「法の支配」の原則の確立を理解し説明できるとともに、それに伴う人権獲得の歴史、民主主義国家の成立、世界の主な政治体制について理解し説明することができる。		

	5週	日本国憲法の制定と基本原理①	明治憲法と日本国憲法の差異、日本国憲法の基本原理について理解し説明することができる。
	6週	日本国憲法の制定と基本原理②	明治憲法と日本国憲法の差異、日本国憲法の基本原理について理解し説明することができる。
	7週	日本国憲法の制定と基本原理③	明治憲法と日本国憲法の差異、日本国憲法の基本原理について理解し説明することができる。
	8週	基本的人権の保障①	法の下での平等、自由権、社会権等について、実際に起った事例を通して理解し、説明することができる。
	9週	基本的人権の保障②	法の下での平等、自由権、社会権等について、実際に起った事例を通して理解し、説明することができる。
	10週	基本的人権の保障③	法の下での平等、自由権、社会権等について、実際に起った事例を通して理解し、説明することができる。
	11週	基本的人権の保障④	法の下での平等、自由権、社会権等について、実際に起った事例を通して理解し、説明することができる。
	12週	日本の政治機構①	国会・内閣・裁判所等の機能について理解し、説明することができる。
	13週	日本の政治機構②	国会・内閣・裁判所等の機能について理解し、説明することができる。
	14週	日本の政治機構③	国会・内閣・裁判所等の機能について理解し、説明することができる。
	15週	日本の政治機構④	国会・内閣・裁判所等の機能について理解し、説明することができる。
	16週		
後期	1週	現代の国際政治①	国際社会の変遷、国際機構の役割等について理解し説明することができる。
	2週	現代の国際政治②	国際社会の変遷、国際機構の役割等について理解し説明することができる。
	3週	現代の国際政治③	国際社会の変遷、国際機構の役割等について理解し説明することができる。
	4週	現代経済の成り立ちとしくみ①	三つの経済主体（企業・政府・家計）の関連性を理解し、ひとつの循環システムとなっていることを説明できる。企業を中心とした市場メカニズムの観点から、経済活動と景気との関係を考察し説明することができる。
	5週	現代経済の成り立ちとしくみ②	三つの経済主体（企業・政府・家計）の関連性を理解し、ひとつの循環システムとなっていることを説明できる。企業を中心とした市場メカニズムの観点から、経済活動と景気との関係を考察し説明することができる。
	6週	現代経済の成り立ちとしくみ③	三つの経済主体（企業・政府・家計）の関連性を理解し、ひとつの循環システムとなっていることを説明できる。企業を中心とした市場メカニズムの観点から、経済活動と景気との関係を考察し説明することができる。
	7週	現代経済の成り立ちとしくみ④	三つの経済主体（企業・政府・家計）の関連性を理解し、ひとつの循環システムとなっていることを説明できる。企業を中心とした市場メカニズムの観点から、経済活動と景気との関係を考察し説明することができる。
	8週	現代経済の成り立ちとしくみ⑤	三つの経済主体（企業・政府・家計）の関連性を理解し、ひとつの循環システムとなっていることを説明できる。企業を中心とした市場メカニズムの観点から、経済活動と景気との関係を考察し説明することができる。
	9週	政府の経済政策①	財政政策と金融政策のしくみを理解し、また、租税政策を通じて社会の安定化をどう図るかを理解し説明できる。
	10週	政府の経済政策②	財政政策と金融政策のしくみを理解し、また、租税政策を通じて社会の安定化をどう図るかを理解し説明できる。
	11週	国際経済のしくみ①	企業のグローバル化に伴い、為替の影響等国際経済のしくみを理解し説明できる。また、国際間の利害調整をするための国際機関の役割を理解し、説明することができる。
	12週	国際経済のしくみ②	企業のグローバル化に伴い、為替の影響等国際経済のしくみを理解し説明できる。また、国際間の利害調整をするための国際機関の役割を理解し、説明することができる。
	13週	現代社会の諸問題①	日本社会・国際社会が抱える諸課題について検討し、考察することができる。
	14週	現代社会の諸問題②	日本社会・国際社会が抱える諸課題について検討し、考察することができる。
	15週	現代社会の諸問題③	日本社会・国際社会が抱える諸課題について検討し、考察することができる。
	16週		

評価割合

	定期試験	到達度試験（中間試験）	課題等				合計
総合評価割合	50	40	10	0	0	0	100
基礎的能力	50	40	10	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	数学Ⅲ A
科目基礎情報					
科目番号	J3-1380		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	情報工学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	4	
教科書/教材	教科書: 高遠節夫他著「新微分積分Ⅰ」, 「新微分積分Ⅱ」(大日本図書), 補助教材: 高遠節夫他著「新微分積分Ⅰ問題集」, 「新微分積分Ⅱ問題集」(大日本図書), 自作プリント/参考図書: 「新版微分積分Ⅰ」, 「新版微分積分Ⅱ」(実教出版)、高等学校用の学習参考書「数学Ⅱ」, 「数学Ⅲ」、大学用の学習参考書「微分積分」など				
担当教員	熊崎 耕太				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 部分積分法を用い、いろいろな関数の積分をすることができる。 2. 1変数関数の定積分を応用し、図形の面積・体積や長さを求めることができる。 3. 関数の近似やべき級数を理解し、基本的な関数の近似式やマクローリン展開を求めることができる。 4. 偏微分に関する問題を解くことができる。 5. 1階微分方程式及び2階定数係数線形微分方程式を解くことができる。 					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	いろいろな関数を積分することができ、図形の面積・体積や長さに関する問題を解くことができる。		いろいろな関数を積分することができ、図形の面積・体積や長さに関する基本的な問題を解くことができる。		いろいろな関数を積分することができない。また、図形の面積・体積や長さに関する基本的な問題を解くことができない。
評価項目2	関数の近似式とべき級数展開、2変数関数の近似式を理解し、関数の近似式や偏微分に関する問題を解くことができる。		関数の近似式とべき級数展開、2変数関数の近似式を理解し、関数の近似式や偏微分に関する基本的な問題を解くことができる。		関数の近似式とべき級数展開、2変数関数の近似式を理解することができない。また、関数の近似式や偏微分に関する問題を解くことができない。
評価項目3	1階及び2階微分方程式を解くことができる。		基本的な1階及び2階微分方程式を解くことができる。		基本的な1階及び2階微分方程式を解くことができない。
学科の到達目標項目との関係					
学習目標Ⅱ, 本科の点検項目 D-i, 本科の点検項目 E-ii					
教育方法等					
概要	2年次で学んだ微分法・積分法を活用して、積分の応用、関数の級数展開、偏微分法、微分方程式を学ぶ。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業は、教科書に沿った講義を中心に進め、プリント等による演習と理解度を確認する到達度試験を適宜行う。成績は、定期試験(40%)、達成度試験(40%)および平素の学習状況(課題:20%)を総合して評価する。				
注意点	2年次で学んだ数学ⅡAの知識が前提となるので適宜復習して授業に望むこと。また、講義で配布される演習課題により日々の予習・復習を行うこと。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	積分の計算: 部分積分法	部分積分法を用いて、積分を計算することができる。		
	2週	積分の計算: 置換積分法・部分積分法の応用	置換積分法・部分積分法を用いて、いろいろな関数の不定積分や定積分の値を求めることができる。		
	3週	積分の計算: いろいろな関数の積分(1)	分数関数・無理関数の積分を計算できる。		
	4週	積分の計算: いろいろな関数の積分(2)	三角関数の積や商の積分を計算することができる。		
	5週	積分の応用: 図形の面積、曲線の長さ	積分を用いて、図形の面積や曲線の長さを求めることができる。		
	6週	積分の応用: 立体の体積	積分を用いて、立体の体積を求めることができる。		
	7週	演習、達成度試験	達成度を把握し、理解度の向上を図る。		
	8週	いろいろな応用: 媒介変数表示による図形	媒介変数表示された図形の面積や曲線の長さを求めることができる。		
	9週	いろいろな応用: 極座標による図形	極座標表示された図形の面積や曲線の長さを求めることができる。		
	10週	いろいろな応用: 広義積分、変化率と積分	広義積分を求めることができる。また、変化率と積分の関係を理解している。		
	11週	関数の展開: 多項式による近似(1)	関数の1次近似式及び2次近似式を求めることができる。		
	12週	関数の展開: 多項式による近似(2)	指定された自然数nに対して、関数のn次近似式を求めることができる。		
	13週	関数の展開: 数列の極限、級数	数列の極限及び級数の収束・発散を調べることができる。		
	14週	関数の展開: べき級数とマクローリン展開	べき級数の収束条件を理解し、関数のマクローリン展開を求めることができる。		
	15週	関数の展開: オイラーの公式	オイラーの公式を理解し、複素数の値を取る関数を微分することができる。		
	16週	前期定期試験			
後期	1週	偏微分法: 2変数関数	2変数関数の定義域と値域を理解し、2変数関数の曲面を求めることができる。		
	2週	偏微分法: 偏導関数	偏導関数を計算することができる。		
	3週	偏微分法: 全微分	全微分の意味を理解し、関数の全微分を計算することができる。		
	4週	偏微分法: 合成関数の微分法	合成関数の微分法を用いて、関数を微分及び偏微分することができる。		
	5週	偏微分の応用: 高次偏導関数	第2次偏導関数を求めることができる。		
	6週	偏微分の応用: 極大・極小	2変数関数の極大・極小を判定することができる。		

7週	偏微分の応用：陰関数の微分法、条件付き極値問題	陰関数を理解し、陰関数の微分を計算することができる。また、陰関数の微分法を応用して、定義域を制限した場合の2変数関数の極値を求めることができる。
8週	演習、達成度試験	達成度を把握し、理解度の向上を図る。
9週	1階微分方程式：微分方程式の意味、微分方程式の解	微分方程式の一般解及び特殊解の意味を理解している。
10週	1階微分方程式：変数分離形	変数分離形の微分方程式を解くことができる。
11週	1階微分方程式：同次形	同次形の微分方程式を解くことができる。
12週	1階微分方程式：1階線形微分方程式	定数変化法を用いて、1階線形微分方程式を解くことができる。
13週	2階微分方程式：微分方程式の解、線形微分方程式	2階微分方程式の一般解・特殊解の意味を理解し、斉次・非斉次の場合の線形微分方程式の一般解の形を説明することができる。
14週	2階微分方程式：定数係数斉次線形微分方程式	定数係数斉次線形微分方程式を解くことができる。
15週	2階微分方程式：定数係数非斉次線形微分方程式	定数係数非斉次線形微分方程式を解くことができる。
16週	後期定期試験	

評価割合

	定期試験	達成度試験	課題	合計
総合評価割合	40	40	20	100
基礎的能力	40	40	20	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	数学ⅢB
科目基礎情報					
科目番号	J3-1385		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	情報工学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	高遠節夫著「新線形代数」(大日本図書)、高遠節夫著「新微積分Ⅱ」(大日本図書) / 補助教材: 高遠節夫著「新線形代数問題集」(大日本図書)、高遠節夫著「新微積分Ⅱ問題集」(大日本図書) / 参考図書: 立花俊一他編「エクササイズ線形代数」(共立出版)、立花俊一他編「偏微分・重積分」(共立出版)				
担当教員	村本 充				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 消去法を用いて、逆行列を求めたり、連立方程式を解くことができる。 2. 行列式を用いて、逆行列を求めたり、連立方程式を解くことができる。 3. 図形(ベクトル)と行列の関連を理解し、線形変換に関する問題を解くことができる。 4. 固有値と固有ベクトルを求め、行列を対角化することができる。 5. 重積分を計算し、図形の体積や平均を求めることができる。 					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	消去法を用いて、3次以上の逆行列を求めたり、連立方程式を解くことができる。		消去法を用いて、3次の逆行列を求めたり、連立方程式を解くことができる。		消去法を用いて、3次の逆行列を求めたり、連立方程式を解くことができない。
評価項目2	行列式を用いて、3次以上の逆行列を求めたり、連立方程式を解くことができる。		行列式を用いて、3次の逆行列を求めたり、連立方程式を解くことができる。		行列式を用いて、3次の逆行列を求めたり、連立方程式を解くことができない。
評価項目3	図形(ベクトル)と行列の関連を理解し、線形変換に関する問題を解くことができる。		図形(ベクトル)と行列の関連を知り、線形変換に関する基本的な問題を解くことができる。		図形(ベクトル)と行列の関連を理解していない。線形変換に関する基本的な問題を解くことができない。
評価項目4	固有値と固有ベクトルを求め、行列を対角化することができる。また、対称行列は直交行列で対角化することができる。		固有値と固有ベクトルを求め、行列を対角化することができる。		固有値と固有ベクトルを求めることができない。行列を対角化することができない。
評価項目5	変数変換を含む重積分を計算することができる。重積分を用いて図形の体積や平均を求めることができる。		簡単な重積分を計算することができる。重積分を用いて図形の体積や平均を求めることができる。		簡単な重積分を計算することができない。重積分を用いて図形の体積や平均を求めることができない。
学科の到達目標項目との関係					
学習目標 II, 本科の点検項目 D - i, 本科の点検項目 E - ii					
教育方法等					
概要	2年次までに習得した行列や微積分の知識に加えて、行列式や重積分に関する計算方法を理解し、工学の問題を解くときに必要となる計算技術を習得する。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業は教科書に沿って行い、計算方法を習得するための演習および理解度を確保するための小テストを適宜実施する。また、計算練習のための課題を課すことがある。成績は定期試験(40%)、達成度試験(40%)および平素の学習状況(課題・小テストを含む: 20%)を総合して評価する。				
注意点	2年で学んだ数学ⅡA、数学ⅡBの知識が前提となるので適宜復習して授業に望むこと。				
授業計画					
	週	授業内容・方法		週ごとの到達目標	
前期	1週	連立1次方程式と行列: 消去法		消去法で連立1次方程式を解くことができる	
	2週	連立1次方程式と行列: 逆行列と連立1次方程式、行列の階数		逆行列を利用して連立1次方程式を解くことができる	
	3週	行列式の定義と性質: 行列式の定義		行列式の定義を理解している	
	4週	行列式の定義と性質: 行列式の性質		行列式の性質を活用して行列式の計算ができる	
	5週	行列式の定義と性質: 行列の積の行列式		行列の積の行列式の性質を活用して行列式の計算ができる	
	6週	行列式の応用: 行列式の展開		行列式を任意の行や列で展開することができる	
	7週	行列式の応用: 行列式と逆行列		余因子行列を用いて逆行列を求めることができる	
	8週	行列式の応用: 連立1次方程式と行列式		クラメル公式を用いて連立1次方程式を解くことができる	
	9週	行列式の応用: 行列式の図形的意味		ベクトルがつくる図形の面積や体積を行列式を用いて計算することができる	
	10週	達成度試験		達成度を把握し、試験の復習を行って理解度を向上する	
	11週	線形変換: 線形変換の定義		線形変換が行列で表されることを理解する	
	12週	線形変換: 線形変換の基本性質		線形変換の基本性質を理解し、線形変換による像を求めることができる	
	13週	線形変換: 合成変換と逆変換		合成変換・逆変換の意味を理解し、平面上の図形を線形変換できる	
	14週	線形変換: 回転を表す線形変換		回転移動が線形変換であることを理解し、図形を回転させた像を求めることができる	
	15週	線形変換: 直交行列と直交変換		正方行列が直交行列であるための条件を説明できる	
	16週	前期定期試験			
後期	1週	固有値とその応用: 固有値と固有ベクトル		固有値と固有ベクトルの定義を説明できる	
	2週	固有値とその応用: 固有値と固有ベクトルの計算(1)		固有値と固有ベクトルを求めることができる	

3週	固有値とその応用：固有値と固有ベクトルの計算(2)	固有方程式が重解を持つときの固有値と固有ベクトルを求めることができる
4週	固有値とその応用：行列の対角化	固有値と固有ベクトルを求めて、行列を対角化することができる
5週	固有値とその応用：対角化可能な条件	行列を対角化可能か判定することができる
6週	固有値とその応用：対称行列の直交行列による対角化	対称行列を直交行列で対角化することができる
7週	固有値とその応用：対角化の応用	行列の対角化を応用して、2次形式の標準形や行列のべき乗を求めることができる
8週	達成度試験	達成度を把握し、試験の復習を行って理解度を向上する
9週	重積分：2重積分の定義	2重積分の定義を説明できる
10週	重積分：2重積分の計算(1)	2重積分を累次積分に直して計算することができる
11週	重積分：2重積分の計算(2)	累次積分の積分順序の変更をすることができる
12週	重積分：2重積分の計算(3)	2重積分を用いて基本的な図形の体積を求めることができる。
13週	重積分：極座標による2重積分	極座標による2重積分を計算することができる
14週	重積分：変数変換	変数変換することによって2重積分を計算することができる
15週	重積分：広義積分	広義積分を求めることができる
16週	後期定期試験	

評価割合

	定期試験	達成度試験	課題・小テスト	合計
総合評価割合	40	40	20	100
基礎的能力	40	40	20	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	物理
科目基礎情報				
科目番号	J3-1410	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	情報工学科	対象学年	3	
開設期	通年	週時間数	2	
教科書/教材	兵藤申一等編「物理」啓林館 / 高校物理研究会「ステップアップノート物理II」啓林館			
担当教員	藤石 碧			
到達目標				
1) 直線運動以外の運動における速度・加速度・力のベクトル量の取り扱いが正確にできるようになり、力学の概念を定量的に身につける。 2) 力学の概念を用いて、電気現象等の定量的な表現方法を身につける。 3) 直流回路でのコンデンサー、電気抵抗等を定量的に扱える。				
ループリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
1. 直線運動以外の運動における速度・加速度・力のベクトル量の取り扱いが正確にできる。	平面での物体の運動が、直線運動の組合せで説明でき、放物運動・円運動・単振動等に応用できる。	速度・加速度・力が物体の位置ベクトルから微分を用いて計算できる。	2次元運動の基礎的計算ができない。	
2. 力学の概念を用いて、電気現象等の定量的な表現方法を身につける。	複数の点電荷の配置で生じる電界と電位を算出できる。	点電荷の一般的性質を理解し、電界・電位などの基礎的電気量を算出できる。	電気現象を力学概念から説明できない。	
3. 直流回路でのコンデンサー、電気抵抗等を定量的に扱える。	キルヒホッフの法則で、簡単な直流回路の解析ができる。	コンデンサーの動作を理解し、平板コンデンサーの電気容量の算出、合成容量の算出ができる。	直流回路の電圧・電流に関する計算ができない。	
学科の到達目標項目との関係				
学習目標 II, 本科の点検項目 D - ii, 本科の点検項目 E - ii				
教育方法等				
概要	物体の2次元運動の例として、物体の斜方投射・円運動・単振動について学んだ後に、惑星の運動や万有引力等の性質を例として応用的な問題について概略を論じる。さらに、静電気・電流・電気回路等での物理的諸量が力学を基礎として定義されることについて論じる。			
授業の進め方と授業内容・方法	分野ごとに講義によって内容を確認し、演習によって詳細を理解できるように授業を構成する。授業中の演習参加の機会を、授業時間内に全員に対して与える。予習復習は、各自が積極的に行うこと。			
注意点	授業中の演習に備えて、定規・関数電卓を用意すること。			
授業計画				
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1週	平面運動	速度・加速度・力が物体の位置ベクトルから微分を用いて計算できる。	
	2週	平面運動	積分公式から1次元の等加速度直線運動の公式が導出できる。	
	3週	投射運動	平面での物体の運動が、直線運動の組合せで説明でき、重力中の物体の一般的運動に応用できる。	
	4週	運動量と力積	力積が力の時間積分から求められることを知る。	
	5週	運動量と力積	運動量と力積の関係を、物体の衝突を例として、定量的に理解する。	
	6週	運動量の保存側	1次元の運動量と力積の関係を、物体の衝突を例として、定量的に理解する。	
	7週	運動量の保存側	2次元での運動量と力積の関係を、物体の衝突を例として、定量的に理解する。	
	8週	中間試験		
	9週	等速円運動	等速円運動を定量的に理解し、単振動との対応について学ぶ。	
	10週	等速円運動	等速円運動を定量的に理解し、単振動との対応について学ぶ。	
	11週	円運動	等速円運動を定量的に理解し、単振動との対応について学ぶ。	
	12週	向心力と遠心力	向心力と遠心力を計算で求めることができる。	
	13週	単振動	等速円運動を定量的に理解し、単振動との対応について学ぶ。	
	14週	ケプラーの3法則	万有引力による惑星の運動に等速円運動を応用できる。	
	15週	万有引力	万有引力による惑星の運動に等速円運動を応用できる。	
	16週	定期試験		
後期	1週	帯電列	静電気の発生について知る。	
	2週	クーロンの法則	点電荷を例として、電気力の一般的性質を理解し、電界・電位などの基礎的電気量を算出できる。	
	3週	クーロンの法則	複数の点電荷の配置で、電荷間に働く力を算出できる。	
	4週	電界と電位	点電荷を例として、電気力の一般的性質を理解し、電界・電位などの基礎的電気量を算出できる。	
	5週	電界と電位	複数の点電荷の配置で生じる電界と電位を算出できる。	
	6週	電位と電位差	仕事の計算をもとに、電位・電位差が算出できる。	
	7週	中間試験		

8週	コンデンサー	コンデンサーの動作を理解し、平板コンデンサーの電気容量の算出、合成容量の算出ができる。
9週	コンデンサの接続	コンデンサーの合成容量が算出できるようになる。
10週	電流と電気抵抗	電流と電気抵抗の関係を理解し、電気抵抗による分流器や分圧器などの簡単な応用ができる。
11週	電力	電気が消費されるときに生じる仕事から電力が算出できることを知る。
12週	電気抵抗	オームのほうそくから種々の回路に流れる電流等を算出できる。
13週	キルヒホッフの法則	第1法則と第2法則について知る。
14週	キルヒホッフの法則	キルヒホッフの法則で簡単な回路が解析できる
15週	アンペールの法則	電流と磁界の関係を定量的に理解する。
16週	定期試験	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	体育
科目基礎情報					
科目番号	J3-1500	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	情報工学科	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	なし				
担当教員	中島 広基				
到達目標					
健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、計画的に運動する習慣を身につけ、集団における責任と義務を果たし、自らすすんで健康の増進と体力の向上を図り、継続的に生涯を通して明るく豊かな活力ある生活を営むことができる能力や態度を身につけることを目標とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
運動技能・意欲 (主体性)	多様な種目において高い意欲を持って取り組むとともに高い技能を習得できる。	多様な種目において意欲を持って取り組むとともに標準的な技能を習得できる。	意欲を持って運動に取り組むことができず、基本的な技能を習得できない。		
自主的継続的学習 (主体性、合意形成、チームワーク)	自ら進んで健康増進や体力向上を図り、継続的に学習を行うことができる。	教員の指示により健康増進や体力向上を図り、継続的に学習を行うことができる。	健康増進や体力向上を図ることができず、継続的に学習を行うことができない。		
安全管理行動 (主体性、合意形成、チームワーク)	自己や周囲の安全に留意しながら活動を行うことができ、危険を回避するだけでなく、不安全な行動を予防することができる。	自己や周囲の安全に留意しながら活動を行うことができ、危険を回避することができる。	自己の安全に留意した活動を行うことができない。		
集団行動力 (主体性、合意形成、チームワーク)	集団の目指す方向性を自ら示し、他者の意見も尊重しつつ適切なコミュニケーションをとりながら協調した行動をとることができる。	集団の目指す方向性を理解し、周囲と適切なコミュニケーションをとりながら協調した行動をとることができる。	集団の目指す方向性を理解できず、周囲と適切なコミュニケーションをとりながら協調した行動をとることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習目標 II, 学習目標 III, 学校目標 E (継続的学習), 本科の点検項目 E - ii, 学校目標 I (チームワーク), 本科の点検項目 I - i					
教育方法等					
概要	各種スポーツ活動を通じて健康・安全や運動についての理解と計画的に運動する習慣を教授するとともに、自らすすんで健康の増進と体力の向上を図り、生涯を通じて明るく豊かな活力ある生活を営むことができる能力や態度を育成する。				
授業の進め方と授業内容・方法	2 学年までに履修した種目を中心に、前後期それぞれ 1 期から 4 期まで構成して実施する。各期で構成されたグループにおいて、練習・試合をどのように行うか検討し、計画的かつ安全に十分配慮しながら自主的に授業をすすめること。前期は屋外の種目を中心に、後期は屋内の種目により各期を構成する。なお、授業計画については、天候状況等により変更することがあるため担当教員の指示に従うこと。				
注意点	授業を受けるにあたっては、運動着、屋内・屋外運動靴を用意すること。また、日頃から健康管理やスポーツに関わるメディア情報や関連書籍などに関心を持ち、予備知識を得ておくこと。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	前期ガイダンス・ストレッチ運動・4 期制の選択	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の位置づけを理解することができる。 ・身体の筋肉・関節の柔軟性を高め安全に運動する準備ができる。 ・集団行動時の整列が迅速的確にできる。 ・4 期制において、周囲と話し合いの中で協調しながら種目を決定することができる。 		
	2週	体力測定 (天候状態を考慮し他の種目と運動して実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストの実施から自己の発育発達を確認することができる。 		
	3週	第 2 期① 活動内容の検討・計画	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ構成されたグループで、練習・試合についてどのように行うか検討し、4 回の活動の計画をたてること 		
	4週	第 3 期① 活動内容の検討・計画	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ構成されたグループで、練習・試合についてどのように行うか検討し、4 回の活動の計画をたてること 		
	5週	第 4 期① 活動内容の検討・計画	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ構成されたグループで、練習・試合についてどのように行うか検討し、4 回の活動の計画をたてること 		
	6週	第 2 期② 活動の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ構成されたグループで、計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。 		
	7週	第 3 期② 活動の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ構成されたグループで、計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。 		
	8週	第 4 期② 活動の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ構成されたグループで、計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。 		
	9週	第 1 期 春季体育大会練習	<ul style="list-style-type: none"> ・春季体育大会で実施される種目について、主体的に練習に取り組むことでクラスの団結力を高めることができる。 		
	10週	第 2 期③ 活動の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ構成されたグループで、これまでの活動をもとに、改善を要する部分を適宜見直しよりよい活動を行うことができる。 		
	11週	第 3 期③ 活動の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ構成されたグループで、これまでの活動をもとに、改善を要する部分を適宜見直しよりよい活動を行うことができる。 		
	12週	第 4 期③ 活動の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ構成されたグループで、これまでの活動をもとに、改善を要する部分を適宜見直しすることができる。 		

	13週	第2期④ まとめ	・それぞれ構成されたグループで、4回の活動のまとめとして、安全に十分配慮しながら自主的な活動を行うことができる。
	14週	第3期④ まとめ	・それぞれ構成されたグループで、4回の活動のまとめとして、安全に十分配慮しながら自主的な活動を行うことができる。
	15週	第4期④ まとめ	・それぞれ構成されたグループで、4回の活動のまとめとして、安全に十分配慮しながら自主的な活動を行うことができる。
	16週		
後期	1週	後期ガイダンス・ストレッチ運動・4期制の選択	・体育の位置づけを理解することができる。 ・身体の筋肉・関節の柔軟性を高め安全に運動する準備ができる。 ・集団行動時の整列が迅速の確にできる。 ・4期制において、周囲と話し合いの中で協調しながら種目を決定することができる。
	2週	第2期① 活動内容の検討・計画	・それぞれ構成されたグループで、練習・試合についてどのように行つか検討し、4回の活動の計画をたてることができる。
	3週	第3期① 活動内容の検討・計画	・それぞれ構成されたグループで、練習・試合についてどのように行つか検討し、4回の活動の計画をたてることができる。
	4週	第4期① 活動内容の検討・計画	・それぞれ構成されたグループで、練習・試合についてどのように行つか検討し、4回の活動の計画をたてることができる。
	5週	第2期② 活動の実践	・それぞれ構成されたグループで、計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。
	6週	第3期② 活動の実践	・それぞれ構成されたグループで、計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。
	7週	第4期② 活動の実践	・それぞれ構成されたグループで、計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。
	8週	第1期① 冬季体育大会練習	・冬季体育大会で実施される種目について、主体的に練習に取り組むことでクラスの団結力を高めることができる。
	9週	第2期③ 活動の見直し	・それぞれ構成されたグループで、これまでの活動をもとに、改善を要する部分を適宜見直しよりよい活動を行うことができる。
	10週	第3期③ 活動の見直し	・それぞれ構成されたグループで、これまでの活動をもとに、改善を要する部分を適宜見直しよりよい活動を行うことができる。
	11週	第4期③ 活動の見直し	・それぞれ構成されたグループで、これまでの活動をもとに、改善を要する部分を適宜見直すことができる。
	12週	第2期④ まとめ	・それぞれ構成されたグループで、4回の活動のまとめとして、安全に十分配慮しながら自主的な活動を行うことができる。
	13週	第3期④ まとめ	・それぞれ構成されたグループで、4回の活動のまとめとして、安全に十分配慮しながら自主的な活動を行うことができる。
	14週	第4期④ まとめ	・それぞれ構成されたグループで、4回の活動のまとめとして、安全に十分配慮しながら自主的な活動を行うことができる。
		15週	第1期②
	16週		

評価割合

	運動技能・意欲	自主的継続的学習	安全管理行動	集団行動力	合計
総合評価割合	10	30	30	30	100
基礎的能力	5	30	30	30	95
専門的能力	5	0	0	0	5
分野横断的能力	0	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語Ⅲ A
科目基礎情報				
科目番号	J3-1605	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 3	
開設学科	情報工学科	対象学年	3	
開設期	通年	週時間数	3	
教科書/教材	Target! pre-intermediate (準中級)・自作教材			
担当教員	東 俊文			
到達目標				
<p>1. 英検準2級～2級レベルの語彙・文法・文構造を理解しながら、英文内容を正確に読み取れる。</p> <p>2. 平易な英文を迅速かつ大量に読んで、その内容を日本語で説明できる。</p> <p>3. 英文教材の読解を通して、国内および海外の様々な事情や問題を知ることができる。</p>				
ループリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	英検準2級～2級レベルの語彙・文法・文構造を理解しながら、一般的な英文内容を正確に読み取れる。	英検準2級～2級レベルの語彙・文法・文構造を理解しながら、基本的な英文内容を正確に読み取れる。	英検準2級～2級レベルの語彙・文法・文構造を理解しながら、基本的な英文内容を正確には読み取れない。	
評価項目2	一般的な英文を迅速かつ大量に読んで、その内容を日本語で説明できる。	平易な英文を迅速かつ大量に読んで、その内容を日本語で説明できる。	平易な英文を迅速かつ大量に読んで、その内容を日本語で説明できない。	
評価項目3	英文教材の読解を通して、国内および海外の様々な事情や問題を深く知ることができる。	英文教材の読解を通して、国内および海外の様々な事情や問題の概要を知ることができる。	英文教材の読解を通して、国内および海外の様々な事情や問題を知らなければならない。	
学科の到達目標項目との関係				
学習目標Ⅰ, 学習目標Ⅱ, 学習目標Ⅲ, 本科の点検項目 A - i, 本科の点検項目 C - iv, 本科の点検項目 E - ii				
教育方法等				
概要	教科書を使った授業：聞くから話すへ、読むから書くへと繋がるタスクを進めながら、言語の4技能を無理なく学習できるような教科書を使い、基礎力のある学生を対象に、その力をさらに強固なものにし、中級レベルへの底上げを目指す。 多読授業：英文副読本（図書館自由多読）を中心に、配布プリントによる教室課題多読も採用しながら、大量の平易な英文を直読直解できる力を身につける。			
授業の進め方と授業内容・方法	教科書を使った授業：リスニング、リーディング、文法事項の確認、問題演習など教科書の内容に沿いながら進めていく。 図書館自由多読授業：図書館閲覧室で比較的平易な英文副読本を大量に読んで、英語の語順通りに英文を読みこなしていく力を養成する。			
注意点	教科書を使った授業：教科書の予習・復習は必須である。予習では辞書を使用しながら自力で英文内容理解、復習では理解済みの英文の音読と筆写、及び語彙の習得にも努めてほしい。 図書館自由多読授業：自ら積極的に英文副読本を読みこなして、楽しみながら英語の読書をするようにこころがけてほしい。			
授業計画				
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1週	授業ガイダンス/UNIT 1 Small Talk (日常生活) LISTENING: いろいろな数値① READING: 基本5文型	いろいろな数値を聞き取ることができる。基本的5文型について理解することができる。	
	2週	UNIT 1 Small Talk (日常生活) LISTENING: いろいろな数値① READING: 基本5文型	いろいろな数値を聞き取ることができる。基本的5文型について理解することができる。	
	3週	UNIT 2 Human Relations (人間関係・コミュニケーション) LISTENING: いろいろな数値② READING: 文の種類	いろいろな数値を聞き取ることができる。文の種類について理解することができる。	
	4週	UNIT 2 Human Relations (人間関係・コミュニケーション) LISTENING: いろいろな数値② READING: 文の種類/UNIT 3 Culture and Globalization (言葉・文化) LISTENING: 発音しづらい語句 READING: 基本時制	いろいろな数値や発音しづらい音を含む語句を聞き取ることができる。文の種類や基本時制について理解することができる。	
	5週	UNIT 3 Culture and Globalization (言葉・文化) LISTENING: 発音しづらい語句 READING: 基本時制	発音しづらい音を含む語句を聞き取ることができる。基本時制について理解することができる。	
	6週	UNIT 3 Culture and Globalization (言葉・文化) LISTENING: 発音しづらい語句 READING: 基本時制 教室多読 (聞き読み入門)	発音しづらい音を含む語句を聞き取ることができる。基本時制について理解することができる。平易な英文を迅速かつ大量に聞き読みして、その内容を日本語で説明できる。	
	7週	教室多読 (聞き読み入門)	平易な英文を迅速かつ大量に聞き読みして、その内容を日本語で説明できる。	
	8週	前期中間試験/答案返却/図書館多読授業導入/図書館多読授業	平易な英文を迅速かつ大量に読んで、その内容を日本語で説明できる。	
	9週	図書館多読授業/教室多読 (聞き読み初級)	平易な英文を迅速かつ大量に読んだり、聞き読みして、その内容を日本語で説明できる。	
	10週	図書館多読授業/教室多読 (聞き読み初級)	平易な英文を迅速かつ大量に読んだり、聞き読みして、その内容を日本語で説明できる。	
	11週	UNIT 4 Healthy Life (健康・医療) LISTENING: 固有名詞 (人名・地名など) READING: 進行形	固有名詞を聞き取ることができる。進行形について理解することができる。	
	12週	UNIT 4 Healthy Life (健康・医療) LISTENING: 固有名詞 (人名・地名など) READING: 進行形/UNIT 5 Future Careers (職業・キャリア) LISTENING: 簡単な挨拶文 READING: 完了形	固有名詞や簡単な挨拶文を聞き取ることができる。進行形や完了形について理解することができる。	
	13週	UNIT 5 Future Careers (職業・キャリア) LISTENING: 簡単な挨拶文 READING: 完了形	簡単な挨拶文を聞き取ることができる。完了形について理解することができる。	

	14週	UNIT 5 Future Careers (職業・キャリア) LISTENING: 簡単な挨拶文 READING: 完了形/UNIT 6 That Shirt Suits You! (ファッション) LISTENING: 提 案文・勧誘文 READING: 助動詞 ① (can/may/must/should)	簡単な挨拶文や提案文・勧誘文・依頼文を聞き取ることが できる。完了形や助動詞について理解することができる。
	15週	UNIT 6 That Shirt Suits You! (ファッション) LISTENING: 提案文・勧誘文 READING: 助動詞 ① (can/may/must/should)	助動詞について理解することができる。
	16週	前期定期試験	
後期	1週	図書館多読	平易な英文を迅速かつ大量に読んで、その内容を日本語で 説明できる。
	2週	図書館多読/教室多読 (聞き読み基礎)	平易な英文を迅速かつ大量に読んだり、聞き読みして、そ の内容を日本語で説明できる。
	3週	図書館多読/UNIT 7 Taking a Trip (旅行・観光) LISTENING: 依頼文 READING: 助動詞 ② (could/might/wouldなど)	平易な英文を迅速かつ大量に読んで、その内容を日本語で 説明できる。依頼文を聞き取ることができる。助動詞につ いて理解することができる。
	4週	UNIT 7 Taking a Trip (旅行・観光) LISTENING: 依頼文 READING: 助動詞② (could/might/wouldなど)	依頼文を聞き取ることができる。助動詞について理解する ことができる。
	5週	UNIT 8 Do You Like Sports? (スポーツ) LISTENING: Yes / No疑問文 READING: 受動態	Yes / No疑問文を聞き取ることができる。受動態について 理解することができる。
	6週	UNIT 8 Do You Like Sports? (スポーツ) LISTENING: Yes / No疑問文 READING: 受動態 /UNIT 9 Let's Do Something Fun! (レジャー・エンタ メ) LISTENING: wh 疑問 READING: 不定詞	Yes / No疑問文やwh疑問文を聞き取ることができる。受動 態や不定詞について理解することができる。
	7週	UNIT 9 Let's Do Something Fun! (レジャー・エンタメ) LISTENING: wh 疑問 READING: 不定詞	wh疑問文を聞き取ることができる。不定詞について理解す ることができる。
	8週	後期中間試験	
	9週	図書館多読/答案返却・図書館多読授業	平易な英文を迅速かつ大量に読んで、その内容を日本語で 説明できる。
	10週	図書館多読/UNIT 10 Art Appreciation (アート) LISTENING: 否定・付加疑問文 READING: 動名詞	平易な英文を迅速かつ大量に読んで、その内容を日本語で 説明できる。否定・付加疑問文を聞き取ることができる。 動名詞について理解することができる。
	11週	UNIT 10 Art Appreciation (アート) LISTENING: 否定 ・付加疑問文 READING: 動名詞/UNIT 11 Let's Eat Out! (食) LISTENING: カジュアルな表現 READING: 分詞	否定・付加疑問文やカジュアルな表現を聞き取ることがで きる。分詞や動名詞について理解することができる。
	12週	UNIT 11 Let's Eat Out! (食) LISTENING: カジュアルな 表現 READING: 分詞	カジュアルな表現を聞き取ることができる。分詞について 理解することができる。
	13週	UNIT 12 A Career in International Business (ビジネス) LISTENING: フォーマルな表現 READING: 比較	フォーマルな表現を聞き取ることができる。比較について 理解することができる。
	14週	UNIT 12 A Career in International Business (ビジネス) LISTENING: フォーマルな表現 READING: 比較 /UNIT 13 Science for the Future (サイエンス) LISTENING: [長文の聞き取り] 意味のかたまり (チャ ンク) READING: 関係代名詞	フォーマルな表現を聞き取ることができる。単語をかたまり (チャンク) でとらえることによって長文を理解するこ とができる。比較や関係代名詞について理解することがで きる。
15週	UNIT 13 Science for the Future (サイエンス) LISTENING: [長文の聞き取り] 意味のかたまり (チャ ンク) READING: 関係代名詞	単語をかたまり (チャンク) でとらえることによって長文 を理解することができる。関係代名詞について理解するこ とができる。	
16週	後期定期試験		

評価割合

	試験	小テスト・レポート等	授業態度	合計
総合評価割合	60	35	5	100
基礎的能力	60	35	5	100

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語Ⅲ B
科目基礎情報					
科目番号	J3-1606		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	情報工学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: Terry O'Brien (他) 「TOEIC Bridge: Lounge」 (南雲堂) / 参考図書: 「SEED 総合英語」 (文英堂), 「TOEIC Bridge 公式ガイド&問題集」 (国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会)				
担当教員	佐藤 奈々恵				
到達目標					
1. 一般的な英文の内容を日本語で説明できる。 2. 標準的な単語や語法・文法を理解できる。 3. 一般的な英文の読解や聴解ができる。 4. 継続的な学習によって、第4学年末で受験するTOEICテストにおいて400点以上を取得するために必要な基礎力を確認できる。 5. 英文教材の読解や聴解を通して、国内事情・海外事情の概要を深く理解できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	一般的な英文の内容を日本語で説明できる	基本的な英文の内容を日本語で説明できる。	基本的な英文の内容を日本語で説明できない。		
評価項目2	標準的な単語や語法・文法を理解できる。	基本的な単語や語法・文法を理解できる。	基本的な単語や語法・文法を理解できない。		
評価項目3	一般的な平易な英文の読解や聴解ができる。	基本的な英文の読解や聴解ができる。	基本的な英文の読解や聴解ができない。		
評価項目4	継続的な学習によって、第4学年末にTOEICテスト・スコア400点を取得することが可能となる基礎力を確認できる。	継続的な学習によって、第4学年末にTOEICテスト・スコア400点取得を目指すことができる基礎力を確認できる。	継続的な学習によって、第4学年末にTOEICテスト・スコア400点取得を目指すことができない。		
評価項目5	英文教材の読解や聴解を通して、国内事情・海外事情の概要を深く理解できる	英文教材の読解や聴解を通して、国内事情・海外事情の概要を理解できる	英文教材の読解や聴解を通して、国内事情・海外事情の概要を理解できない		
学科の到達目標項目との関係					
学習目標 I, 学習目標 II, 学習目標 III, 本科の点検項目 A - i, 本科の点検項目 C - iv, 本科の点検項目 E - ii					
教育方法等					
概要	英語ⅢBでは、「語彙力」「文法力」「読解力」「聴解力」を総合的に養成し、第4学年末で受験するTOEICテストにおいて、テストスコア400点以上を取得するために必要な基礎力の定着を目指す。				
授業の進め方と授業内容・方法	TOEIC Bridge形式の問題演習を中心とし、語法・文法を理解するとともに、読解力および聴解力の向上を目指す。必要に応じて、学習内容の理解を深めるためのプリント教材を使用する。				
注意点	1) 英語力の維持・向上のため、主体的な学習を継続すること。 2) 積極的な姿勢で問題演習に取り組むこと。 3) 授業の時には、英和辞書を必ず持参すること。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	TOEIC, TOEIC Bridgeの説明	TOEIC Bridgeの出題形式など、基本的な事柄を理解できる。		
	2週	Lesson 1. 天気	Lesson 1の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。時制(現在形、過去形)を理解し、運用できる。		
	3週	Lesson 1. 天気	Lesson 1の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。時制(現在形、過去形)を理解し、運用できる。		
	4週	Lesson 2. ミーティング、メッセージ	Lesson 2の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。冠詞と代名詞の用法を理解し、運用できる。		
	5週	Lesson 2. ミーティング、メッセージ	Lesson 2の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。冠詞と代名詞の用法を理解し、運用できる。		
	6週	Lesson 3. 健康	Lesson 3の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。進行形を理解し、運用できる。		
	7週	Lesson 3. 健康	Lesson 3の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。進行形を理解し、運用できる。		
	8週	前期中間試験			
	9週	Lesson 4. 広告、セール	Lesson 4の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。名詞の用法を理解し、運用できる。		
	10週	Lesson 4. 広告、セール	Lesson 4の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。名詞の用法を理解し、運用できる。		
	11週	Lesson 5. 投資、オフィス備品	Lesson 5の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。形容詞と副詞の用法を理解し、運用できる。		
	12週	Lesson 5. 投資、オフィス備品	Lesson 5の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。形容詞と副詞の用法を理解し、運用できる。		
	13週	Lesson 6. 電話メッセージ	Lesson 6の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。接続詞と前置詞の用法を理解し、運用できる。		
	14週	Lesson 6. 電話メッセージ	Lesson 6の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。接続詞と前置詞の用法を理解し、運用できる。		
	15週	演習問題	TOEIC Bridgeテストの演習で、要点を理解できる。		
	16週	前期定期試験			
後期	1週	Lesson 7. 仕事、昇進	Lesson 7の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。助動詞や使役・感覚動詞の用法を理解し、運用できる。		

2週	Lesson 7. 仕事、昇進	Lesson 7の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。助動詞や使役・感覚動詞の用法を理解し、運用できる。
3週	Lesson 8. フライト、旅行	Lesson 8の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。時制（未来形）を理解し、運用できる。
4週	Lesson 8. フライト、旅行	Lesson 8の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。時制（未来形）を理解し、運用できる。
5週	Lesson 9. 住居	Lesson 9の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。比較を理解し、運用できる。
6週	Lesson 9. 住居	Lesson 9の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。比較を理解し、運用できる。
7週	Lesson 11. メディア	Lesson 11の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。時制（完了形）を理解し、運用できる。
8週	Lesson 11. メディア	Lesson 11の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。時制（完了形）を理解し、運用できる。
9週	後期中間試験	
10週	Lesson 12. 注文、発送	Lesson 12の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。受動態を理解し、運用できる。
11週	Lesson 12. 注文、発送	Lesson 12の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。受動態を理解し、運用できる。
12週	Lesson 13. 顧客サービス	Lesson 13の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。関係詞の用法を理解し、運用できる。
13週	Lesson 13. 顧客サービス	Lesson 13の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。関係詞の用法を理解し、運用できる。
14週	Lesson 14. 環境	Lesson 14の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。仮定法を理解し、運用できる。
15週	Lesson 14. 環境	Lesson 14の英文を理解し、内容を日本語で説明できる。仮定法を理解し、運用できる。
16週		

評価割合

	試験	課題および各種テスト（授業への取り組み姿勢と達成度を含む）				その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	40	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	回路理論
科目基礎情報					
科目番号	J3-4010		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	情報工学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 服藤 憲司 著「例題と演習で学ぶ 電気回路」(森北出版)/参考図書: 西巻 正郎・森 武昭・荒井 俊彦 共著「電気回路の基礎」(森北出版), 大浜 庄司 著「完全図解 電気回路」(日本実業出版), 谷本 正幸 著「図解 はじめて学ぶ電気回路」(ナツメ社), C. A. テゾー・E. S. クウ 共著・松本 忠 訳「電気回路論入門 (上)」(ブレイン図書), K. W. Jenkins, "Teach Yourself Algebra for Electric Circuits", McGraw-Hill				
担当教員	大西 孝臣				
到達目標					
1. フェーザ法による正弦波交流回路解析に関する数学的な基本事項を理解し、基本的計算ができる。 2. 正弦波交流回路に関する諸法則を理解し、提示された抵抗・コイル・コンデンサで構成された回路に対して、要求される電圧・電流・他(周波数特性・共振周波数)の基本的計算ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
1. フェーザ法による正弦波交流回路解析に関する数学的な基本事項を理解し、基本的計算ができる。	フェーザ法による正弦波交流回路解析に関する数学的な基本事項たる数学能力を有しており、この能力をフェーザ法による正弦波交流回路解析における計算に適用できる。	フェーザ法による正弦波交流回路解析に関する数学的な基本事項たる数学能力を有しており、この能力をフェーザ法による正弦波交流回路解析における基本的計算に適用できる。	フェーザ法による正弦波交流回路解析に関する数学的な基本事項たる数学能力を有していない。		
2. 正弦波交流回路に関する諸法則を理解し、提示された抵抗・コイル・コンデンサで構成された回路に対して、要求される電圧・電流・他(周波数特性・共振周波数)の基本的計算ができる。	正弦波交流回路に関する諸法則を理解するのに必要な数学能力を有しており、この能力を提示された抵抗・コイル・コンデンサで構成された回路に対して、要求される電圧・電流・他(周波数特性・共振周波数)の計算に適用できる。	正弦波交流回路に関する諸法則を理解するのに必要な数学能力を有しており、この能力を提示された抵抗・コイル・コンデンサで構成された回路に対して、要求される電圧・電流・他(周波数特性・共振周波数)の基本的計算に適用できる。	正弦波交流回路に関する諸法則を理解するのに必要な数学能力を有していない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習目標 II, 学校目標 D (工学基礎), 学科目標 D (工学基礎), 本科の点検項目 D - iv					
教育方法等					
概要	音声・画像等の「情報」を担う「信号」をコンピュータが処理や伝達を行う際の原理を学ぶための入門として、線形システムとしての電気回路の正弦波交流解析法について、具体的には、抵抗・コイル・コンデンサで構成された回路に対して電圧あるいは電流による正弦波信号を入力した際の回路解析法(フェーザ法あるいは記号法)を教授する。				
授業の進め方と授業内容・方法	一斉座学。 何らかの事情が無い限り、大西は奇数時限目の講義開始時刻の5分前に教室に居る事にしている。質問事項がある場合は、その際に解決させる事。 達成度評価試験(前期中間試験)20%、前期定期試験20%、達成度評価試験(後期中間試験)20%、後期定期試験40%として評価する。合格点は60点以上とする。 各達成度評価試験(各中間試験)・各定期試験の試験範囲は年度当初から当該試験までに実施した授業項目とする。当然、後期定期試験の試験範囲は年度を通じての全ての授業項目となる。 全ての本試験を誠実に受験していない者は再試験の該当者にしないので注意すること。				
注意点	関数電卓と数学の教科書を持参する事。 受講に際しては、自学自習として必要となる、教科書・板書等の「行間」の補填、中間時の試験および定期試験の準備対策(あるいは再試験の準備対策)を行わなければならない。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	正弦波交流の扱いと三角関数関連の公式	正弦波の振幅・位相・角周波数(周波数・周期)・進み/遅れの概念を理解し、三角関数関連の公式を扱える。		
	2週	正弦波交流の扱いと三角関数関連の公式	正弦波の振幅・位相・角周波数(周波数・周期)・進み/遅れの概念を理解し、三角関数関連の公式を扱える。		
	3週	複素数の表現法(直角座標表現/指数関数表現/極座標表現)とオイラーの公式	複素数の直角座標/指数関数/極座標の各表現法を扱え、各表現法の間を取り持つオイラーの公式を扱える。		
	4週	複素数の表現法(直角座標表現/指数関数表現/極座標表現)とオイラーの公式	複素数の直角座標/指数関数/極座標の各表現法を扱え、各表現法の間を取り持つオイラーの公式を扱える。		
	5週	複素数の加減乗除、jの乗除と位相との関連	複素数の加減乗除の基本演算を扱え、虚数単位jの乗除と位相進み/遅れとの関連を理解できる。		
	6週	複素数のベクトル表現	複素数と種々の演算をベクトル表現にて理解できる。		
	7週	達成度評価試験(前期中間試験)			
	8週	正弦波と複素数のベクトル表現とフェーザ	正弦波をフェーザ(複素ベクトル)の回転と解釈できる。		
	9週	フェーザ表現による複素電圧/複素電流	正弦波交流の電圧/電流を複素電圧/電流に変換できる。		
	10週	基本素子のインピーダンス/アドミタンス	抵抗・コイル・コンデンサの各基本素子の複素インピーダンス/アドミタンスを算出できる。		
	11週	基本素子のインピーダンス/アドミタンス	抵抗・コイル・コンデンサの各基本素子の複素インピーダンス/アドミタンスを算出できる。		
	12週	合成インピーダンス/合成アドミタンス	合成インピーダンス/合成アドミタンス抵抗・コイル・コンデンサの各基本素子の直列/並列接続などによる回路の複素インピーダンス/アドミタンスを算出できる。		
	13週	合成インピーダンス/合成アドミタンス	抵抗・コイル・コンデンサの各基本素子の直列/並列接続などによる回路の複素インピーダンス/アドミタンスを算出できる。		
	14週	正弦波回路における複素電圧/複素電流と複素インピーダンス/複素アドミタンス	フェーザ法の回路解析における、複素電圧/電流、複素インピーダンス/アドミタンスの役割を理解できる。		

	15週	前期定期試験	
	16週		
後期	1週	正弦波回路における複素電圧/複素電流と複素インピーダンス/複素アドミタンス	フェーザ法の回路解析における、複素電圧/電流、複素インピーダンス/アドミタンスの役割を理解できる。
	2週	フェーザ法の下での回路の基本定理	フェーザ法の下でのキルヒホッフ則、分圧/分流の扱いなどを計算できる。
	3週	フェーザ法の下での回路の基本定理	フェーザ法の下でのキルヒホッフ則、分圧/分流の扱いなどを計算できる。
	4週	フェーザ法による正弦波交流回路解析	フェーザ法により簡単な正弦波交流回路を解析できる。
	5週	フェーザ法による正弦波交流回路解析	フェーザ法により簡単な正弦波交流回路を解析できる。
	6週	フェーザ法による正弦波交流回路解析	フェーザ法により簡単な正弦波交流回路を解析できる。
	7週	達成度評価試験（後期中間試験）	
	8週	フェーザ法による正弦波交流回路解析	フェーザ法により簡単な正弦波交流回路を解析できる。
	9週	フェーザ法による正弦波交流回路解析	フェーザ法により簡単な正弦波交流回路を解析できる。
	10週	フェーザ法による正弦波交流回路解析	フェーザ法により簡単な正弦波交流回路を解析できる。
	11週	重ね合わせの理	重ね合わせの理による交流回路解析ができる。
	12週	交流回路の周波数特性と共振	各基本素子や交流回路の周波数特性を理解し、共振回路に関する諸量（共振周波数（角周波数））を算出できる。
	13週	交流回路の周波数特性と共振	各基本素子や交流回路の周波数特性を理解し、共振回路に関する諸量（共振周波数（角周波数））を算出できる。
	14週	正弦波交流回路の電力の扱い	正弦波交流回路の電力に関する計算ができる。
	15週	正弦波交流回路の電力の扱い	正弦波交流回路の電力に関する計算ができる。
	16週	後期定期試験	

評価割合

	達成度評価試験 (前期中間試験)	前期定期試験	達成度評価試験 (後期中間試験)	後期定期試験		その他	合計
総合評価割合	20	20	20	40	0	0	100
基礎的能力	10	10	10	20	0	0	50
専門的能力	10	10	10	20	0	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	電子工学 I
科目基礎情報					
科目番号	J3-4021	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	情報工学科	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	末松安晴, 藤井信生監修「電子回路入門」実教出版/藤井信生「なっとくする電子回路」講談社, 津田利春「電気と電子の基礎知識」工学図書, 尾崎弘他「電子回路アナログ編」共立出版, 砂沢学「増幅回路の考え方」オーム社, 曾和将容「トランジスタ回路を学ぶ人のために」オーム社				
担当教員	稲川 清				
到達目標					
1) 半導体素子の構造, 動作, 特性に関する基礎知識を理解し, 増幅回路の動作解析における考え方, 増幅回路の小信号等価回路, 増幅回路の動作量について説明できる。 2) 本講義で得た知識を使用してダイオード・トランジスタを用いた基本的な回路について, 等価回路パラメータや, 回路の入出力の関係を求める等の課題を解ける。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
1. 半導体素子の構造, 動作, 特性に関する基礎知識を理解し, 増幅回路の動作解析における考え方, 増幅回路の小信号等価回路, 増幅回路の動作量について説明できる。	半導体素子の構造, 動作, 特性に関する基礎知識を理解し, 増幅回路の動作解析における考え方, 増幅回路の小信号等価回路, 増幅回路の動作量について, 的確に説明できる。	半導体素子の構造, 動作, 特性に関する基礎知識を理解し, 増幅回路の動作解析における考え方, 増幅回路の小信号等価回路, 増幅回路の動作量について, 標準的なレベルで説明できる。	半導体素子の構造, 動作, 特性に関する基礎知識を理解できておらず, 増幅回路の動作解析における考え方, 増幅回路の小信号等価回路, 増幅回路の動作量について説明できない。		
2. 本講義で得た知識を使用してダイオード・トランジスタを用いた基本的な回路について, 等価回路パラメータや, 回路の入出力の関係を求める等の課題を解ける。	本講義で得た知識を使用してダイオード・トランジスタを用いた基本的な回路について, 等価回路パラメータや, 回路の入出力の関係を求める等の課題を, 的確に解ける。	本講義で得た知識を使用してダイオード・トランジスタを用いた基本的な回路について, 等価回路パラメータや, 回路の入出力の関係を求める等の課題を, 標準的なレベルで解ける。	本講義で得た知識を使用してダイオード・トランジスタを用いた基本的な回路について, 等価回路パラメータや, 回路の入出力の関係を求める等の課題を解けない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習目標 II, 学校目標 D (工学基礎), 学科目標 D (工学基礎), 本科の点検項目 D-iv					
教育方法等					
概要	本講義では, まず半導体と, 現在の電子回路における基本構成要素であるダイオード, バイポーラトランジスタ, FET, およびICの構造と動作原理を学ぶ。 次に増幅の原理, 増幅回路の解析に用いられる等価回路について学ぶ。				
授業の進め方と授業内容・方法	基本的には座学が中心となるが, 適宜演習を行う。 成績は, 定期試験40%, 到達度試験35%, 演習・課題レポート25%の割合で評価する。合格点は60点以上である。 また, 再試験を実施する場合には, 別途その扱いについて連絡するので注意すること。				
注意点	電気・磁気現象の基礎知識, 回路計算の基礎知識, 連立一次方程式の解法, 数表現, 三角関数, 指数関数, 複素数の計算等の数学的基礎知識・計算力をしっかり身に付けておくこと。さらに, 演習に備えて, 授業の際には関数電卓を常に用意すること。なお, 講義予定に変更がある場合は授業中に連絡するので注意すること。 自学自習として, 授業毎に必ず復習をし, 自主的な問題演習を行い, その週までの授業内容で分からない点が残らないようにすること。特に, 成績不良の学生については, 復習レポートの提出を求める。また, 必要に応じて, 数学, 回路理論に関する復習を行うこと。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	半導体とキャリア	半導体と導体・絶縁体の違い, 半導体の種類, キャリアの種類について説明できる。		
	2週	半導体とキャリア	半導体と導体・絶縁体の違い, 半導体の種類, キャリアの種類について説明できる。		
	3週	真性半導体とキャリアのふるまい	真性半導体のキャリア発生仕組みとふるまいについて説明できる。		
	4週	n形半導体とキャリアのふるまい	n形半導体のキャリア発生仕組みとふるまいについて説明できる。		
	5週	p形半導体とキャリアのふるまい	p形半導体のキャリア発生仕組みとふるまいについて説明できる。		
	6週	p n 接合	p n 接合の平衡状態と, 順バイアスおよび逆バイアスにおけるキャリアの移動について説明できる。		
	7週	p n 接合	p n 接合の平衡状態と, 順バイアスおよび逆バイアスにおけるキャリアの移動について説明できる。		
	8週	前期到達度試験			
	9週	p n 接合ダイオード	p n 接合ダイオードの構造, 電圧・電流特性について説明できる。		
	10週	p n 接合ダイオードによる整流回路	p n 接合ダイオードを用いた整流回路の動作を説明でき, 整流回路の平均値, 実効値を計算できる。		
	11週	バイポーラトランジスタの基本構造	バイポーラトランジスタの構造を説明できる。		
	12週	バイポーラトランジスタの基本動作	バイポーラトランジスタの基本動作を説明できる。		
	13週	バイポーラトランジスタの基本動作	バイポーラトランジスタの基本動作を説明できる。		
	14週	バイポーラトランジスタの静特性	バイポーラトランジスタの静特性, 回路記号を提示でき, さらにそれらと構造・動作の関係を説明できる。		
	15週	バイポーラトランジスタの静特性	バイポーラトランジスタの静特性, 回路記号を提示でき, さらにそれらと構造・動作の関係を説明できる。		
	16週	定期試験			
後期	1週	JFETの構造と動作	JFETの構造と動作を説明できる。		

2週	JFETの構造と動作	JFETの構造と動作を説明できる。
3週	MOSFETの構造と動作	MOSFETの構造と動作を説明できる。
4週	MOSFETの構造と動作	MOSFETの構造と動作を説明できる。
5週	FETの静特性	FETの静特性、回路記号を提示でき、さらにそれらと構造・動作の関係を説明できる。
6週	トランジスタ基本増幅回路の動作原理	増幅の基本的な概念、条件、増幅回路の動作原理を説明できる。
7週	トランジスタ基本増幅回路の動作原理	増幅の基本的な概念、条件、増幅回路の動作原理を説明できる。
8週	バイアス	バイアスの概念およびその必要性について説明できる。
9週	後期到達度試験	
10週	電圧・電流・電力の増幅度と利得	増幅度や利得の定義を説明でき、定義に基づいてそれらを求めることができる。
11週	hパラメータと小信号等価回路	hパラメータの定義を説明でき、定義に基づいてそれらを求めることができる。また、バイポーラトランジスタの小信号等価回路を説明できる。
12週	hパラメータと小信号等価回路	hパラメータの定義を説明でき、定義に基づいてそれらを求めることができる。また、バイポーラトランジスタの小信号等価回路を説明できる。
13週	エミッタ接地増幅回路の動作量	エミッタ接地の基本増幅回路について、hパラメータ等価回路を用いて、動作量を計算できる。
14週	FET基本増幅回路	FETの小信号等価回路を説明でき、それを用いて基本増幅回路の動作量を求めることができる。
15週	FET基本増幅回路	FETの小信号等価回路を説明でき、それを用いて基本増幅回路の動作量を求めることができる。
16週	定期試験	

評価割合

	定期試験	到達度試験	演習・レポート	合計
総合評価割合	40	35	25	100
基礎的能力	20	20	15	55
専門的能力	20	15	10	45

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	論理回路
科目基礎情報					
科目番号	J3-4030		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	情報工学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	速水治夫「基礎から学べる論理回路 (第2版)」森北出版				
担当教員	三上 剛				
到達目標					
順序論理回路の基本構成要素であるフリップフロップ、シフトレジスタ、カウンタと一般的な順序論理回路を理解し、設計が出来る。					
ループリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		RS/D/T/JKフリップフロップの原理をそれぞれ説明でき、これらの応用回路を理解することができる。	RS/D/T/JKフリップフロップの原理をそれぞれ説明することができる。	RS/D/T/JKフリップフロップの原理を説明することができない。	
評価項目2		シフトレジスタ、カウンタの機能と実践的回路について説明できる。	シフトレジスタ、カウンタの機能について説明出来る。	シフトレジスタ、カウンタの機能について説明することができない。	
評価項目3		一般的な順序論理回路の仕様を理解し、仕様に従って各種フリップフロップによる回路を設計・実現できる。	一般的な順序論理回路の仕様を理解し、設計できる。	一般的な順序論理回路の仕様に従って設計できない。	
学科の到達目標項目との関係					
学習目標 II, 学校目標 D (工学基礎), 学科目標 D (工学基礎), 本科の点検項目 D - iv, 学校目標 F (専門の実践技術), 学科目標 F (専門の実践技術), 本科の点検項目 F - i					
教育方法等					
概要	本講義では、コンピュータを構成する論理回路のうち、記憶素子が伴う順序論理回路を扱う。				
授業の進め方と授業内容・方法	座学を基本とする。授業の進行度合いを見ながら、適宜、達成度を評価する試験を実施する。また、課題等を課すこともある。				
注意点	教科書は、2年生時の「論理回路」を継続して使用する。課題等の提出を要する場合は期限を必ず守ること。ほぼ毎週、前回の授業内容を確認する演習課題を課すので、必ず復習すること。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	組み合わせ論理回路と順序論理回路	組み合わせ論理回路、順序論理回路の区別ができる		
	2週	ラッチ、非同期式	1ビットを記憶する原理を理解出来る		
	3週	応用ラッチ回路	Dラッチなどの応用回路の動作原理を理解出来る		
	4週	レベルトリガ方式、レーシング	原始的なフリップフロップの原理を理解出来る		
	5週	同期式 (機能表、状態遷移表)	実践的な同期式フリップフロップの原理を理解できる		
	6週	RS/D/T/JKフリップフロップ	各種フリップフロップの機能、状態遷移を理解してJKフリップフロップの応用回路を理解出来る		
	7週	RS/D/T/JKフリップフロップ	各種フリップフロップの機能、状態遷移を理解してJKフリップフロップの応用回路を理解出来る		
	8週	達成度を評価する試験			
	9週	同期式 (マスタースレーブ方式)	マスタースレーブ方式の原理、用途を理解する		
	10週	シフトレジスタの基本回路	シフトレジスタの基本的な原理、動作を理解する		
	11週	直列、並列変換	シフトレジスタの機能、実践的回路につて理解する		
	12週	ユニバーサルシフトレジスタ	シフトレジスタの機能、実践的回路につて理解する		
	13週	非同期式カウンタ (バイナリ)	基本的な非同期式カウンタの原理、性質を理解する		
	14週	非同期式カウンタ (アップ/ダウン)	非同期式カウンタの応用回路について理解出来る		
	15週	総合演習	第1~14週までの内容に関する総合的な演習問題を解くことができる		
	16週				
後期	1週	同期式カウンタ (バイナリ、BCD)	基本的な同期式カウンタの原理、性質を理解する		
	2週	同期式カウンタ (n進カウンタの設計)	同期式n進カウンタの設計が出来る		
	3週	同期式カウンタ (n進カウンタの設計)	同期式n進カウンタの設計が出来る		
	4週	同期式カウンタ (n進カウンタの設計)	同期式n進カウンタの設計が出来る		
	5週	リングカウンタ	リングカウンタの原理、動作を理解する		
	6週	ジョンソンカウンタ	ジョンソンカウンタの原理、動作を理解する		
	7週	状態遷移図、状態遷移表	一般的な順序論理回路の仕様を理解し、設計できる		
	8週	状態遷移図、状態遷移表	一般的な順序論理回路の仕様を理解し、設計できる		
	9週	達成度を評価する試験			
	10週	各種フリップフロップによる回路の実現	仕様に従って各種FFによる回路が実現できる		
	11週	各種フリップフロップによる回路の実現	仕様に従って各種FFによる回路が実現できる		
	12週	各種フリップフロップによる回路の実現	仕様に従って各種FFによる回路が実現できる		
	13週	順序論理回路を用いた演算回路	直列型の方式による論理回路の原理、動作を理解出来る		
	14週	順序論理回路を用いた演算回路	直列型の方式による論理回路の原理、動作を理解出来る		

	15週	総合演習	第1～14週までの内容に関する総合的な演習問題を解くことができる	
	16週			
評価割合				
	定期試験	達成度試験	課題等	合計
総合評価割合	35	35	30	100
基礎的能力	0	0	0	0
専門的能力	35	35	30	100
分野横断的能力	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	計算機システム I
科目基礎情報				
科目番号	J3-4041	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	情報工学科	対象学年	3	
開設期	通年	週時間数	2	
教科書/教材	コンピュータアーキテクチャ【「内田敬一郎、小柳滋著」オーム社】			
担当教員	阿部 司			
到達目標				
1. コンピュータに利用されている基本的なハードウェアの技術を理解し、説明できる。 2. コンピュータのハードウェアの基本的な改良方法を理解し、基礎的な性能評価ができる。				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
1. コンピュータに利用されているハードウェアの技術を理解し、説明できる。	コンピュータに利用されているハードウェアの技術を理解し、説明できる。	コンピュータに利用されている基本的なハードウェアの技術を理解し、説明できる。	コンピュータに利用されている基本的なハードウェアの技術を理解するのが困難で、説明できない。	
2. コンピュータのハードウェアの改良方法を理解し、性能評価ができる。	コンピュータのハードウェアの改良方法を理解し、性能評価ができる。	コンピュータのハードウェアの基本的な改良方法を理解し、基礎的な性能評価ができる。	コンピュータのハードウェアの基本的な改良方法を理解するのが困難で、性能評価ができない。	
学科の到達目標項目との関係				
学習目標 II, 学校目標 D (工学基礎), 学科目標 D (工学基礎), 本科の点検項目 D - iv, 学校目標 E (継続的学習), 本科の点検項目 E - ii, 学校目標 F (専門の実践技術), 学科目標 F (専門の実践技術), 本科の点検項目 F - i				
教育方法等				
概要	計算機のアーキテクチャの基礎的なハードウェア技術と構成、関連するソフトウェア技術を学習する。			
授業の進め方と授業内容・方法	急速に発展している計算機のアーキテクチャの基礎的なハードウェア技術と構成、関連するソフトウェア技術を学習する。 IA-32アーキテクチャ例に、基礎的なハードウェア技術と構成、関連するソフトウェア技術を学習する。 第8週前後に、確認試験を実施する。試験の評価は確認試験50%、定期試験50%である。成績によっては、再試験を行うことがある。			
注意点	数学の基礎的な計算能力と説明のための文章力を養っておくこと。 授業で示される演習課題に自学自習により取り組むこと。演習課題は添削後、目標が達成されていることを確認し、返却する。目標が達成されていない場合には、再提出すること。 長期休業前にレポートのテーマを示すので、長期休業終了後に提出すること。 電卓、プリントを綴じるファイルを準備すること。			
授業計画				
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1週	コンピュータの進歩 (CPU、メモリ)	コンピュータの進歩を理解し説明できる。	
	2週	コンピュータの進歩 (補助記憶装置)	コンピュータの進歩を理解し説明できる。	
	3週	コンピュータの基本構造	コンピュータの基本構造を理解し説明できる。	
	4週	メモリデバイスの構成	メモリデバイスの構成を理解し説明できる。	
	5週	メモリの階層構造	メモリの階層構造を理解し説明できる。	
	6週	キャッシュメモリシステムの原理	キャッシュメモリシステムの原理を理解し説明できる。	
	7週	キャッシュメモリシステムの基本的な性能評価	キャッシュメモリシステムの基本的な性能を評価できる。	
	8週	仮想記憶システムの原理	仮想記憶システムの原理を理解し説明できる。	
	9週	入出力装置制御方式	入出力装置制御方式を理解し説明できる。	
	10週	入出力レジスタとバスの構成	入出力レジスタとバスの構成を理解し説明できる。	
	11週	USBの構成	USBの構成を理解し説明できる。	
	12週	USBの動作	USBの動作を理解し説明できる。	
	13週	補助記憶装置の構成と動作	補助記憶装置の構成と動作を理解し説明できる。	
	14週	ハードディスクの構成	ハードディスクの構成を理解し説明できる。	
	15週	ハードディスクの動作	ハードディスクの動作を理解し説明できる。	
	16週	前期定期試験		
後期	1週	SSDの構成	SSDの構成を理解し説明できる。	
	2週	SSDの動作	SSDの動作を理解し説明できる。	
	3週	装置の信頼性	装置の信頼性を理解し説明できる。	
	4週	RAIDシステム	RAIDシステムを理解し説明できる。	
	5週	コンピュータアーキテクチャの基礎	コンピュータアーキテクチャの基礎を理解し説明できる。	
	6週	データの形式	データの形式を理解し説明できる。	
	7週	整数の表現	整数の表現を理解し説明できる。	
	8週	浮動小数点数の表現	浮動小数点数の表現を理解し説明できる。	
	9週	整数と浮動小数点数の変換	整数と浮動小数点数の変換を理解し説明できる。	
	10週	文字コードの定義	文字コードの定義を理解し説明できる。	
	11週	符号化文字集合の分類	符号化文字集合の分類を理解し説明できる。	
	12週	文字符号化方式の分類	文字符号化方式の分類を理解し説明できる。	
	13週	国際符号化文字集合と文字符号化方式	国際符号化文字集合と文字符号化方式を理解し説明できる。	
	14週	コンピュータの基本的な性能評価	コンピュータの基本的な性能を評価できる。	
	15週	基本的なパイプラインの構造	基本的なパイプラインの構造を理解し説明できる。	

	16週	後期定期試験		
評価割合				
	試験（定期試験・確認試験）	演習	レポート	合計
総合評価割合	60	35	5	100
基礎的能力	30	20	5	55
専門的能力	30	15	0	45
分野横断的能力	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	情報基礎 (留学生)
科目基礎情報					
科目番号	J3-4050		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 3	
開設学科	情報工学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	3	
教科書/教材	教科書: プログラミング、プログラミング設計演習、計算機システム I の教科書を必要に応じて使用/参考図書: 河西朝雄「Visual Basicによるはじめてのアルゴリズム入門」技術評論社、ピーター・プリンツ、ウーラ・プリンツ「Cデスクトップリファレンス」オライリー・ジャパン、河西「Javaによるはじめてのアルゴリズム入門」技術評論社、小倉久和著「演習中心UNIX入門」森北出版、松田 勲、伊原 充博著「デジタルIC回路の基礎」技術評論社、Thomas L. Floyd「Digital Fundamentals」, Prentice-Hall, Albert Paul Malvino and Jerald A. Brown「Digital Computer Electronics」, McGraw-Hill				
担当教員	大西 孝臣				
到達目標					
1. コンピュータハードウェアまたはソフトウェアに関する基礎事項を理解し、実際にプログラムの作成・実行、あるいは簡単なハードウェアの設計・製作ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
1. コンピュータハードウェアまたはソフトウェアに関する基礎事項を理解し、実際にプログラムの作成・実行、あるいは簡単なハードウェアの設計・製作ができる。	コンピュータハードウェアまたはソフトウェアに関する基礎事項を理解しており、その理解を元に、実際にプログラムの作成・実行、あるいは簡単なハードウェアの設計・製作ができる。	コンピュータハードウェアまたはソフトウェアに関する基礎事項を理解しており、その理解を元に、基本的なプログラムの作成・実行、あるいはごく簡単なハードウェアの設計・製作ができる。	コンピュータハードウェアまたはソフトウェアに関する基礎事項を理解していない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習目標 II, 学校目標 D (工学基礎), 学科目標 D (工学基礎), 本科の点検項目 D - iii, 本科の点検項目 D - iv					
教育方法等					
概要	本講義は、第3学年に編入学した外国人留学生を対象とする。そのため、第3学年以降の専門科目履修に必要な基礎知識の教授を目的とし、必要に応じてコンピュータハードウェア・ソフトウェアに関する内容を取り上げる。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業は、座学と演習・実習・実験を組み合わせで行う。演習または課題レポートで評価する。従って、前期末・学年末の再試験を実施しない。合格点は60点以上である。				
注意点	講義内容に応じて、プログラミング、プログラミング設計演習、計算機システム等の教科書・ノート等を用意すること。また、下記の参考書等を用いて、演習・実習・実験に必要な事項に関する自学習 (予習・復習) に取り組むこと。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	VisualBasic文法	オペレーティングシステム、プログラミング言語、アルゴリズム等、コンピュータソフトウェアに関する基礎事項を理解し、実際にプログラムを作成、実行できる。		
	2週	アルゴリズム	オペレーティングシステム、プログラミング言語、アルゴリズム等、コンピュータソフトウェアに関する基礎事項を理解し、実際にプログラムを作成、実行できる。		
	3週	プログラミング演習	オペレーティングシステム、プログラミング言語、アルゴリズム等、コンピュータソフトウェアに関する基礎事項を理解し、実際にプログラムを作成、実行できる。		
	4週	UNIX	オペレーティングシステム、プログラミング言語、アルゴリズム等、コンピュータソフトウェアに関する基礎事項を理解し、実際にプログラムを作成、実行できる。		
	5週	UNIX環境演習	オペレーティングシステム、プログラミング言語、アルゴリズム等、コンピュータソフトウェアに関する基礎事項を理解し、実際にプログラムを作成、実行できる。		
	6週	C 言語文法	オペレーティングシステム、プログラミング言語、アルゴリズム等、コンピュータソフトウェアに関する基礎事項を理解し、実際にプログラムを作成、実行できる。		
	7週	プログラミング演習	オペレーティングシステム、プログラミング言語、アルゴリズム等、コンピュータソフトウェアに関する基礎事項を理解し、実際にプログラムを作成、実行できる。		
	8週	JAVA言語文法	オペレーティングシステム、プログラミング言語、アルゴリズム等、コンピュータソフトウェアに関する基礎事項を理解し、実際にプログラムを作成、実行できる。		
	9週	プログラミング演習	オペレーティングシステム、プログラミング言語、アルゴリズム等、コンピュータソフトウェアに関する基礎事項を理解し、実際にプログラムを作成、実行できる。		
	10週	(授業項目、時間はあくまでも例示。実際の授業内容、時間数は、留学生毎に異なる。)	オペレーティングシステム、プログラミング言語、アルゴリズム等、コンピュータソフトウェアに関する基礎事項を理解し、実際にプログラムを作成、実行できる。		
	11週	(授業項目、時間はあくまでも例示。実際の授業内容、時間数は、留学生毎に異なる。)	オペレーティングシステム、プログラミング言語、アルゴリズム等、コンピュータソフトウェアに関する基礎事項を理解し、実際にプログラムを作成、実行できる。		
	12週	(授業項目、時間はあくまでも例示。実際の授業内容、時間数は、留学生毎に異なる。)	オペレーティングシステム、プログラミング言語、アルゴリズム等、コンピュータソフトウェアに関する基礎事項を理解し、実際にプログラムを作成、実行できる。		
	13週	(授業項目、時間はあくまでも例示。実際の授業内容、時間数は、留学生毎に異なる。)	オペレーティングシステム、プログラミング言語、アルゴリズム等、コンピュータソフトウェアに関する基礎事項を理解し、実際にプログラムを作成、実行できる。		

	14週	(授業項目、時間はあくまでも例示。実際の授業内容、時間数は、留学生毎に異なる。)	オペレーティングシステム、プログラミング言語、アルゴリズム等、コンピュータソフトウェアに関する基礎事項を理解し、実際にプログラムを作成、実行できる。
	15週	(授業項目、時間はあくまでも例示。実際の授業内容、時間数は、留学生毎に異なる。)	オペレーティングシステム、プログラミング言語、アルゴリズム等、コンピュータソフトウェアに関する基礎事項を理解し、実際にプログラムを作成、実行できる。
	16週		
後期	1週	基本論理	基本論理、ブール代数、各種組み合わせ回路等、コンピュータハードウェアに関する基礎事項を理解し、実際に簡単な論理回路を設計し、製作できる。
	2週	ブール代数とその演算	基本論理、ブール代数、各種組み合わせ回路等、コンピュータハードウェアに関する基礎事項を理解し、実際に簡単な論理回路を設計し、製作できる。
	3週	組み合わせ論理回路	基本論理、ブール代数、各種組み合わせ回路等、コンピュータハードウェアに関する基礎事項を理解し、実際に簡単な論理回路を設計し、製作できる。
	4週	エンコーダ・デコーダ	基本論理、ブール代数、各種組み合わせ回路等、コンピュータハードウェアに関する基礎事項を理解し、実際に簡単な論理回路を設計し、製作できる。
	5週	基本演算回路	基本論理、ブール代数、各種組み合わせ回路等、コンピュータハードウェアに関する基礎事項を理解し、実際に簡単な論理回路を設計し、製作できる。
	6週	オシロスコープの操作	基本論理、ブール代数、各種組み合わせ回路等、コンピュータハードウェアに関する基礎事項を理解し、実際に簡単な論理回路を設計し、製作できる。
	7週	3ビット加算回路の作製	基本論理、ブール代数、各種組み合わせ回路等、コンピュータハードウェアに関する基礎事項を理解し、実際に簡単な論理回路を設計し、製作できる。
	8週	(授業項目、時間はあくまでも例示。実際の授業内容、時間数は、留学生毎に異なる。)	基本論理、ブール代数、各種組み合わせ回路等、コンピュータハードウェアに関する基礎事項を理解し、実際に簡単な論理回路を設計し、製作できる。
	9週	(授業項目、時間はあくまでも例示。実際の授業内容、時間数は、留学生毎に異なる。)	基本論理、ブール代数、各種組み合わせ回路等、コンピュータハードウェアに関する基礎事項を理解し、実際に簡単な論理回路を設計し、製作できる。
	10週	(授業項目、時間はあくまでも例示。実際の授業内容、時間数は、留学生毎に異なる。)	基本論理、ブール代数、各種組み合わせ回路等、コンピュータハードウェアに関する基礎事項を理解し、実際に簡単な論理回路を設計し、製作できる。
	11週	(授業項目、時間はあくまでも例示。実際の授業内容、時間数は、留学生毎に異なる。)	基本論理、ブール代数、各種組み合わせ回路等、コンピュータハードウェアに関する基礎事項を理解し、実際に簡単な論理回路を設計し、製作できる。
	12週	(授業項目、時間はあくまでも例示。実際の授業内容、時間数は、留学生毎に異なる。)	基本論理、ブール代数、各種組み合わせ回路等、コンピュータハードウェアに関する基礎事項を理解し、実際に簡単な論理回路を設計し、製作できる。
	13週	(授業項目、時間はあくまでも例示。実際の授業内容、時間数は、留学生毎に異なる。)	基本論理、ブール代数、各種組み合わせ回路等、コンピュータハードウェアに関する基礎事項を理解し、実際に簡単な論理回路を設計し、製作できる。
	14週	(授業項目、時間はあくまでも例示。実際の授業内容、時間数は、留学生毎に異なる。)	基本論理、ブール代数、各種組み合わせ回路等、コンピュータハードウェアに関する基礎事項を理解し、実際に簡単な論理回路を設計し、製作できる。
	15週	(授業項目、時間はあくまでも例示。実際の授業内容、時間数は、留学生毎に異なる。)	基本論理、ブール代数、各種組み合わせ回路等、コンピュータハードウェアに関する基礎事項を理解し、実際に簡単な論理回路を設計し、製作できる。
	16週		

評価割合							
	演習成果物	課題レポート				その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0~100	0~100	0	0	0	0	0
専門的能力	0~100	0~100	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	プログラム設計演習
科目基礎情報					
科目番号	J3-4069	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	情報工学科	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	3		
教科書/教材	教科書: 柴田 望洋 他「新・明解 C言語によるアルゴリズムとデータ構造」ソフトバンククリエイティブ/参考書: J.L.アントナコス他「C/C++アルゴリズム入門」ピアソンエデュケーション, R.L.クルーズ「C++データ構造とプログラム設計」ピアソンエデュケーション, 浅野他「計算とアルゴリズム」オーム社, 石畑「岩波講座ソフトウェア科学3 アルゴリズムとデータ構造」岩波書店, 疋田「Cで書くアルゴリズム」サイエンス社, 野崎「アルゴリズムと計算量」共立出版, 河西「Javaによるはじめてのアルゴリズム入門」技術評論社, 他多数.				
担当教員	原田 恵雨				
到達目標					
1) 与えられたプログラムの読解, 要求仕様を満たすプログラムの作成ができる. 2) 代表的なソートアルゴリズムについて, 実装を通して理解できる. 3) 代表的なデータ構造について, 実装を通して理解できる. 4) ソートアルゴリズム, データ構造について, 計算量, 安定性等の面から性能を評価できる.					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	アルゴリズムやデータ構造の実装に必要となる, 再帰呼出し・ファイル入出力等について, 読解, コーディングができる.	アルゴリズムやデータ構造の実装に必要となる, 再帰呼出し・ファイル入出力等の基本的な部分について, 読解, コーディングができる.	アルゴリズムやデータ構造の実装に必要となる, 再帰呼出し・ファイル入出力等について, 読解, コーディングができない.		
評価項目2	基本的なデータ構造である連結リストの仕組み, およびスタック・キューへの応用について理解し, 自力でコーディングできる.	基本的なデータ構造である連結リストの仕組み, およびスタック・キューの基本について理解し, 自力でコーディングできる.	基本的なデータ構造である連結リストの仕組み, およびスタック・キューへの応用について理解できず, 自力でコーディングできない.		
評価項目3	比較的簡単なソートアルゴリズムおよび高度なソートアルゴリズムを理解し, 自力でコーディングできる.	比較的簡単なソートアルゴリズムを理解し, 自力でコーディングできる.	比較的簡単なソートアルゴリズムおよび高度なソートアルゴリズムを理解できず, 自力でコーディングできない.		
学科の到達目標項目との関係					
学習目標 II, 学校目標 D (工学基礎), 学科目標 D (工学基礎), 本科の点検項目 D - iii, 学校目標 E (継続的学習), 本科の点検項目 E - ii, 学校目標 F (専門の実践技術), 学科目標 F (専門の実践技術), 本科の点検項目 F - i					
教育方法等					
概要	この授業では, 1, 2年で学んできたプログラミングの基礎知識を要する. 第1, 2学年で開講されている「プログラミング」は, 情報処理技術者としてソフトウェア開発を行うために必要なプログラミング技法を修得することが目的であり, 第3学年の「プログラム設計演習」では, 有用なアルゴリズムおよびデータ構造を学び, さらに何らかのプログラミング言語で実現することにより, 計算の効率も含めて理解することに重点を置く.				
授業の進め方と授業内容・方法	授業は各単元において, 教科書と配布資料に基づき口頭説明した上, 各自プログラムを実装する. 適宜参考コードを示し, 各自が書いたプログラムと比較し, 理解を深める. 関連文書は実習室のPCで閲覧可とする. 不定期に提出が必要な課題を課すが, 授業時間内に完成しない場合は自習時間を使って完成させること.				
注意点	プログラミング技術向上のためには, 日頃の努力が必要である. したがって, 不定期に出題される課題については, 提出の要・不要を問わず, 必ずすべて完成させるよう努力すること. 原則, 実習室で授業を行うものとする. 基本的にプログラムは一人で組むが, 相当考えても問題が解決しない場合は周囲の学生や教員と相談することが望ましい. 当たり前のことだが, そこで教わったことは理解してかつ他の問題にも適用できるようにする努力が必要である. 提出が必要な課題において, 不正コピーが見つかった場合は当該課題点を0にするなどのペナルティを与える.				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	各プログラミング言語の比較, 基本事項の修得/基本的な知識/構文等, 言語間の比較	新しいプログラミング言語の基本的な文法・ファイル入出力等について, コーディングまたは読解ができる.		
	2週	各プログラミング言語の比較, 基本事項の修得/基本的な知識/構文等, 言語間の比較	新しいプログラミング言語の基本的な文法・ファイル入出力等について, コーディングまたは読解ができる.		
	3週	各プログラミング言語の比較, 基本事項の修得/基本的な知識/構文等, 言語間の比較	新しいプログラミング言語の基本的な文法・ファイル入出力等について, コーディングまたは読解ができる.		
	4週	各プログラミング言語の比較, 基本事項の修得/基本的な知識/構文等, 言語間の比較	新しいプログラミング言語の基本的な文法・ファイル入出力等について, コーディングまたは読解ができる.		
	5週	各プログラミング言語の比較, 基本事項の修得/基本的な知識/ファイル入出力・例外処理	新しいプログラミング言語の基本的な文法・ファイル入出力等について, コーディングまたは読解ができる.		
	6週	各プログラミング言語の比較, 基本事項の修得/基本的な知識/ファイル入出力・例外処理	新しいプログラミング言語の基本的な文法・ファイル入出力等について, コーディングまたは読解ができる.		
	7週	各プログラミング言語の比較, 基本事項の修得/基本的な知識/ファイル入出力・例外処理	新しいプログラミング言語の基本的な文法・ファイル入出力等について, コーディングまたは読解ができる.		
	8週	探索アルゴリズム	基本的な探索アルゴリズムについて理解し, 自力でコーディングできる.		
	9週	再帰的アルゴリズム	再帰的アルゴリズムについて理解し, 自力でコーディングできる.		
	10週	再帰的アルゴリズム	再帰的アルゴリズムについて理解し, 自力でコーディングできる.		
	11週	簡単なソートアルゴリズム	比較的簡単なソートアルゴリズムを理解し, 自力でコーディングできる.		

	12週	簡単なソートアルゴリズム	比較的簡単なソートアルゴリズムを理解し、自力でコーディングできる。
	13週	計算量と安定性	時間計算量／空間計算量を比較し、各ソートアルゴリズムの特徴を捉える。
	14週	シェルソート	高度なソートアルゴリズムを理解し、自力でコーディングできる。
	15週	シェルソート	高度なソートアルゴリズムを理解し、自力でコーディングできる。
	16週	(1～15週を通して、計画性やコミュニケーションをとることを求める)	(1～15週を通して、計画性やコミュニケーションをとることを求める)
後期	1週	マージソート	高度なソートアルゴリズムを理解し、自力でコーディングできる。
	2週	マージソート	高度なソートアルゴリズムを理解し、自力でコーディングできる。
	3週	クイックソート	高度なソートアルゴリズムを理解し、自力でコーディングできる。
	4週	クイックソート	高度なソートアルゴリズムを理解し、自力でコーディングできる。
	5週	クイックソート	高度なソートアルゴリズムを理解し、自力でコーディングできる。
	6週	連結リスト	基本的なデータ構造である連結リストの仕組みについて理解し、自力でコーディングできる。
	7週	連結リスト	基本的なデータ構造である連結リストの仕組みについて理解し、自力でコーディングできる。
	8週	連結リスト	基本的なデータ構造である連結リストの仕組みについて理解し、自力でコーディングできる。
	9週	連結リスト	基本的なデータ構造である連結リストの仕組みについて理解し、自力でコーディングできる。
	10週	スタック・キュー	連結リストの、スタック・キューへの応用について理解し、自力でコーディングできる。
	11週	スタック・キュー	連結リストの、スタック・キューへの応用について理解し、自力でコーディングできる。
	12週	木構造	木構造に関連する概念および実装方法について理解し、自力でコーディングできる。
	13週	木構造	木構造に関連する概念および実装方法について理解し、自力でコーディングできる。
	14週	木構造	木構造に関連する概念および実装方法について理解し、自力でコーディングできる。
	15週	木構造	木構造に関連する概念および実装方法について理解し、自力でコーディングできる。
		16週	(1～15週を通して、計画性やコミュニケーションをとることを求める)

評価割合

	課題の体裁・内容および取り組み方	合計
総合評価割合	100	100
基礎的能力	50	50
専門的能力	50	50
分野横断的能力	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	情報工学実験
科目基礎情報					
科目番号	J3-4810	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	情報工学科	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	3		
教科書/教材	木下 是雄 著「レポートの組み立て方」(筑摩書房)				
担当教員	三上 剛				
到達目標					
1) Z80アセンブリ言語の実習, H8マイコンの実習, 回路の解析, 論理回路の設計, ソフトウェア実験を行うことで, これまで授業で学習した内容をより深く理解でき, 実体験で得た知識を説明できる 2) 技術文書の作成方法を学ぶことで, 適切なコミュニケーション能力を高めることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	Z80アセンブリ言語の実習, RXマイコン制御実験を行うことで, これまで授業で学習した内容をより深く理解でき, 実体験で得た知識を説明出来る	Z80アセンブリ言語の実習, RXマイコン制御実験を行うことで, これまで授業で学習した内容をより深く理解できる。	Z80アセンブリ言語の実習およびRXマイコン制御実験を行っても, これまで授業で学習した内容を理解できず説明もできない。		
評価項目2	回路解析, 論理回路の設計, 数値演算を行うことで, これまで授業で学習した内容をより深く理解でき, 実体験で得た知識を説明出来る	回路解析, 論理回路の設計, 数値演算を行うことで, これまで授業で学習した内容をより深く理解できる。	回路解析, 論理回路の設計, 数値演算を行っても, これまで授業で学習した内容を理解できず説明もできない。		
評価項目3	技術文書の作成方法を学ぶことで, 適切なコミュニケーション能力が十分身についた。	技術文書の作成方法を学ぶことで, 適切なコミュニケーション能力が身についた。	適切なコミュニケーション能力が身につかない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習目標 I, 学習目標 II, 学習目標 III, 学校目標 C (コミュニケーション), 本科の点検項目 C - i, 本科の点検項目 C - iii, 学校目標 F (専門の実践技術), 学科目標 F (専門の実践技術), 本科の点検項目 F - ii, 本科の点検項目 F - iii, 学校目標 I (チームワーク), 学科目標 I (チームワーク), 本科の点検項目 I - i					
教育方法等					
概要	前期はZ80マイコンボードを用いたアセンブリ言語によるマイコン制御を行い, 後期はRXマイコンを用いてC言語でマイコン制御を行う。また, 後期は組み合わせ論理回路や回路解析に関するハードウェア実験とソフトウェア実験で構成されている。前期は個別実験で全員一斉に行い, 後期は2班に分かれて実施する。				
授業の進め方と授業内容・方法	1週で1つの実験テーマを基本とするが, 数週間で1つの実験テーマを実施する場合もある。実施場所は, 前期は情報棟2階工学基礎実験室, 後期は, 情報棟2階工学基礎実験室, 情報棟3階情報システム実習室, 情報棟3階情報処理実習室。				
注意点	1, 2年生の情報技術基礎, プログラミング, 回路理論, 論理回路, および3年生の論理回路, 計算機システムI, プログラム設計演習に関する知識が必要となる。実験当日は, 各テーマにおいて必要とされる実験ノート・関連教科書・関数電卓・作図用具一式, 作業用USBメモリ等を用意すること。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	前期実験のガイダンス, 実験機器の説明	実験で使用するZ80マイコンを操作できる		
	2週	Z80マイコンのハードウェア	Z80アセンブリ言語の概要を説明出来る		
	3週	ジャンプ命令とプログラム作成演習	Z80マイコンボードのハードウェア構成を理解出来る		
	4週	ジャンプ命令(2)	ループの方法について説明出来る		
	5週	シフト命令	シフト命令を用いた乗算の原理について説明出来る		
	6週	8ビット乗算	8ビットの乗算を行うプログラムを作成できる		
	7週	予備実験, 報告書執筆指導	適切な技術文書としての実験報告書が執筆できる		
	8週	多桁加減算	多桁の加減算の方法を説明でき, そのプログラムを作成できる		
	9週	フラグレジスタとトレース実行	フラグレジスタについて説明でき, トレース実行でプログラムを動作させることができる		
	10週	サブルーチン	サブルーチンの概念を説明出来る		
	11週	ソフトウェアタイマ	ソフトウェアタイマのプログラムを作成できる		
	12週	LEDの制御	Z80-PIOを用いてLEDを制御する方法を説明出来る		
	13週	ハードウェアタイマと割り込み	ハードウェアタイマを用いた割り込み処理を行うプログラムを作成できる		
	14週	スイッチ入力	チャタリングの原因とチャタリングを防止する方法について説明出来る		
	15週	予備実験, 報告書執筆指導	適切な技術文書としての実験報告書が執筆できる		
	16週				
後期	1週	後期実験のガイダンス	後期実験のテーマの概要と, レポート提出の方法について理解する		
	2週	RXマイコンの概要と使用方法	RXマイコンのハードウェアを理解でき, プログラムの開発手順について理解できる		
	3週	マイコン制御のためのC言語	C言語を用いたRXマイコン制御の方法について理解できる		
	4週	LEDの制御	RXマイコンからLEDの点灯を制御するプログラムを作成できる		
	5週	ディップスイッチの制御	ディップスイッチの入力によりLEDの点灯を制御するプログラムを作成できる		

6週	ハードウェアタイマ	ハードウェアタイマを用いて、ある一定時間感覚で点滅制御することができる
7週	SCIの制御	パソコンのキーボードからハードウェアタイマを設定するプログラムを作成できる
8週	予備実験、報告書執筆指導	適切な技術文書としての実験報告書が執筆できる
9週	液晶ディスプレイの制御	液晶ディスプレイに文字を表示するプログラムを作成できる
10週	回路素子と回路解析(1)	交流信号に対する抵抗、コンデンサ、コイルの電気的特性を把握し、RC, RLを組み合わせた回路の特性を理解出来る
11週	回路素子と回路解析(2)	交流信号に対する抵抗、コンデンサ、コイルの電気的特性を把握し、RC, RLを組み合わせた回路の特性を理解出来る
12週	組み合わせ論理回路	組み合わせ回路の設計法、動作を理解出来る。
13週	数値演算誤差	浮動小数点の演算と誤差について説明出来る
14週	行列演算と連立方程式の解法(1)	計算機を用いた行列演算と数値的計算が出来る
15週	行列演算と連立方程式の解法(2)	計算機を用いた行列演算と数値的計算が出来る
16週		

評価割合

	レポート	合計
総合評価割合	100	100
基礎的能力	0	0
専門的能力	100	100
分野横断的能力	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	哲学
科目基礎情報					
科目番号	J4-1240	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	情報工学科	対象学年	4		
開設期	前期	週時間数	前期:3 後期:0		
教科書/教材	適宜プリントを配布するので、特に指定しない。				
担当教員	多田 光宏				
到達目標					
<p>人文・社会科学的な視点から人間、社会、文化について多面的に理解し、国際社会の一員として社会的諸問題の解決に向けて主体的に貢献する自覚と素養を培う。</p> <p>人間活動や科学技術の役割と影響に関心を持ち、幸福とは何かを追究しながら、技術者として社会に貢献する自覚と素養を培う。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
生命倫理学の基本用語・論点を理解し、それをを用いて自分の考えを述べることができる。	講義の内容をよく理解し、自分で資料等を収集した上で、基本用語を適切に使用し、自分の考えを述べるができる。	講義の内容をよく理解し、基本用語を適切に使用し、自分の考えを述べることができる。	講義の内容を理解しようとせず、独りよがりな自分の考えを述べる。		
環境倫理学の基本用語・論点を理解し、それをを用いて自分の考えを述べることができる。	講義の内容をよく理解し、自分で資料等を収集した上で、基本用語を適切に使用し、自分の考えを述べることができる。	講義の内容をよく理解し、基本用語を適切に使用し、自分の考えを述べることができる。	講義の内容を理解しようとせず、独りよがりな自分の考えを述べる。		
技術者倫理の基本用語・論点を理解し、それをを用いて自分の考えを述べることができる。	講義の内容をよく理解し、自分で資料等を収集した上で、基本用語を適切に使用し、自分の考えを述べることができる。	講義の内容をよく理解し、基本用語を適切に使用し、自分の考えを述べることができる。	講義の内容を理解しようとせず、独りよがりな自分の考えを述べる。		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (a), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (b), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), 学習目標 I, 学習目標 II, 学習目標 III, 本科の点検項目 A - i, 本科の点検項目 A - ii, 本科の点検項目 B - i, 本科の点検項目 B - ii, 本科の点検項目 E - ii					
教育方法等					
概要	現代の倫理に関わる諸問題を取り上げ、その各々について倫理学がどのように考えようとしているのかを講義する。取り上げられるトピックスは、生命倫理、環境倫理、技術者倫理を対象とする。				
授業の進め方と授業内容・方法	内容が多岐に渡る為、適宜プリントを配布するので、教科書は使用しない。ただし、参考図書に目を通すことが望ましい。				
注意点	トピックスとして取り上げる現代の諸問題には、明確な一つの解答が存在する訳ではない。それ故に、受講者は「自分で」注意深く考えなければならない。というのも、これらの問題群について考えることは、完全な唯一の正解ではなく、複数解の中から最適解を求める工学の思考方法と類似しているからである。受講者は講義中に取り上げられたトピックスに関連するニュース等に関心を抱き、講義時間外にも自分の考えを検討・整理する時間を必ず持ち、自分でノートにまとめる等、自学自習に取り組むこと。その成果については、講義中に課すレポートや定期試験によって評価する。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	1. 倫理的に考えるとは?	倫理的な思考の性質を理解できる。		
	2週	2. 倫理学の基礎理論	倫理学の基礎理論について理解できる。		
	3週	3. 生命倫理の基礎	生命倫理の基本事項について理解できる。		
	4週	4. 臓器移植 (1)	臓器移植の諸問題について理解できる。		
	5週	5. 臓器移植 (2)	臓器移植の諸問題について理解できる。		
	6週	6. 着床前診断 (1)	着床前診断の諸問題について理解できる。		
	7週	7. 着床前診断 (2)	着床前診断の諸問題について理解できる。		
	8週	8. 中間試験			
	9週	9. 尊厳死	尊厳死の諸問題について理解できる。		
	10週	10. 環境問題の現状と環境倫理	環境問題の特徴と環境倫理学の基礎について理解することができる。		
	11週	11. 事例研究	事例を通じて、何が問題であったかを理解することができる。		
	12週	12. 環境倫理の基礎理論	環境倫理の基礎理論について理解することができる。		
	13週	13. 技術者倫理の基礎	技術者倫理の特徴を理解することができる。		
	14週	14. 事例研究	事例を通して、技術者に求められている倫理的な責任について理解することができる。		
	15週	15. 事例研究	事例を通して、技術者に求められている倫理的な責任について理解することができる。		
	16週	定期試験			
評価割合					
	中間試験	定期試験	レポート	合計	
総合評価割合	35	40	25	100	
基礎的能力	35	40	25	100	

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	法学
科目基礎情報					
科目番号	J4-1250		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報工学科		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	前期:0 後期:3	
教科書/教材	教科書: レジユメ・資料を配布/参考図書: 河原格編著『法学への一步〔第3版〕』八千代出版、内田貴『民法Ⅰ～Ⅳ』東京大学出版会、平嶋竜太他『入門 知的財産法』有斐閣、盛岡一夫『知的財産法概説〔第5版〕』法学書院、水町有一郎『労働法 第6版』有斐閣、升田淳『最新PL関係 判例と実務』民事法研究会/参考資料: 田中英夫『実定法学入門〔第3版〕』東京大学出版会、『ジュリスト』有斐閣(各号及び別冊(判例百選))、『基本法コンメンタール』日本評論社(各法)、P.G. ヴィノグラドフ(末延三次・伊藤正己訳)『法における常識』岩波文庫、Paul Vinogradoff, Common sense in law, Oxford University Press				
担当教員	佐々木 彩				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 民主政治の基本原則、日本国憲法の成り立ちやその特性について説明できる。 2. 現代社会の法的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて説明できる。 3. 知財等を通して現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について説明できる。 4. 知財等を通して社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について説明できる。 5. 技術者にとって必要な法律や法的課題の解決方法を説明できる。 6. バランスのとれた法的思考で、法令・学説・判例を正確に駆使して問題の解決を導き、文章で表わすことができる。 					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
1. 民主政治の基本原則、日本国憲法の成り立ちやその特性について説明できる。	民主政治の基本原則、日本国憲法の成り立ちやその特性について説明できる。	民主政治の基本原則、日本国憲法の成り立ちやその特性に関する基本的な問題が解ける。	民主政治の基本原則、日本国憲法の成り立ちやその特性に関する基本的な問題が解けない。		
2. 現代社会の法的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて説明できる。	現代社会の法的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて説明できる。	現代社会の法的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みに関する基本的な問題が解ける。	現代社会の法的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについての基本的な問題が解けない。		
3. 知財等を通して現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について説明できる。	知財等を通して現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について説明できる。	知財等を通して現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響に関する基本的な問題が解ける。	知財等を通して現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響に関する基本的な問題が解けない。		
4. 知財等を通して社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について説明できる。	知財等を通して社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について説明できる。	知財等を通して社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方に関する基本的な問題が解ける。	知財等を通して社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方に関する基本的な問題が解けない。		
5. 技術者にとって必要な法律や法的課題の解決方法を説明できる。	技術者にとって必要な法律や法的課題の解決方法を説明できる。	技術者にとって必要な法律や法的課題の解決方法に関する基本的な問題が解ける。	技術者にとって必要な法律や法的課題の解決方法に関する基本的な問題が解けない。		
6. バランスのとれた法的思考で、法令・学説・判例を正確に駆使して問題の解決を導き、文章で表わすことができる。	バランスのとれた法的思考で、法令・学説・判例を正確に駆使して問題の解決を導き、文章で表わすことができる。	バランスのとれた法的思考で、一応法令・学説・判例を駆使して問題の解決を導き、文章で表わすことができる。	バランスのとれた法的思考で、一応法令・学説・判例を駆使して問題の解決を導き、文章で表わすことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (a), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (b), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), 学習目標 I, 学習目標 II, 学習目標 III, 本科の点検項目 A - i, 本科の点検項目 A - ii, 本科の点検項目 B - i, 本科の点検項目 B - ii, 本科の点検項目 E - ii					
教育方法等					
概要	法学的な視点から人間、社会、文化について多面的に理解し、国際社会の一員として社会的諸問題の解決に向けて主体的に貢献する自覚と素養を培う。人間活動や科学技術の役割と影響に関心を持ち、幸福とは何かを追求しながら、技術者として社会に貢献する自覚と素養を培う。「法律」を学ぶ基盤として、まずは、法学の基礎理論を確実に理解することを目指し、「『法』とは何か」について考えた後、実生活に起りうる実定法上の解決方法を習得することで、リーガルマインドを培う。				
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業は、配布プリントを用いて主に講義形式で進める。適宜、事例問題等を設定し、受講生に対して質問への応答を求めるほか、練習問題を取り入れて、受講者の理解度を確認しながら授業を行う。 ・ 成績は、定期試験40%、到達度試験40%、課題20%の総合評価とする。合格点は、60点以上である。なお、合格点に達しない場合は再試験を行う予定。 				
注意点	新聞・ニュース等で取り上げられる時事問題に関心を持つこと。授業で取り上げた内容については、特に問題意識を持ち、自分で考え、法的観点から結論を導き出してみたい。授業で扱う項目については、配布資料等を用いて自学自習を行うこと(60時間の自学自習が必要)。授業後は復習をしっかりと行い、分からない点は質問に来ること。なお、授業においては最新の六法を携行することが望ましい。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	1週	1. 法とは何か①	法の分類、裁判の基準となる法の解釈や適用の問題、裁判所のしくみについて、日本国憲法の基本原則を踏まえた上で理解し、説明することができる。		
	2週	1. 法とは何か②	法の分類、裁判の基準となる法の解釈や適用の問題、裁判所のしくみについて、日本国憲法の基本原則を踏まえた上で理解し、説明することができる。		
	3週	2. 住生活と法①	日常的に行われる売買契約を通じて、権利と義務との関係、心裡留保、虚偽表示等について理解し、説明することができる。		
	4週	2. 住生活と法②	私法上、「人」は、いつをもって生まれたとみなすか(権利能力の始期)について、「胎児の権利能力」に関する事例を通して理解し説明することができる。		

5週	2. 住生活と法③	私法上、「人」は、いつをもって死亡したとみなすのか（権利能力の始期と終期）について、「失踪宣告」等の事例を通して理解し、説明することができる。
6週	3. 交通事故と法①	交通事故等の事例を通して、一般的不法行為に基づいて損害賠償請求をする方法を説明することができる。
7週	3. 交通事故と法②	交通事故等の事例を通して、特殊な不法行為に基づいて損害賠償請求をする方法を説明することができる。
8週	4. 労働と法	労働法の全体像と、労働法の要である労働基準法について理解し、説明することができる。
9週	5. 製造物責任法（PL法）	PL法が制定するまでの過程と、PL法の概要について事例を通して理解し、説明することができる。
10週	6. 知的財産法①	知的財産権に関する事例を通して、特許権を中心とする知的財産権について理解し説明することができる。
11週	6. 知的財産法②	知的財産権に関する事例を通して、特許権の他、著作権等にかんする知的財産権についても理解し説明することができる。
12週	7. 婚姻と法①	親等の範囲、婚姻の一般的成立要件と実質的成立要件、婚姻の効力について理解し説明することができる。
13週	7. 婚姻と法②	離婚の方法（協議離婚～裁判離婚）等について、理解し説明することができる。
14週	8. 相続と法①	法定相続（相続人の範囲、法定相続分の計算等）について理解し説明することができる。
15週	8. 相続と法②	遺言相続（遺留分、遺言の種類等）について、理解し説明することができる。
16週		

評価割合

	試験	到達度試験	課題	合計
総合評価割合	40	40	20	100
基礎的能力	40	40	20	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	経済学
科目基礎情報					
科目番号	J4-1260	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	情報工学科	対象学年	4		
開設期	後期	週時間数	前期:0 後期:3		
教科書/教材	自作『講義プリント』				
担当教員	松原 智雄				
到達目標					
(1)現代の日本経済の現状や課題をグローバルな視点で考えることができ、21世紀の日本社会、国際社会への基本的な見通しをもてる。(2)社会科学の知識や概念、方法論を用いて、第二次大戦以後の日本経済の基本的な流れを歴史的、客観的に理化学、考えることが出来ること。基本的な歴史的事実を理解できること。また、国際関係や環境問題などの地球的視点ももてること。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
歴史的事実や経済学的事項について正確に認識理解し、説明できているかどうかを評価する。また、事実関係や事項が論理的に無理なく説明されているか、論旨が正確で理解されうるものかなどを評価する。なを、経済学と関連する科目で理解認識された知識が活用されている場合は高く評価することがある。	歴史的事実が正確で経済学的事項を正確に理解し説明できること。文章表現が正確であることなど。	優のレベルに到達していないが、間違い完全に不十分ではない場合。	左記事項に不正確で明確な文章方言等がなされていない場合。		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E基準1 学習・教育到達目標 (a), J A B E E基準1 学習・教育到達目標 (e), 学習目標 I, 学習目標 II, 学習目標 III, 本科の点検項目 A - i, 本科の点検項目 A - ii, 本科の点検項目 E - ii					
教育方法等					
概要	学習目標 I、II、III 本科の点検項目(「環境・生産システム工学」教育プログラム学習・教育到達目標A- i、A- ii、E- iii J A B E E基準1学習・教育到達目標				
授業の進め方と授業内容・方法	人間と自然の絶え間のない物質代謝過程である経済過程は社会存立の基礎である。社会科学としての経済学の基本的な事項を説明できること、また、経済過程が基本的には共同体と商品経済(市場経済)によって担われてきたこと、その歴史的な発展過程の基本構造を理解し、説明できること、特に20世紀以後の地球的に規模に拡大した世界経済とその中で日本経済に生じた自然環境や社会文化の変化の基本的な動向を理解し説明出来ること。				
注意点	準備する用具、前提となる知識・科目としては地理、歴史、倫理社会、政治経済を十分に学習しておく必要がある。また、社会科学学習のためには常に現代社会の動向に関心を持つことが大事である。社会的常識、教養を涵養するために新聞、TVニュースなどを忘れずに見ること、常に社会の動向に関心を払うことが社会に貢献する技術者の養成段階においても必須であろう。また、現代経済の諸問題に関する課題を課すので参考図書などの学習も怠らないこと。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	1週	経済学の対象と資本主義の発展段階	経済とは? 資本主義発展の歴史過程とはを理解する。		
	2週	第二次大戦後の日本と世界の経済。経済復興の時代。	戦後改革や I M F ・ GATT体制の成立の意味を学習。		
	3週	日本の高度成長、欧州統合。	朝鮮戦争から高度成長へ。欧州経済の復興の特殊性をまなぶ。		
	4週	日本と欧州の高度成長、アメリカ経済の変質。	日本と欧州の発展と対極のアメリカ経済を学習。		
	5週	ベトナム戦争と高度成長後半期。	国際対立化の高度成長の意味を問う。		
	6週	二つのショックと高度成長の終焉	ニクソン、オイルのダブルショックの意味を学習。		
	7週	低成長と高度情報化社会への転換	高度成長以後の低成長時代を学主する。		
	8週	1980年代の日本と世界経済。	ハイテク社会とイスラム問題などを学習する。		
	9週	バブル経済への転換と日本社会の変貌。	レジャー産業と地上げ株高の意味を問う。		
	10週	1990年代の日本と世界経済。	バブル崩壊とインターネット社会の意義を問う。		
	11週	I T社会とバブル崩壊後の日本経済。	グローバリズムと日本社会と混乱を学習する。		
	12週	行財政改革、骨太の改革と日本経済の立て直し。	バブル経済崩壊後の日本の再建計画の意義を学習する。		
	13週	21世紀初頭の日本と世界経済。	リーマンショックから東北大震災頃の日本経済と世界経済の混乱を学習する。		
	14週	「文明戦争」アベノミクスの登場	イスラム過激派の台頭やアベノミクスを学習する。		
	15週	21世紀経済社会の展望	米英の単独行動、荒れ狂うイスラム社会、アベノミクスの今後を問う。		
	16週	定期試験			
評価割合					
	試験	レポート	合計		
総合評価割合	80	20	100		
基礎的能力	80	20	100		

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	日本史
科目基礎情報					
科目番号	J4-1270	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	情報工学科	対象学年	4		
開設期	後期	週時間数	前期:0 後期:3		
教科書/教材	教科書: 自作プリント/参考図書: 日本思想体系「中世政治社会思想(上・下)」(岩波書店)、松田毅一・E=3777「ルイス=フロイスの日本覚書」(中公新書)、網野善彦「日本社会の歴史(上・中・下)」(岩波新書)、山室恭子「黄金太閤」(中公新書)、今谷明「武家と天皇」(岩波新書)、その他適宜講義中に紹介				
担当教員	坂下 俊彦				
到達目標					
1) 基本的用語・制度などの知識に関して説明できる 2) 史料を解釈できる 3) 特定の制度や出来事あるいは一定の史料から、戦国社会の特質を導き出すことができる 4) 多様な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的観点から理解できる 5) 文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から理解できる 6) 文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの重要性を理解できる 7) 歴史批判の方法論を用い、現代社会の問題点を整理することができる					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
1) 基本的用語・制度などの知識に関して説明できる	基本的用語・制度などの知識に関して正確に、論理的に説明できる	基本的用語・制度などの知識に関して説明できる	基本的用語・制度などの知識に関して説明できない		
2) 史料を解釈できる	史料を正確に解釈できる	史料を解釈できる	史料を解釈できない		
3) 特定の制度や出来事あるいは一定の史料から、戦国社会の特質を導き出すことができる	特定の制度や出来事あるいは一定の史料から、戦国社会の特質を論理的に説明できる	特定の制度や出来事あるいは一定の史料から、戦国社会の特質を導き出すことができる	特定の制度や出来事あるいは一定の史料から、戦国社会の特質を導き出すことができない		
4) 多様な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的観点から理解できる	多様な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的観点から論理的に説明できる	多様な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的観点から理解できる	多様な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的観点から理解できない		
5) 文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から理解できる	文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から論理的に説明できる	文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から理解できる	文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から理解できない		
6) 文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの重要性を理解できる	6) 文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの重要性を論理的に説明できる	文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの重要性を理解できる	6) 文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの重要性を理解できない		
7) 歴史批判の方法論を用い、現代社会の問題点を整理することができる	7) 歴史批判の方法論を用い、現代社会の問題点を整理し、考察することができる	7) 歴史批判の方法論を用い、現代社会の問題点を整理することができる	7) 歴史批判の方法論を用い、現代社会の問題点を整理することができない		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (a), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (b), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), 学習目標 I, 学習目標 II, 学習目標 III, 本科の点検項目 A - i, 本科の点検項目 A - ii, 本科の点検項目 B - i, 本科の点検項目 B - ii, 本科の点検項目 E - ii					
教育方法等					
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・人文・社会科学的な視点から人間、社会、文化について多面的に理解し、国際社会の一員として社会的諸問題の解決に向けて主体的に貢献する自覚と素養を培う。 ・人間活動や科学技術の役割と影響に関心を持ち、幸福とは何かを追究しながら、技術者として社会に貢献する自覚と素養を培う。 ・上記の目標を達するため、具体的には日本史上の転換点とされる戦国時代を主たる対象とし、法・社会・対外関係・国家のありかたを検討し、中世社会及び近世社会の特質を明らかにすると共に、明治以降の日本の近代化についての展望も提示したい。 				
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料等を用いて、教員による説明で授業を進める。 ・成績は到達度試験30%、定期試験50%、課題(関連キーワード調査)20%の割合で評価する。合格点は60点以上である。 ・評価が60点に達しない者には、再試験を学期末(試験範囲: 全授業内容)に実施する。再試験を実施した場合、上記に掲げた到達度試験・定期試験の割合を2/3に圧縮し、残り1/3に再試験の点数を充て再評価する。但し、この場合、評価の上限は60点とする。 				
注意点	授業項目毎に提示する関連キーワードについて自学自習により調べる。調査結果は授業項目毎に回収し、目標が達成されていることを確認する。また、試験において目標が達成されていることを確認する。目標が達成されていない場合には、再調査を求める。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	1週	1. 公儀権力と戦国社会① 1-1「イ工」の成立	中世社会の基本単位である「イ工」、中近世の公権力である「公儀」の特質を理解し、現代社会及び現代における権力との相違点を論理的に説明できる		
	2週	1. 公儀権力と戦国社会② 1-2「イ工」と公儀権力	中世社会の基本単位である「イ工」、中近世の公権力である「公儀」の特質を理解し、現代社会及び現代における権力との相違点を論理的に説明できる		
	3週	1. 公儀権力と戦国社会③ 1-3鎌倉幕府と室町幕府	中世社会の基本単位である「イ工」、中近世の公権力である「公儀」の特質を理解し、現代社会及び現代における権力との相違点を論理的に説明できる		
	4週	1. 公儀権力と戦国社会④ 1-4戦国社会と「自力救済」	中世社会の基本単位である「イ工」、中近世の公権力である「公儀」の特質を理解し、現代社会及び現代における権力との相違点を論理的に説明できる		
	5週	1. 公儀権力と戦国社会⑤ 1-5戦国法の特質～喧嘩両成敗法～	中世社会の基本単位である「イ工」、中近世の公権力である「公儀」の特質を理解し、現代社会及び現代における権力との相違点を論理的に説明できる		

6週	2. 豊臣平和令① 2-1織豊政権の歴史的 position 付け	豊臣政権の目指した「平和」の意味を理解し、現代の「平和」との相違点及び現代社会の問題点を、論理的に説明できる
7週	2. 豊臣平和令② 2-2「豊臣惣無事令」と天下統一	豊臣政権の目指した「平和」の意味を理解し、現代の「平和」との相違点及び現代社会の問題点を、論理的に説明できる
8週	2. 豊臣平和令③ 2-3「刀狩令」	豊臣政権の目指した「平和」の意味を理解し、現代の「平和」との相違点及び現代社会の問題点を、論理的に説明できる
9週	2. 豊臣平和令④ 2-4「伴天連追放令」	豊臣政権の目指した「平和」の意味を理解し、現代の「平和」との相違点及び現代社会の問題点を、論理的に説明できる
10週	2. 豊臣平和令⑤ 2-5豊臣平和令の歴史的意義	豊臣政権の目指した「平和」の意味を理解し、現代の「平和」との相違点及び現代社会の問題点を、論理的に説明できる
11週	3. 豊臣政権の崩壊と江戸幕府の成立① 1-1明冊封体制・勘合貿易・倭寇	豊臣政権の崩壊から江戸幕府の成立にいたる政治過程を理解し、近現代国家と国民のあり方について、論理的に説明できる
12週	3. 豊臣政権の崩壊と江戸幕府の成立② 1-2「朝鮮出兵」	豊臣政権の崩壊から江戸幕府の成立にいたる政治過程を理解し、近現代国家と国民のあり方について、論理的に説明できる
13週	3. 豊臣政権の崩壊と江戸幕府の成立③ 1-3秀次事件と五大老制	豊臣政権の崩壊から江戸幕府の成立にいたる政治過程を理解し、近現代国家と国民のあり方について、論理的に説明できる
14週	3. 豊臣政権の崩壊と江戸幕府の成立④ 1-4「関ヶ原の戦い」	豊臣政権の崩壊から江戸幕府の成立にいたる政治過程を理解し、近現代国家と国民のあり方について、論理的に説明できる
15週	3. 豊臣政権の崩壊と江戸幕府の成立⑤ 1-5「大坂の陣」と「元和偃武」	豊臣政権の崩壊から江戸幕府の成立にいたる政治過程を理解し、近現代国家と国民のあり方について、論理的に説明できる
16週		

評価割合

	試験	到達度試験	課題				合計
総合評価割合	50	30	20	0	0	0	100
基礎的能力	50	30	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語ⅣC
科目基礎情報					
科目番号	J4-1607		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 3	
開設学科	情報工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: "THE TOEIC TEST TRAINER TARGET 470" (CENGAGE Learning), 「TOEIC (R) TEST必ずでる文法スピードマスター」(Jリサーチ), "TOEIC-IP" (国際ビジネスコミュニケーション協会) / 参考図書: 安藤貞雄「現代英文法講義」(開拓社), 綿貫陽(他)「ロイヤル英文法:改訂新版」(旺文社), 沖本正憲・Donald A. Norman「科学と人間のための英語読本」(開拓社), 市販のTOEIC受験対策用の問題集, "An A-Z OF ENGLISH GRAMMAR & USAGES" (Nelson)				
担当教員	沖本 正憲				
到達目標					
1. 一般的な英文の内容を日本語で説明できる。 2. 標準的な単語や文法を理解できる。 3. 一般的な英文の読解や聞き取りができる。 4. 継続的な学習によってTOEICテスト・スコア400点取得が可能となる力を確認できる。 5. 英語の音声と記述による国内事情・海外事情の概要を深く理解できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	一般的な英文の内容を日本語で説明できる。	基本的な英文の内容を日本語で説明できる。	基本的な英文の内容を日本語で説明できない。		
評価項目2	標準的な単語や文法を理解できる。	基本的な単語や文法を理解できる。	基本的な単語や文法を理解できない。		
評価項目3	一般的な平易な英文の読解や聞き取りができる。	基本的な英文の読解や聞き取りができる。	基本的な英文の読解や聞き取りができない。		
評価項目4	継続的な学習によってTOEICテスト・スコア400点取得が可能となる力を確認できる。	継続的な学習によってTOEICテスト・スコア400点取得を目指すことができる力を確認できる。	継続的な学習によってTOEICテスト・スコア400点取得を目指すことができない。		
評価項目5	英語の音声と記述による国内事情・海外事情の概要を深く理解できる。	英語の音声と記述による国内事情・海外事情の概要を理解できる。	英語の音声と記述による国内事情・海外事情の概要を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E基準 1 学習・教育到達目標 (a), J A B E E基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E基準 1 学習・教育到達目標 (f), J A B E E基準 1 学習・教育到達目標 (g), 学習目標 I, 学習目標 II, 学習目標 III, 本科の点検項目 A - i, 本科の点検項目 C - iv, 本科の点検項目 E - ii					
教育方法等					
概要	「英語ⅣC」では、語彙力、文法力、リスニング・スキル、リーディング・スキルを総合的に定着・向上させ、TOEICテスト・スコア400点レベルに達する学力を目指す。そのためには、TOEICテストの各パートの出題形式を理解し、問題に取り組むためのテクニックを習得する必要がある。				
授業の進め方と授業内容・方法	今までの学習事項を定着させるとともに、「読む」「聞く」の技能のさらなる伸張を目指す。毎回の授業では、語彙の学習、文法事項の確認、リスニング・ポイントの解説、リーディング・ストラテジーの解説に重点を置くが、演習を主体にしてTOEICテスト・スコア400点取得の基盤となる英語力の定着を目指す。そのため、学習者は次回の授業に備えて必ず予習しなければならない。また、授業では常に辞書を机上に置いて、発音や語法などを確認しながら授業を受ける必要がある。この科目は3学修単位Aであるため、75時間の自学自習時間が課せられている。そのため、自学教科書は自学自習時間に行う教材となっているが、定期試験等の対象とする。なお、TOEIC-IP (英語学力テスト) については全員に受験を課し、客観的に自分の学力を知ることで今後の学習の指針となるように指導する。				
注意点	第4学年において、TOEICテスト・スコア400点レベル (進学志望者は500点レベル) に達することを目標とする。学生は、企業でTOEICテストが重視されていることを意識し、各自が授業に真剣に取り組み、確かな学力をつけることが求められる。また、この科目は学修単位であるため、毎回2.5時間 (2.5×30週=通年75時間) の自学自習を行わなければならない。本講義時間が週2時間しかないことから、学力向上のためには日常の努力が必要である。そのため、各自が市販のTOEIC教材を購入し、自宅で勉強するという自学自習の重要性を認識し、自らTOEIC公開テストを受験する姿勢が求められる。なお、TOEICテスト・スコア向上には、学習意欲・進路実現意欲などの各自の動機付けが鍵となる。TOEICテスト・スコアが一種の資格 (技能) として履歴書に記載できることを意識し、進路実現に向けて勉強することが望ましい。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	TOEICの説明	TOEICの出題形式・傾向を理解できる。		
	2週	UNIT 1. 予定	動詞の用法を理解できる。		
	3週	UNIT 1. 予定	動詞の用法を理解できる。		
	4週	UNIT 2. 数量を尋ねる	名詞の用法を理解できる。		
	5週	UNIT 2. 数量を尋ねる	名詞の用法を理解できる。		
	6週	UNIT 3. 命令・依頼	形容詞・副詞の用法を理解できる。		
	7週	UNIT 3. 命令・依頼	形容詞・副詞の用法を理解できる。		
	8週	Pre-test	TOEICテストの傾向を把握できる。		
	9週	UNIT 4. 広告・宣伝	フレーズ・リーディングを実践できる。		
	10週	UNIT 4. 広告・宣伝	フレーズ・リーディングを実践できる。		
	11週	UNIT 5. 時間を尋ねる	動名詞を理解できる。		
	12週	UNIT 5. 時間を尋ねる	動名詞を理解できる。		
	13週	UNIT 6. 場所を尋ねる	不定詞を理解できる。		
	14週	UNIT 6. 場所を尋ねる	不定詞を理解できる。		
	15週	演習プリント	TOEICテストの傾向を把握できる。		

	16週	前期定期試験	TOEICテストに対応できる。
後期	1週	UNIT 7. 確認	分詞の用法を理解できる。
	2週	UNIT 7. 確認	分詞の用法を理解できる。
	3週	UNIT 8. 留守電	スキミングを実践できる。
	4週	UNIT 8. 留守電	スキミングを実践できる。
	5週	UNIT 9. アドバイス	受動態の用法を理解できる。
	6週	UNIT 9. アドバイス	受動態の用法を理解できる。
	7週	Post-test	英語学力テスト (TOEIC-IP) の傾向を把握できる。
	8週	英語学力テスト	TOEICテストに対応できる。
	9週	UNIT 10. 誘い	比較の用法を理解できる。
	10週	UNIT 10. 誘い	比較の用法を理解できる。
	11週	UNIT 11. 申し出	関係詞の用法を理解できる。
	12週	UNIT 11. 申し出	関係詞の用法を理解できる。
	13週	UNIT 12. 講演者紹介	スキミングを実践できる。
	14週	UNIT 12. 講演者紹介	スキミングを実践できる。
	15週	演習プリント	TOEICテストの傾向を把握できる。
16週	後期定期試験	TOEICテストに対応できる。	

評価割合

	試験	テスト・課題	発表等	合計
総合評価割合	60	20	20	100
基礎的能力	60	20	20	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英会話
科目基礎情報					
科目番号	J4-1640		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報工学科		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	前期:3 後期:0	
教科書/教材	Steven Gershon, Present Yourself 1 (2nd ed, Cambridge UP)				
担当教員	若木 愛弓				
到達目標					
The goals for the English conversation classes will be to encourage as much discussion and presentation in English as possible. We will use the textbook to provide topics and useful expressions for discussion and presentation. Each student will have a 5-6 minutes presentation in the end of the term.					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安	
評価項目1	英語ネイティブ・スピーカーのプレゼンテーションを見て内容を詳細に正しく理解し、説明できる。	英語ネイティブ・スピーカーのプレゼンテーションを見て、内容を正しく理解できる。	英語ネイティブ・スピーカーのプレゼンテーションを見て、要点やキーワードを把握できる。	左記に満たない	
評価項目2	英語プレゼンテーションの準備・実施に必要な知識や技術、語彙を十分に習得しており、効果的な発表活動ができる。	英語プレゼンテーションの準備・実施に必要な知識や技術、語彙を習得しており、手順に沿った発表活動ができる。	英語プレゼンテーションの準備・実施に必要な知識や技術について理解しており、それらを用いて発表活動ができる。	左記に満たない	
評価項目3	英語での質問や応答、説明などのやりとりを適切に行い、他者と意思疎通を図ることができる。	英語での質問や応答、説明などのやりとりを、助言が与えられれば適切に行うことができ、他者に考えを伝えることができる。	英語での質問が理解でき、助言が与えられれば単文で応答できる。	左記に満たない	
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (a), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (f), 学習目標 I, 学習目標 II, 学習目標 III, 本科の点検項目 A - i, 本科の点検項目 E - ii					
教育方法等					
概要	This course provides students with skills and knowledge to give effective and powerful presentations in English. Students will learn the strategies to build speech about themselves, their friends, favorite places, possessions, and memorable experiences. Students will also learn non-verbal communication skills as well as speech skills.				
授業の進め方と授業内容・方法	I would like to encourage students to organize and express their ideas all in English, in order to prepare for providing each presentation. The classes will always begin with some warming-up English quizzes or small activities. Then we will learn some useful expressions, rules, and tips of English presentation on each topic. Also, students will do some short presentations in front of smaller groups for practice.				
注意点	For self-study; Students should get as much practice listening to English as possible. I recommend watching movies and TV, and listening to music in English. Singing songs in English is a great way to improve speaking skills. To prepare for classes; Do the above, and be ready to try out new things. Always bring your textbook to class. To review; Look over the unit covered in the textbook or any extra worksheets given in class. Be sure you understand any new vocabulary words. Practice the conversations and presentation by yourself or with a friend.				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	Introduction Unit 1, A good friend	Students can introduce themselves in English.		
	2週	Unit 1, A good friend	Students can brainstorm, organize their idea and make "topic sentence."		
	3週	Unit 1, A good friend	Students understand how "opener" and "closer" parts effectively work in presentation.		
	4週	Unit 1, A good friend	Students can introduce their friends in English.		
	5週	Unit 2, A favorite place	Students can use effective gestures/ body language.		
	6週	Unit 2, A favorite place	Students understand how "preview" "concluding signal" and "review" parts effectively work in presentation.		
	7週	Unit 2, A favorite place	Students can introduce their favorite place in English.		
	8週	到達度確認試験	Students can use vocabulary words in the textbook and explain the functions of each part of presentation.		
	9週	Unit 3, A prized possession	Students can conduct a survey /interview in English about their possessions.		
	10週	Unit 3, A prized possession	Students can make effective "preview" and "review."		
	11週	Unit 3, A prized possession	Students can use "show-and-tell expressions."		
	12週	Unit 4, A memorable experience	Students can describe their experiences and feelings.		
	13週	Unit 4, A memorable experience	Students can make effective "opener" and "closer."		
	14週	Unit 4, A memorable experience	Students can use stress to emphasize intensifiers in presentation.		

	15週	Students' Presentation	Students can give effective, well-organized and powerful presentation in English.		
	16週				
評価割合					
	定期試験	到達度確認試験	小テスト・課題等	プレゼンテーション	合計
総合評価割合	45	15	10	30	100
基礎的能力	45	15	10	30	100
	0	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	日本文化論
科目基礎情報				
科目番号	J4-9010	科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報工学科	対象学年	4	
開設期	後期	週時間数	前期:0 後期:3	
教科書/教材	自作プリント、『三訂版 国語の常識 plus』(明治書院) / 参考図書は適宜紹介する			
担当教員	片山 ふゆき, 蓼沼 正美			
到達目標				
1、『堤中納言物語』『とりかへばや物語』の物語内容を的確に理解することができる。 2、『堤中納言物語』『とりかへばや物語』の背景となっている文化的な事項について理解することができる。 3、ジェンダーの問題について、考察することができる。				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
1、『堤中納言物語』『とりかへばや物語』の物語内容を的確に理解することができる。	『堤中納言物語』『とりかへばや物語』の物語内容を十分理解している。	『堤中納言物語』『とりかへばや物語』の物語内容を基本的に理解している。	『堤中納言物語』『とりかへばや物語』の物語内容を理解していない。	
2、『堤中納言物語』『とりかへばや物語』の背景となっている文化的な事項について理解することができる。	『堤中納言物語』『とりかへばや物語』の背景となっている文化的な事項について、十分理解している。	『堤中納言物語』『とりかへばや物語』の背景となっている文化的な事項について、基本的に理解している。	『堤中納言物語』『とりかへばや物語』の背景となっている文化的な事項について、理解していない。	
3、ジェンダーの問題について、考察することができる。	ジェンダーの問題について、十分に考察することができる。	ジェンダーの問題について、基本的に考察することができる。	ジェンダーの問題について、考察することができない。	
学科の到達目標項目との関係				
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (a), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), 学習目標 I, 学習目標 II, 学習目標 III, 本科の点検項目 A - i, 本科の点検項目 A - ii, 本科の点検項目 E - ii				
教育方法等				
概要	二つの物語作品を教材として取り上げ、多様な角度から読み解いていくことで、日本文化に関する理解を深める。前半(中間試験まで)は、物語文学である『堤中納言物語』を教材とし、日本の古典文化のあり様を学習する。後半(定期試験まで)は、男女入れ替えのテーマを扱った『とりかへばや物語』を教材とし、現代にわたるジェンダーの問題を考える。 授業は主に講義の形で進めるが、自学自習の成果を確認するために、10回の小テストを授業中に行う。			
授業の進め方と授業内容・方法	達成目標に関する試験、課題・レポート及び小テストにより、以下の要領で評価する。合格点は60点である。中間及び定期試験75%、課題・レポート15%、小テスト10%の割合で評価する。成績が60点未満の場合は、再試験を実施する場合がある。なお、その場合の評価の上限は60点とする。			
注意点	副教材『三訂版 国語の常識 plus』(明治書院)により自学自習に取り組むこと。 取り上げる教材の内容について、テキストやプリントを参考に、十分理解を深めておくこと。			
授業計画				
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
後期	1週	オリエンテーション 『堤中納言物語』 「花桜折る中将」第1節①	授業の進め方や履修上の留意点を理解する。 平安貴族の恋愛・結婚について理解する。	
	2週	『堤中納言物語』 「花桜折る中将」第1節②	平安貴族の私生活について理解する。	
	3週	『堤中納言物語』 「花桜折る中将」第1節③	平安貴族の一生について理解する。	
	4週	『堤中納言物語』 「花桜折る中将」第2、3節	平安貴族の服装や乗り物について理解する。	
	5週	『堤中納言物語』 「花桜折る中将」第4節①	宮中で働く男たち・女たちについて理解する。	
	6週	『堤中納言物語』 「花桜折る中将」第4節②	天皇家の人々と宮中の建物について理解する。	
	7週	『堤中納言物語』 「花桜折る中将」第5節	平安時代の仏教と俗信について理解する。	
	8週	中間試験	これまでの授業内容を確認する。	
	9週	『とりかへばや』の紹介と「ジェンダー」	異性装とは何を意味するか理解する。	
	10週	明治時代・藤岡作太郎の評価と当時の評価	『とりかへばや物語』に対する各時代の評価の違いを把握し、背景となっている文化的事項を理解する。	
	11週	『とりかへばや』前史—女性像と男性像—	平安時代の物語文学において理想的とされた男性像、女性像を理解する。	
	12週	『とりかへばや』を読む(異性装と物語展開)①	『とりかへばや物語』の物語内容を理解し、そこにおける男女の描かれ方に関して理解を深める。	
	13週	『とりかへばや』を読む(異性装と物語展開)②	『とりかへばや物語』の物語内容を理解し、そこにおける男女の描かれ方に関して理解を深める。	
	14週	『とりかへばや』を読む(異性装の解除)	『とりかへばや物語』の物語内容を理解し、そこにおける男女の描かれ方に関して理解を深める。	
	15週	異性装を扱った作品とフェミニズムの問題	ジェンダーとフェミニズムの問題を認識し、理解する。	
	16週			
評価割合				
	中間・定期試験	課題・レポート	小テスト	合計
総合評価割合	75	15	10	100
一般的能力	75	15	10	100

苫小牧工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	社会学
科目基礎情報				
科目番号	J4-9025	科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報工学科	対象学年	4	
開設期	前期	週時間数	前期:3 後期:0	
教科書/教材	マックス・ウェーバー (濱嶋朗訳) 2012『権力と支配』講談社 (講談社学術文庫)			
担当教員	坂 敏宏			
到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・人文・社会科学的な視点から人間、社会、文化について多面的に理解し、国際社会の一員として社会的諸問題の解決に向けて主体的に貢献する自覚と素養を培う。 ・人間活動や科学技術の役割と影響に関心を持ち、幸福とは何かを追究しながら、技術者として社会に貢献する自覚と素養を培う。 				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
社会学の基本的な考え方とともに、ウェーバーの社会学の方法論および理論ならびにそれにもとづく現代社会の基本構造の概念的定式について、用語の使い方を含めて説明できる。	社会学の基本的な考え方とともに、ウェーバーの社会学の方法論および理論ならびにそれにもとづく現代社会の基本構造の概念的定式について、用語の使い方を含めて適切に説明できる。	社会学の基本的な考え方とともに、ウェーバーの社会学の方法論および理論ならびにそれにもとづく現代社会の基本構造の概念的定式について、大まかな説明ができる。	社会学の基本的な考え方とともに、ウェーバーの社会学の方法論および理論ならびにそれにもとづく現代社会の基本構造の概念的定式について、説明できない。	
学科の到達目標項目との関係				
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (a), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), 学習目標 I, 学習目標 II, 学習目標 III, 本科の点検項目 A - i, 本科の点検項目 A - ii, 本科の点検項目 E - ii				
教育方法等				
概要	わたしたちが作り上げ、生活する社会の科学的な認識はどのようにして可能なのかという問いについて、古代ギリシアの時代から現代までのさまざまな学説、理論のあり方を概観するとともに、とくにマックス・ウェーバーの社会学の方法論および理論ならびにそれらにもとづく現代社会の、「支配」を軸とした基本構造の概念的定式を学ぶ。			
授業の進め方と授業内容・方法	配布レジメを用いつつ、ウェーバー以前の社会についての学的認識のあり方を概観するとともに、指定の教科書の内容を読み進める。ウェーバーの「支配の社会学」をつうじて、社会学がどのような学問であるか、社会における「支配」とは何かを理解できるとともに、ウェーバーのテキストに書かれていることと現実の社会生活との関係性について主体的に考えることができるような授業内容にしたい。			
注意点	わたしたちは日常的にさまざまな社会的な問題に直面せざるをえないが、学問としての社会学は、さしあたり科学の一分野として、対象としての社会現象の「客観的」な認識ないし叙述をめざすものであって、そうした問題にたいする何らかの実践的な解決策を引き出すものではないことをまずおさえていただきたい。とはいえ、予習においても復習においても、将来的にひとりの社会人として社会に主体的にかかわる自分の姿を想像しながら、現に生じているさまざまな社会的な現象に関心をもちつつ、授業で学習した内容との関連性を意識していただきたい。			
授業計画				
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1週	ガイダンス	この授業でやろうとすることが理解できる。	
	2週	古代、中世および近世における社会のとらえ方	社会学成立以前の時期における社会のとらえ方がどうだったかが理解できる。	
	3週	社会学の成立と実証主義	コントによる草創期の社会学の考え方とその展開としてのデュルケムの理論が理解できる。	
	4週	社会学の社会的実践への展開としての社会批判	マルクスおよびアドルノの理論をつうじて、社会のあり方の理論的認識とその実践的展開のあり方が理解できる。	
	5週	ウェーバー社会学の概要	ウェーバーの社会学の概要とその方法論的特徴が理解できる。	
	6週	ウェーバーの社会学：方法論的基礎概念	ウェーバーの社会学で用いられる方法論的基礎概念が理解できる。	
	7週	ウェーバーの社会学：理論的基礎概念	ウェーバー社会学としての「理解社会学」の概要が、そこで用いられる概念とともに理解できる。	
	8週	中間試験		
	9週	ウェーバーの社会学：理論的基礎概念 (つづき)	ひきつづき、ウェーバー社会学としての「理解社会学」の概要が、そこで用いられる概念とともに理解できる。	
	10週	ウェーバーの支配社会学：支配の3類型	教科書にそくして、ウェーバーによる「支配の3類型」の内容が理解できる。	
	11週	ウェーバーの支配社会学：合法的支配	教科書にそくして、「合法的支配」の概要が理解できる。	
	12週	ウェーバーの支配社会学：官僚制的支配の概要	教科書にそくして、「合法的支配」の具象化としての「官僚制的支配」の概要が理解できる。	
	13週	ウェーバーの支配社会学：官僚制的支配の特徴	教科書にそくして、「官僚制的支配」の特徴が理解できる。	
	14週	ウェーバーの支配社会学：官僚制組織の長所および活動原理	教科書にそくして、官僚制組織の長所および活動原理が理解できる。	
	15週	ウェーバーの支配社会学：民主制にたいする官僚制の関係	民主制と官僚制との関係および両者の構造的衝突の理論が理解できる。	
	16週	定期試験		
評価割合				
		試験	その他	合計
総合評価割合		80	20	100
基礎的能力		80	20	100

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	日本事情
科目基礎情報					
科目番号	J4-9030	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	情報工学科	対象学年	4		
開設期	前期	週時間数	前期:3 後期:0		
教科書/教材	教科書:レジュメ・資料等を配布する/参考図書:『クイズ日本事情』(独立行政法人日本学生支援機構大阪日本語教育センター)、『現代用語の基礎知識2017』(自由国民社)、桂島宣弘編『留学生のための日本事情入門』文理閣/参考資料:独立行政法人日本学生支援機構HP「留学生支援情報」、日本語能力試験N1				
担当教員	佐々木 彩				
到達目標					
1. 日本の社会・文化・価値観等に関する基本的な知識を習得し、自国との比較的观点から説明できる。 2. 現代日本社会が抱える問題点について説明できる。 3. 与えられた課題に積極的に取り組み、日本語を駆使して適切に表現することができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
1. 日本の社会・文化・価値観等に関する基本的な知識を習得し、自国との比較的观点から説明できる。	日本の社会・文化・価値観等に関する基本的な知識を習得し、自国との比較的观点から説明できる。	日本の社会・文化・価値観等に関する基本的な知識を習得し、自国との比較的观点から一応説明できる。	日本の社会・文化・価値観等に関する基本的な知識を習得し、自国との比較的观点から一応説明できない。		
2. 現代日本社会が抱える問題点について説明できる。	現代日本社会が抱える問題点について説明できる。	現代日本社会が抱える問題点について一応説明できる。	現代日本社会が抱える問題点について一応説明できない。		
3. 与えられた課題に積極的に取り組み、日本語を駆使して適切に表現することができる。	与えられた課題に積極的に取り組み、日本語を駆使して適切に表現することができる。	与えられた課題に積極的に取り組み、日本語を駆使して一応適切に表現することができる。	与えられた課題に積極的に取り組み、日本語を駆使して一応適切に表現することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (a), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (f), 学習目標 I, 本科の点検項目 A - i, 本科の点検項目 C - i, 本科の点検項目 E - ii					
教育方法等					
概要	来日留学生が充実した学生生活を過ごせるように、日本の社会、文化、風土、歴史等に関する基礎的な知識を身につけさせ、それと同時に、日本と自国の慣習、文化、宗教等の差異についても客観的に説明できる力をつけさせることを目的とする。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業は、教員による説明、レポート作成に基づいた口頭発表及び討論によって進める。成績は、課題提出50%、口頭発表25%、討論25%の総合評価で、60点以上を合格とする。なお、合格点に達しない場合は再試験を行う予定。				
注意点	履修者は外国人留学生に限定する。履修者は、日頃より日本語の新聞等に触れ、日本の社会問題や社会情勢に関心をもつよう心がけることが望ましい。授業で扱うテーマについて、図書館等利用し、レポート作成あるいは口頭発表の準備をすることが自学自習となる(60時間の自学自習が必要)。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	1. 日本について知る①	日本語の表現についての知識を習得し、自国との相違点を認識し、日本語で的確に表現できる。		
	2週	1. 日本について知る②	生活事情・交通事情についての知識を習得し、自国との相違点を認識し、日本語で的確に表現できる。		
	3週	1. 日本について知る③	食生活事情についての知識を習得し、自国との相違点を認識し、日本語で的確に表現できる。		
	4週	1. 日本について知る④	季節や観光についての知識を習得し、自国との相違点を認識し、日本語で的確に表現できる。		
	5週	1. 日本について知る⑤	学生が課題テーマに関してプレゼンを行い、日本語によって論理的に議論することができる。		
	6週	2. 日本の伝統文化①	芸能(歌舞伎、落語など)について理解し、自国の伝統文化との相違点を認識し、日本語で適切に表現できる。		
	7週	2. 日本の伝統文化②	祭りについて理解し、自国の伝統文化との相違点を認識し、日本語で適切に表現できる。		
	8週	2. 日本の伝統文化③	学生が課題テーマに関してプレゼンを行い、日本語によって論理的に議論することができる。		
	9週	3. 日本人の価値観①	結婚観・宗教観について理解し、自国民の価値観との相違点を認識し、日本語で適切に表現できる。		
	10週	3. 日本人の価値観②	職業観・仕事観について理解し、自国民の価値観との相違点を認識し、日本語で適切に表現できる。		
	11週	3. 日本人の価値観③	教育観について理解し、自国民の価値観との相違点を認識し、日本語で適切に表現できる。		
	12週	3. 日本人の価値観④	学生が課題テーマに関してプレゼンを行い、日本語によって論理的に議論することができる。		
	13週	4. 現代日本社会の問題点①	司法制度に関する問題を認識し、日本語によって論理的に議論することができる。		
	14週	4. 現代日本社会の問題点②	生命倫理に関する問題を認識し、日本語によって論理的に議論することができる。題について、日本語によって論理的に議論することができる。		
	15週	4. 現代日本社会の問題点③	学生が関心のある現代社会の諸問題について、日本語によって論理的に議論することができる。		
	16週				
評価割合					

	課題	発表	討論	合計
総合評価割合	50	25	25	100
基礎的能力	50	25	25	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	第二外国語 B
科目基礎情報					
科目番号	J4-9110		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報工学科		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	前期:0 後期:3	
教科書/教材	ドイツ語エコー：スマート版ドイツ語スパイラル/アクティブ独和辞典 (在間進)				
担当教員	Andrea Hatakeyama				
到達目標					
1. Based on grammar understanding and interacting in simple conversations. 2. Being able to read and understand simple text and short stories. 3. Being able to write short statements and text listening to a dictation.					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	Understanding and using grammar very properly.	Understanding and using grammar properly.	Understanding and using grammar not properly.		
評価項目2	Understanding simple conversation and narration.	Understanding very simple conversation and narration.	Not understanding very simple conversation and narration.		
評価項目3	Understanding the contents of a text very properly.	Understanding the contents of a text properly.	Not understanding the contents of a text properly.		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (a), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), 学習目標 I, 学習目標 II, 学習目標 III, 本科の点検項目 A - i, 本科の点検項目 A - ii, 本科の点検項目 E - ii					
教育方法等					
概要	Aim to give an understanding of basic German by developing the ability to read, write, listen and speak.				
授業の進め方と授業内容・方法	Basic grammar will be taught and reviewed in class. Small assignments in form of homework and tests will be given to check on understanding. Dictations will be done to improve reading, writing and listening. Spoken German will be practiced using small conversations at the beginning of each lesson and in role plays.				
注意点	Students should participate observantly, take notes and ask questions. Reading aloud is an important part in class and the aim is to give every student a chance to read. Listening will be practiced by using the textbook included CD. Students will be advised to take advantage of the CD and material from the internet to listen to German. From time to time a small test and dictation will be done to check on understanding.				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	1週	Introduction Alphabet, pronunciation	Alphabet recognition		
	2週	1. Hello / Greetings 1-1 Self-introduction 1-2 Sie / du	Being able to greet and address someone correctly		
	3週	Personal pronouns, verbs, word order 2-1 Personal info, yes/no questions 2-2 Recognizing key sentences	Asking and answering simple question. Wh - questions and recognizing sentence structure		
	4週	3. Denial with `nicht` 3-1 Irregular verbs 3-2 Using nicht structure	Being able to create complex sentence structures. Express situations correctly using the word `nicht`		
	5週	4. Nouns and articles 4-1 Definite articles 4-2 Indefinite articles 4-3 Negative article	Understanding definite articles (der, die, das), indefinite articles (ein, eine), negative articles (kein, keine) and nouns as well as articles and plural nouns		
	6週	5. Numbers, possessive articles 5-1 1 - 100 5-2 Auxiliary verbs 1 5-3 Possessives and nouns	Being able to use numbers in daily situations. Auxiliary verbs koennen, wollen, werden combined with regular verbs. Usage of possessive articles and nouns.		
	7週	6. Auxiliary verbs and prepositions 6-1 Auxiliary verbs 2 6-2 Prepositions and noun cases	Auxiliary verbs muessen, sollen, duerfen, moechten combined with regular verbs. Learning the keypoints for using prepositions in sentences		
	8週	Midterm exam			
	9週	7. Time, variation of verbs 7-1 24 hours telling time 7-2 Different verb groups	Reading and telling time in daily life. Recognizing regular, irregular, auxiliary and separable verbs		
	10週	8. Present perfect tense, indirect questions 8-1 to be + ge-(verb) 8-2 Combine 2 sentences to and indirect question	Talking about past events and asking indirect question using wann, weil, dass		
	11週	9. Adjective and superlative 9-1 Change of adjective depending on article 9-2 Superlative to compare	Being able to describe things and people Compare with others, talk about likes.		
	12週	10. Passive expressions and way of talking 10-1 One`s statement 10-2 Dialekt	Making non-subjective statements. Recognizing the way of talking in different areas		
	13週	11. Imperative and past tense 11-1 Imperative as in `Be careful` 11-2 Past events at a certain time	Using the imperative to be able to give advice or a warning. Talking about events that happened at a certain time in the past.		

	14週	12.Review and connect 12-1 Use all components learned	Being able to put all pieces together and listen, read and write German.
	15週	13.Review	Being able to put all pieces together and listen, read and write German.
	16週	Endterm exam	

評価割合

	試験	小テスト・課題 ・授業参加度	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語特論 A
科目基礎情報					
科目番号	J4-9120		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報工学科		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	前期:3 後期:0	
教科書/教材	Elementary English Reading & Writing (南雲堂)、自作プリント				
担当教員	東 俊文				
到達目標					
<p>1. 基礎的な単語や文法を習得した上で、簡単な英文を正しく書くことができる。</p> <p>2. 簡単な英文を書く練習を多く積み重ねることによって、基礎的な英会話力の基盤を作ることができる。</p> <p>3. 継続的な学習によって、TOEICスコア400点または英検準2級取得のために必要な英語の基礎力の定着に努め、講義に関わる試験や外部試験によって英語力を客観的に把握できる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 英作文力	一般的な単語や文法を習得した上で、簡単な英文を正しく書くことができる。	基礎的な単語や文法を習得した上で、簡単な英文を正しく書くことができる。	基礎的な単語や文法を習得せず、簡単な英文を正しく書くことができない。		
評価項目2 英会話力	英文を書く練習を多く積み重ねることによって、一般的な英会話力の基盤を作ることができる。	簡単な英文を書く練習を多く積み重ねることによって、基礎的な英会話力の基盤を作ることができる。	簡単な英文を書く練習を多く積み重ねず、基礎的な英会話力の基盤を作ることができない。		
評価項目3 英語力の把握	一般社会に通用するTOEICスコア取得のために必要な英語の基礎力の定着に努め、講義に関わる試験や外部試験によって英語力を客観的に把握できる。	継続的な学習によって、TOEICスコア400点または英検準2級取得のために必要な英語の基礎力の定着に努め、講義に関わる試験や外部試験によって英語力を客観的に把握できる。	継続的な学習によって、TOEICスコア400点または英検準2級取得のために必要な英語の基礎力の定着に努めず、講義に関わる試験や外部試験によって英語力を客観的に把握しない。		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E基準1 学習・教育到達目標 (a), J A B E E基準1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E基準1 学習・教育到達目標 (f), J A B E E基準1 学習・教育到達目標 (g), 学習目標 I, 学習目標 II, 学習目標 III, 本科の点検項目 A - i, 本科の点検項目 C - iv, 本科の点検項目 E - ii					
教育方法等					
概要	専攻科入試出願資格達成を目指す者を対象とする。定員は原則として40名を上限とする。この授業の目的は、基礎学力の定着を目指し、基本的な文法を習得することである。専攻科入学希望ではあるが英語の出願資格を満たしていない者の他、英語に自信がないものの基礎学力の定着を積極的に目指す意思のある者を受講対象とする。				
授業の進め方と授業内容・方法	教科書に掲載されている基礎的な文法事項を復習し、その文法事項に関わる基礎的な作文を速く多く書くことができるようにトレーニングして、基礎的な英会話力の基盤を作り、TOEICスコア400点または英検準2級取得のために必要な英語の基礎力も養成する。なお、英作文力や語彙力、文法力の定着を測るための小テストを随時実施する。				
注意点	<p>1. 辞書を必ず持参すること。</p> <p>2. 授業では受け身にならず、演習問題に積極的に取り組むこと。</p> <p>3. 予習・復習をし、課題や小テストの準備を含めた自習を欠かさず行うこと。</p>				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	授業ガイダンス・Unit 0「Be動詞と一般動詞」・Unit 1「否定文」	Unit 0「Be動詞と一般動詞」・Unit 1「否定文」の文法事項を理解し、運用することによって平易な英文を素早く書くことができる。		
	2週	Unit 2「疑問文」・Unit 3「助動詞」	Unit 2「疑問文」・Unit 3「助動詞」の文法事項を理解し、運用することによって平易な英文を素早く書くことができる。		
	3週	Unit 4「第1文型と第2文型」・Unit 5「第3文型と第4文型」	Unit 4「第1文型と第2文型」・Unit 5「第3文型と第4文型」の文法事項を理解し、運用することによって平易な英文を素早く書くことができる。		
	4週	Unit 6「進行形」・Unit 7「受動態」	Unit 6「進行形」・Unit 7「受動態」の文法事項を理解し、運用することによって平易な英文を素早く書くことができる。		
	5週	Unit 8「第5文型(知覚、認識など)」・Unit 9「第5文型(使役、許可、願望など)」	Unit 8「第5文型(知覚、認識など)」・Unit 9「第5文型(使役、許可、願望など)」の文法事項を理解し、運用することによって平易な英文を素早く書くことができる。		
	6週	Unit 10「完了形」・Unit 11「動名詞」	Unit 10「完了形」・Unit 11「動名詞」の文法事項を理解し、運用することによって平易な英文を素早く書くことができる。		
	7週	Unit 12「不定詞1」・Unit 13「不定詞2」	Unit 12「不定詞1」・Unit 13「不定詞2」の文法事項を理解し、運用することによって平易な英文を素早く書くことができる。		
	8週	Unit 14「分詞」	Unit 14「分詞」の文法事項を理解し、運用することによって平易な英文を素早く書くことができる。		
	9週	前期中間試験・Unit 15「名詞節と副詞節」	Unit 15「名詞節と副詞節」の文法事項を理解し、運用することによって平易な英文を素早く書くことができる。		
	10週	Unit 16「分詞構文」	Unit 16「分詞構文」の文法事項を理解し、運用することによって平易な英文を素早く書くことができる。		
	11週	Unit 17「関係代名詞」	Unit 17「関係代名詞」の文法事項を理解し、運用することによって平易な英文を素早く書くことができる。		
	12週	Unit 18「関係副詞」	Unit 18「関係副詞」の文法事項を理解し、運用することによって平易な英文を素早く書くことができる。		

	13週	Unit 19「比較1」	Unit 19「比較1」の文法事項を理解し、運用することによって平易な英文を素早く書くことができる。
	14週	Unit 20「比較2」	Unit 20「比較2」の文法事項を理解し、運用することによって平易な英文を素早く書くことができる。
	15週	Unit 21「仮定法」	Unit 21「仮定法」の文法事項を理解し、運用することによって平易な英文を素早く書くことができる。
	16週	前期定期試験	前期定期試験

評価割合

	試験	レポート・課題・小テスト等	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	60	40	100

苫小牧工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語特論 B
科目基礎情報				
科目番号	J4-9130	科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報工学科	対象学年	4	
開設期	後期	週時間数	前期:0 後期:3	
教科書/教材	Reading Radius 科学技術の多様な側面を考える〔三修社〕			
担当教員	堀 登代彦			
到達目標				
1. 英文を正確に読解して、その内容について日本語で説明することができる。 2. 英文を通して、現代の先端的科学技術に関する情報を得るとともに、その内容に関して自分の考えを的確に発信することができる。 3. 標準レベルの語彙や文法事項を修得した上で、読解の方略を様々な分野の英文理解に適用できる。 4. 継続的な学習によって、TOEICスコア400点以上の取得ないしは英検2級取得に通じる学力を養成し、英語学力試験等によって自身の学力を総合的に把握できる。				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	英検2級レベルの語彙・文法・文構造を理解しながら、一般的な英文内容を正確に読み取れる。	英検2級レベルの語彙・文法・文構造を理解しながら、基本的な英文内容を正確に読み取れる。	英検2級レベルの語彙・文法・文構造を理解しながら、基本的な英文内容を正確には読み取れない。	
評価項目2	やや難解な英文を迅速かつ大量に読んで、その内容を日本語で説明できる。	一般的な英文を迅速かつ大量に読んで、その内容を日本語で説明できる。	一般的な英文を迅速かつ大量に読んでも、その内容を日本語で説明できない。	
評価項目3	英文教材の読解を通して、最先端の科学技術に関する諸問題を深く知ることが出来る。	英文教材の読解を通して、最先端の科学技術に関する諸問題の概要を知ることが出来る。	英文教材の読解を通して、最先端の科学技術に関する諸問題の概要を知ることが出来ない。	
学科の到達目標項目との関係				
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (a), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (f), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (g), 学習目標 I, 学習目標 II, 学習目標 III, 本科の点検項目 A - i, 本科の点検項目 C - iv, 本科の点検項目 E - ii				
教育方法等				
概要	最先端の科学技術などを紹介する英文記事を、英文の文構造に注意しながら正確に読み取れるようにする。同時に、科学技術と社会の関わりや技術者の倫理など、科学技術の多様な側面を考えるきっかけとしたい。			
授業の進め方と授業内容・方法	各ユニットは本文（前半2ページ）と演習問題Exercises（後半2ページ）から構成されるが、始めに本文の内容確認（予習を前提に学生が訳し、教師が説明を加える）を行ない、その後で演習問題の解答解説を行なう。各ユニット終了後に小テストを実施する。			
注意点	学修単位科目なので自学自習時間の確保は必須である。その際には下記の学習を行なうこと。 1) 各ユニットの予習（本文内容理解とExercise）を必ず行なって授業に臨むこと。予習実施状況は平常点評価に加わる。 2) 復習実施状況は小テストにより、単語・文法・文構造などの理解度や習得度として評価する。 3) 課題提出を2回行なう。授業で扱わない教科書中のUnitから、各専攻学科に該当するUnitを割り当てる。			
授業計画				
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
後期	1週	Unit 1 「美しい」ビル解体	①文構造を整理しながら各文を正確に理解できる。 ②段落ごとの要点を把握できる。 ③テキスト全体の流れや内容を把握できる。 ④各UnitのExercise設問に解答することができる。 ⑤本文中の語彙・語法や文法・構文を身につけられる。	
	2週	Unit 1 「美しい」ビル解体	①文構造を整理しながら各文を正確に理解できる。 ②段落ごとの要点を把握できる。 ③テキスト全体の流れや内容を把握できる。 ④各UnitのExercise設問に解答することができる。 ⑤本文中の語彙・語法や文法・構文を身につけられる。	
	3週	Unit 2 エボラ出血熱に挑む日本人研究者	①文構造を整理しながら各文を正確に理解できる。 ②段落ごとの要点を把握できる。 ③テキスト全体の流れや内容を把握できる。 ④各UnitのExercise設問に解答することができる。 ⑤本文中の語彙・語法や文法・構文を身につけられる。	
	4週	Unit 2 エボラ出血熱に挑む日本人研究者	①文構造を整理しながら各文を正確に理解できる。 ②段落ごとの要点を把握できる。 ③テキスト全体の流れや内容を把握できる。 ④各UnitのExercise設問に解答することができる。 ⑤本文中の語彙・語法や文法・構文を身につけられる。	
	5週	Unit 3 植松さんと下町ロケット	①文構造を整理しながら各文を正確に理解できる。 ②段落ごとの要点を把握できる。 ③テキスト全体の流れや内容を把握できる。 ④各UnitのExercise設問に解答することができる。 ⑤本文中の語彙・語法や文法・構文を身につけられる。	
	6週	Unit 3 植松さんと下町ロケット	①文構造を整理しながら各文を正確に理解できる。 ②段落ごとの要点を把握できる。 ③テキスト全体の流れや内容を把握できる。 ④各UnitのExercise設問に解答することができる。 ⑤本文中の語彙・語法や文法・構文を身につけられる。	
	7週	Unit 4 社会問題になってきたドローンの使用について	①文構造を整理しながら各文を正確に理解できる。 ②段落ごとの要点を把握できる。 ③テキスト全体の流れや内容を把握できる。 ④各UnitのExercise設問に解答することができる。 ⑤本文中の語彙・語法や文法・構文を身につけられる。	
	8週	前期中間試験		

9週	Unit 5 東電のトラブル隠しを内部告発	①文構造を整理しながら各文を正確に理解できる。 ②段落ごとの要点を把握できる。 ③テキスト全体の流れや内容を把握できる。 ④各UnitのExercise設問に解答することができる。 ⑤本文中の語彙・語法や文法・構文を身につけられる。
10週	Unit 5 東電のトラブル隠しを内部告発	①文構造を整理しながら各文を正確に理解できる。 ②段落ごとの要点を把握できる。 ③テキスト全体の流れや内容を把握できる。 ④各UnitのExercise設問に解答することができる。 ⑤本文中の語彙・語法や文法・構文を身につけられる。
11週	Unit 6 人工知能が小説を「執筆」?	①文構造を整理しながら各文を正確に理解できる。 ②段落ごとの要点を把握できる。 ③テキスト全体の流れや内容を把握できる。 ④各UnitのExercise設問に解答することができる。 ⑤本文中の語彙・語法や文法・構文を身につけられる。
12週	Unit 6 人工知能が小説を「執筆」?	①文構造を整理しながら各文を正確に理解できる。 ②段落ごとの要点を把握できる。 ③テキスト全体の流れや内容を把握できる。 ④各UnitのExercise設問に解答することができる。 ⑤本文中の語彙・語法や文法・構文を身につけられる。
13週	Unit 7 史上初の国産ジェット機 MRJ	①文構造を整理しながら各文を正確に理解できる。 ②段落ごとの要点を把握できる。 ③テキスト全体の流れや内容を把握できる。 ④各UnitのExercise設問に解答することができる。 ⑤本文中の語彙・語法や文法・構文を身につけられる。
14週	Unit 7 史上初の国産ジェット機 MRJ	①文構造を整理しながら各文を正確に理解できる。 ②段落ごとの要点を把握できる。 ③テキスト全体の流れや内容を把握できる。 ④各UnitのExercise設問に解答することができる。 ⑤本文中の語彙・語法や文法・構文を身につけられる。
15週	Unit 8 日本の治水事業に貢献したオランダ人土木技師について	①文構造を整理しながら各文を正確に理解できる。 ②段落ごとの要点を把握できる。 ③テキスト全体の流れや内容を把握できる。 ④各UnitのExercise設問に解答することができる。 ⑤本文中の語彙・語法や文法・構文を身につけられる。
16週	前期定期試験	

評価割合

	試験	小テスト・レポート・予習状況など					合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	40	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	日本語コミュニケーション	
科目基礎情報					
科目番号	J4-9140	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	情報工学科	対象学年	4		
開設期	前期	週時間数	前期:3 後期:0		
教科書/教材	特に教科書は用いず、自作プリントほかを使用する。				
担当教員	小西 正人				
到達目標					
1. スピーチやプレゼンテーションを通じ、自分が伝えたいことをしっかりと相手に伝えることができる。 2. 適切な話題や題材についての構想に従って材料を整理し、意見、主張などを筋道立てて表現することができる。 3. 自分や他人の発表をみて反省点を見つけ、次の発表に生かすことができる。 4. 敬語について、その基本的な性質と機能を理解し、場面に応じた使い方ができる。 5. 日本語検定2級程度の語彙（慣用句・熟語等を含む）を理解し、使用することができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
スピーチを通じ、自分が伝えたいことを相手に伝えることができる	聞き手に注意し、適切な声量と姿勢で、聞き手に興味をもたせ、用意した内容を伝えられる。	準備した内容について、最後まで発表を行い、自分が伝えたいことを話すことができる。	途中で話が詰まったり、声が聞こえなかったり、脈絡のないことを話したりして何も伝えられない。		
構想に従って材料を整理し、意見、主張などを筋道立てて表現することができる	周到な準備と構想の下で、聞き手を楽しませるスピーチを組み立てられる。	ある程度の準備と構想の下で、スピーチを組み立てられる。	準備不足で聞き手を楽しませられない。		
自分や他人の発表をみて反省点を見つけ、次の発表に生かすことができる	自分や他人の発表を正しく・細かく分析し、次の発表に生かすことができる。	自分や他人の発表を反省し、次の発表に生かすことができる。	自分や他人の発表を反省し、次の発表に生かすことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (f), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (g), 学習目標 I, 学習目標 II, 学習目標 III, 本科の点検項目 A - i, 本科の点検項目 C - i, 本科の点検項目 E - ii					
教育方法等					
概要	日本語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を育てる。				
授業の進め方と授業内容・方法	時間配分としては、4時間のうち3時間は、プレゼンテーション力を高めるための授業を行う。具体的にはテーマに沿ったスピーチやプレゼンテーション発表について、「課題・注意点確認 → 準備 → 発表 → 反省」というプロセスを繰り返すことによって「発表力」を身につける。また、1時間は敬語および語彙に関する事柄について、日本語検定の問題などをもとに講義する。				
注意点	スピーチについては、必ず事前に十分な準備を積んで臨むこと。また、日常の言語活動においても、様々な角度から言葉に対する関心を持つようすることが望ましい。国語辞典等の準備については、適宜指示する。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	1. ガイダンス&スピーチの要点	授業の進め方、履修上の注意などを理解する。		
	2週	2. スピーチコミュニケーション I (1) テーマスピーチ準備	よいスピーチに不可欠な要素 = 聞き手の視点について理解することができる。		
	3週	(2) テーマスピーチ実技	スピーチに必要な「準備」「工夫」の重要性を理解し、実践することができる。		
	4週	(3) テーマスピーチ反省	自分や他人のスピーチをみて反省点を見つけ、次のスピーチに生かすことができる。		
	5週	3. 敬語法 (1) 敬語について考える	尊敬語について、その基本的な性質と機能を理解することができる。		
	6週	(2) 敬語の基本的な性質と機能	敬語について、場面に応じた使い方ができる。		
	7週	4. 基礎プレゼンテーション (1) テーマプレゼンテーション準備	プレゼンテーションやスピーチを通じて、自分が伝えたいことを、しっかりと相手に伝えることができる。		
	8週	(2) テーマプレゼンテーション実技	プレゼンテーションやスピーチを通じて、自分が伝えたいことを、しっかりと相手に伝えることができる。		
	9週	(3) テーマプレゼンテーション反省	テーマプレゼンテーションについての的確に評価し、次のスピーチの反省を行うことができる。		
	10週	5. 語彙 (1) (慣用句・四字熟語等を含む)	日本語レベル2級程度の語彙を正確に使用することができる。		
	11週	5. 語彙 (2) (慣用句・四字熟語等を含む)	日本語レベル2級程度の語彙を正確に使用することができる。		
	12週	6. スピーチコミュニケーション II (1) テーマスピーチ準備	自らの主張について、賛成/反対の立場を明らかにしたうえで根拠を述べるという「主張型スピーチ」ができる。		
	13週	(2) テーマスピーチ実技	自らの主張について、賛成/反対の立場を明らかにしたうえで根拠を述べるという「主張型スピーチ」ができる。		
	14週	(3) テーマスピーチ反省	テーマスピーチについての的確に評価し、次のスピーチの反省を行うことができる。		
	15週	7. 語彙 (3) (慣用句・四字熟語等を含む)	日本語レベル2級程度の語彙を正確に使用することができる。		
	16週				
評価割合					
	試験	実技	小課題・小テスト	レポート	合計
総合評価割合	40	30	20	10	100
基礎的能力	40	30	20	10	100

專門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	数学特別講義 A
科目基礎情報				
科目番号	J4-9200	科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報工学科	対象学年	4	
開設期	前期	週時間数	前期:3 後期:0	
教科書/教材	適宜プリントを配布するので特に指定しないが、参照用に1～3年次に用いた教科書を持参することをお勧めする。高遠節夫他著「新基礎数学」「新微分積分Ⅰ」「新微分積分Ⅱ」「新線形代数」大日本図書 林義実「大学編入試験問題 数学/徹底演習(第2版)」森北出版 三ツ廣孝著「大学・高専生のための基礎数学」森北出版 松田 修著「これからスタート 理工学の基礎数学」電気書院 A.C.Bajpai, L. R. Mustoe and D. Walker: "Engineering Mathematics", 2nd Ed., Wiley, 1974G. B. Arfken, H. J. Weber, and F. E. Harris, "Mathematical Methods for Physicists", Academic Press, 2012			
担当教員	上木 政美			
到達目標				
(1) 種々の数学問題に対する解決能力の基礎を身につける。 (2) 課題を通して自主的・継続的学習の習慣を身につける。				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
1. 数と式の計算・方程式・不等式	方程式・不等式の内容を理解し、解を求めることができる。	方程式・不等式の内容を理解し、基本的な問題の解を求めることができる。	方程式・不等式の基本的な概念を理解できず、基本的な問題の解を求めることができない。	
2. 三角関数・指数関数・対数関数	三角関数・指数関数・対数関数の概念を理解し、計算ができる。	三角関数・指数関数・対数関数の概念を理解し、基本的な計算ができる。	三角関数・指数関数・対数関数の概念を理解できず、基本的な計算ができない。	
3. 関数とグラフ・図形と式	様々な関数のグラフが描ける。	様々な関数の基本的なグラフが描ける。	様々な関数の基本的なグラフが描けない。	
4. 場合の数と数列	順列・組み合わせ・数列の内容を理解し、計算ができる。	順列・組み合わせ・数列の内容を理解し、基本的な計算ができる。	順列・組み合わせ・数列の内容を理解できず、基本的な計算ができない。	
5. ベクトル	ベクトルの概念が理解でき計算ができる。	ベクトルの概念が理解でき基本的な計算ができる。	ベクトルの基本的な概念が理解できず計算ができない。	
6. 行列と行列式	行列と行列式の内容が理解でき計算ができる。	行列と行列式の基本的概念が理解でき計算ができる。	行列と行列式の基本的概念が理解できず、計算ができない。	
7. 1次変換	1次変換が理解でき図形への利用ができる。	基本的な1次変換が理解でき図形への利用ができる。	基本的な1次変換が理解できず、図形への利用ができない。	
8. 関数の極限	関数の極限の内容を理解し、計算ができる。	関数の極限の内容を理解し、基本的な計算ができる。	関数の極限の内容を理解できず、基本的な計算ができない。	
9. 微分法 9-1 常微分とその応用	微分法の定義と概念が理解でき色々な関数が微分できる。微分法を応用して関数の接線を求めたり、グラフの概形が描ける。微分方程式の内容が理解でき解くことができる。	微分法の定義と概念が理解でき基本的な関数が微分できる。微分法を応用して基本的な関数の接線を求めたり、グラフの概形が描ける。微分方程式の内容が理解でき基本的な方程式を解くことができる。	微分方程式の内容が理解できず、基本的な方程式を解くことができない。	
9. 微分法 9-2 偏微分とその応用	偏微分の内容を理解し、様々な多変数関数が微分でき、応用に用いることができる。	偏微分の内容を理解し、基本的な多変数関数が微分でき、応用に用いることができる。	偏微分の内容を理解できず、基本的な多変数関数が微分できず、応用に用いることができない。	
学科の到達目標項目との関係				
J A B E E基準 1 学習・教育到達目標 (c), J A B E E基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E基準 1 学習・教育到達目標 (g), 学習目標 II, 本科の点検項目 D-i, 本科の点検項目 E-ii				
教育方法等				
概要	1～3年次に学んだ数学の主な項目を復習し、問題解決力及び思考力を養う。			
授業の進め方と授業内容・方法	主な項目につき要点を解説した後、問題演習を通して応用力を養う。学生には黒板での解答、課題の提出を求める。中間試験35%, 定期試験35%, 課題・演習30%の割合で評価する。合格点は60点以上である。なお、学期末に再試験を行うことがある。			
注意点	・学修単位として毎回1時間程度各項目の基礎的な事項を予習して授業に臨み、3時間以上の復習で理解を深めることが必要。(60時間の自学自習が必要です) ・課題には真剣に取り組み、期限を守って提出すること。			
授業計画				
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1週	数と式の計算・方程式・不等式 (1)	方程式・不等式の内容を理解し、解を求めることができる。	
	2週	数と式の計算・方程式・不等式 (2)	方程式・不等式の内容を理解し、解を求めることができる。	
	3週	三角関数・指数関数・対数関数 (1)	三角関数・指数関数・対数関数の概念を理解し、計算ができる。	
	4週	三角関数・指数関数・対数関数 (2)	三角関数・指数関数・対数関数の概念を理解し、計算ができる。	
	5週	関数とグラフ・図形と式	様々な関数のグラフが描ける。	
	6週	場合の数と数列	・順列・組み合わせ・数列の内容を理解し、計算ができる。	
	7週	ベクトル	ベクトルの概念が理解でき計算ができる。	
	8週	中間試験	理解の程度をはかる。	

9週	行列と行列式	行列と行列式の概念が理解でき計算ができる。
10週	1次変換	1次変換が理解でき図形への利用ができる。
11週	関数の極限	関数の極限の概念を理解し、計算ができる。
12週	常微分とその応用	微分法の定義と概念が理解でき色々な関数が微分できる。 微分法を応用して関数の接線を求めたり、グラフの概形が描ける。 微分方程式の概念が理解でき解くことができる。
13週	偏微分とその応用	偏微分の概念を理解し、様々な多変数関数が微分でき、応用に用いることができる。
14週	積分とその応用	積分法の定義と概念が理解でき不定積分を求めることができる。 定積分を応用し面積や体積を計算できる。
15週	多重積分とその応用	重積分法の概念が理解でき計算ができる。
16週		

評価割合

	中間試験	定期試験	課題・演習	合計
総合評価割合	35	35	30	100
基礎的能力	35	35	30	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	数学特別講義 B
科目基礎情報					
科目番号	J4-9210		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報工学科		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	前期:0 後期:3	
教科書/教材	教科書: 碓氷久ほか5名著「大学編入のための数学問題集」大日本図書/参考図書: 高遠節夫ほか5名著「新微分積分 I」「新微分積分 II」「新線形代数」大日本図書, A.C.Bajpai, L.R.Mustoe and D.Walker: "Engineering Mathematics", 2nd Ed., Wiley, 1974				
担当教員	藤島 勝弘				
到達目標					
微分積分学・線形代数学において、基礎的な問題を解くことができる。さらに、最先端技術を修得するために、応用問題も解くことができる。数学で修得した知識を専門科目などに活用できるように継続して学習することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
1変数の微分, 積分及びその応用問題を解くことができる。	1変数の微分, 積分及びその応用問題を解くことができる。	1変数の微分, 積分及びその応用問題を解くことが7割程度できる。	1変数の微分, 積分及びその応用問題を解くことが5割程度しかできない。		
2変数の微分, 積分及びその応用問題を解くことができる。	2変数の微分, 積分及びその応用問題を解くことができる。	2変数の微分, 積分及びその応用問題を解くことが7割程度できる。	2変数の微分, 積分及びその応用問題を解くことが5割程度しかできない。		
ベクトル, 行列, 行列式及びその応用問題を解くことができる。	ベクトル, 行列, 行列式及びその応用問題を解くことができる。	ベクトル, 行列, 行列式及びその応用問題を解くことが7割程度できる。	ベクトル, 行列, 行列式及びその応用問題を解くことが5割程度しかできない。		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (c), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (g), 学習目標 II, 本科の点検項目 D - i, 本科の点検項目 E - ii					
教育方法等					
概要	微分積分学 (1変数の微分と積分、偏微分、重積分、微分方程式) 及び線形代数学 (ベクトル、行列、行列式) について、1年~3年で学んだ内容を復習するとともに、それぞれの分野について発展的な内容を学習します。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業では主に大学編入学試験に出題された問題の解説をします。成績は、定期試験60%, 課題など40%を総合して評価します。合格点は60点以上です。課題は8回程度を予定しています。各課題を10点満点で採点し、その平均点を評価に使用します。未提出の課題については0点となります。定期試験後の成績が60点未満の場合は再試験を行います。				
注意点	毎回の予習が必要です。事前に問題を解いて授業に臨んで下さい。合わせて編入学試験対策として他の問題集に自主的に取り組んで下さい。(予習、課題などで60時間の自学自習が必要です。)				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	1週	極限, 微分の計算, 微分の応用 (1)	関数の極限、微分の計算ができる。		
	2週	極限, 微分の計算, 微分の応用 (2)	微分の応用問題を解くことができる。		
	3週	積分の計算, 積分の応用 (1)	不定積分、定積分の計算ができる。		
	4週	積分の計算, 積分の応用 (2)	積分の応用問題を解くことができる。		
	5週	数列の極限, 級数とべき級数, テイラーの定理とテイラー展開 (1)	数列の極限、級数の計算ができる。		
	6週	数列の極限, 級数とべき級数, テイラーの定理とテイラー展開 (2)	テイラー展開、マクローリン展開を求めることができる。		
	7週	偏導関数, 極大・極小, 条件付き極値と最大値・最小値問題 (1)	偏微分の計算ができる。		
	8週	偏導関数, 極大・極小, 条件付き極値と最大値・最小値問題 (2)	偏微分の応用問題を解くことができる。		
	9週	重積分の計算, 重積分の応用 (1)	重積分の計算ができる。		
	10週	重積分の計算, 重積分の応用 (2)	重積分の応用問題を解くことができる。		
	11週	1階微分方程式, 2階微分方程式 (1)	1階微分方程式の一般解・特殊解を求めることができる。		
	12週	1階微分方程式, 2階微分方程式 (2)	2階微分方程式の一般解・特殊解を求めることができる。		
	13週	空間内の図形、線形独立・線形従属	空間ベクトル、空間図形 (直線、平面、球) に関する問題を解くことができる。		
	14週	行列, 行列式, 連立方程式	行列、行列式の計算ができる。行列、行列式の応用問題を解くことができる。		
	15週	線形変換, 固有値とその応用	線形変換の問題を解くことができる。行列の固有値、固有ベクトルを求めることができる。正方行列を対角化することができる。		
	16週				
評価割合					
	試験	課題	合計		
総合評価割合	60	40	100		
基礎的能力	40	40	80		
専門的能力	20	0	20		
分野横断的能力	0	0	0		

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	地球科学概論	
科目基礎情報						
科目番号	J4-9240	科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	情報工学科	対象学年	4			
開設期	後期	週時間数	前期:0 後期:3			
教科書/教材	「ニューステージ (新訂) 地学図表」、浜島書店 地球科学概論用自作プリント					
担当教員	長田 光司					
到達目標						
1. 太陽放射、地球放射の特性を理解し、地球上の熱収支に関する問題を解くことができる。 2. 大気・海洋の性質と循環の特性を理解し、様々な気象現象への影響について説明することができる。 3. 地形や地質を地球規模の活動と関連付けて説明することができる。 4. 地学ならびに地球科学に関する問題を解くことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
1. 太陽放射、地球放射の特性を理解し、地球上の熱収支に関する問題を解くことができる。	地球上の熱収支に関する問題が解ける。	地球上の熱収支に関する基本的な問題が解ける。	地球上の熱収支に関する基本的な計算ができない。			
2. 大気・海洋の性質と循環の特性を理解し、様々な気象現象への影響について説明することができる。	大気・海洋の性質と循環の特性を理解し、様々な気象現象への影響について説明することができる。	大気・海洋の性質と循環の特性を理解し、いくつかの気象現象への影響について説明することができる。	大気・海洋の性質と循環の特性を理解し、気象現象への影響について説明できない。			
3. 地形や地質を地球規模の活動と関連付けて説明することができる。	地形や地質を地球規模の活動と関連付けて説明することができる。	地形や地質に関して、簡単な説明をすることができる。	地形や地質に関して、説明できない。			
4. 地学ならびに地球科学に関する問題を解くことができる。	地学ならびに地球科学に関する問題を解くことができる。	地学ならびに地球科学に関する基本的な問題を解くことができる。	地学ならびに地球科学に関する問題を解くできない。			
学科の到達目標項目との関係						
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (c), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (g), 学習目標 I, 学習目標 II, 学習目標 III, 本科の点検項目 D-ii						
教育方法等						
概要	地学的な事物・現象について基礎的な事項を学習し、自然に対する関心や探究心を高め、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。					
授業の進め方と授業内容・方法	授業は教員による自作プリントを使った説明と演習で構成する。 成績は定期試験を60%、平素の学習状況 (課題・小テスト等) を40%の割合で評価する。					
注意点	課題には真剣に取り組み、期限を守って提出すること。					
授業計画						
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標			
後期	1週	地球のすがた	地球の形、大きさ、太陽系の惑星としての地球について説明できる。			
	2週	地球の構造	地殻とマントル、核、地球は大気と水で覆われた惑星であることを説明できる。			
	3週	プレート境界と大地形	プレート境界と大地形について説明できる。			
	4週	プレートの動きとプレートテクトニクス	プレートの動きについて説明できる。 プレートテクトニクスについて説明できる。			
	5週	プレートテクトニクスと地震・火山	地震と火山の原因をプレートテクトニクスで説明できる。			
	6週	地震・火山(1)	地震と火山の原因と性質を説明できる。			
	7週	地震・火山(2)	地震波の計算ができる。			
	8週	岩石と鉱物	身近な岩石・鉱物の由来を説明できる。			
	9週	大気の構造	地球の大気の組成や層構造を説明できる。			
	10週	地球の熱収支	地球の熱収支について計算ができる。			
	11週	大気の大循環	大気の大循環について説明できる。			
	12週	日本の天気	日本付近の天気の特徴から天気図が読めて、初歩的な予報ができる。			
	13週	生物と地層	生物と地層について説明できる。			
	14週	地球の歴史	地球の歴史を追認できる。			
	15週	生態系、環境問題	生態系とは何かを考えることができ、環境問題について大局的な視点で説明できる。			
	16週					
評価割合						
	試験	課題・小テスト				合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	100
基礎的能力	40	30	0	0	0	70
専門的能力	20	10	0	0	0	30
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	スポーツ社会科学
科目基礎情報					
科目番号	J4-9250	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	情報工学科	対象学年	4		
開設期	前期	週時間数	前期:3 後期:0		
教科書/教材	なし				
担当教員	中島 広基				
到達目標					
<p>社会生活における自主的・継続的・計画的な各種スポーツ活動が、個人と社会の健康を保持増進する上で大きく貢献している仕組みを理解するとともに、自身の日常生活における健康保持増進活動の分析と改善を実践しながら、社会の中で他者と協力しながら健康保持増進活動を実践できる能力を養う。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
自主的継続的学習 (主体性、合意形成、チームワーク)	自ら進んで健康増進や体力向上を図り、継続的に学習を行うことができる。	教員の指示により健康増進や体力向上を図り、継続的に学習を行うことができる。	健康増進や体力向上を図ることができず、継続的に学習を行うことができない。		
安全管理行動 (主体性、合意形成、チームワーク)	自己や周囲の安全に留意しながら活動を行うことができる。危険を回避するだけでなく、不安全な行動を予防することができる。	自己や周囲の安全に留意しながら活動を行うことができ、危険を回避することができる。	自己の安全に留意した活動を行うことができない。		
集団行動力 (主体性、合意形成、チームワーク)	集団の目指す方向性を自ら示し、他者の意見も尊重しつつ適切なコミュニケーションをとりながら協調した行動をとることができる。	集団の目指す方向性を理解し、周囲と適切なコミュニケーションをとりながら協調した行動をとることができる。	集団の目指す方向性を理解できず、周囲と適切なコミュニケーションをとりながら協調した行動をとることができない。		
健康保持増進活動	自身の日常生活の分析や改善を通して、健康保持増進活動を計画し、積極的に実践することができる。	自身の日常生活の分析や改善について理解するとともに、健康保持増進活動を計画し実践することができる。	自身の日常生活の分析や改善への理解が乏しく、健康保持増進活動を計画し実践することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
<p>J A B E E基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E基準 1 学習・教育到達目標 (g), J A B E E基準 1 学習・教育到達目標 (h), 学習目標 I, 学習目標 II, 学習目標 III, 学校目標 A (教養), 本科の点検項目 A - i, 学校目標 E (継続的学習), 本科の点検項目 E - ii, 学校目標 I (チームワーク), 本科の点検項目 I - i</p>					
教育方法等					
概要	<p>各種スポーツ活動を通じて健康・安全や運動についての理解と計画的に運動する習慣を教授するとともに、自らすすんで健康の増進と体力の向上を図り、生涯を通じて明るく豊かな活力ある生活を営むことができる能力や態度を育成するとともに、自学自習で求めている「日常生活における健康保持増進活動」の確認・助言等を行う。なお、健康保持増進活動の確認・助言は必要に応じて行う。</p>				
授業の進め方と授業内容・方法	<p>3 学年までに履修した種目を中心に、1 期から 4 期まで構成して実施する。各期で構成されたグループにおいて、練習・試合をどのように行うか検討し、計画的かつ安全に十分配慮しながら自主的に授業をすすめること。日常的な歩数計の活用から運動量について理解を深めることができる。また、継続的に運動することにより自己の健康指標とすることができる。自学自習では、自身の分析と教員の助言により、健康保持増進活動を効果的に実践し、簡単なレポートにまとめること。 なお、授業計画については、天候状況等により変更することがあるため担当教員の指示に従うこと。</p>				
注意点	<p>授業を受けるにあたっては、運動着、屋内・屋外運動靴を用意すること。 また、自学において日常生活における健康保持増進活動の実践及び検証を行うため、補助教材として歩数計 (自己負担) を準備すること。 日頃から健康管理やスポーツに関わるメディア情報や関連書籍などに関心を持ち、予備知識を得ておくこと。</p>				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	ガイダンス・ストレッチ運動・4 期制の選択	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の展開を理解し、チームワークに配慮しながら学習計画を立てることができる。 ・日常生活での実践と分析方法が理解できる。 		
	2週	体力測定 (天候状態を考慮し他の種目と運動して実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストを自主的に実施することができ、自己の発育発達と体力の現状を確認することができる。 		
	3週	第 2 期① 活動内容の検討・計画	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ構成されたグループで、練習・試合についてどのように行うか検討し、4 回の活動の計画をたてることことができる。 		
	4週	第 3 期① 活動内容の検討・計画	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ構成されたグループで、練習・試合についてどのように行うか検討し、4 回の活動の計画をたてることことができる。 		
	5週	第 4 期① 活動内容の検討・計画	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ構成されたグループで、練習・試合についてどのように行うか検討し、4 回の活動の計画をたてることことができる。 		
	6週	第 2 期② 活動の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ構成されたグループで、計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。 		
	7週	第 3 期② 活動の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ構成されたグループで、計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。 		
	8週	第 4 期② 活動の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ構成されたグループで、計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。 		
	9週	第 1 期 春季体育大会練習	<ul style="list-style-type: none"> ・春季体育大会で実施される種目について、主体的に練習に取り組むことでクラスの団結力を高めることができる。 		
	10週	第 2 期③ 活動の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ構成されたグループで、これまでの活動をもとに、改善を要する部分を適宜見直しよりよい活動を行うことができる。 		

11週	第3期③ 活動の見直し	・それぞれ構成されたグループで、これまでの活動をもとに、改善を要する部分を適宜見直しよりよい活動を行うことができる。
12週	第4期③ 活動の見直し	・それぞれ構成されたグループで、これまでの活動をもとに、改善を要する部分を適宜見直すことができる。
13週	第2期④ まとめ	・それぞれ構成されたグループで、4回の活動のまとめとして、安全に十分配慮しながら自主的な活動を行うことができる。
14週	第3期④ まとめ	・それぞれ構成されたグループで、4回の活動のまとめとして、安全に十分配慮しながら自主的な活動を行うことができる。
15週	第4期④ まとめ	・それぞれ構成されたグループで、4回の活動のまとめとして、安全に十分配慮しながら自主的な活動を行うことができる。
16週		

評価割合

	自主的継続的学習	安全管理行動	集団行動力	健康保持増進活動	合計
総合評価割合	30	20	20	30	100
基礎的能力	30	20	20	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	応用数学
科目基礎情報					
科目番号	J4-1800		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 4	
開設学科	情報工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	4	
教科書/教材	教科書: 高遠節夫他著「新 応用数学」大日本図書, 高遠節夫他著「新 確率統計」大日本図書				
担当教員	高橋 芳太				
到達目標					
1. フーリエ級数・フーリエ変換の計算ができる。 2. ラプラス変換・逆変換の計算と微分方程式への応用ができる。 3. 複素数・複素関数・複素積分の計算ができる。 4. ベクトル代数とベクトル関数の計算ができる。 5. 確率, 記述統計, 確率分布の計算ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	フーリエ級数・フーリエ変換の計算ができる。	フーリエ級数・フーリエ変換の基礎的な計算ができる。	フーリエ級数・フーリエ変換の基礎的な計算ができない。		
評価項目2	ラプラス変換・逆変換の計算と微分方程式への応用ができる。	ラプラス変換・逆変換の基礎的な計算ができる。	ラプラス変換・逆変換の基礎的な計算と微分方程式への応用ができない。		
評価項目3	複素数・複素関数・複素積分の計算ができる。	複素数・複素関数・複素積分の基礎的な計算ができる。	複素数・複素関数・複素積分の基礎的な計算ができない。		
評価項目4	ベクトル代数とベクトル関数の計算ができる。	ベクトル代数とベクトル関数の基礎的な計算ができる。	ベクトル代数とベクトル関数の基礎的な計算ができない。		
評価項目5	確率, 記述統計, 確率分布の計算ができる。	確率, 記述統計, 確率分布の基礎的な計算ができる。	確率, 記述統計, 確率分布の基礎的な計算ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E基準1 学習・教育到達目標 (c), J A B E E基準1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E基準1 学習・教育到達目標 (g), 学習目標 II, 学校目標 D (工学基礎), 本科の点検項目 D - i, 学校目標 E (継続的学習), 本科の点検項目 E - ii					
教育方法等					
概要	学習目標「II 実践性」に関する下記の目標の達成するため, 応用数学の知識・論理的思考方法を, 予習と講義・問題演習を通して身につけ, 復習と課題などを通して定着させる。 以下の5項目について順に学ぶ: ①複素関数 ②フーリエ解析 ③ラプラス変換 ④ベクトル解析 ⑤確率統計				
授業の進め方と授業内容・方法	「応用数学」では確率・統計とフーリエ解析等について理解・習得させ, 基礎的な問題を解く力を試験及び課題等で評価する。 定期試験30%, 達成度試験30%, 課題・演習・小テスト・授業参加度40%の割合で評価する。 合格点は60点以上である。				
注意点	前期末と学年末に再試験を実施する場合があるが, 授業参加度が低い学生は再試験の対象としない。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	フーリエ解析: フーリエ級数の定義	フーリエ級数の定義を記述することができる。		
	2週	フーリエ解析: フーリエ級数, フーリエ変換の定義	フーリエ級数の計算ができる。フーリエ変換の定義を記述することができる。		
	3週	フーリエ解析: フーリエ変換	フーリエ変換の計算ができる。		
	4週	ラプラス変換: ラプラス変換の定義	ラプラス変換の定義を記述することができる。		
	5週	ラプラス変換: 基本的なラプラス変換	基本的なラプラス変換を計算することができる。		
	6週	ラプラス変換: 基本的な逆ラプラス変換	基本的な逆ラプラス変換を計算することができる。		
	7週	ラプラス変換: 微分方程式への応用	ラプラス変換を用いて微分方程式を解くことができる。		
	8週	演習・達成度試験	達成度を把握し, 試験の復習を行って理解度を向上する。		
	9週	複素関数: 複素数	基本的な複素数の計算ができる。		
	10週	複素関数: 複素平面	複素平面上での複素数の位置を指定することができる。		
	11週	複素関数: 複素関数	複素関数の基礎的な計算ができる。		
	12週	複素関数: 正則関数	正則関数の基礎的な計算ができる。		
	13週	複素関数: 複素積分 (1)	複素積分を線積分として計算することができる。		
	14週	複素関数: 複素積分 (2)	簡単な複素積分を計算することができる。		
	15週	複素関数: 複素積分 (3)	複素積分を計算することができる。		
	16週	定期試験	達成度を把握し, 試験の復習を行って理解度を向上する。		
後期	1週	ベクトル解析: ベクトル代数	基本的なベクトル代数の基礎的な計算ができる。		
	2週	ベクトル解析: 曲線と曲面	曲線と曲面に関する積分の基礎的な計算ができる。		
	3週	ベクトル解析: スカラー場・ベクトル場	スカラー場とベクトル場に関する基礎的な計算ができる。		
	4週	ベクトル解析: スカラー場の線積分	スカラー場の線積分を計算できる。		
	5週	ベクトル解析: ベクトル場の線積分	ベクトル場の線積分を計算できる。		
	6週	ベクトル解析: スカラー場の面積分	スカラー場の面積分を計算できる。		
	7週	ベクトル解析: ベクトル場の面積分	ベクトル場の面積分を計算できる。		
	8週	演習・達成度試験	達成度を把握し, 試験の復習を行って理解度を向上する。		
	9週	確率・統計: 確率の定義	定義に基づいて確率を計算できる。		

10週	確率・統計：確率の基本定理	確率の基本定理に関する基礎的な計算ができる。
11週	確率・統計：記述統計（1）	1次元データに関する記述統計の基礎的な計算ができる。
12週	確率・統計：記述統計（2）	2次元データに関する記述統計の基礎的な計算ができる。
13週	確率・統計：確率分布（1）	離散的確率分布の基礎的な計算ができる。
14週	確率・統計：確率分布（2）	二項分布・ポアソン分布の基礎的な計算ができる。
15週	確率・統計：確率分布（3）	正規分布の基礎的な計算ができる。
16週	定期試験	達成度を把握し、試験の復習を行って理解度を向上する。

評価割合

	定期試験	達成度試験	課題・演習・小テスト	合計
総合評価割合	30	30	40	100
基礎的能力	30	30	40	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	応用物理
科目基礎情報					
科目番号	J4-1810	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 3		
開設学科	情報工学科	対象学年	4		
開設期	通年	週時間数	前期:4 後期:2		
教科書/教材	小出昭一郎著「物理学(三訂版)」裳華房				
担当教員	長澤 智明, 柿並 義宏				
到達目標					
1. ニュートンの運動方程式を微分方程式として理解して、物体の運動を求めることができる。 2. 剛体の運動に関する問題を解くことができる。 3. 電場・磁場の計算ができ、荷電粒子に働く力を計算できる。 4. 電磁誘導を説明でき、誘導起電力が計算できる。 5. 熱力学の第1・2法則、カルノーサイクルとエントロピーについて説明できる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
1. ニュートンの運動方程式を微分方程式として理解して、物体の運動を求めることができる。	ニュートンの運動方程式を微分方程式として理解して、物体の運動を求めることができる。	いくつかの場合について、ニュートンの運動方程式を解いて、物体の運動を求めることができる。	ニュートンの運動方程式を解いて、物体の運動を求めることができない。		
2. 剛体の運動に関する問題を解くことができる。	剛体の運動に関する問題を解くことができる。	剛体の運動に関する基本的な問題を解くことができる。	剛体の運動に関する基本的な問題を解くことができない。		
3. 電場・磁場の計算ができ、荷電粒子に働く力を計算できる。	電場・磁場の計算ができ、荷電粒子に働く力を計算できる。	基本的な電場・磁場の計算および荷電粒子に働く力の計算ができる。	電場・磁場の計算ができず、荷電粒子に働く力を計算できない。		
4. 電磁誘導を説明でき、誘導起電力の計算ができる。	電磁誘導を説明でき、誘導起電力の計算ができる。	電磁誘導をある程度説明でき、誘導起電力の基本的な計算ができる。	電磁誘導を説明できず、誘導起電力の計算ができない。		
5. 熱力学の第1・2法則、カルノーサイクルとエントロピーについて説明できる。	熱力学の第1・2法則、カルノーサイクルとエントロピーについて説明できる。	熱力学の第1・2法則、カルノーサイクルとエントロピーについてある程度説明できる。	熱力学の第1・2法則、カルノーサイクルとエントロピーについて説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (c), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (d)(1), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), 学習目標 II, 本科の点検項目 D - ii, 本科の点検項目 E - ii					
教育方法等					
概要	科学技術の進歩に対応できる基礎能力を養う。前期では、力学と熱力学を学習する。後期では、電磁気学を学習する。				
授業の進め方と授業内容・方法	力学の分野では運動の法則といくつかの保存則(エネルギー、運動量、角運動量)を確実に理解する。熱力学の分野では準静的変化を扱う際の考え方とエントロピーについて理解する。電磁気学の分野ではガウスの法則・アンペールの法則などがマクスウェルの方程式に一般化される構成を理解する。				
注意点	3学年までに学習した物理や数学(ベクトル、微積分など)の基礎知識を前提とする。授業中に配布される演習課題に対して自学自習により取り組むこと。レポート提出については授業中に指示する。目標が達成されていないと判断される場合は再提出を求める。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	(力学) 速度と加速度 (熱力学) 熱平衡状態と温度	(力学) ベクトル量としての位置、速度、加速度を理解し、それらベクトル量の合成と分解ができる。 (熱力学) 温度、圧力、体積、内部エネルギーの定義を説明できる。		
	2週	(力学) 運動方程式 1 (熱力学) 状態方程式	(力学) 力が一定の場合、力が時間に依存する場合の物体の運動に関する問題を解くことができる。 (熱力学) 理想気体の状態方程式を説明でき、関連する計算ができる。		
	3週	(力学) 運動方程式 2 (熱力学) 熱力学の第 1 法則	(力学) 力が速度の依存する場合の物体の運動に関する問題を解くことができる。 (熱力学) 熱力学の第 1 法則を説明できる。		
	4週	(力学) 運動方程式 3 (熱力学) 熱容量、比熱、熱量の保存	(力学) 力が座標に依存する場合の物体の運動に関する問題を解くことができる。 (熱力学) 熱容量、比熱に関連する計算ができる。		
	5週	(力学) 放物運動、円運動 (熱力学) 理想気体の状態変化 1	(力学) 放物運動と円運動に関する問題を解くことができる。 (熱力学) 定積変化、定圧変化に関連する計算ができる。		
	6週	(力学) 単振動、単振り子 (熱力学) 理想気体の状態変化 2	(力学) 単振動、単振り子に関する問題を解くことができる。 (熱力学) 等温変化、断熱変化に関連する計算ができる。		
	7週	(力学) 仕事とエネルギー (熱力学) カルノーサイクル	(力学) 仕事とエネルギーの関係を理解する。 (熱力学) カルノーサイクルとその効率について説明できる。		
	8週	(力学) 力学的エネルギー保存則 (熱力学) 熱力学の第 2 法則	(力学) 力学的エネルギー保存を理解し、応用できる。 (熱力学) 熱力学の第 2 法則について説明できる。		
	9週	(力学) 力のモーメントと角運動量 (熱力学) エントロピー 1	(力学) 回転運動に関わる力のモーメントと角運動量を理解する。 (熱力学) エントロピーの定義を説明できる。		
	10週	(力学) 角運動量保存則 (熱力学) エントロピー 2	(力学) 角運動量保存則に関する問題を解くことができる。 (熱力学) エントロピー増大の原理を説明できる。		

	11週	(力学) 固定軸の周りの剛体の回転運動 (熱力学) エントロピー3	(力学) 固定軸の周りの剛体の回転運動を記述する基礎方程式を理解する。 (熱力学) エントロピーに関連する問題を解くことができる。
	12週	(力学) 成果発表および追実験 回転運動1 (熱力学) 気体分子運動論1	(力学) 回転の運動方程式に関する問題を解くことができる。 気体分子の運動を気体の圧力や温度を関係づけて説明することができる。 (熱力学) 気体分子の運動と気体の圧力、温度との関係を説明できる。
	13週	(力学) 回転運動2 (熱力学) 気体分子運動論2	(力学) 回転に関する問題を解くことができる。 (熱力学) 気体分子の内部エネルギーに関する計算ができる。
	14週	(力学) 剛体の平面運動1 (熱力学) マクスウェル分布1	(力学) 剛体の平面運動に関する簡単な問題を解くことができる。 (熱力学) マクスウェル分布について説明できる。
	15週	(力学) 剛体の平面運動2 (熱力学) マクスウェル分布2	(力学) 剛体の平面運動に関する問題を解くことができる。 (熱力学) マクスウェルの速度分布関数を使って、エネルギー等分配の法則を導ける。
	16週		
後期	1週	(電磁気学) クーロンの法則	(電磁気学) 電荷間に働く力を説明できる。
	2週	(電磁気学) 電場, 電気力線	(電磁気学) 電場の概念を説明でき, 電気力線が描ける。
	3週	(電磁気学) ガウスの法則	(電磁気学) ガウスの法則を書けて, 内容を説明できる。
	4週	(電磁気学) 電位	(電磁気学) 典型例について, 電気力線と等電位面を描ける。
	5週	(電磁気学) 静電容量	(電磁気学) 平板キャパシタの静電容量の式を導出できる。
	6週	(電磁気学) 電場のエネルギー	(電磁気学) 電場がエネルギーを持つことを説明でき, エネルギーを計算できる。
	7週	(電磁気学) ローレンツ力	(電磁気学) 磁場中を運動する荷電粒子の運動を説明できる。
	8週	(電磁気学) 電流が磁場から受ける力	(電磁気学) ローレンツ力を用いて, 電流が磁場から受ける力を説明できる。
	9週	(電磁気学) 電流のつくる磁場	(電磁気学) 直線電流, 円電流が作る磁場を理解し, 計算できる。
	10週	(電磁気学) アンペールの法則	(電磁気学) アンペールの法則を書けて, 内容を説明できる。
	11週	(電磁気学) 電磁誘導	(電磁気学) 発電の原理を説明できる。
	12週	(電磁気学) 相互誘導と自己誘導	(電磁気学) コイルに働く起電力を説明できる。
	13週	(電磁気学) 交流回路	(電磁気学) 交流回路を流れる電流が満たす方程式を書ける。
	14週	(電磁気学) 磁場のエネルギー	(電磁気学) コイルが持つエネルギーを理解し, 計算できる。
	15週	(電磁気学) マクスウェルの方程式 (積分形)	(電磁気学) マクスウェルの方程式を書けて, 内容を説明できる。
	16週		

評価割合

	試験	小テスト・課題					合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	40	20	0	0	0	0	60
専門的能力	20	20	0	0	0	0	40
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	電子工学Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	J4-4022		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報工学科		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	前期:3 後期:0	
教科書/教材	末松安晴, 藤井信生監修「電子回路入門」実教出版/藤井信生「なっとくする電子回路」講談社 尾崎弘他「電子回路アナログ編」共立出版 尾崎弘他「電子回路デジタル編」共立出版 砂沢学「増幅回路の考え方」オーム社 白土義男「アナログICの基礎」東京電機大学出版局 Barbara Paynter: "Introduction Electronic Device and Circuit", Prentice Hall, 2003.				
担当教員	稲川 清				
到達目標					
1) 増幅回路におけるバイアス設定, 静特性と等価回路を用いた動作量解析の手法, 負帰還の理論を説明でき, 与えられた回路に対するバイアス, 動作量の計算, および与えられた条件での増幅回路の設計ができる。 2) 演算増幅器を用いた回路, 発振回路, A-D変換器, D-A変換器の構造と動作原理を理解し, 課題として与えられた回路図の動作を説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
1. 達成目標の各項目に関する知識を述べることができるか。	達成目標の各項目に関する知識を、的確に述べるができる。	達成目標の各項目に関する知識を、標準的なレベルで述べるができる。	達成目標の各項目に関する知識を述べるができない。		
2. 達成目標の各項目にある基礎事項, 原理, 概念を説明できるか。	達成目標の各項目にある基礎事項, 原理, 概念を、的確に説明できる。	達成目標の各項目にある基礎事項, 原理, 概念を、標準的なレベルで説明できる。	達成目標の各項目にある基礎事項, 原理, 概念を説明できない。		
3. 達成目標の各項目にある各回路について, 回路解析に必要な方程式を立てられるか。	達成目標の各項目にある各回路について, 回路解析に必要な方程式を、的確に立てられる。	達成目標の各項目にある各回路について, 回路解析に必要な方程式を、標準的なレベルで立てられる。	達成目標の各項目にある各回路について, 回路解析に必要な方程式を立てられない。		
4. 3. の回路方程式を基に解析結果, あるいは設計結果を提示できるか。	3. の回路方程式を基に解析結果, あるいは設計結果を、的確に提示できる。	3. の回路方程式を基に解析結果, あるいは設計結果を、標準的なレベルで提示できる。	3. の回路方程式を基に解析結果, あるいは設計結果を提示できない。		
5. 専門用語を英語で表現できるか。また, 英語の専門用語を日本語で表現できるか。	専門用語を英語で的確に表現できる。また, 英語の専門用語を日本語で的確に表現できる。	専門用語を英語で表現できる。また, 英語の専門用語を日本語で表現できる。	専門用語を英語で表現できない。また, 英語の専門用語を日本語で表現できない。		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (c), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (d)(1), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (g), 学習目標 II, 学校目標 D (工学基礎), 学科目標 D (工学基礎), 本科の点検項目 D - iv, 学校目標 E (継続的学習), 本科の点検項目 E - ii					
教育方法等					
概要	3年生の電子工学Ⅰで学習した内容をもとに, 種々の電子回路の構成と動作を講義する。具体的には, バイアス回路, CR結合増幅回路, 負帰還回路, 演算増幅器, 発振回路, A-D変換器, D-A変換器について学ぶ。				
授業の進め方と授業内容・方法	基本的には座学が中心となるが, 適宜演習を行う。成績評価は, 定期試験40%, 到達度試験35%, 演習・課題レポート25%の割合で評価する。合格点は60点以上である。また, 再試験を実施する場合には, 別途その扱いについて連絡するので注意すること。				
注意点	3年生までの回路理論, 電子工学Ⅰにおいて講義された回路計算, 半導体, 電子回路に関する基礎知識, また, 連立一次方程式の解法, 数表現, 三角関数, 指数関数, 複素数の計算等の数学的な基礎知識・計算力をしっかり身に付けておくこと。さらに, 演習に備えて, 授業の際には関数電卓を常に用意すること。なお, 講義予定に変更がある場合は授業中に連絡するので注意すること。 本科目においては, 45時間以上の自学自習が必要となる。自学自習としては, 授業毎に必ず復習レポートを作成し, その週までの授業内容で分からない点が残らないようにすること。また, 必要に応じて, 数学, 回路理論, 電子工学Ⅰに関する復習を行うこと。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	電流帰還バイアス回路	バイポーラトランジスタのバイアス回路の構造を理解し, その動作を説明できる。また, 与えられたバイアス条件を満足するバイアス回路を設計できる。		
	2週	FETバイアス回路	FETのバイアス回路の構造を理解し, その動作を説明できる。また, 与えられたバイアス条件を満足するバイアス回路を設計できる。		
	3週	CR結合増幅回路と等価回路	CR結合増幅回路について, その交流等価回路を導出できる。		
	4週	CR結合増幅回路の動作量	交流等価回路を用いて, CR結合増幅回路の動作量の導出, CR結合増幅回路の設計ができる。		
	5週	負帰還の原理	負帰還の概念を説明でき, その特徴について説明できる。		
	6週	直列帰還回路	負帰還増幅回路の動作量を, 交流等価回路を用いて導出できる。		
	7週	到達度試験			
	8週	発振回路の基礎	発振の原理を理解し, 発振条件について説明できる。		
	9週	LC発振回路	LC発振回路について, 発振条件の導出, 回路の設計ができる。		
	10週	水晶発振回路	水晶発振回路について, その特徴, 動作原理を説明できる。		
	11週	演算増幅器の特性と基本動作	演算増幅器の特徴と基本的な入出力特性について説明できる。		

	12週	反転・非反転増幅器・加算回路	演算増幅器を応用した反転増幅回路・非反転増幅回路・加算回路の動作を説明でき、入出力関係を導出できる。
	13週	A-D, D-A変換の基礎	A-D変換, D-A変換に関する基礎事項について説明でき、基本的な数値を計算できる。
	14週	A-D変換器	代表的なA-D変換回路の動作を説明でき、変換値を計算できる。
	15週	D-A変換器	代表的なD-A変換回路の動作を説明でき、変換値を計算できる。
	16週	定期試験	

評価割合

	定期試験	到達度試験	演習・レポート	合計
総合評価割合	40	35	25	100
基礎的能力	20	15	10	45
専門的能力	20	20	15	55

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	計算機システムⅡ
科目基礎情報					
科目番号	J4-4042	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	情報工学科	対象学年	4		
開設期	前期	週時間数	前期:2 後期:0		
教科書/教材	コンピュータアーキテクチャ【「内田敬一郎、小柳滋著」オーム社】/教材:「最新マイクロプロセッサテクノロジー」日経BP社、「コンピュータの構成と設計(上、下)」日経BP社、John L. Hennessy & David A. Patterson, Computer Organization & Design: The Hardware/Software Interface, Morgan Kaufmann Publishers Inc., 1998				
担当教員	阿部 司				
到達目標					
1. コンピュータに利用されているハードウェアの高度化技術、高速化技術、高信頼性技術を理解し説明できる。 2. コンピュータのハードウェアの改良方法を理解し、性能評価ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
1. コンピュータに利用されているハードウェアの高度化技術、高速化技術、高信頼性技術を理解し、説明できる。	コンピュータに利用されているハードウェアの高度化技術、高速化技術、高信頼性技術を理解し、説明できる。	コンピュータに利用されているハードウェアの基本的な高度化技術、高速化技術、高信頼性技術を理解し、説明できる。	コンピュータに利用されているハードウェアの高度化技術、高速化技術、高信頼性技術を理解することが困難で、説明できない。		
2. コンピュータのハードウェアの改良方法を理解し、性能評価ができる。	コンピュータのハードウェアの改良方法を理解し、性能評価ができる。	コンピュータのハードウェアの基本的改良方法を理解し、基礎的な性能評価ができる。	コンピュータのハードウェアの改良方法を理解することが困難で、性能評価ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E基準1 学習・教育到達目標 (c), J A B E E基準1 学習・教育到達目標 (d)(1), J A B E E基準1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E基準1 学習・教育到達目標 (g), 学習目標Ⅱ, 学校目標 D (工学基礎), 学科目標 D (工学基礎), 本科の点検項目 D-iii, 本科の点検項目 D-iv, 学校目標 E (継続的学習), 本科の点検項目 E-ii, 学校目標 F (専門の実践技術), 学科目標 F (専門の実践技術), 本科の点検項目 F-i					
教育方法等					
概要	計算機のアーキテクチャのハードウェア技術と構成、関連するソフトウェア技術を学習する。				
授業の進め方と授業内容・方法	急速に発展している計算機のアーキテクチャのハードウェア技術と構成、関連するソフトウェア技術を学習する。特に、メモリ階層技術、並列処理技術、高速処理技術などの理解を深める。IA-32アーキテクチャ例に、ハードウェア技術と構成、関連するソフトウェア技術を学習する。第8週前後に、確認試験を実施する。試験の評価は確認試験50%、定期試験50%である。成績によっては、再試験を行うことがある。				
注意点	3年生の「計算機システムⅠ」を基礎としているので、学習内容を復習しておくこと。 数学の計算能力と説明のための文章力を養っておくこと。 授業で示される演習課題に自学自習により取り組むこと。演習課題は添削後、目標が達成されていることを確認し、返却する。目標が達成されていない場合には、再提出すること。 長期休業前にレポートのテーマを示すので、長期休業終了後に提出すること。 電卓、プリントを綴じるファイルを準備すること。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	コンピュータの構造と性能評価	コンピュータの性能を評価できる。		
	2週	パイプライン機能の原理	パイプライン機能の動作原理を理解し説明できる。		
	3週	パイプライン機能の性能評価	パイプライン機能の性能を評価できる。		
	4週	パイプライン機能の高速化技術	パイプライン機能の高速化技術を理解し説明できる。		
	5週	半導体と回路方式による高速化技術	半導体と回路方式による高速化技術を理解し説明できる。		
	6週	メモリの階層構造と性能評価	コンピュータのメモリ階層とプログラムの局所性を理解し説明できる。		
	7週	メモリデバイスの構造	メモリデバイスの動作原理と構成を理解し説明できる。		
	8週	メモリデバイスの性能評価	メモリデバイスの性能を評価できる。		
	9週	キャッシュメモリシステムの動作原理	キャッシュメモリシステムの動作原理を理解し説明できる。		
	10週	キャッシュメモリシステムの構成	キャッシュメモリシステムの構成を理解し説明できる。		
	11週	キャッシュメモリシステムの高速化技術	キャッシュメモリシステムの高速化技術を理解し説明できる。		
	12週	キャッシュメモリシステムの性能評価	キャッシュメモリシステムの性能を評価できる。		
	13週	仮想メモリシステムの動作原理	仮想メモリシステムの動作原理を理解し説明できる。		
	14週	仮想メモリシステムの構成	仮想メモリシステムの構成を理解し説明できる。		
	15週	仮想メモリシステムの性能評価	仮想メモリシステムの性能を評価できる。		
	16週	定期試験			
評価割合					
	試験 (定期試験・確認試験)	演習	レポート	合計	
総合評価割合	60	35	5	100	
基礎的能力	20	15	5	40	
専門的能力	40	20	0	60	
分野横断的能力	0	0	0	0	

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	システムソフトウェア
科目基礎情報					
科目番号	J4-4070		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報工学科		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	前期:3 後期:0	
教科書/教材	教科書: 中井央 著, 中田育男 監修: 『コンパイラ』コロナ社 (2007). 参考図書: ・宮本衛市: 『はじめてのコンパイラ-原理と実践-』森北出版 (2007) ・中田育男: 『コンパイラの構成と最適化』朝倉書店 (1999) ・徳田雄洋: 『言語と構文解析』情報数学講座 5, 共立出版 (1995) ・A.V.エイボ, R.セシイ, J.D.ウルマン, 原田賢一: 『コンパイラ-原理・技法・ツール<1>』サイエンス社 (1990) ・A.V.エイボ, R.セシイ, J.D.ウルマン, 原田賢一: 『コンパイラ-原理・技法・ツール<2>』サイエンス社 (1990) ・J.フリードル, 田和勝: 『詳説 正規表現』オライリー・ジャパン, 第2版 (2003) ・M. S. Lam, R. Sethi, J. D. Ullman, A. V. Aho. Compilers: Principles, Techniques, and Tools. Addison-Wesley, 2nd edition (2006)				
担当教員	大橋 智志				
到達目標					
1. 言語処理系 (コンパイラ) の構成要素における役割, 目的, 機能を正確に理解し説明できる. 2. 字句解析の原理とアルゴリズムを理解し, 目的にあつ字句解析器を生成および応用ができる. 3. 構文解析の原理とアルゴリズムを理解し, 目的にあつ構文解析器を生成および応用ができる.					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
1. 言語処理系 (主にコンパイラ) の構成要素における役割, 目的, 機能を正確に理解し説明できる.	コンパイラの構成要素における役割, 目的, 機能を正確に理解し詳しく説明できる.	コンパイラの構成要素における役割, 目的, 機能を理解し簡単に説明できる.	コンパイラの構成要素における役割, 目的, 機能を理解していない。		
2. 字句解析の原理とアルゴリズムを理解し, 目的にあつ字句解析器を生成および応用ができる.	字句解析の原理とアルゴリズムを理解し, 目的にあつ字句解析器を生成および応用ができる.	字句解析の原理とアルゴリズムを理解し, 目的にあつ字句解析器を生成できる.	字句解析の原理とアルゴリズムを理解し, 目的にあつ字句解析器を生成できない.		
3. 構文解析の原理とアルゴリズムを理解し, 目的にあつ構文解析器を生成および応用ができる.	構文解析の原理とアルゴリズムを理解し, 目的にあつ構文解析器を生成および応用ができる.	構文解析の原理とアルゴリズムを理解し, 目的にあつ構文解析器を生成できる.	構文解析の原理とアルゴリズムを理解し, 目的にあつ構文解析器を生成できない.		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (d)(1), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (d)(4), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (f), 学習目標 II, 学校目標 D (工学基礎), 学科目標 D (工学基礎), 本科の点検項目 D - iv, 学校目標 E (継続的学習), 本科の点検項目 E - ii, 学校目標 F (専門の実践技術), 学科目標 F (専門の実践技術), 本科の点検項目 F - i, 本科の点検項目 F - ii					
教育方法等					
概要	コンピュータシステムを構成するソフトウェアを一般にシステムソフトウェアと呼ぶ。本講義ではコンパイラに注目し、形式言語解析の基礎理論とアルゴリズムについて学び、演習課題も含めた内容に取り組むことになる。特に、コンパイラを構成するための理論・技術の中心となる字句解析と構文解析については、早くから自動生成の方法が確立されている。本講義では、このような自動生成ツール (Lex, Yacc) を利用したコンパイラの構成方法とそれらの背景にある理論について詳しく学習する。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業は座学を中心に進めるが、コンピュータを使用した演習も実施する。 授業内容は、到達目標に記載した3つ内容を中心に学習する。字句解析および構文解析の学習については、字句解析器生成ツール (Lex) と構文解析器生成ツール (Yacc) を使用した演習課題に取り組み、実践的な内容からコンパイラの構成方法と内部処理について理解する。 1. 言語処理系 (コンパイラ) の構成要素における役割, 目的, 機能の学習 2. 字句解析の原理とアルゴリズムの学習, 字句解析器生成ツール (Lex) の演習 3. 構文解析の原理とアルゴリズムの学習, 構文解析器生成ツール (Yacc) の演習 到達目標の確認として、演習課題2回, 中間試験1回, 定期試験1回を実施し、これらを成績評価に含める。また、定期試験の結果によっては再試験を実施する。ただし、演習課題の提出状況や授業態度等に問題がある学生には、再試験を実施しない場合もある。				
注意点	受講に際して、教科書、ノート、筆記用具を持参すること。適宜、資料を配布することがある。また、演習課題の提出が必須となることから、プログラム作成に関連する知識、特に「データ構造とアルゴリズム」に関する内容を復習しておくこと。演習課題の提出物は期限までに提出すること。報告・連絡・相談もなく提出期限内に課題が提出されない場合は、課題評価点を減点する。提出物の内容が不十分な場合には再提出を求める。なお、講義予定に変更がある場合には、講義中に連絡するので注意すること。 本講義は学修単位制を導入していることから、自学自習として講義および演習に取り組む前には、関連分野の予習復習をおこなうこと。また、演習課題に取り組む時間が多く必要となることから、コンピュータ実習室 (情報処理実習室、情報システム実習室) を積極的に利用すること。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	言語処理系の歴史, 言語処理系の構成要素, コンパイラの論理的構造	言語処理系の構成要素について理解し役割と意味を説明できる。また、コンパイラの論理的構造を理解し説明できる。		
	2週	形式言語の文法定義, BNF記法, 構文図式, 解析木	形式言語の文法を定義し文法定義に用いる表記方法 (BNF, 構文図式等) を理解できる。また、言語の構文から解析木を導出できる。		
	3週	形式言語の文法定義, BNF記法, 構文図式, 解析木	形式言語の文法を定義し文法定義に用いる表記方法 (BNF, 構文図式等) を理解できる。また、言語の構文から解析木を導出できる。		
	4週	字句解析, 正規表現, 状態遷移図, 非決定性有限オートマトン (NFA), 決定性有限オートマトン (DFA), NFAからDFEへの変換処理	字句解析の役割と仕組みを理解し説明できる。また、字句解析を行う正規表現から有限オートマトンを構成し、その状態数の最小化ができる。		
	5週	字句解析, 正規表現, 状態遷移図, 非決定性有限オートマトン (NFA), 決定性有限オートマトン (DFA), NFAからDFEへの変換処理	字句解析の役割と仕組みを理解し説明できる。また、字句解析を行う正規表現から有限オートマトンを構成し、その状態数の最小化ができる。		
	6週	字句解析, 正規表現, 状態遷移図, 非決定性有限オートマトン (NFA), 決定性有限オートマトン (DFA), NFAからDFEへの変換処理	字句解析の役割と仕組みを理解し説明できる。また、字句解析を行う正規表現から有限オートマトンを構成し、その状態数の最小化ができる。		

7週	字句解析, 正規表現, 状態遷移図, 非決定性有限オートマトン (NFA), 決定性有限オートマトン (DFA), NFAからDFEへの変換処理	字句解析の役割と仕組みを理解し説明できる。また, 字句解析を行う正規表現から有限オートマトンを構成し, その状態数の最小化ができる。
8週	字句解析演習 (Lex)	字句解析生成器ツール (Lex)を利用して目的にあう字句解析器を生成できる。
9週	字句解析演習 (Lex)	字句解析生成器ツール (Lex)を利用して目的にあう字句解析器を生成できる。
10週	構文解析, 上向き構文解析, 下向き構文解析	構文解析の役割と仕組みを理解し説明できる。また, 異なる構文解析手法について, それぞれの差異を理解し説明できる。
11週	構文解析, 上向き構文解析, 下向き構文解析	構文解析の役割と仕組みを理解し説明できる。また, 異なる構文解析手法について, それぞれの差異を理解し説明できる。
12週	構文解析, 上向き構文解析, 下向き構文解析	構文解析の役割と仕組みを理解し説明できる。また, 異なる構文解析手法について, それぞれの差異を理解し説明できる。
13週	構文解析, 上向き構文解析, 下向き構文解析	構文解析の役割と仕組みを理解し説明できる。また, 異なる構文解析手法について, それぞれの差異を理解し説明できる。
14週	構文解析演習 (Yacc)	構文解析生成器ツール (Yacc)を利用して目的にあう構文解析器を生成できる。
15週	構文解析演習 (Yacc)	構文解析生成器ツール (Yacc)を利用して目的にあう構文解析器を生成できる。
16週	定期試験	到達目標の項目1. 2. 3. を満足している。

評価割合

	演習課題	中間試験	定期試験	合計
総合評価割合	30	20	50	100
基礎的能力	15	20	20	55
専門的能力	15	0	30	45
分野横断的能力	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	オペレーティングシステム I
科目基礎情報				
科目番号	J4-4081	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報工学科	対象学年	4	
開設期	後期	週時間数	前期:0 後期:3	
教科書/教材	並木美太郎著「オペレーティングシステム入門」サイエンス社, タネンバウム著「モダンオペレーティングシステム 原著第2版」ピアソン・エデュケーション (原著: A.S.Tanenbaum, Modern Operating Systems, Second edition, Prentice Hall) ビーターソン, シルバーシャッツ著「オペレーティングシステムの概念上」培風館 (原著第7版: A.Silberschatz, P.B.Galvin, G.Gagne, Operating System Concepts, 7th ed, John Wiley & Sons) 大久保英嗣著「ライブラリ新情報工学の基礎5 オペレーティングシステムの基礎」サイエンス社 谷口秀夫著「オペレーティングシステム概説 その概念と構造」サイエンス社 野口健一郎著「オペレーティングシステム」オーム社			
担当教員	吉村 斎			
到達目標				
(1) OSの目的と背景、OSの機能と構成、OSとハードウェアキテクチャ、並行プロセス、プロセス管理、およびメモリについて理解し、説明できる。				
(2) ページングによるメモリ管理、入出力管理とデバイスドライバ、ファイルシステム、プロトコルスタック、アクセス制御とセキュリティおよびOSの事例について理解し、説明できる。				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安
評価項目1 達成目標(1)~(2)に使用する英語を含む用語について説明できる。	80%以上	70%以上80%未満	60%以上70%未満	60%未満
評価項目2 達成目標(1)~(2)に必要なOSの機能について説明できる。	80%以上	70%以上80%未満	60%以上70%未満	60%未満
評価項目3 達成目標(1)~(2)に必要なOSの機能について説明できる。	80%以上	70%以上80%未満	60%以上70%未満	60%未満
評価項目4 達成目標(1)~(2)の演習課題を以上作成し、提出できる	80%以上	70%以上80%未満	60%以上70%未満	60%未満
学科の到達目標項目との関係				
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (d)(1), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (g), 学校目標 D (工学基礎), 学科目標 D (工学基礎), 本科の点検項目 D-iv, 学校目標 E (継続的学習), 本科の点検項目 E-ii, 学校目標 F (専門の実践技術), 学科目標 F (専門の実践技術)				
教育方法等				
概要	本講義では、OS本概念について説明する。OSの使い方ではなくOSの能と構造について説明する。OSの概念である、計算機資源の仮想化、資源管理、保護と保全の考え方を通じて、計算機ソフトウェアがどのように実行されるかを概観する。プロセス、仮想メモリ、ファイルなどの仮想化された入出力装置の基本概念と管理モデルを示し、OSの基本機能について理解する。本講義では特定OSの実装ではなく、多くのOSで実現されている基本的なモデルについて説明する。ただし、現代のOSで採用されている資源管理モデルのもととなった UNIX を中心に仮想化された資源について説明する。			
授業の進め方と授業内容・方法	自学自習への取り組み: 授業もしくは授業項目毎に授業中に提示する演習問題を含む授業ノート・レポートと授業中に行う演習課題を提出する必要がある。授業ノート・レポートと演習課題を活用して自学自習に取り組み、中間試験と定期試験に準備することが必要である。授業ノート・レポートと演習課題は、指定されたファイル形式で提出期限までに、Balckboardから提出すること。内容が不適切な場合には再提出を求められることがある。授業ノート・レポートと演習課題をすべて提出することが必要である。 その他注意事項: 理解度を見るために、授業開始直後に、前回までの授業内容に関する確認試験を演習問題として行う事があるので復習しておくこと。なお、授業予定に変更がある場合は、授業中に連絡するので注意すること。			
注意点	準備する用具: ノート、A4レポート用紙、筆記用具、英和辞書、関数電卓、C言語用教科書類。 前提となる知識: 3年次に行われる情報工学実験、4年次に行われる計算機システムの知識が必要になる。また、説明のための文章力も必要である。			
授業計画				
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
後期	1週	OSの目的と背景	OSの目的と背景について理解し、説明できる。	
	2週	1. OSの機能と構成	OSの機能と構成について理解し、説明できる。	
	3週	OSとハードウェアキテクチャ	OSとハードウェアキテクチャについて理解し、説明できる。	
	4週	並行プロセス	並行プロセスについて理解し、説明できる。	
	5週	1. プロセス管理	プロセス管理について理解し、説明できる。	
	6週	メモリ管理。	メモリについて理解し、説明できる	
	7週	中間試験		
	8週	ページングによるメモリ管理	ページングによるメモリ管理について理解し、説明できる	
	9週	ページングによるメモリ管理	ページングによるメモリ管理について理解し、説明できる	
	10週	入出力管理とデバイスドライバ	入出力管理とデバイスドライバについて理解し、説明できる	
	11週	ファイルシステム	ファイルシステムについて理解し、説明できる。	
	12週	ファイルシステム		
	13週	プロトコルスタック	プロトコルスタックについて理解し、説明できる	

	14週	アクセス制御とセキュリティ	アクセス制御とセキュリティについて理解し、説明できる
	15週	OSの事例	
	16週	定期試験	

評価割合

	中間試験	期末試験	授業ノートレポート	課題	合計
総合評価割合	20	20	30	30	100
基礎的能力	0	0	0	0	0
専門的能力	20	20	30	30	100

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	情報数学
科目基礎情報					
科目番号	J4-4100		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 3	
開設学科	情報工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: (使用しない) / 参考図書: 石村 園子「やさしく学べる離散数学」共立出版、M. シブサ「計算理論の基礎」共立出版、E. キンバー、C. スミス「計算論への入門」ピアソン・エデュケーション、丸岡 章「計算理論とオートマトン言語理論」サイエンス社、M. Sipser, "Introduction to the Theory of Computation," 2nd. ed., Course Technology, 2006.				
担当教員	川口 雄一				
到達目標					
1. 集合・写像を用いた記述を説明し表現できる。 2. グラフを用いた記述を説明し表現できる。 3. 論理式を用いた記述を説明し表現できる。 4. 有限オートマトンと形式文法・言語の関係を説明できる。 5. チューリング機械と計算可能性の関係を説明できる。 6. チューリング機械に基づき、アルゴリズムの複雑さを説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
1. 集合・写像を用いた記述を説明し表現できる。	集合・写像を用いた記述を説明し表現できる。	集合・写像を用いた記述を、大凡、説明し表現できる。	集合・写像を用いた記述を説明し表現できない。		
2. グラフを用いた記述を説明し表現できる。	グラフを用いた記述を説明し表現できる。	グラフを用いた記述を、大凡、説明し表現できる。	グラフを用いた記述を説明し表現できない。		
3. 論理式を用いた記述を説明し表現できる。	論理式を用いた記述を説明し表現できる。	論理式を用いた記述を、大凡、説明し表現できる。	論理式を用いた記述を説明し表現できない。		
4. 有限オートマトンと形式文法・言語の関係を説明できる。	有限オートマトンと形式文法・言語の関係を説明できる。	有限オートマトンと形式文法・言語の関係を、大凡、説明できる。	有限オートマトンと形式文法・言語の関係を説明できない。		
5. チューリング機械と計算可能性の関係を説明できる。	チューリング機械と計算可能性の関係を説明できる。	チューリング機械と計算可能性の関係を、大凡、説明できる。	チューリング機械と計算可能性の関係を説明できない。		
6. チューリング機械に基づき、アルゴリズムの複雑さを説明できる。	チューリング機械に基づき、アルゴリズムの複雑さを説明できる。	チューリング機械に基づき、アルゴリズムの複雑さを、大凡、説明できる。	チューリング機械に基づき、アルゴリズムの複雑さを説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (c), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (g), 学習目標 II, 学校目標 D (工学基礎), 学科目標 D (工学基礎), 本科の点検項目 D - iv, 学校目標 E (継続的学習), 本科の点検項目 E - ii, 学校目標 F (専門の実践技術), 学科目標 F (専門の実践技術)					
教育方法等					
概要	情報数学の授業では大きく分けて二つの内容を学ぶ。一つには情報工学で使われる様々な概念を形式的に表現し説明するための数学の基礎として集合、グラフ、記号論理を学ぶ。もう一つには、チューリング計算機を基礎とする計算可能性と計算理論のいくつかの話題を学ぶ。特に $P \stackrel{?}{=} NP$ 問題は現在でも最重要な未解決問題の一つであり、いつの日にか学生諸君により解決されることを期待する。				
授業の進め方と授業内容・方法	毎回の授業では、可能な限り問題演習に取り組む。前期・後期ともに、中間時期の試験40%、定期試験60%として評価する。前期と後期を合算して学年成績とする。合格は60点以上である。不合格の場合には、定期試験と同じ試験範囲で、再試験を1度のみ実施する。				
注意点	十分に予習・復習を済ませて授業に臨まなくてはならない。また、授業に集中できるよう、普段から睡眠・食事・休息に気を配り、体調を整えておくこと。高専3年生までに学んだ基本的な数学の知識・技能が必要である。授業を受講する他に、自学自習(75時間以上)が必要である。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	数学的基礎 (1) 集合・写像	集合・写像に関する基本的な概念を理解し、集合演算を実行できる。		
	2週	数学的基礎 (1) 集合・写像	集合・写像に関する基本的な概念を理解し、集合演算を実行できる。		
	3週	数学的基礎 (1) 集合・写像	集合・写像に関する基本的な概念を理解し、集合演算を実行できる。		
	4週	数学的基礎 (1) 集合・写像	集合・写像に関する基本的な概念を理解し、集合演算を実行できる。		
	5週	数学的基礎 (2) グラフ	離散数学 (グラフ理論) に関する知識とアルゴリズムの関連を理解している。		
	6週	数学的基礎 (2) グラフ	離散数学 (グラフ理論) に関する知識とアルゴリズムの関連を理解している。		
	7週	数学的基礎 (2) グラフ	離散数学 (グラフ理論) に関する知識とアルゴリズムの関連を理解している。		
	8週	試験 (前期中間)			
	9週	数学的基礎 (3) 命題論理	命題論理 (ブール代数) に関する基本的な概念を説明できる。		
	10週	数学的基礎 (3) 命題論理	命題論理 (ブール代数) に関する基本的な概念を説明できる。		
	11週	数学的基礎 (4) 述語論理	論理代数と述語論理に関する基本的な概念を説明できる。		
	12週	数学的基礎 (4) 述語論理	論理代数と述語論理に関する基本的な概念を説明できる。		
	13週	正規言語	有限オートマトンの概念について説明できる。		

	14週	文脈自由言語	形式言語の概念について説明できる。
	15週	試験(前期末)	
	16週		
後期	1週	計算可能性(1) TM	TMに基づき、アルゴリズムの概念を説明できる。
	2週	計算可能性(1) TM	TMに基づき、アルゴリズムの概念を説明できる。
	3週	計算可能性(1) TM	TMに基づき、アルゴリズムの概念を説明できる。
	4週	計算可能性(2) 決定可能性	与えられたアルゴリズムが問題を解決していく過程を説明できる。
	5週	計算可能性(2) 決定可能性	与えられたアルゴリズムが問題を解決していく過程を説明できる。
	6週	計算可能性(3) 決定不可能性	与えられたアルゴリズムが問題を解決していく過程を説明できる。
	7週	計算可能性(3) 決定不可能性	与えられたアルゴリズムが問題を解決していく過程を説明できる。
	8週	試験(後期中間)	
	9週	計算の複雑さ(1) 時間計算量	時間計算量によってアルゴリズムを比較・評価できることを理解している。
	10週	計算の複雑さ(1) 時間計算量	時間計算量によってアルゴリズムを比較・評価できることを理解している。
	11週	計算の複雑さ(2) クラスP	問題を解決する複数のアルゴリズムを計算量等の観点から比較できる。
	12週	計算の複雑さ(2) クラスP	問題を解決する複数のアルゴリズムを計算量等の観点から比較できる。
	13週	計算の複雑さ(3) クラスNP	問題を解決する複数のアルゴリズムを計算量等の観点から比較できる。
	14週	計算の複雑さ(3) クラスNP	問題を解決する複数のアルゴリズムを計算量等の観点から比較できる。
	15週	計算の複雑さ(4) NP完全	問題を解決する複数のアルゴリズムを計算量等の観点から比較できる。
		16週	試験(学年末)

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	50	0	0	0	0	0	50
専門的能力	50	0	0	0	0	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	データベース
科目基礎情報					
科目番号	J4-4110		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報工学科		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	前期:3 後期:0	
教科書/教材	教科書: 増永良文, 「データベース入門」, サイエンス社/参考図書: 速水治夫・宮崎収兄・山崎清明 (情報処理学会編集), 「データベース」, オーム出版局, Jonathan Gennick: "SQLPocket Guide(POCKET REFERENCE)", O'Reilly & Associates				
担当教員	三河 佳紀				
到達目標					
1. データベースの基本概念を説明できる。 2. データモデルに関する基本的な概念を理解し説明できる。 3. データベース設計方法に関する基本的な概念を説明できる。 4. データベースの管理方法に関する知識を持ち, 説明できる。 5. データベース言語を用いて基本的なデータ問い合わせを記述できる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
1. データベースの基本概念を説明できる。	基本的知識である基礎事項, 原理, 概念を正確に説明できる。	基本的知識である基礎事項, 原理, 概念を説明できる。	基本的知識である基礎事項, 原理, 概念を説明することができない。		
2. データモデルに関する基本的な概念を理解し説明できる。	データモデルに関する基本的概念を理解し説明でき, 関係問題が解ける。	データモデルに関する基本的概念を理解し説明でき, 基本問題が解ける。	データモデルに関する基本的な概念を説明できず, 基本問題が解けない。		
3. データベース設計方法に関する基本的な概念を説明できる。	データベースの設計方法に関する基本的な概念が説明でき, 関係問題が解ける。	データベースの設計方法に関する基本的な概念が説明でき, 基本問題が解ける。	データベースの設計方法に関する基本的な概念を説明できず基本問題が解けない。		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E基準 1 学習・教育到達目標 (d)(1), J A B E E基準 1 学習・教育到達目標 (d)(4), J A B E E基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E基準 1 学習・教育到達目標 (g), 学習目標 II, 学校目標 E (継続的学習), 本科の点検項目 E - ii, 学校目標 F (専門の実践技術), 学科目標 F (専門の実践技術), 本科の点検項目 F - i, 本科の点検項目 F - ii					
教育方法等					
概要	データベース技術について, リレーショナルデータベースを中心に, データモデル, SQL, データベース管理システムの基礎的知識を中心に習得します。オブジェクト指向データベースシステム, 分散データベースシステム, インターネットとデータベース管理システムの連携についての基礎知識も習得します。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業は座学を中心に実習を交えて実施します。授業の進度に伴い課題・小テスト等により到達目標に対する達成度を確認します。成績は学期末試験40%, 中間試験40%, 到達目標に対する達成度の確認 (課題・小テスト) 20%の割合で評価します。再試験は行う場合もある。				
注意点	授業で配布する課題は, 自学自習により取り組むこと (60時間の自学自習時間が必要です。) 自学自習では特に教科書の各章末問題などを用い理解を深めて下さい。なお課題については提出を求めます。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	データベースの基本概念	データベース発展の歴史的背景について理解している。		
	2週	データモデル(1)	代表的な3つのモデル論について理解している。		
	3週	データモデル(2)	関係データモデルの基礎概念を理解している。		
	4週	データモデル(3)	データベースのスキーマを理解し図で表現できる。第1正規形の概念を理解している。		
	5週	リレーショナル代数	リレーショナル代数を理解している。		
	6週	SQL(1)	SQLについてその基本概念を理解している。		
	7週	SQL(2)	データベース質問処理方法, 更新方法を理解しSQLで記述できる。		
	8週	RDB設計(1)	データベース設計の概要を理解している。		
	9週	RDB設計(2)	ER図式を理解しスキーマ設計できる。		
	10週	正規化理論(1)	更新時異常, 無損失分解について理解している。		
	11週	正規化理論(2)	正規化について理解し関係を必要な正規形に変形できる。		
	12週	データベース管理システム	データベース管理システムの概要を理解している。		
	13週	トランザクションと障害回復	トランザクションの概念とACID特性, DBを正常に維持する方法を理解している。		
	14週	オブジェクト指向データベースと分散データベース	オブジェクト指向データベースと分散データベースについて理解している。		
	15週	インターネットとデータベース	インターネットとデータベースの連携について理解している。		
	16週				
評価割合					
	試験	課題・小テスト	合計		
総合評価割合	80	20	100		
基礎的能力	50	15	65		
専門的能力	30	5	35		
分野横断的能力	0	0	0		

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	信号処理 I
科目基礎情報					
科目番号	J4-4119	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	情報工学科	対象学年	4		
開設期	後期	週時間数	前期:0 後期:3		
教科書/教材	教科書:佐藤 幸男 著「図解メカトロニクス入門シリーズ 信号処理入門」(オーム社)/参考図書:高橋 信 著「入門 信号処理のための数学」(オーム社)、浜田 望 著「よくわかる信号処理」(オーム社)、赤岩 芳彦 著「信号処理の基礎 Fundamental of Signal Processing」(昭晃堂)、飯國 洋二 著「基礎から学ぶ信号処理」(倍風館)、Hwei P. Hsu 著・村崎 憲雄・間多 均・飽本 一裕 共訳「マクローヒル大学演習 信号処理 (I)」(オーム社)、Hwei P. Hsu 著・村崎 憲雄・間多 均・飽本 一裕 共訳「マクローヒル大学演習 信号処理 (II)」(オーム社)、Erhan Kudeki and David C. Munson Jr. "Analog Signal and Systems", Pearson, C. L. Phillips, J. M. Parr and E. A. Riskin "Signals, Systems, and Transforms", Pearson, J. H. McClellan, R. W. Schafer and M. A. Yoder "Signal Processing First", Pearson				
担当教員	大西 孝臣				
到達目標					
1. 連続時間信号の定義と特性を理解して、説明ができる。 2. 実/複素フーリエ級数展開により代表的な連続時間信号(周期信号)の解析ができて、信号の時間領域表現と周波数領域表現の特性を明らかにできる。 3. 線形時間不変システム及びシステムのブロック図を理解して、説明できる。 4. フーリエ変換により代表的な連続時間信号(非周期信号を含む)の解析ができて、信号の時間領域表現と周波数領域表現の特性を明らかにできる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
1. 連続時間信号の定義と特性を理解して、説明ができる。	連続時間信号の定義と特性を理解して、説明ができる。	連続時間信号の定義と特性を理解して、基本的な説明ができる。	連続時間信号の定義と特性を理解していない。		
2. 実/複素フーリエ級数展開により代表的な連続時間信号(周期信号)の解析ができて、信号の時間領域表現と周波数領域表現の特性を明らかにできる。	実/複素フーリエ級数展開により代表的な連続時間信号(周期信号)の解析をするのに必要な数学能力を有しており、その能力を用いて信号の時間領域表現と周波数領域表現の特性を明らかにできる。	実/複素フーリエ級数展開により代表的な連続時間信号(周期信号)の解析をするのに必要な数学能力を有しており、その能力を用いて信号の時間領域表現と周波数領域表現の基本的な特性を明らかにできる。	実/複素フーリエ級数展開により代表的な連続時間信号(周期信号)の解析をするのに必要な数学能力を有していない。		
3. 線形時間不変システム及びシステムのブロック図を理解して、説明できる。	線形時間不変システム及びシステムのブロック図を理解して、説明ができる。	線形時間不変システム及びシステムのブロック図を理解して、基本的な説明ができる。	線形時間不変システムあるいはシステムのブロック図を理解していない。		
4. フーリエ変換により代表的な連続時間信号(非周期信号を含む)の解析ができて、信号の時間領域表現と周波数領域表現の特性を明らかにできる。	フーリエ変換により代表的な連続時間信号(非周期信号を含む)の解析をするのに必要な数学能力を有しており、信号の時間領域表現と周波数領域表現の特性を明らかにできる。	フーリエ変換により代表的な連続時間信号(非周期信号を含む)の解析をするのに必要な数学能力を有しており、信号の時間領域表現と周波数領域表現の基本的な特性を明らかにできる。	フーリエ変換により代表的な連続時間信号(非周期信号を含む)の解析をするのに必要な数学能力を有していない。		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (c), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (d)(1), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (g), 学習目標 II, 学校目標 D (工学基礎), 学科目標 D (工学基礎), 本科の点検項目 D - iv, 学校目標 E (継続的学習), 本科の点検項目 E - ii, 学校目標 F (専門の実践技術), 学科目標 F (専門の実践技術)					
教育方法等					
概要	声・画像・通信・計測・情報システム等における「情報」の処理や伝達は、その情報を担った「信号」の処理や伝達によって表現される。従って、「情報」を担う「信号」が果たす役割は重要である。本講では、情報工学の基礎理論として、連続時間信号の解析や、連続時間信号の処理、伝達するための技術について基礎理論を教授し、今後の授業にある離散時間信号の解析法に関する基礎を養う。				
授業の進め方と授業内容・方法	一斉座学。 何らかの事情が無い限り、大西は奇数時限目の講義開始時刻の5分前に教室に居る事にしている。質問事項がある場合は、その際に解決させる事。 中間時の試験40%、定期試験を60%として評価する。合格点は60点以上とする。 中間時の試験の試験範囲は原則的に、授業週第1週～第7週に当たる項目、すなわち、概論と実フーリエ級数展開/複素フーリエ級数展開に関する授業項目とする。定期試験の試験範囲は原則的に、授業週第8週に当たる項目、すなわちシステムの分類・性質とブロック図、および授業週第9週～第15週に当たる項目、すなわちフーリエ変換に関する授業項目とする。 再試験を学年末に1度のみ実施する場合がある。再試験の試験範囲は定期試験のものと同じであり、再試験の評価は定期試験の評価を書き変えるものとする。 全ての再試験を誠実に受験していない者は再試験の該当者にしないので注意すること。 再試験の実施に先立って補講を実施する場合には、その補講の受講を再試験の受験要件とする。 本講は、学修単位制を導入しており、学生による相当時間数の自学習を前提としている。従って、講義において課した全ての課題の提出を評価の前提とする。自力による解答を行わずにして形式的に課題を提出する者に対しては評価の対象とはしない。				
注意点	関数電卓と数学の教科書を持参する事。 本講は、学修単位制を導入しており、学生による相当時間数の自学習を前提としている。本講においては45時限分相当の自学習が必要である。 教科書・板書等の“行間”の補填、中間時の試験および定期試験の準備対策(あるいは再試験の準備対策)を行わなければならない。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	1週	信号処理概論、信号の分類	信号処理の意義などの基本的事項の説明ができる。アナログ/デジタル、時間連続/時間離散、周期/非周期などの信号の分類ができる。		
	2週	周期信号の内積、正規直交信号系	直交性の意義、直交性と内積演算の関係を説明できる。		
	3週	実フーリエ級数展開の原理・性質	実フーリエ級数展開の定義および性質を説明できる。		
	4週	複素フーリエ級数展開の原理・性質、離散周波数スペクトル	複素フーリエ級数展開の定義および性質を説明できる。実/複素の離散スペクトルの意味、性質を説明できる。		

5週	単位インパルス関数	単位インパルス関数の定義および性質を説明できる。
6週	実/複素フーリエ級数展開による周期連続信号の解析	フーリエ級数展開により代表的な周期連続信号を解析できる。
7週	達成度評価試験（中間試験）	
8週	システムの分類とその性質、ブロック図	システムの線形性、時間不変性などを説明できる。縦続/並列/フィードバックを伴うブロック図によるシステムを理解して説明できる。
9週	複素フーリエ級数展開からフーリエ変換への移行、フーリエ変換と逆フーリエ変換	フーリエ変換/フーリエ逆変換の定義・導出法を正しく述べられる。
10週	フーリエ変換対、連続周波数スペクトル、時間領域/周波数領域	フーリエ変換対、連続スペクトルの意味と性質、時間領域/周波数領域の関連性を説明できる。
11週	フーリエ変換の性質（周期信号）、フーリエ変換の性質（シフト・スケーリング）	周期信号（exp、cosなど）のフーリエ変換ができる。時間/周波数領域のシフト、スケーリングに対応したフーリエ変換/逆変換ができる。
12週	フーリエ変換の性質（時間微分/時間積分）	時間微分/時間積分に対応したフーリエ変換ができる。
13週	フーリエ変換の性質（その他代表的信号）	単位ステップ関数、sgn関数、窓関数などの信号のフーリエ変換/逆変換ができる。標本化（sinc）関数の定義を述べられる。
14週	畳み込み積分とフーリエ変換	畳み込み積分の意義と利用方法を理解して、フーリエ変換との関連性を説明できる。
15週	フーリエ変換による非周期信号の解析例	フーリエ変換により、代表的な連続時間信号の解析できる。
16週	定期試験	

評価割合

	達成度評価試験 (中間試験)	定期試験				その他	合計
総合評価割合	40	60	0	0	0	0	100
基礎的能力	20	30	0	0	0	0	50
専門的能力	20	30	0	0	0	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	情報通信 I
科目基礎情報					
科目番号	J4-4131	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	情報工学科	対象学年	4		
開設期	後期	週時間数	前期:0 後期:3		
教科書/教材	TCP/IPで学ぶネットワークシステム【「小高知宏著」森北出版】/教材:「マスタリングTCP/IP」オーム社、西田 竹志著「TCP/IP入門」オーム社、W. Richard Stevens, TCP/IP Illustrated: The Protocols, Addison-Wesley				
担当教員	阿部 司				
到達目標					
1. IPv6/IPv4における中継制御技術とネットワーク層との関係を理解し説明できる。 2. ネットワークシステムを構築できる。 3. トランスポート層プロトコルを理解し説明できる。 4. イーサネットの動作原理と応用技術を理解し説明できる。 5. 各種コマンドを使用して、ネットワークの構成を理解し、出力結果を説明できる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
1. IPv6/IPv4における中継制御技術とネットワーク層との関係を理解し説明できる。	IPv6/IPv4における中継制御技術とネットワーク層との関係を理解し説明できる。	IPv6/IPv4における基本的な中継制御技術とネットワーク層との関係を理解し説明できる。	IPv6/IPv4における中継制御技術とネットワーク層との関係を理解するのが困難で、説明できない。		
2. ネットワークシステムを構築できる。	ネットワークシステムを構築できる。	基本的なネットワークシステムを構築できる。	ネットワークシステムを構築できない。		
3. トランスポート層プロトコルを理解し説明できる。	トランスポート層プロトコルを理解し説明できる。	基本的なトランスポート層プロトコルを理解し説明できる。	トランスポート層プロトコルを理解するのが困難で、説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (c), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (d)(1), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (g), 学習目標 II, 学校目標 D (工学基礎), 学科目標 D (工学基礎), 本科の点検項目 D-iv, 学校目標 E (継続的学習), 本科の点検項目 E-ii, 学校目標 F (専門の実践技術), 学科目標 F (専門の実践技術)					
教育方法等					
概要	ネットワーク階層、インターネットとイーサネットの技術を座学と実習により学ぶ。				
授業の進め方と授業内容・方法	座学により、ネットワーク階層、コンピュータ間通信として広く普及しているインターネットとイーサネットの技術を学ぶ。 実習により、ネットワーク構成(階層、プロトコル、アドレス、動作原理)を理解する。 基礎的な設計演習により、ネットワーク技術の理解を深める。 第8週前後に、確認試験を実施する。試験の評価は確認試験50%、定期試験50%である。成績によっては、再試験を行うことがある。合格点は60点以上である。				
注意点	数学の計算能力と説明のための文章力を養っておくこと。 授業で示される演習課題に自学自習により取り組むこと。演習課題は添削後、目標が達成されていることを確認し、返却する。目標が達成されていない場合には、再提出すること。 長期休業前にレポートのテーマを示すので、長期休業終了後に提出すること。 電卓、プリントを綴じるファイルを準備すること。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	1週	インターネットの歴史と特徴	インターネットの特徴と発展経緯を理解し説明できる。		
	2週	ネットワーク階層とIPv4の機能	ネットワーク階層とインターネットプロトコル(IPv4)の特徴を理解し説明できる。		
	3週	IPv4アドレスの構成	IPv4アドレスの構成を理解し説明できる。		
	4週	LAN内の通信とアドレス解決プロトコル	LAN内の通信におけるアドレス解決方法を理解し説明できる。		
	5週	IPv4の経路選択	経路制御を理解し説明できる。		
	6週	ドメイン名とDNS	ドメイン名とDNSの動作を理解し説明できる。		
	7週	インターネット制御情報プロトコルと動的ホスト構成プロトコル	インターネット制御情報プロトコルと動的ホスト構成プロトコルを理解し説明できる。		
	8週	IPv6の機能と特徴	インターネットプロトコル(IPv6)の特徴を理解し説明できる。		
	9週	IPv6アドレスの構成	IPv6アドレスの構成を理解し説明できる。		
	10週	近隣探索プロトコルとIPv6アドレスの自動設定	近隣探索プロトコルとアドレスの自動設定を理解し説明できる。		
	11週	トランスポートプロトコルとポート番号	トランスポート層におけるアドレス、フォーマット、通信手順を理解し説明できる。		
	12週	TCPの動作原理とTCPのプロトコル解析	TCPの動作原理を理解し説明できる。		
	13週	イーサネットの歴史、特徴と動作原理	イーサネットの特徴と動作原理を理解し説明できる。		
	14週	スイッチングと高速イーサネット方式	イーサネットの応用技術を理解し説明できる。		
	15週	無線LAN方式とアクセス回線通信方式	無線LAN方式とアクセス回線通信方式を理解し説明できる。		
	16週	定期試験			
評価割合					
	試験(定期試験・確認試験)	演習	レポート	合計	
総合評価割合	60	35	5	100	
基礎的能力	30	20	5	55	

専門的能力	30	15	0	45
分野横断的能力	0	0	0	0

13週	言語処理と数的処理(1)	資格試験、就職試験等で出題された問題の演習を通して、社会が求めている技術的知識、技術水準を、演習を通して理解し、同水準の問題を解くことができる。
14週	言語処理と数的処理(2)	資格試験、就職試験等で出題された問題の演習を通して、社会が求めている技術的知識、技術水準を、演習を通して理解し、同水準の問題を解くことができる。
15週	企業技術者の講演会	技術者として必要な一般常識を理解し、適切な文書で自己PRができる。
16週		

評価割合

	プレゼンテーション	専門知識	自己分析	テクニカルライティング	言語処理と数的処理	合計
総合評価割合	45	10	15	15	15	100
基礎的能力	20	0	15	15	15	65
専門的能力	25	10	0	0	0	35
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	情報工学実験
科目基礎情報					
科目番号	J4-4810	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	履修単位: 4		
開設学科	情報工学科	対象学年	4		
開設期	通年	週時間数	4		
教科書/教材	教科書: 木下 是雄 著「理科系の作文技術」(中公新書), プリント教材・資料/参考図書: 木下 是雄 著「レポートの組み立て方」(筑摩書房), 二木 紘三 著「論文・レポートの書き方 理系・技術系編」(日本実業出版社), 鷺田 小彌太、廣瀬 誠 共著「論文レポートはどう書かか」(日本実業出版社)				
担当教員	原田 恵雨				
到達目標					
1) 実験テーマの実施を通じて、これまでに講義で学んだ技術の実現能力を高める。 2) 実体験で得た技術的知識、技術的手法、実験の結果・成果を適切な技術文書として纏めることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	各実験テーマにおける学習目標の一般目標に照らして、講義で学んだ技術と関連しつつ、実験項目の基本的知識・原理を説明できる。	各実験テーマにおける学習目標の一般目標に照らして、講義で学んだ技術と関連しつつ、実験項目の基本的知識・原理を一部説明できる。	各実験テーマにおける学習目標の一般目標に照らして、講義で学んだ技術と関連しつつ、実験項目の基本的知識・原理を説明できない。		
評価項目2	各実験テーマにおける学習目標の行動目標に照らして、実験項目を実行し、必要な実験成果物を提示できる。	各実験テーマにおける学習目標の行動目標に照らして、実験項目を実行し、必要な実験成果物を一部提示できる。	各実験テーマにおける学習目標の行動目標に照らして、実験項目を実行できず、必要な実験成果物を提示できない。		
評価項目3	読者の存在を意識した基本的構成がなされた技術文書としての実験報告書を適切に提示できる。	読者の存在を意識した基本的構成がなされた技術文書としての実験報告書を提示できる。	読者の存在を意識した基本的構成がなされた技術文書としての実験報告書を提示できない。		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (d)(1), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (d)(2), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (d)(4), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (f), 学習目標 I, 学習目標 II, 学校目標 C (コミュニケーション), 本科の点検項目 C-iii, 学校目標 E (継続的学習), 本科の点検項目 E-ii, 学校目標 F (専門の実践技術), 本科の点検項目 F-i, 学校目標 I (チームワーク), 学科目標 I (チームワーク), 本科の点検項目 I-i					
教育方法等					
概要	これまでに座学等で学習した知識を活用して、情報技術者に必要な技術を身につけるために実験を行う。この実験では、3年次の実験よりもさらに応用の効いたテーマとなる。また、実験報告書作成を通じて技術的文書作成能力の向上を目指す。				
授業の進め方と授業内容・方法	班編成による共同実験。基本的に1週で1つの実験テーマであるが、数週間で1つの実験テーマを実施する場合もある。実施場所は、1 F 電子制御実験室 (H103)、2 F 計算機工学実験室 (H203)、3 F 情報処理実習室 (H301)、3 F 情報システム実習室 (H302)、4 F 情報通信実験室 (H403) となる。 授業計画欄に示すのはある班におけるものであって、班によってはその順序が変わる場合がある。 評価は実験テーマ毎に課す実験報告書、学期毎に提出を課す実験ノート、実験成果物の全ての提出を前提とする。中間試験・定期試験を課さない。 評価は全て実験テーマ毎の評価を重み付け平均して行う。各実験テーマにおける評価は、実験中や実験報告書提出時の態度、及び実験報告書の内容を総合する。合格点は60点以上とする。				
注意点	実験指導書は1週間前に配られるので、実験当日までに実験に関する内容を理解する事。実験当日には実験テーマにおいて必要とされる実験ノート・関連教科書・関数電卓・作図用具一式・作業用メモリ等を用意する事。 自学自習時間は実験に対する報告書を執筆すること。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	前期実験ガイダンス、実験機器説明	実験の進め方、実験機器の使い方を理解する。		
	2週	オペアンプ	オペアンプの基本的な増幅回路や応用回路を構成して、オペアンプの基本特性や性質を理解できる。		
	3週	サンプリング定理とA/D変換の原理	標本化定理と逐次比較法を理解できる。		
	4週	マイクロコンピュータ	CPUとメモリ間の制御信号の原理を理解できる。		
	5週	順序回路	順序回路の設計法、動作を理解できる。		
	6週	UML	オブジェクト指向設計・開発におけるUMLの基礎が理解できる。		
	7週	UML	オブジェクト指向設計・開発におけるUMLの基礎が理解できる。		
	8週	予備実験、報告書執筆指導	適切な文書としての実験報告書の執筆ができる。		
	9週	Excel VBA	Excel VBAを理解して応用できる。		
	10週	Excel VBA	Excel VBAを理解して応用できる。		
	11週	Excel VBA	Excel VBAを理解して応用できる。		
	12週	OOPの基礎	オブジェクト指向プログラミング言語 Javaを使用したアプリケーション・アプリレットの開発ができる。		
	13週	OOPの基礎	オブジェクト指向プログラミング言語 Javaを使用したアプリケーション・アプリレットの開発ができる。		
	14週	OOPの基礎	オブジェクト指向プログラミング言語 Javaを使用したアプリケーション・アプリレットの開発ができる。		
	15週	予備実験、報告書執筆指導	適切な文書としての実験報告書の執筆ができる。		
	16週				
後期	1週	後期実験ガイダンス、実験機器説明	実験の進め方、実験機器の使い方を理解する。		

2週	V D H Lを使ったデジタルハードウェア設計	V H D Lの基本文法を修得してデジタルハードウェアを設計できる。
3週	V D H Lを使ったデジタルハードウェア設計	V H D Lの基本文法を修得してデジタルハードウェアを設計できる。
4週	V D H Lを使ったデジタルハードウェア設計	V H D Lの基本文法を修得してデジタルハードウェアを設計できる。
5週	V D H Lを使ったデジタルハードウェア設計	V H D Lの基本文法を修得してデジタルハードウェアを設計できる。
6週	V D H Lを使ったデジタルハードウェア設計	V H D Lの基本文法を修得してデジタルハードウェアを設計できる。
7週	V D H Lを使ったデジタルハードウェア設計	V H D Lの基本文法を修得してデジタルハードウェアを設計できる。
8週	予備実験、報告書執筆指導	適切な文書としての実験報告書の執筆ができる。
9週	データベース（1）	Excel VBAからデータベースを操作できる。
10週	データベース（2）・（3）	PHPからデータベースを操作できる。
11週	データベース（2）・（3）	PHPからデータベースを操作できる。
12週	Webアプリケーション	データベースへの接続も含めたWebアプリケーションの開発ができる。
13週	Webアプリケーション	データベースへの接続も含めたWebアプリケーションの開発ができる。
14週	Webアプリケーション	データベースへの接続も含めたWebアプリケーションの開発ができる。
15週	予備実験、報告書執筆指導	適切な文書としての実験報告書の執筆ができる。
16週		

評価割合

	実験時・報告書提出時の態度	実験ノート	報告書の体裁	報告書の内容	合計
総合評価割合	20	20	20	40	100
基礎的能力	20	20	20	20	80
専門的能力	0	0	0	20	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	学外実習
科目基礎情報					
科目番号	J4-4940		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	情報工学科		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	なし/なし				
担当教員	三河 佳紀				
到達目標					
1. 各実習機関が課す達成目標に応えることができる。 2. 実習機関の現場において技術者が接する実務上の問題と課題への理解、適切な対応を行うことができる。 3. 実習の成果を論理的にまとめることができる。 4. 実習の成果を情報提示手段を活用して実習内容の説明ができ、質問に対して的確に答えられる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
1. 各実習機関が課す達成目標に応えることができる。	各実習機関が課す達成目標に的確に応えることができる。		各実習機関が課す達成目標に応えることができる。		各実習機関が課す達成目標に応えることができない。
2. 実習機関の現場において技術者が接する実務上の問題と課題への理解、適切な対応を行うことができる。	実習機関の現場において技術者が接する実務上の問題と課題への理解、適切な対応を的確に行うことができる。		実習機関の現場において技術者が接する実務上の問題と課題への理解、適切な対応を行うことができる。		実習機関の現場において技術者が接する実務上の問題と課題への理解、適切な対応を行うことができない。
3. 実習の成果を論理的にまとめることができる。	実習の成果を的確に論理的にまとめることができる。		実習の成果をまとめることができる。		実習の成果を論理的にまとめることができない。
4. 実習の成果を情報提示手段を活用して実習内容の説明ができ、質問に対して的確に答えられる。	実習の成果を情報提示手段を活用して実習内容の説明ができ、質問に対して的確に答えられる。		実習の成果を情報提示手段を活用して実習内容の説明ができ、質問に対して答えられる。		実習の成果を情報提示手段を活用して実習内容の説明ができ、質問に対して的確に答えられない。
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (d)(4), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (f), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (i), 学習目標 I, 学習目標 II, 学校目標 C (コミュニケーション), 本科の点検項目 C-i, 本科の点検項目 C-ii, 本科の点検項目 C-iii, 学校目標 E (継続的学習), 本科の点検項目 E-ii, 学校目標 F (専門の実践技術), 学科目標 F (専門の実践技術), 本科の点検項目 F-ii, 学校目標 I (チームワーク), 学科目標 I (チームワーク), 本科の点検項目 I-i					
教育方法等					
概要	学生が企業・大学・国あるいは地方公共団体等の各機関へ赴き、配属先の組織が計画した各種の課題や実務に関する研修あるいは実習を行います。研修・実習中は、配属先の組織の指示に従って与えられた課題や業務を遂行するとともに、それらの内容を日報に記録します。				
授業の進め方と授業内容・方法	研修・実習の終了後に報告書を作成し、報告会において研修・実習内容や成果に関する発表を行います。				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・学外実習は夏季休業中に行います。受け入れ機関については担任より提示されるので、その内容をよく検討の上、担任へ申し込んで下さい。申し込みには所定の手続きを必要とするので、担任の指示に従って速やかに行ってください。 ・実習の期間は受け入れ先によって異なるので注意して下さい。 ・学外実習に先立ち、傷害保険に必ず加入して下さい。 ・実習中はマナーに気を付けるとともに、指導員の指示に従って行動し、緊張感をもって取り組んで下さい。 ・実習に際してNDA等の条件が前提となっている場合、必ず遵守して下さい。 ・企業等の実習経験を通して、学業と職業の関わり、実務の内容や取り組み方、ビジネスマンの行動や考え方や話し方、組織の成り立ち、チームワーク、責任と権限、企業等の戦略など、学校では学べないものをしっかりと見聞し、自己の進路や職業観の醸成および学業への参考にして下さい。 				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	ガイダンス実施	学外実習の目的、スケジュールを認識する。		
	2週	学外実習履修願、学外実習申込書、契約書に関する作成方法	学外実習に必要な関係書類の作成方法を身に付ける。		
	3週	学外実習希望調査書の提出	実習を希望する実習先を事前調査することで、企業、教育機関、官公庁に対する予備知識を持つことができる。		
	4週	学外実習機関の調査 1	学内掲示板を基に実習先を選択することで、調査能力と判断能力を高めることができる。		
	5週	学外実習機関の調査 2	学内掲示板を基に実習先を選択することで、調査能力と判断能力を高めることができる。		
	6週	学外実習機関の調査 3	学内掲示板を基に実習先を選択することで、調査能力と判断能力を高めることができる。		
	7週	学外実習機関の調査 4	学内掲示板を基に実習先を選択することで、調査能力と判断能力を高めることができる。		
	8週	学外実習機関の調査 5	学内掲示板を基に実習先を選択することで、調査能力と判断能力を高めることができる。		
	9週	学外実習機関の調査 6	学内掲示板を基に実習先を選択することで、調査能力と判断能力を高めることができる。		
	10週	学外実習機関の調査 7	学内掲示板を基に実習先を選択することで、調査能力と判断能力を高めることができる。		
	11週	学外実習機関の調査 8	学内掲示板を基に実習先を選択することで、調査能力と判断能力を高めることができる。		
	12週	実習機関・日程等の決定	実習機関と連絡のやり取りを行うことで、コミュニケーション能力を高めることができる。		
	13週	学外実習	実際の職務を経験する中で、高専で学んだ専門知識や技術の裏付けを与え、実社会の生きた知識を身に付ける。		

	14週	学外実習報告書, 実習日誌の提出	学外実習の内容を的確にまとめ, 実習日誌を整理し報告書を作成することができる.
	15週	学外実習報告会の実施	実習の成果を論理的にまとめることができる. 情報提示手段を活用して実習内容の説明ができ, 質問に対して的確に答えられる.
	16週		

評価割合

	実習機関の評定	実習報告会	合計
総合評価割合	70	30	100
基礎的能力	70	30	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	哲学
科目基礎情報					
科目番号	J5-1240	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	情報工学科	対象学年	5		
開設期	後期	週時間数	前期:0 後期:3		
教科書/教材	適宜プリントを配布するので、特に指定しない。				
担当教員	多田 光宏				
到達目標					
<p>人文・社会科学的な視点から人間、社会、文化について多面的に理解し、国際社会の一員として社会的諸問題の解決に向けて主体的に貢献する自覚と素養を培う。</p> <p>人間活動や科学技術の役割と影響に関心を持ち、幸福とは何かを追究しながら、技術者として社会に貢献する自覚と素養を培う。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
生命倫理学の基本用語・論点を理解し、それをを用いて自分の考えを述べることができる。	講義の内容をよく理解し、自分で資料等を収集した上で、基本用語を適切に使用し、自分の考えを述べるができる。	講義の内容をよく理解し、基本用語を適切に使用し、自分の考えを述べるができる。	講義の内容を理解しようとせず、独りよがりな自分の考えを述べる。		
環境倫理学の基本用語・論点を理解し、それをを用いて自分の考えを述べることができる。	講義の内容をよく理解し、自分で資料等を収集した上で、基本用語を適切に使用し、自分の考えを述べるができる。	講義の内容をよく理解し、基本用語を適切に使用し、自分の考えを述べるができる。	講義の内容を理解しようとせず、独りよがりな自分の考えを述べる。		
技術者倫理の基本用語・論点を理解し、それをを用いて自分の考えを述べることができる。	講義の内容をよく理解し、自分で資料等を収集した上で、基本用語を適切に使用し、自分の考えを述べるができる。	講義の内容をよく理解し、基本用語を適切に使用し、自分の考えを述べるができる。	講義の内容を理解しようとせず、独りよがりな自分の考えを述べる。		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (a), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (b), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), 学習目標 I, 学習目標 II, 学習目標 III, 本科の点検項目 A - i, 本科の点検項目 A - ii, 本科の点検項目 B - i, 本科の点検項目 B - ii, 本科の点検項目 E - ii					
教育方法等					
概要	現代の倫理に関わる諸問題を取り上げ、その各々について倫理学がどのように考えようとしているのかを講義する。取り上げられるトピックスは、生命倫理、環境倫理、技術者倫理を対象とする。				
授業の進め方と授業内容・方法	内容が多岐に渡る為、適宜プリントを配布するので、教科書は使用しない。ただし、参考図書に目を通すことが望ましい。				
注意点	トピックスとして取り上げる現代の諸問題には、明確な一つの解答が存在する訳ではない。それ故に、受講者は「自分で」注意深く考えなければならない。というのも、これらの問題群について考えることは、完全な唯一の正解ではなく、複数解の中から最適解を求める工学の思考方法と類似しているからである。受講者は講義中に取り上げられたトピックスに関連するニュース等に関心を抱き、講義時間外にも自分の考えを検討・整理する時間を必ず持ち、自分でノートにまとめる等、自学自習に取り組むこと。その成果については、講義中に課すレポートや定期試験によって評価する。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	1週	1. 倫理的に考えるとは?	倫理的な思考の性質を理解できる。		
	2週	2. 倫理学の基礎理論	倫理学の基礎理論について理解できる。		
	3週	3. 生命倫理の基礎	生命倫理の基本事項について理解できる。		
	4週	4. 臓器移植 (1)	臓器移植の諸問題について理解できる。		
	5週	5. 臓器移植 (2)	臓器移植の諸問題について理解できる。		
	6週	6. 着床前診断 (1)	着床前診断の諸問題について理解できる。		
	7週	7. 着床前診断 (2)	着床前診断の諸問題について理解できる。		
	8週	8. 中間試験			
	9週	9. 尊厳死	尊厳死の諸問題について理解できる。		
	10週	10. 環境問題の現状と環境倫理	環境問題の特徴と環境倫理学の基礎について理解することができる。		
	11週	11. 事例研究	事例を通じて、何が問題であったかを理解することができる。		
	12週	12. 環境倫理の基礎理論	環境倫理の基礎理論について理解することができる。		
	13週	13. 技術者倫理の基礎	技術者倫理の特徴を理解することができる。		
	14週	14. 事例研究	事例を通して、技術者に求められている倫理的な責任について理解することができる。		
	15週	15. 事例研究	事例を通して、技術者に求められている倫理的な責任について理解することができる。		
	16週	定期試験			
評価割合					
	中間試験	定期試験	レポート	合計	
総合評価割合	35	40	25	100	
基礎的能力	35	40	25	100	

苫小牧工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	法学
科目基礎情報				
科目番号	J5-1250	科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報工学科	対象学年	5	
開設期	後期	週時間数	前期:0 後期:3	
教科書/教材	教科書: レジユメ・資料を配布/参考図書: 河原格編著『法学への一步〔第3版〕』八千代出版、内田貴『民法Ⅰ～Ⅳ』東京大学出版会、平嶋竜太他『入門 知的財産法』有斐閣、盛岡一夫『知的財産法概説〔第5版〕』法学書院、水町有一郎『労働法 第6版』有斐閣、升田淳『最新PL関係 判例と実務』民事法研究会/参考資料: 田中英夫『実定法学入門〔第3版〕』東京大学出版会、『ジュリスト』有斐閣(各号及び別冊(判例百選))、『基本法コンメンタール』日本評論社(各法)、P.G. ヴィノグラドフ(末延三次・伊藤正己訳)『法における常識』岩波文庫、Paul Vinogradoff, Common sense in law, Oxford University Press			
担当教員	佐々木 彩			
到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 民主政治の基本原則、日本国憲法の成り立ちやその特性について説明できる。 2. 現代社会の法的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて説明できる。 3. 知財等を通して現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について説明できる。 4. 知財等を通して社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について説明できる。 5. 技術者にとって必要な法律や法的課題の解決方法を説明できる。 6. バランスのとれた法的思考で、法令・学説・判例を正確に駆使して問題の解決を導き、文章で表わすことができる。 				
ループリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
1. 民主政治の基本原則、日本国憲法の成り立ちやその特性について説明できる。	民主政治の基本原則、日本国憲法の成り立ちやその特性について説明できる。	民主政治の基本原則、日本国憲法の成り立ちやその特性に関する基本的な問題が解ける。	民主政治の基本原則、日本国憲法の成り立ちやその特性に関する基本的な問題が解けない。	
2. 現代社会の法的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて説明できる。	現代社会の法的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて説明できる。	現代社会の法的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みに関する基本的な問題が解ける。	現代社会の法的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについての基本的な問題が解けない。	
3. 知財等を通して現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について説明できる。	知財等を通して現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について説明できる。	知財等を通して現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響に関する基本的な問題が解ける。	知財等を通して現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響に関する基本的な問題が解けない。	
4. 知財等を通して社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について説明できる。	知財等を通して社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について説明できる。	知財等を通して社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方に関する基本的な問題が解ける。	知財等を通して社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方に関する基本的な問題が解けない。	
5. 技術者にとって必要な法律や法的課題の解決方法を説明できる。	技術者にとって必要な法律や法的課題の解決方法を説明できる。	技術者にとって必要な法律や法的課題の解決方法に関する基本的な問題が解ける。	技術者にとって必要な法律や法的課題の解決方法に関する基本的な問題が解けない。	
6. バランスのとれた法的思考で、法令・学説・判例を正確に駆使して問題の解決を導き、文章で表わすことができる。	バランスのとれた法的思考で、法令・学説・判例を正確に駆使して問題の解決を導き、文章で表わすことができる。	バランスのとれた法的思考で、一応法令・学説・判例を駆使して問題の解決を導き、文章で表わすことができる。	バランスのとれた法的思考で、一応法令・学説・判例を駆使して問題の解決を導き、文章で表わすことができない。	
学科の到達目標項目との関係				
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (a), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (b), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), 学習目標 I, 学習目標 II, 学習目標 III, 本科の点検項目 A - i, 本科の点検項目 A - ii, 本科の点検項目 B - i, 本科の点検項目 B - ii, 本科の点検項目 E - ii				
教育方法等				
概要	法学的な視点から人間、社会、文化について多面的に理解し、国際社会の一員として社会的諸問題の解決に向けて主体的に貢献する自覚と素養を培う。人間活動や科学技術の役割と影響に関心を持ち、幸福とは何かを追求しながら、技術者として社会に貢献する自覚と素養を培う。「法律」を学ぶ基盤として、まずは、法学の基礎理論を確実に理解することを旨とし、「『法』とは何か」について考えた後、実生活に起りうる実定法上の解決方法を習得することで、リーガルマインドを培う。			
授業の進め方と授業内容・方法	・ 授業は、配布プリントを用いて主に講義形式で進める。適宜、事例問題等を設定し、受講生に対して質問への応答を求めるほか、練習問題を取り入れて、受講者の理解度を確認しながら授業を行う。 ・ 成績は、定期試験40%、到達度試験40%、課題20%の総合評価とする。合格点は、60点以上である。なお、合格点に達しない場合は再試験を行う予定。			
注意点	新聞・ニュース等で取り上げられる時事問題に関心を持つこと。授業で取り上げた内容については、特に問題意識を持ち、自分で考え、法的観点から結論を導き出してほしい。授業で扱う項目については、配布資料等を用いて自学自習を行うこと(60時間の自学自習が必要)。授業後は復習をしっかりと行い、分からない点は質問に来ること。なお、授業においては最新の六法を携行することが望ましい。			
授業計画				
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
後期	1週	1. 法とは何か①	法の分類、裁判の基準となる法の解釈や適用の問題、裁判所のしくみについて、日本国憲法の基本原則を踏まえた上で理解し、説明することができる。	
	2週	1. 法とは何か②	法の分類、裁判の基準となる法の解釈や適用の問題、裁判所のしくみについて、日本国憲法の基本原則を踏まえた上で理解し、説明することができる。	
	3週	2. 住生活と法①	日常的に行われる売買契約を通じて、権利と義務との関係、心裡留保、虚偽表示等について理解し、説明することができる。	
	4週	2. 住生活と法②	私法上、「人」は、いつをもって生まれたとみなすか(権利能力の始期)について、「胎児の権利能力」に関する事例を通して理解し説明することができる。	

5週	2. 住生活と法③	私法上、「人」は、いつをもって死亡したとみなすのか（権利能力の始期と終期）について、「失踪宣告」等の事例を通して理解し、説明することができる。
6週	3. 交通事故と法①	交通事故等の事例を通して、一般的不法行為に基づいて損害賠償請求をする方法を説明することができる。
7週	3. 交通事故と法②	交通事故等の事例を通して、特殊な不法行為に基づいて損害賠償請求をする方法を説明することができる。
8週	4. 労働と法	労働法の全体像と、労働法の要である労働基準法について理解し、説明することができる。
9週	5. 製造物責任法（PL法）	PL法が制定するまでの過程と、PL法の概要について事例を通して理解し、説明することができる。
10週	6. 知的財産法①	知的財産権に関する事例を通して、特許権を中心とする知的財産権について理解し説明することができる。
11週	6. 知的財産法②	知的財産権に関する事例を通して、特許権の他、著作権等にかんする知的財産権についても理解し説明することができる。
12週	7. 婚姻と法①	親等の範囲、婚姻の一般的成立要件と実質的成立要件、婚姻の効力について理解し説明することができる。
13週	7. 婚姻と法②	離婚の方法（協議離婚～裁判離婚）等について、理解し説明することができる。
14週	8. 相続と法①	法定相続（相続人の範囲、法定相続分の計算等）について理解し説明することができる。
15週	8. 相続と法②	遺言相続（遺留分、遺言の種類等）について、理解し説明することができる。
16週		

評価割合

	試験	到達度試験	課題	合計
総合評価割合	40	40	20	100
基礎的能力	40	40	20	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	経済学
科目基礎情報					
科目番号	J5-1260	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	情報工学科	対象学年	5		
開設期	前期	週時間数	前期:3 後期:0		
教科書/教材	自作『講義プリント』				
担当教員	松原 智雄				
到達目標					
(1)現代の日本経済の現状や課題をグローバルな視点で考えることができ、21世紀の日本社会、国際社会への基本的な見通しをもてる。(2)社会科学の知識や概念、方法論を用いて、第二次大戦以後の日本経済の基本的な流れを歴史的、客観的に理化学、考えることが出来ること。基本的な歴史的事実を理解できること。また、国際関係や環境問題などの地球的視点ももてること。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
歴史的事実や経済学的事項について正確に認識理解し、説明できているかどうかを評価する。また、事実関係や事項が論理的に無理なく説明されているか、論旨が正確で理解されうるものかなどを評価する。なを、経済学と関連する科目で理解認識された知識が活用されている場合は高く評価することがある。	歴史的事実が正確で経済学的事項を正確に理解し説明できること。文章表現が正確であることなど。	優のレベルに到達していないが、間違い完全に不十分ではない場合。	左記事項に不正確で明確な文章方言等がなされていない場合。		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E基準1 学習・教育到達目標 (a), J A B E E基準1 学習・教育到達目標 (e), 学習目標 I, 学習目標 II, 学習目標 III, 本科の点検項目 A - i, 本科の点検項目 A - ii, 本科の点検項目 E - ii					
教育方法等					
概要	学習目標 I、II、III 本科の点検項目(「環境・生産システム工学」教育プログラム学習・教育到達目標A- i、A- ii、E- iii J A B E E基準1学習・教育到達目標				
授業の進め方と授業内容・方法	人間と自然の絶え間のない物質代謝過程である経済過程は社会存立の基礎である。社会科学としての経済学の基本的な事項を説明できること、また、経済過程が基本的には共同体と商品経済(市場経済)によって担われてきたこと、その歴史的な発展過程の基本構造を理解し、説明できること、特に20世紀以後の地球的に規模に拡大した世界経済とその中で日本経済に生じた自然環境や社会文化の変化の基本的な動向を理解し説明出来ること。				
注意点	準備する用具、前提となる知識・科目としては地理、歴史、倫理社会、政治経済を十分に学習しておく必要がある。また、社会科学学習のためには常に現代社会の動向に関心を持つことが大事である。社会的常識、教養を涵養するために新聞、TVニュースなどを忘れずに見ること、常に社会の動向に関心を払うことが社会に貢献する技術者の養成段階においても必須であろう。また、現代経済の諸問題に関する課題を課すので参考図書などの学習も怠らないこと。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	経済学の対象と資本主義の発展段階	経済とは? 資本主義発展の歴史過程とはを理解する。		
	2週	第二次大戦後の日本と世界の経済。経済復興の時代。	戦後改革や I M F・GATT体制の成立の意味を学習。		
	3週	日本の高度成長、欧州統合。	朝鮮戦争から高度成長へ。欧州経済の復興の特殊性をまなぶ。		
	4週	日本と欧州の高度成長、アメリカ経済の変質。	日本と欧州の発展と対極のアメリカ経済を学習。		
	5週	ベトナム戦争と高度成長後半期。	国際対立化の高度成長の意味を問う。		
	6週	二つのショックと高度成長の終焉	ニクソン、オイルのダブルショックの意味を学習。		
	7週	低成長と高度情報化社会への転換	高度成長以後の低成長時代を学主する。		
	8週	1980年代の日本と世界経済。	ハイテク社会とイスラム問題などを学習する。		
	9週	バブル経済への転換と日本社会の変貌。	レジャー産業と地上げ株高の意味を問う。		
	10週	1990年代の日本と世界経済。	バブル崩壊とインターネット社会の意義を問う。		
	11週	I T社会とバブル崩壊後の日本経済。	グローバリズムと日本社会と混乱を学習する。		
	12週	行財政改革、骨太の改革と日本経済の立て直し。	バブル経済崩壊後の日本の再建計画の意義を学習する。		
	13週	21世紀初頭の日本と世界経済。	リーマンショックから東北大震災頃の日本経済と世界経済の混乱を学習する。		
	14週	「文明戦争」アベノミクスの登場	イスラム過激派の台頭やアベノミクスを学習する。		
	15週	21世紀経済社会の展望	米英の単独行動、荒れ狂うイスラム社会、アベノミクスの今後を問う。		
	16週	定期試験			
評価割合					
	試験	レポート	合計		
総合評価割合	80	20	100		
基礎的能力	80	20	100		

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	日本史
科目基礎情報					
科目番号	J5-1270		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報工学科		対象学年	5	
開設期	後期		週時間数	前期:0 後期:3	
教科書/教材	教科書: 自作プリント/参考図書: 日本思想体系「中世政治社会思想(上・下)」(岩波書店)、松田毅一・E=3777「ルイス=フロイスの日本覚書」(中公新書)、網野善彦「日本社会の歴史(上・中・下)」(岩波新書)、山室恭子「黄金太閤」(中公新書)、今谷明「武家と天皇」(岩波新書)、その他適宜講義中に紹介				
担当教員	坂下 俊彦				
到達目標					
1) 基本的用語・制度などの知識に関して説明できる 2) 史料を解釈できる 3) 特定の制度や出来事あるいは一定の史料から、戦国社会の特質を導き出すことができる 4) 多様な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的観点から理解できる 5) 文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から理解できる 6) 文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの重要性を理解できる 7) 歴史批判の方法論を用い、現代社会の問題点を整理することができる					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
1) 基本的用語・制度などの知識に関して説明できる	基本的用語・制度などの知識に関して正確に、論理的に説明できる	基本的用語・制度などの知識に関して説明できる	基本的用語・制度などの知識に関して説明できない		
2) 史料を解釈できる	史料を正確に解釈できる	史料を解釈できる	史料を解釈できない		
3) 特定の制度や出来事あるいは一定の史料から、戦国社会の特質を導き出すことができる	特定の制度や出来事あるいは一定の史料から、戦国社会の特質を論理的に説明できる	特定の制度や出来事あるいは一定の史料から、戦国社会の特質を導き出すことができる	特定の制度や出来事あるいは一定の史料から、戦国社会の特質を導き出すことができない		
4) 多様な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的観点から理解できる	多様な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的観点から論理的に説明できる	多様な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的観点から理解できる	多様な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的観点から理解できない		
5) 文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から理解できる	文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から論理的に説明できる	文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から理解できる	文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から理解できない		
6) 文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの重要性を理解できる	6) 文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの重要性を論理的に説明できる	文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの重要性を理解できる	6) 文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの重要性を理解できない		
7) 歴史批判の方法論を用い、現代社会の問題点を整理することができる	7) 歴史批判の方法論を用い、現代社会の問題点を整理し、考察することができる	7) 歴史批判の方法論を用い、現代社会の問題点を整理することができる	7) 歴史批判の方法論を用い、現代社会の問題点を整理することができない		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (a), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (b), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (f), 学習目標 I, 学習目標 II, 学習目標 III, 本科の点検項目 A - i, 本科の点検項目 A - ii, 本科の点検項目 B - i, 本科の点検項目 B - ii, 本科の点検項目 E - ii					
教育方法等					
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・人文・社会科学的な視点から人間、社会、文化について多面的に理解し、国際社会の一員として社会的諸問題の解決に向けて主体的に貢献する自覚と素養を培う。 ・人間活動や科学技術の役割と影響に関心を持ち、幸福とは何かを追究しながら、技術者として社会に貢献する自覚と素養を培う。 ・上記の目標を達するため、具体的には日本史上の転換点とされる戦国時代を主たる対象とし、法・社会・対外関係・国家のありかたを検討し、中世社会及び近世社会の特質を明らかにすると共に、明治以降の日本の近代化についての展望も提示したい。 				
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料等を用いて、教員による説明で授業を進める。 ・成績は到達度試験30%、定期試験50%、課題(関連キーワード調査)20%の割合で評価する。合格点は60点以上である。 ・評価が60点に達しない者には、再試験を学期末(試験範囲:全授業内容)に実施する。再試験を実施した場合、上記に掲げた到達度試験・定期試験の割合を2/3に圧縮し、残り1/3に再試験の点数を充て再評価する。但し、この場合、評価の上限は60点とする。 				
注意点	授業項目毎に提示する関連キーワードについて自学自習により調べる。調査結果は授業項目毎に回収し、目標が達成されていることを確認する。また、試験において目標が達成されていることを確認する。目標が達成されていない場合には、再調査を求める。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	1週	1. 公儀権力と戦国社会① 1-1「イ工」の成立	中世社会の基本単位である「イ工」、中近世の公権力である「公儀」の特質を理解し、現代社会及び現代における権力との相違点を論理的に説明できる		
	2週	1. 公儀権力と戦国社会② 1-2「イ工」と公儀権力	中世社会の基本単位である「イ工」、中近世の公権力である「公儀」の特質を理解し、現代社会及び現代における権力との相違点を論理的に説明できる		
	3週	1. 公儀権力と戦国社会③ 1-3鎌倉幕府と室町幕府	中世社会の基本単位である「イ工」、中近世の公権力である「公儀」の特質を理解し、現代社会及び現代における権力との相違点を論理的に説明できる		
	4週	1. 公儀権力と戦国社会④ 1-4戦国社会と「自力救済」	中世社会の基本単位である「イ工」、中近世の公権力である「公儀」の特質を理解し、現代社会及び現代における権力との相違点を論理的に説明できる		
	5週	1. 公儀権力と戦国社会⑤ 1-5戦国法の特質～喧嘩両成敗法～	中世社会の基本単位である「イ工」、中近世の公権力である「公儀」の特質を理解し、現代社会及び現代における権力との相違点を論理的に説明できる		

6週	2. 豊臣平和令① 2-1織豊政権の歴史的 position 付け	豊臣政権の目指した「平和」の意味を理解し、現代の「平和」との相違点及び現代社会の問題点を、論理的に説明できる
7週	2. 豊臣平和令② 2-2「豊臣惣無事令」と天下統一	豊臣政権の目指した「平和」の意味を理解し、現代の「平和」との相違点及び現代社会の問題点を、論理的に説明できる
8週	2. 豊臣平和令③ 2-3「刀狩令」	豊臣政権の目指した「平和」の意味を理解し、現代の「平和」との相違点及び現代社会の問題点を、論理的に説明できる
9週	2. 豊臣平和令④ 2-4「伴天連追放令」	豊臣政権の目指した「平和」の意味を理解し、現代の「平和」との相違点及び現代社会の問題点を、論理的に説明できる
10週	2. 豊臣平和令⑤ 2-5豊臣平和令の歴史的意義	豊臣政権の目指した「平和」の意味を理解し、現代の「平和」との相違点及び現代社会の問題点を、論理的に説明できる
11週	3. 豊臣政権の崩壊と江戸幕府の成立① 1-1明冊封体制・勘合貿易・倭寇	豊臣政権の崩壊から江戸幕府の成立にいたる政治過程を理解し、近現代国家と国民のあり方について、論理的に説明できる
12週	3. 豊臣政権の崩壊と江戸幕府の成立② 1-2「朝鮮出兵」	豊臣政権の崩壊から江戸幕府の成立にいたる政治過程を理解し、近現代国家と国民のあり方について、論理的に説明できる
13週	3. 豊臣政権の崩壊と江戸幕府の成立③ 1-3秀次事件と五大老制	豊臣政権の崩壊から江戸幕府の成立にいたる政治過程を理解し、近現代国家と国民のあり方について、論理的に説明できる
14週	3. 豊臣政権の崩壊と江戸幕府の成立④ 1-4「関ヶ原の戦い」	豊臣政権の崩壊から江戸幕府の成立にいたる政治過程を理解し、近現代国家と国民のあり方について、論理的に説明できる
15週	3. 豊臣政権の崩壊と江戸幕府の成立⑤ 1-5「大坂の陣」と「元和偃武」	豊臣政権の崩壊から江戸幕府の成立にいたる政治過程を理解し、近現代国家と国民のあり方について、論理的に説明できる
16週		

評価割合

	試験	到達度試験	課題				合計
総合評価割合	50	30	20	0	0	0	100
基礎的能力	50	30	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語 V C
科目基礎情報					
科目番号	J5-1608	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 3		
開設学科	情報工学科	対象学年	5		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	教科書: "The High Road to the TOEIC Listening and Reading" (金星堂), "TOEIC-IP" (国際ビジネスコミュニケーション協会) / 参考図書: 市販のTOEIC受験対策用の問題集, "An A-Z OF ENGLISH GRAMMAR & USAGES" (Nelson)				
担当教員	山下 徹				
到達目標					
1. 一般的な英文の内容を日本語で説明できる。 2. 標準的な単語や文法を理解できる。 3. 一般的な英文の読解や聞き取りができる。 4. 継続的な学習によってTOEICテスト・スコア400点取得が可能となる力を確認できる。 5. 英語の音声と記述による国内事情・海外事情の概要を深く理解できる。 6. 自分の専門・研究について簡潔に英語で発表できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	一般的な英文の内容を日本語で説明できる。	基本的な英文の内容を日本語で説明できる。	基本的な英文の内容を日本語で説明できない。		
評価項目2	標準的な単語や文法を理解できる。	基本的な単語や文法を理解できる。	基本的な単語や文法を理解できない。		
評価項目3	一般的な平易な英文の読解や聞き取りができる。	基本的な英文の読解や聞き取りができる。	基本的な英文の読解や聞き取りができない。		
評価項目4	継続的な学習によってTOEICテスト・スコア400点取得が可能となる力を確認できる。	継続的な学習によってTOEICテスト・スコア400点取得を目指すことができる力を確認できる。	継続的な学習によってTOEICテスト・スコア400点取得を目指すことができない。		
評価項目5	英語の音声と記述による国内事情・海外事情の概要を深く理解できる。	英語の音声と記述による国内事情・海外事情の概要を理解できる。	英語の音声と記述による国内事情・海外事情の概要を理解できない。		
評価項目6	自分の分野の研究について簡潔にわかりやすくパワーポイントなどを用いプレゼンできる。	自分の分野の研究についてパワーポイントなどを用い基本的な英語を使いプレゼンできる。	自分の分野の研究について基本的な英語を使いプレゼンできない。		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (a), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (g), 学習目標 I, 学習目標 II, 学習目標 III, 本科の点検項目 A - i, 本科の点検項目 C - iv, 本科の点検項目 E - ii					
教育方法等					
概要	4年次までに学んだ英語の基礎力を踏まえて、英語VCでは、語彙力、文法力、リスニング・スキル、リーディング・スキルを総合的に定着・向上させ、TOEICテスト・スコア400点以上を達成させる学力習得を目指します。そのためには、TOEICテストの各パートの出題形式を理解し、問題に取り組むためのテクニックを習得する必要があります。また自分の研究について英語で発表するための工学英語を取り入れたスピーキング力を習得します。				
授業の進め方と授業内容・方法	"TOEIC対策演習を中心に1年間の授業を進めます。授業ではTOEIC問題を解き進めることで、英語によるビジネスシーンや日常生活の場面に対応できる実用的英語力を身につけられるようにします。予習復習なども担当教員の指示に従って必ず行って下さい。また、1月に全員受験するTOEIC-IPテストでは、本科修了時の到達目標である400点以上のスコア獲得を目指します。自分の分野、研究に関するプレゼンに関しては研究の概要について指導教員と話し合い、発表用の図、データの準備などをする必要があります。成績は学期末試験 (55%)、プレゼン (20%)、平素の学習状況 (TOEIC-IP・達成度試験・課題などを含む: 25%) "				
注意点	"1) 自学自習・・・外国語習得には既習事項の反復学習が不可欠です。次の手順で復習して下さい。 Part 1-4では自習用音声ファイルを何度も聞き返し、Part 5, 6では文法事項および語彙を再確認し、そしてPart 7では長文の内容を再吟味して下さい。 2) 語彙力増強・・・教科書には、TOEIC400点以上獲得のための必須語が数多く含まれているので、復習時に単語や熟語を文章中で覚えるよう努めて下さい。 3) 学修単位・・・この科目は学修単位であるため、1単位あたり30時間の自学自習を行わなければなりません。本講義時間が週2時間しかないことから、学力向上のためには日常の努力が必要です。授業以外に一定量の自学自習 (家庭学習) が義務付けられていますので怠らないこと。 4) 英語でのプレゼンに関してはパワーポイントなどを使い「分かり易く」伝えることに気を配って下さい。 ※TOEICリスニングセクションの音声ファイルを各自でダウンロード (無料) して、自学自習に活用すること。"				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	ガイダンス・Unit 1. 旅行	TOEICの出題形式・傾向を理解できる。旅行するときに必要な英語を理解できる。		
	2週	Unit 1 Travel. 旅行	旅行するときに必要な英語を理解できる。		
	3週	プレゼンについて (1)	自分の分野の研究についてパワーポイントなどを使い簡単な英語を使い発表できる。		
	4週	Unit 2. 外食	海外で外食に行ったときに必要な英語を理解できる。		
	5週	Unit 3. メディア	新聞・テレビなどのメディア情報を英語で理解できる。		
	6週	Unit 3. メディア	新聞・テレビなどのメディア情報を英語で理解できる。		
	7週	確認テスト	TOEIC-IPの出題形式・傾向を理解できる。		
	8週	Unit 4. エンターテイメント	音楽や演劇などのエンターテイメントに関わる英語を理解できる。		
	9週	Unit 5. 買物	海外で買物をするときに必要な英語を理解できる。		
	10週	Unit 5. 買物	海外で買物をするときに必要な英語を理解できる。		
	11週	Unit 6. 顧客	海外で顧客と話し合うときに使われる基礎的な英語を理解できる。		

	12週	Unit 7. 採用	海外で求人に応募するときに必要な基礎的な英語力を理解できる。
	13週	Unit 7. 採用	海外で求人に応募するときに必要な基礎的な英語力を理解できる。
	14週	プレゼンについて (2)	自分の分野の研究についてパワーポイントなどを使い簡単な英語を使い発表できる。
	15週	Unit 8. 人事	海外の企業で使われる人事に関わる基礎的な英語を理解できる。
	16週		
後期	1週	Unit 9. 広告	海外の企業で使われる広告に関する基礎的な英語を理解できる。
	2週	Unit 9. 広告	海外の企業で使われる広告に関する基礎的な英語を理解できる。
	3週	Unit 10. 会議	英語で行われる会議で使われる基礎的な英語を理解できる。
	4週	Unit 11. 財務	海外の企業の財務関係で使われる基礎的な英語を理解できる。
	5週	Unit 11. 財務	海外の企業の財務関係で使われる基礎的な英語を理解できる。
	6週	Unit 12. オフィス	海外の企業のオフィスで使われる基礎的な英語を理解できる。
	7週	確認テスト	TOEIC-IPの出題形式・傾向を理解できる。
	8週	Unit 13. 日常生活	海外で生活するために必要な基礎的な英語を理解できる。
	9週	Unit 13. 日常生活	海外で生活するために必要な基礎的な英語を理解できる。
	10週	Unit 14. 販売とマーケティング	海外の企業の販売とマーケティングに使われる基礎的な英語を理解できる。
	11週	Unit 15. イベント	イベントの企画や参加するときに必要な基礎的な英語を理解できる。
	12週	Unit 15. イベント	イベントの企画や参加するときに必要な基礎的な英語を理解できる。
	13週	学カテスト	
	14週	プレゼンについて (3)	自分の分野の研究についてパワーポイントなどを使い簡単な英語を使い発表できる。
	15週	プレゼンについて (4)	自分の分野の研究についてパワーポイントなどを使い簡単な英語を使い発表できる。
	16週	プレゼンについて (5)	自分の分野の研究についてパワーポイントなどを使い簡単な英語を使い発表できる。

評価割合

	試験	テスト・課題類	発表	合計
総合評価割合	55	25	20	100
基礎的能力	55	25	20	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英会話
科目基礎情報				
科目番号	J5-1640	科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報工学科	対象学年	5	
開設期	後期	週時間数	前期:0 後期:3	
教科書/教材	Steven Gershon, Present Yourself 1 (2nd ed, Cambridge UP)			
担当教員	若木 愛弓			
到達目標				
The goals for the English conversation classes will be to encourage as much discussion and presentation in English as possible. We will use the textbook to provide topics and useful expressions for discussion and presentation. Each student will have a 5-6 minutes presentation in the end of the term.				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安
評価項目1	英語ネイティブ・スピーカーのプレゼンテーションを見て内容を詳細に正しく理解し、説明できる。	英語ネイティブ・スピーカーのプレゼンテーションを見て、内容を正しく理解できる。	英語ネイティブ・スピーカーのプレゼンテーションを見て、要点やキーワードを把握できる。	左記に満たない。
評価項目2	英語プレゼンテーションの準備・実施に必要な知識や技術、語彙を十分に習得しており、効果的な発表活動ができる。	英語プレゼンテーションの準備・実施に必要な知識や技術、語彙を習得しており、手順に沿った発表活動ができる。	英語プレゼンテーションの準備・実施に必要な知識や技術について理解しており、それらを用いて発表活動ができる。	左記に満たない。
評価項目3	英語での質問や応答、説明などのやりとりを適切に行い、他者と意思疎通を図ることができる。	英語での質問や応答、説明などのやりとりを、助言が与えられれば適切に行うことができ、他者に考えを伝えることができる。	英語での質問が理解でき、助言が与えられれば単文で応答できる。	左記に満たない。
学科の到達目標項目との関係				
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (a), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), 学習目標 I, 学習目標 II, 学習目標 III, 本科の点検項目 A - i, 本科の点検項目 E - ii				
教育方法等				
概要	This course provides students with skills and knowledge to give effective and powerful presentations in English. Students will learn the strategies to build speech about themselves, their friends, favorite places, possessions, and memorable experiences. Students will also learn non-verbal communication skills as well as speech skills.			
授業の進め方と授業内容・方法	I would like to encourage students to organize and express their ideas all in English, in order to prepare for providing each presentation. The classes will always begin with some warming-up English quizzes or small activities. Then we will learn some useful expressions, rules, and tips of English presentation on each topic. Also, students will do some short presentations in front of smaller groups for practice.			
注意点	For self-study; Students should get as much practice listening to English as possible. I recommend watching movies and TV, and listening to music in English. Singing songs in English is a great way to improve speaking skills. To prepare for classes; Do the above, and be ready to try out new things. Always bring your textbook to class. To review; Look over the unit covered in the textbook or any extra worksheets given in class. Be sure you understand any new vocabulary words. Practice the conversations and presentation by yourself or with a friend.			
授業計画				
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
後期	1週	Introduction Unit 1, A good friend	Students can introduce themselves in English.	
	2週	Unit 1, A good friend	Students can brainstorm, organize their idea and make "topic sentence."	
	3週	Unit 1, A good friend	Students understand how "opener" and "closer" parts effectively work in presentation.	
	4週	Unit 1, A good friend	Students can introduce their friends in English.	
	5週	Unit 2, A favorite place	Students can use effective gestures/ body language.	
	6週	Unit 2, A favorite place	Students understand how "preview" "concluding signal" and "review" parts effectively work in presentation.	
	7週	Unit 2, A favorite place	Students can introduce their favorite place in English.	
	8週	到達度確認試験	Students can use vocabulary words in the textbook and explain the functions of each part of presentation.	
	9週	Unit 3, A prized possession	Students can conduct a survey /interview in English about their possessions.	
	10週	Unit 3, A prized possession	Students can make effective "preview" and "review."	
	11週	Unit 3, A prized possession	Students can use "show-and-tell expressions."	
	12週	Unit 4, A memorable experience	Students can describe their experiences and feelings.	
	13週	Unit 4, A memorable experience	Students can make effective "opener" and "closer."	
	14週	Unit 4, A memorable experience	Students can use stress to emphasize intensifiers in presentation.	

	15週	Students' Presentation	Students can give effective, well-organized and powerful presentation in English.		
	16週				
評価割合					
	定期試験	到達度確認試験	小テスト・課題等	プレゼンテーション	合計
総合評価割合	45	15	10	30	100
基礎的能力	45	15	10	30	100

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国際文化論
科目基礎情報					
科目番号	J5-9005	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	情報工学科	対象学年	5		
開設期	前期	週時間数	前期:3 後期:0		
教科書/教材	特になし。自作プリントなども配布。ビデオ映像や写真、新聞記事、インターネットサイトなど図書以外での指示もある。				
担当教員	Andrea Hatakeyama				
到達目標					
1) Understand basic matters concerning society, history, culture, languages etc. of countries around the world through materials and discussion, 2) Understand the culture and society of each region of the world, the nature and history which is the background of it. 3) Understand basic issues concerning matters such as cultures, languages, arts, sports, etc. of each country, viewed from an international perspective, and various problems in contacting other countries and crossing borders.					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	教材や議論を通じて、世界中の国々の社会、歴史、文化、言語などに関する基本的な事柄をととてもよく理解できる。	教材や議論を通じて、世界中の国々の社会、歴史、文化、言語などに関する基本的な事柄を理解できる。	教材や議論を通じて、世界中の国々の社会、歴史、文化、言語などに関する基本的な事柄を理解できる。		
評価項目2	世界の各地の文化や社会と、その背景にある自然や歴史をととてもよく理解できる。	世界の各地の文化や社会と、その背景にある自然や歴史を理解できる。	世界の各地の文化や社会と、その背景にある自然や歴史を理解できる。		
評価項目3	国際的な視野から、文化や言語、芸術、スポーツなどのような事柄に関する基本的な問題や、他国と接触したり国境を超えたりする際に生じるさまざまな問題をとてもよく理解することができる。	国際的な視野から、文化や言語、芸術、スポーツなどのような事柄に関する基本的な問題や、他国と接触したり国境を超えたりする際に生じるさまざまな問題を理解することができる。	国際的な視野から、文化や言語、芸術、スポーツなどのような事柄に関する基本的な問題や、他国と接触したり国境を超えたりする際に生じるさまざまな問題を理解することができる。		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (a), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (f), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (g), 学習目標 I, 学習目標 II, 学習目標 III, 本科の点検項目 A - i, 本科の点検項目 A - ii, 本科の点検項目 E - ii					
教育方法等					
概要	We will discuss the basic idea of international relations, using selected countries from different continents and their society. We will talk about cultures, history, economy, languages, and so on. In the end we will discuss the changes over the past generations.				
授業の進め方と授業内容・方法	We will discuss the basic idea of international relations, using selected countries from different continents and their society. We will talk about cultures, history, economy, languages, and so on. In the end we will discuss the changes over the past generations.				
注意点	Students are encouraged to compare their country, culture, customs and way of living. Hopefully they will be curious about other countries and eager to know more about places they have never visited before. From day to day it is desirable to be interested in various events in the world, such as newspapers, news, books, magazines.				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	1. introduction	Understand how to proceed lessons and attention on course. Select countries everyone is interested to know more about.		
	2週	2. Different views of the world	How other nations see your country. How you see other countries.		
	3週	2. Different views of the world	How other nations see your country. How you see other countries.		
	4週	3. Culture, identity and perception	How identity and ways of thinking is shaped by each countries culture.		
	5週	3. Culture, identity and perception	How identity and ways of thinking is shaped by each countries culture.		
	6週	4. Stereotypes	What makes a person or a country typical?		
	7週	4. Stereotypes	What makes a person or a country typical?		
	8週	Midterm Test			
	9週	5. Communication with and without words	How differences in words, gestures and body language can change communication.		
	10週	5. Communication with and without words	How differences in words, gestures and body language can change communication.		
	11週	6. Diversity	How does co-existence of various cultures in one place affect daily life?		
	12週	6. Diversity	How does co-existence of various cultures in one place affect daily life?		
	13週	7. Values defined by culture	Spoken and unspoken values being taught by generations and their changes over the years.		
	14週	7. Values defined by culture	Spoken and unspoken values being taught by generations and their changes over the years.		
	15週	8. Culture shock	Understanding differences in daily life and accepting customs.		

	16週	前期定期試験		
評価割合				
	中間試験	定期試験	小テスト・レポート等	合計
総合評価割合	30	40	30	100
基礎的能力	30	40	30	100

苫小牧工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	社会学
科目基礎情報				
科目番号	J5-9025	科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報工学科	対象学年	5	
開設期	前期	週時間数	前期:3 後期:0	
教科書/教材	マックス・ウェーバー (濱嶋朗訳) 2012『権力と支配』講談社 (講談社学術文庫)			
担当教員	坂 敏宏			
到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・人文・社会科学的な視点から人間、社会、文化について多面的に理解し、国際社会の一員として社会的諸問題の解決に向けて主体的に貢献する自覚と素養を培う。 ・人間活動や科学技術の役割と影響に関心を持ち、幸福とは何かを追究しながら、技術者として社会に貢献する自覚と素養を培う。 				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
社会学の基本的な考え方とともに、ウェーバーの社会学の方法論および理論ならびにそれにもとづく現代社会の基本構造の概念的定式について、用語の使い方を含めて説明できる。	社会学の基本的な考え方とともに、ウェーバーの社会学の方法論および理論ならびにそれにもとづく現代社会の基本構造の概念的定式について、用語の使い方を含めて適切に説明できる。	社会学の基本的な考え方とともに、ウェーバーの社会学の方法論および理論ならびにそれにもとづく現代社会の基本構造の概念的定式について、大まかな説明ができる。	社会学の基本的な考え方とともに、ウェーバーの社会学の方法論および理論ならびにそれにもとづく現代社会の基本構造の概念的定式について、説明できない。	
学科の到達目標項目との関係				
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (a), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), 学習目標 I, 学習目標 II, 学習目標 III, 本科の点検項目 A - i, 本科の点検項目 A - ii, 本科の点検項目 E - ii				
教育方法等				
概要	わたしたちが作り上げ、生活する社会の科学的な認識はどのようにして可能なのかという問いについて、古代ギリシアの時代から現代までのさまざまな学説、理論のあり方を概観するとともに、とくにマックス・ウェーバーの社会学の方法論および理論ならびにそれらにもとづく現代社会の、「支配」を軸とした基本構造の概念的定式を学ぶ。			
授業の進め方と授業内容・方法	配布レジメを用いつつ、ウェーバー以前の社会についての学的認識のあり方を概観するとともに、指定の教科書の内容を読み進める。ウェーバーの「支配の社会学」をつうじて、社会学がどのような学問であるか、社会における「支配」とは何かを理解できるとともに、ウェーバーのテキストに書かれていることと現実の社会生活との関係性について主体的に考えることができるような授業内容にしたい。			
注意点	わたしたちは日常的にさまざまな社会的な問題に直面せざるをえないが、学問としての社会学は、さしあたり科学の一分野として、対象としての社会現象の「客観的」な認識ないし叙述をめざすものであって、そうした問題にたいする何らかの実践的な解決策を引き出すものではないことをまずおさえていただきたい。とはいえ、予習においても復習においても、将来的にひとりの社会人として社会に主体的にかかわる自分の姿を想像しながら、現に生じているさまざまな社会的な現象に関心をもちつつ、授業で学習した内容との関連性を意識していただきたい。			
授業計画				
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1週	ガイダンス	この授業でやろうとすることが理解できる。	
	2週	古代、中世および近世における社会のとらえ方	社会学成立以前の時期における社会のとらえ方がどうだったかが理解できる。	
	3週	社会学の成立と実証主義	コントによる草創期の社会学の考え方とその展開としてのデュルケムの理論が理解できる。	
	4週	社会学の社会的実践への展開としての社会批判	マルクスおよびアドルノの理論をつうじて、社会のあり方の理論的認識とその実践的展開のあり方が理解できる。	
	5週	ウェーバー社会学の概要	ウェーバーの社会学の概要とその方法論的特徴が理解できる。	
	6週	ウェーバーの社会学：方法論的基礎概念	ウェーバーの社会学で用いられる方法論的基礎概念が理解できる。	
	7週	ウェーバーの社会学：理論的基礎概念	ウェーバー社会学としての「理解社会学」の概要が、そこで用いられる概念とともに理解できる。	
	8週	中間試験		
	9週	ウェーバーの社会学：理論的基礎概念 (つづき)	ひきつづき、ウェーバー社会学としての「理解社会学」の概要が、そこで用いられる概念とともに理解できる。	
	10週	ウェーバーの支配社会学：支配の3類型	教科書にそくして、ウェーバーによる「支配の3類型」の内容が理解できる。	
	11週	ウェーバーの支配社会学：合法的支配	教科書にそくして、「合法的支配」の概要が理解できる。	
	12週	ウェーバーの支配社会学：官僚制的支配の概要	教科書にそくして、「合法的支配」の具象化としての「官僚制的支配」の概要が理解できる。	
	13週	ウェーバーの支配社会学：官僚制的支配の特徴	教科書にそくして、「官僚制的支配」の特徴が理解できる。	
	14週	ウェーバーの支配社会学：官僚制組織の長所および活動原理	教科書にそくして、官僚制組織の長所および活動原理が理解できる。	
	15週	ウェーバーの支配社会学：民主制にたいする官僚制の関係	民主制と官僚制との関係および両者の構造的衝突の理論が理解できる。	
	16週	定期試験		
評価割合				
		試験	その他	合計
総合評価割合		80	20	100
基礎的能力		80	20	100

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	第二外国語 A	
科目基礎情報						
科目番号	J5-9100		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	情報工学科		対象学年	5		
開設期	前期		週時間数	前期:3 後期:0		
教科書/教材	范建明・小幡敏行「大学一年生のための合格中国語」朝日出版社					
担当教員	山際 明利					
到達目標						
<p>1) 現代漢語の発音の規則を記憶し、その知識に基づいて正しく発音できる。</p> <p>2) 漢語拼音法案の規則を記憶し、その知識に基づいて拼音を正しく発音でき、また漢語を聴いて拼音に復文できる。</p> <p>3) 現代漢語の基礎的文法事項を記憶し、その知識に基づいて基本的な現代漢語会話を理解し、的確に論述できる。</p> <p>4) 現代漢語の基礎的文法事項を記憶し、その知識に基づいて基本的な漢語文を的確に解釈できる。</p>						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
発音の規則	到達目標を十分に満たしている		到達目標を必要な程度まで満たしている		到達目標を満たしていない	
漢語拼音法案の規則	到達目標を十分に満たしている		到達目標を必要な程度まで満たしている		到達目標を満たしていない	
現代漢語の会話	到達目標を十分に満たしている		到達目標を必要な程度まで満たしている		到達目標を満たしていない	
学科の到達目標項目との関係						
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (a), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (f), 学習目標 I, 学習目標 II, 学習目標 III, 本科の点検項目 A-i, 本科の点検項目 A-ii, 本科の点検項目 E-ii						
教育方法等						
概要	初級現代漢語（現代中国語・普通話）の習得、特に発音および訳読の習得を目的とする。					
授業の進め方と授業内容・方法	前半は拼音を正しく発音し、また聴いた発音を正しく拼音表記できるように演習を積み重ねる。後半は現代漢語の基本的語彙・語法を理解した上で正しく発音ならびに和訳できるように演習を繰り返す。達成目標に関する問題を中間試験ならびに定期試験において出題する。また達成目標に関する問題を二回の口頭試問において出題する。 評価は中間試験25%、定期試験30%、口頭試問25%、授業中の発言記録10%、作業課題提出10%の割合で行なう。合格点は60点である。なお特段の事情有る場合を除いて再試験は実施しない。					
注意点	教室での一斉座学であるが、受講者の積極的参加および予習復習が不可欠である。教科書添付のコンパクトディスクを利用して発音ならびに聴解の自学自習を行なうこと。自学自習の成果は口頭試問および提出物によって評価する。					
授業計画						
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標			
前期	1週	1. ガイダンス 2. 発音 2-1 音のなりたち	現代漢語学習の意義と留意点とを理解する。 現代漢語の音節構造を記憶する。			
	2週	2-2 母音・複母音・鼻母音（韻母）	韻母のバリエーションを記憶し、正しく発音できる。			
	3週	2-3 子音（声母）	声母のバリエーションを記憶し、正しく発音できる。			
	4週	2-4 軽声・儿化	軽声・儿化の概念を理解し、正しく発音できる。			
	5週	2-5 声調の変化 3. 基本会話 3-1 你叫什么名字？	変調の概念を記憶し、正しく変調させることができる。 人称、疑問詞疑問文、動詞述語文の規則を記憶する。			
	6週	3-2 這叫油条嗎？	「是」構文、「嗎」疑問文の構造を記憶する。			
	7週	3-3 豆漿好喝不好喝？ (中間試験)	反復疑問文、形容詞述語文の構造を記憶し、それを用いて正しく論述できる。			
	8週	3-4 你家有几口人？	「有」構文、名詞述語文の構造を記憶しそれを用いて正しく論述できる。			
	9週	3-5 你是北方人還是南方人？	紀年の方法を記憶し、正しく表現できる。 選択疑問文、「在」構文の構造を記憶しそれを用いて正しく論述できる。			
	10週	3-6 明天我們去長城玩儿。	連動文の構造を記憶する。 時間の言い方を記憶する。			
	11週	3-7 我有点儿累了。	完了表現の方法を記憶し、正しく表現できる。			
	12週	3-8 你以前爬過長城嗎？	経験表現の方法を記憶し、正しく解釈できる。			
	13週	3-9 優花、坐着着吧！	進行形「在」の用法を記憶し、正しく解釈できる。 可能表現の方法を記憶し、正しく表現できる。			
	14週	3-10 山后走出来一箇漂亮姑娘。	各種補語の用法を記憶する。 主述述語文、比較文の構造を記憶する。			
	15週	3-11 這烤鴨味道不錯。	二重目的語文の構造を記憶する。 各種副詞、助詞の用法を記憶する。			
	16週	定期試験				
評価割合						
	中間試験	定期試験	口頭試問	発言	提出課題	合計
総合評価割合	25	30	25	10	10	100
基礎的能力	25	25	20	10	10	90
専門的能力	0	5	5	0	0	10
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	第二外国語 B
科目基礎情報				
科目番号	J5-9110	科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報工学科	対象学年	5	
開設期	後期	週時間数	前期:0 後期:3	
教科書/教材	ドイツ語エコー：スマート版ドイツ語スパイラル/アクティブ独和辞典 (在間進)			
担当教員	Andrea Hatakeyama			
到達目標				
1. Based on grammar understanding and interacting in simple conversations. 2. Being able to read and understand simple text and short stories. 3. Being able to write short statements and text listening to a dictation.				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	Understanding and using grammar very properly.	Understanding and using grammar properly.	Understanding and using grammar not properly.	
評価項目2	Understanding simple conversation and narration.	Understanding very simple conversation and narration.	Not understanding very simple conversation and narration.	
評価項目3	Understanding the contents of a text very properly.	Understanding the contents of a text properly.	Not understanding the contents of a text properly.	
学科の到達目標項目との関係				
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (a), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), 学習目標 I, 学習目標 II, 学習目標 III, 本科の点検項目 A - i, 本科の点検項目 A - ii, 本科の点検項目 E - ii				
教育方法等				
概要	Aim to give an understanding of basic German by developing the ability to read, write, listen and speak.			
授業の進め方と授業内容・方法	Basic grammar will be taught and reviewed in class. Small assignments in form of homework and tests will be given to check on understanding. Dictations will be done to improve reading, writing and listening. Spoken German will be practiced using small conversations at the beginning of each lesson and in role plays.			
注意点	Students should participate observantly, take notes and ask questions. Reading aloud is an important part in class and the aim is to give every student a chance to read. Listening will be practiced by using the textbook included CD. Students will be advised to take advantage of the CD and material from the internet to listen to German. From time to time a small test and dictation will be done to check on understanding.			
授業計画				
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
後期	1週	Introduction Alphabet, pronunciation	Alphabet recognition	
	2週	1. Hello / Greetings 1-1 Self-introduction 1-2 Sie / du	Being able to greet and address someone correctly	
	3週	Personal pronouns, verbs, word order 2-1 Personal info, yes/no questions 2-2 Recognizing key sentences	Asking and answering simple question. Wh - questions and recognizing sentence structure	
	4週	3. Denial with `nicht` 3-1 Irregular verbs 3-2 Using nicht structure	Being able to create complex sentence structures. Express situations correctly using the word `nicht`	
	5週	4. Nouns and articles 4-1 Definite articles 4-2 Indefinite articles 4-3 Negative article	Understanding definite articles (der, die, das), indefinite articles (ein, eine), negative articles (kein, keine) and nouns as well as articles and plural nouns	
	6週	5. Numbers, possessive articles 5-1 1 - 100 5-2 Auxiliary verbs 1 5-3 Possessives and nouns	Being able to use numbers in daily situations. Auxiliary verbs koennen, wollen, werden combined with regular verbs. Usage of possessive articles and nouns.	
	7週	6. Auxiliary verbs and prepositions 6-1 Auxikiary verbs 2 6-2 Prepositions and noun cases	Auxiliary verbs muessen, sollen, duerfen, moechten combined with regular verbs. Learning the keypoints for using preposotions in sentences	
	8週	Midterm exam		
	9週	7. Time, variation of verbs 7-1 24 hours telling time 7-2 Different verb groups	Reading and telling time in daily life. Recognizing regular, irregular, aixiliary and separable verbs	
	10週	8. Present perfect tense, indirect questions 8-1 to be + ge-(verb) 8-2 Combine 2 senteces to and indirect question	Talking about past events and asking indirect question using wann, weil, dass	
	11週	9. Adjective and superlative 9-1 Change of adjective depending on article 9-2 Superlative to compare	Being able to describe things and people Compare with others, talk about likes.	
	12週	10.Passive expressions and way of talking 10-1 One`s statement 10-2 Dialekt	Making non-subjective statements. Recognizing the way of talking in different areas	
	13週	11.Imperative and past tense 11-1 Imperative as in `Be careful` 11-2 Past events at a certain time	Using the imperative to be able to give advice or a warning. Talking about events that happened at a certain time in the past.	

	14週	12.Review and connect 12-1 Use all components learned	Being able to put all pieces together and listen, read and write German.
	15週	13.Review	Being able to put all pieces together and listen, read and write German.
	16週	Endterm exam	

評価割合

	試験	小テスト・課題 ・授業参加度	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語特論 B
科目基礎情報				
科目番号	J5-9130	科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報工学科	対象学年	5	
開設期	前期	週時間数	前期:3 後期:0	
教科書/教材	Reading Radius 科学技術の多様な側面を考える〔三修社〕			
担当教員	堀 登代彦			
到達目標				
<p>1. 英文を正確に読解して、その内容について日本語で説明することができる。</p> <p>2. 英文を通して、現代の先端的科学技術に関する情報を得るとともに、その内容に関して自分の考えを的確に発信することができる。</p> <p>3. 標準レベルの語彙や文法事項を修得した上で、読解の方略を様々な分野の英文理解に適用できる。</p> <p>4. 継続的な学習によって、TOEICスコア400点以上の取得ないしは英検2級取得に通じる学力を養成し、英語学力試験等によって自身の学力を総合的に把握できる。</p>				
ループリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	英検2級レベルの語彙・文法・文構造を理解しながら、一般的な英文内容を正確に読み取れる。	英検2級レベルの語彙・文法・文構造を理解しながら、基本的な英文内容を正確に読み取れる。	英検2級レベルの語彙・文法・文構造を理解しながら、基本的な英文内容を正確には読み取れない。	
評価項目2	やや難解な英文を迅速かつ大量に読んで、その内容を日本語で説明できる。	一般的な英文を迅速かつ大量に読んで、その内容を日本語で説明できる。	一般的な英文を迅速かつ大量に読んでも、その内容を日本語で説明できない。	
評価項目3	英文教材の読解を通して、最先端の科学技術に関する諸問題を深く知ることが出来る。	英文教材の読解を通して、最先端の科学技術に関する諸問題の概要を知ることが出来る。	英文教材の読解を通して、最先端の科学技術に関する諸問題の概要を知ることが出来ない。	
学科の到達目標項目との関係				
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (a), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (f), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (g), 学習目標 I, 学習目標 II, 学習目標 III, 本科の点検項目 A - i, 本科の点検項目 C - iv, 本科の点検項目 E - ii				
教育方法等				
概要	最先端の科学技術などを紹介する英文記事を、英文の文構造に注意しながら正確に読み取れるようにする。同時に、科学技術と社会の関わりや技術者の倫理など、科学技術の多様な側面を考えるきっかけとしたい。			
授業の進め方と授業内容・方法	各ユニットは本文（前半2ページ）と演習問題Exercises（後半2ページ）から構成されるが、始めに本文の内容確認（予習を前提に学生が訳し、教師が説明を加える）を行ない、その後で演習問題の解答解説を行なう。各ユニット終了後に小テストを実施する。			
注意点	学修単位科目なので自学自習時間の確保は必須である。その際には下記の学習を行なうこと。 1) 各ユニットの予習（本文内容理解とExercise）を必ず行なって授業に臨むこと。予習実施状況は平常点評価に加わる。 2) 復習実施状況は小テストにより、単語・文法・文構造などの理解度や習得度として評価する。 3) 課題提出を2回行なう。授業で扱わない教科書中のUnitから、各専攻学科に該当するUnitを割り当てる。			
授業計画				
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1週	Unit 1 「美しい」ビル解体	①文構造を整理しながら各文を正確に理解できる。 ②段落ごとの要点を把握できる。 ③テキスト全体の流れや内容を把握できる。 ④各UnitのExercise設問に解答することができる。 ⑤本文中の語彙・語法や文法・構文を身につけられる。	
	2週	Unit 1 「美しい」ビル解体	①文構造を整理しながら各文を正確に理解できる。 ②段落ごとの要点を把握できる。 ③テキスト全体の流れや内容を把握できる。 ④各UnitのExercise設問に解答することができる。 ⑤本文中の語彙・語法や文法・構文を身につけられる。	
	3週	Unit 2 エボラ出血熱に挑む日本人研究者	①文構造を整理しながら各文を正確に理解できる。 ②段落ごとの要点を把握できる。 ③テキスト全体の流れや内容を把握できる。 ④各UnitのExercise設問に解答することができる。 ⑤本文中の語彙・語法や文法・構文を身につけられる。	
	4週	Unit 2 エボラ出血熱に挑む日本人研究者	①文構造を整理しながら各文を正確に理解できる。 ②段落ごとの要点を把握できる。 ③テキスト全体の流れや内容を把握できる。 ④各UnitのExercise設問に解答することができる。 ⑤本文中の語彙・語法や文法・構文を身につけられる。	
	5週	Unit 3 植松さんと下町ロケット	①文構造を整理しながら各文を正確に理解できる。 ②段落ごとの要点を把握できる。 ③テキスト全体の流れや内容を把握できる。 ④各UnitのExercise設問に解答することができる。 ⑤本文中の語彙・語法や文法・構文を身につけられる。	
	6週	Unit 3 植松さんと下町ロケット	①文構造を整理しながら各文を正確に理解できる。 ②段落ごとの要点を把握できる。 ③テキスト全体の流れや内容を把握できる。 ④各UnitのExercise設問に解答することができる。 ⑤本文中の語彙・語法や文法・構文を身につけられる。	
	7週	Unit 4 社会問題になってきたドローンの使用について	①文構造を整理しながら各文を正確に理解できる。 ②段落ごとの要点を把握できる。 ③テキスト全体の流れや内容を把握できる。 ④各UnitのExercise設問に解答することができる。 ⑤本文中の語彙・語法や文法・構文を身につけられる。	
	8週	前期中間試験		

9週	Unit 5 東電のトラブル隠しを内部告発	①文構造を整理しながら各文を正確に理解できる。 ②段落ごとの要点を把握できる。 ③テキスト全体の流れや内容を把握できる。 ④各UnitのExercise設問に解答することができる。 ⑤本文中の語彙・語法や文法・構文を身につけられる。
10週	Unit 5 東電のトラブル隠しを内部告発	①文構造を整理しながら各文を正確に理解できる。 ②段落ごとの要点を把握できる。 ③テキスト全体の流れや内容を把握できる。 ④各UnitのExercise設問に解答することができる。 ⑤本文中の語彙・語法や文法・構文を身につけられる。
11週	Unit 6 人工知能が小説を「執筆」?	①文構造を整理しながら各文を正確に理解できる。 ②段落ごとの要点を把握できる。 ③テキスト全体の流れや内容を把握できる。 ④各UnitのExercise設問に解答することができる。 ⑤本文中の語彙・語法や文法・構文を身につけられる。
12週	Unit 6 人工知能が小説を「執筆」?	①文構造を整理しながら各文を正確に理解できる。 ②段落ごとの要点を把握できる。 ③テキスト全体の流れや内容を把握できる。 ④各UnitのExercise設問に解答することができる。 ⑤本文中の語彙・語法や文法・構文を身につけられる。
13週	Unit 7 史上初の国産ジェット機 MRJ	①文構造を整理しながら各文を正確に理解できる。 ②段落ごとの要点を把握できる。 ③テキスト全体の流れや内容を把握できる。 ④各UnitのExercise設問に解答することができる。 ⑤本文中の語彙・語法や文法・構文を身につけられる。
14週	Unit 7 史上初の国産ジェット機 MRJ	①文構造を整理しながら各文を正確に理解できる。 ②段落ごとの要点を把握できる。 ③テキスト全体の流れや内容を把握できる。 ④各UnitのExercise設問に解答することができる。 ⑤本文中の語彙・語法や文法・構文を身につけられる。
15週	Unit 8 日本の治水事業に貢献したオランダ人土木技師について	①文構造を整理しながら各文を正確に理解できる。 ②段落ごとの要点を把握できる。 ③テキスト全体の流れや内容を把握できる。 ④各UnitのExercise設問に解答することができる。 ⑤本文中の語彙・語法や文法・構文を身につけられる。
16週	前期定期試験	

評価割合

	試験	小テスト・レポート・予習状況など	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	40	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	日本語コミュニケーション	
科目基礎情報					
科目番号	J5-9140	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	情報工学科	対象学年	5		
開設期	前期	週時間数	前期:3 後期:0		
教科書/教材	特に教科書は用いず、自作プリントほかを使用する。				
担当教員	小西 正人				
到達目標					
1. スピーチやプレゼンテーションを通じ、自分が伝えたいことをしっかりと相手に伝えることができる。 2. 適切な話題や題材についての構想に従って材料を整理し、意見、主張などを筋道立てて表現することができる。 3. 自分や他人の発表をみて反省点を見つけ、次の発表に生かすことができる。 4. 敬語について、その基本的な性質と機能を理解し、場面に応じた使い方ができる。 5. 日本語検定2級程度の語彙（慣用句・熟語等を含む）を理解し、使用することができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
スピーチを通じ、自分が伝えたいことを相手に伝えることができる	聞き手に注意し、適切な声量と姿勢で、聞き手に興味をもたせ、用意した内容を伝えられる。	準備した内容について、最後まで発表を行い、自分が伝えたいことを話すことができる。	途中で話が詰まったり、声が聞こえなかったり、脈絡のないことを話したりして何も伝えられない。		
構想に従って材料を整理し、意見、主張などを筋道立てて表現することができる	周到な準備と構想の下で、聞き手を楽しませるスピーチを組み立てられる。	ある程度の準備と構想の下で、スピーチを組み立てられる。	準備不足で聞き手を楽しませられない。		
自分や他人の発表をみて反省点を見つけ、次の発表に生かすことができる	自分や他人の発表を正しく・細かく分析し、次の発表に生かすことができる。	自分や他人の発表を反省し、次回の発表に生かすことができる。	自分や他人の発表を反省し、次回の発表に生かすことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (f), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (g), 学習目標 I, 学習目標 II, 学習目標 III, 本科の点検項目 A - i, 本科の点検項目 C - i, 本科の点検項目 E - ii					
教育方法等					
概要	日本語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を育てる。				
授業の進め方と授業内容・方法	時間配分としては、4時間のうち3時間は、プレゼンテーション力を高めるための授業を行う。具体的にはテーマに沿ったスピーチやプレゼンテーション発表について、「課題・注意点確認 → 準備 → 発表 → 反省」というプロセスを繰り返すことによって「発表力」を身につける。また、1時間は敬語および語彙に関する事柄について、日本語検定の問題などをもとに講義する。				
注意点	スピーチについては、必ず事前に十分な準備を積んで臨むこと。また、日常の言語活動においても、様々な角度から言葉に対する関心を持つようすることが望ましい。国語辞典等の準備については、適宜指示する。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	1. ガイダンス&スピーチの要点	授業の進め方、履修上の注意などを理解する。		
	2週	2. スピーチコミュニケーション I (1) テーマスピーチ準備	よいスピーチに不可欠な要素 = 聞き手の視点について理解することができる。		
	3週	(2) テーマスピーチ実技	スピーチに必要な「準備」「工夫」の重要性を理解し、実践することができる。		
	4週	(3) テーマスピーチ反省	自分や他人のスピーチをみて反省点を見つけ、次のスピーチに生かすことができる。		
	5週	3. 敬語法 (1) 敬語について考える	尊敬語について、その基本的な性質と機能を理解することができる。		
	6週	(2) 敬語の基本的な性質と機能	敬語について、場面に応じた使い方ができる。		
	7週	4. 基礎プレゼンテーション (1) テーマプレゼンテーション準備	プレゼンテーションやスピーチを通じて、自分が伝えたいことを、しっかりと相手に伝えることができる。		
	8週	(2) テーマプレゼンテーション実技	プレゼンテーションやスピーチを通じて、自分が伝えたいことを、しっかりと相手に伝えることができる。		
	9週	(3) テーマプレゼンテーション反省	テーマプレゼンテーションについての的確に評価し、次のスピーチの反省を行うことができる。		
	10週	5. 語彙 (1) (慣用句・四字熟語等を含む)	日本語レベル2級程度の語彙を正確に使用することができる。		
	11週	5. 語彙 (2) (慣用句・四字熟語等を含む)	日本語レベル2級程度の語彙を正確に使用することができる。		
	12週	6. スピーチコミュニケーション II (1) テーマスピーチ準備	自らの主張について、賛成/反対の立場を明らかにしたうえで根拠を述べるという「主張型スピーチ」ができる。		
	13週	(2) テーマスピーチ実技	自らの主張について、賛成/反対の立場を明らかにしたうえで根拠を述べるという「主張型スピーチ」ができる。		
	14週	(3) テーマスピーチ反省	テーマスピーチについての的確に評価し、次のスピーチの反省を行うことができる。		
	15週	7. 語彙 (3) (慣用句・四字熟語等を含む)	日本語レベル2級程度の語彙を正確に使用することができる。		
	16週				
評価割合					
	試験	実技	小課題・小テスト	レポート	合計
総合評価割合	40	30	20	10	100
基礎的能力	40	30	20	10	100

專門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	科学史	
科目基礎情報							
科目番号	J5-9220		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	情報工学科		対象学年	5			
開設期	後期		週時間数	前期:0 後期:3			
教科書/教材	自作プリント						
担当教員	加藤 初儀						
到達目標							
科学史について概要を述べることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
1. 化学の歴史の概要が説明できる。	原子説, 原子量の混乱, 周期表, 原子構造の解明の歴史などについて説明できる。		化学史の概要が説明できる。		化学の歴史の概要が説明できない。		
2. 物理学の歴史の概要が説明できる。	物理学史の概要が, 複数の人物の基礎的研究結果であることを詳細に説明できる。		物理学史の概要が説明できる。		物理学の歴史の概要が説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (a), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (b), 学習目標 I, 本科の点検項目 A - i, 本科の点検項目 B - ii, 本科の点検項目 E - ii							
教育方法等							
概要	科学史について概要を述べることができる。						
授業の進め方と授業内容・方法	化学, 物理・数学を中心とした数理系科学の歴史的発展について, 原書などを通して理解を深める。おもに化学系と物理系の2分野を四半期に分けて行講義する。学科によって未修の化学・物理・数学の項目については要点的解説を行うが, 詳細については自学自習を行うこと。講義では, 英文のプリントと教科書を使用した輪読の形式で行い, その内容に関して質問し回答を求める。						
注意点	化学と物理は大学入学時程度程度の知識を持っていることを前提とする。なお, 古代ギリシャから現代までの西洋史・哲学史の概要を学んでいることが望ましい。						
授業計画							
	週	授業内容・方法			週ごとの到達目標		
後期	1週	ガイダンス					
	2週	四元素説			四元素説の成り立ちについて理解し説明できる。		
	3週	電池			電池の発明について理解し説明できる。		
	4週	原子説			ドルトンの原子説について理解し説明できる。		
	5週	周期表			メンデレーエフの周期表について説明できる。		
	6週	原子の構造			ラザフォードの実験の概要について理解し説明できる。		
	7週	近代における発明・発見 (1)			テフロンが発見やレーザーの発明の歴史などについて理解し, 説明できる。		
	8週	中間試験					
	9週	初期の歴史			古代ギリシャの理論が修正される過程を認識する。		
	10週	ガリオ・ガリイと数理物理学の幕開			古典力学の基礎の成立過程を列挙できる。		
	11週	デカルト派の運動の哲学			古典力学の基礎の成立過程を列挙できる。		
	12週	ニュートンの運動とデカルトの運動			Newton力学に対する批判を知る。		
	13週	18世紀の理論的力学			力学の発展について知る。		
	14週	18世紀から19世紀初頭の物理学実験18世紀の理論的力学			基本的な場理論の重要性を列挙できる。		
	15週	熱力学, 統計力学, 電磁気理論			量子論成立の必要性を挙げることができる。		
	16週	定期試験					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	0	40	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	40	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	数理科学
科目基礎情報					
科目番号	J5-9230		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報工学科		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	前期:2 後期:0	
教科書/教材	高遠節夫他著「新 確率統計」大日本図書、高遠節夫他著「新 応用数学」大日本図書、自作プリント				
担当教員	長澤 智明,高橋 芳太				
到達目標					
1. 確率・フーリエ解析・微分方程式・複素関数・ベクトル解析に関する応用問題を解くことができる。 2. 力学・熱力学・電磁気学に関する応用問題を解くことができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
1. 確率・フーリエ解析・微分方程式・複素関数・ベクトル解析に関する応用問題を解くことができる。	確率・フーリエ解析・微分方程式・複素関数・ベクトル解析に関する応用問題を解くことができる。	確率・フーリエ解析・微分方程式・複素関数・ベクトル解析に関する基礎的な問題を解くことができる。	確率・フーリエ解析・微分方程式・複素関数・ベクトル解析に関する基礎的な問題を解くことができない。		
2. 力学・熱力学・電磁気学に関する応用問題を解くことができる。	力学・熱力学・電磁気学に関する応用問題を解くことができる。	力学・熱力学・電磁気学に関する基礎的な問題を解くことができる。	力学・熱力学・電磁気学に関する基礎的な問題を解くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (c), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (g), 学習目標 II, 本科の点検項目 D - i, 本科の点検項目 D - ii, 学校目標 E (継続的学習), 本科の点検項目 E - ii					
教育方法等					
概要	主に進学希望者を対象としている。専攻科入学試験や大学編入学試験のレベルの授業に自主的かつ意欲的に取り組むこと。応用数学関連の最初の授業には、4年時の教科書「新 確率統計」(大日本図書)を持参のこと。自分に適した演習書を1冊選び、活用することを推奨する。				
授業の進め方と授業内容・方法	「応用数学」「応用物理」に関連して、主に演習を通して理解を深める。授業は要点解説と演習の形で進める。 応用数学関連: 確率、フーリエ解析、微分方程式、複素関数、ベクトル解析 応用物理関連: 力学、熱力学、電磁気学				
注意点	授業で課される演習課題と予習復習については、自学自習により取り組むこと。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	確率 1	確率に関する基礎的な問題を解くことができる。		
	2週	確率 2	確率に関する応用問題を解くことができる。		
	3週	フーリエ解析	フーリエ解析に関する基礎的な問題を解くことができる。		
	4週	微分方程式 1	微分方程式に関する基礎的な問題を解くことができる。		
	5週	微分方程式 2	微分方程式に関する応用問題を解くことができる。		
	6週	複素関数	複素関数に関する基礎的な問題を解くことができる。		
	7週	ベクトル解析	ベクトル解析に関する基礎的な問題を解くことができる。		
	8週	達成度試験	応用数学分野に関する達成度を確認する。		
	9週	質点の力学 1	運動方程式を解いて物体の運動を求めることができる。		
	10週	質点の力学 2	力学的エネルギー保存則を使って、力学問題を解くことができる。		
	11週	剛体の力学	慣性モーメントが計算でき、回転運動に関する問題を解くことができる。		
	12週	熱力学 1	熱力学の法則を理解し、関係する問題を解くことができる。		
	13週	熱力学 2 電磁気学 1	エントロピーに関する問題を解くことができる。 ガウスの法則、アンペールの法則を使って電場、磁場を求めることができる。		
	14週	電磁気学 2	変動する電磁場に関する法則を理解し、関係する問題を解くことができる。		
	15週	工学への応用	各種工学分野へどのように応用されるのかを理解する。		
	16週	定期試験			
評価割合					
	達成度試験	定期試験	課題・演習	合計	
総合評価割合	30	30	40	100	
基礎的能力	15	15	20	50	
専門的能力	15	15	20	50	
分野横断的能力	0	0	0	0	

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	地球科学概論	
科目基礎情報							
科目番号	J5-9240		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	情報工学科		対象学年	5			
開設期	後期		週時間数	前期:0 後期:3			
教科書/教材	「ニューステージ (新訂) 地学図表」、浜島書店 地球科学概論用自作プリント						
担当教員	長田 光司						
到達目標							
1. 太陽放射、地球放射の特性を理解し、地球上の熱収支に関する問題を解くことができる。 2. 大気・海洋の性質と循環の特性を理解し、様々な気象現象への影響について説明することができる。 3. 地形や地質を地球規模の活動と関連付けて説明することができる。 4. 地学ならびに地球科学に関する問題を解くことができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
1. 太陽放射、地球放射の特性を理解し、地球上の熱収支に関する問題を解くことができる。	地球上の熱収支に関する問題が解ける。		地球上の熱収支に関する基本的な問題が解ける。		地球上の熱収支に関する基本的な計算ができない。		
2. 大気・海洋の性質と循環の特性を理解し、様々な気象現象への影響について説明することができる。	大気・海洋の性質と循環の特性を理解し、様々な気象現象への影響について説明することができる。		大気・海洋の性質と循環の特性を理解し、いくつかの気象現象への影響について説明することができる。		大気・海洋の性質と循環の特性を理解し、気象現象への影響について説明できない。		
3. 地形や地質を地球規模の活動と関連付けて説明することができる。	地形や地質を地球規模の活動と関連付けて説明することができる。		地形や地質に関して、簡単な説明をすることができる。		地形や地質に関して、説明できない。		
4. 地学ならびに地球科学に関する問題を解くことができる。	地学ならびに地球科学に関する問題を解くことができる。		地学ならびに地球科学に関する基本的な問題を解くことができる。		地学ならびに地球科学に関する問題を解くできない。		
学科の到達目標項目との関係							
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (c), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (g), 学習目標 I, 学習目標 II, 学習目標 III, 本科の点検項目 D - ii							
教育方法等							
概要	地学的な事物・現象について基礎的な事項を学習し、自然に対する関心や探究心を高め、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。						
授業の進め方と授業内容・方法	授業は教員による自作プリントを使った説明と演習で構成する。 成績は定期試験を60%、平素の学習状況 (課題・小テスト等) を40%の割合で評価する。						
注意点	課題には真剣に取り組み、期限を守って提出すること。						
授業計画							
	週	授業内容・方法			週ごとの到達目標		
後期	1週	地球のすがた			地球の形、大きさ、太陽系の惑星としての地球について説明できる。		
	2週	地球の構造			地殻とマントル、核、地球は大気と水で覆われた惑星であることを説明できる。		
	3週	プレート境界と大地形			プレート境界と大地形について説明できる。		
	4週	プレートの動きとプレートテクトニクス			プレートの動きについて説明できる。 プレートテクトニクスについて説明できる。		
	5週	プレートテクトニクスと地震・火山			地震と火山の原因をプレートテクトニクスで説明できる。		
	6週	地震・火山(1)			地震と火山の原因と性質を説明できる。		
	7週	地震・火山(2)			地震波の計算ができる。		
	8週	岩石と鉱物			身近な岩石・鉱物の由来を説明できる。		
	9週	大気の構造			地球の大気の組成や層構造を説明できる。		
	10週	地球の熱収支			地球の熱収支について計算ができる。		
	11週	大気の大循環			大気の大循環について説明できる。		
	12週	日本の天気			日本付近の天気の特徴から天気図が読めて、初歩的な予報ができる。		
	13週	生物と地層			生物と地層について説明できる。		
	14週	地球の歴史			地球の歴史を追認できる。		
	15週	生態系、環境問題			生態系とは何かを考えることができ、環境問題について大局的な視点で説明できる。		
	16週						
評価割合							
	試験	課題・小テスト					合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	40	30	0	0	0	0	70
専門的能力	20	10	0	0	0	0	30
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	ソフトウェア工学 I
科目基礎情報					
科目番号	J5-4090		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報工学科		対象学年	5	
開設期	後期		週時間数	前期:0 後期:3	
教科書/教材	(教科書)小泉寿男・辻 秀一・吉田幸二・中島 毅 著「ソフトウェア開発」オーム社 (参考図書)川村一樹 著「ソフトウェア工学入門」近代科学社 國友義久 著「効果的プログラム開発技法」近代科学社 千葉雅弘監修「かんたんUML」翔泳社 OBJECT MANAGEMENT GROUP: "UML 2.0 Superstructure Specification" http://www.omg.org/ Len Base, Paul Clements, Rick Kazman: "Software Architecture in Practice (Sei Series in Software Engineering)" Addison-Wesley Pub (Sd), 2003 「情報セキュリティ白書2016」 (独)情報処理推進機構 (講義及び試験の内容水準確認のための参考資料)情報処理技術者試験 IPA セキュアプログラミング講座 本位田真一他著「オブジェクト指向分析設計」共立出版, 斎藤直樹著「データモデルとRDBMSへの実装」リックテレコム Steve McConnel著, 石川勝訳「コードコンプリート」アスキー出版局 OBJECT MANAGEMENT GROUP: "UML 2.0 Superstructure Specification" http://www.omg.org/ Len Base, Paul Clements, Rick Kazman: "Software Architecture in Practice (Sei Series in Software Engineering)" Addison-Wesley Pub (Sd), 2003				
担当教員	土居 茂雄				
到達目標					
1)ソフトウェアの役割・特徴・分類・ライフサイクルなどについて理解し, 説明できること. 2)ソフトウェア開発プロセスのモデルなどについて理解し, 説明できること. 3)ソフトウェア開発の分析工程における手順や内容および分析技法を理解し, 説明できること. 4)ソフトウェアの設計工程における手順や技法を理解し, 説明できること. 5)ソフトウェアのテスト工程・テストケース設計・妥当性評価方法・保守について理解し, 説明できること. 6)オブジェクト指向の考え方・分析・設計・プログラミングについて理解し, 説明できること. 7)ソフトウェア再利用の意義・再利用の効果・再利用の手法について理解し, 説明できること. 8)ソフトウェア運用時にどのようなリスクが潜んでいるかを理解し説明できること. 9)ソフトウェア運用時のリスクを最小限に抑えるために, 設計や運用で対策できる事柄を理解し説明できること. 10)情報システムやそれに関連する事柄についてそれぞれが意見を述べ, まとめられること.					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	ソフトウェアの役割・特徴・分類・ライフサイクルなどについて適切に説明できる	ソフトウェアの役割・特徴・分類・ライフサイクルなどについて説明できる	ソフトウェアの役割・特徴・分類・ライフサイクルなどについて説明できない		
評価項目2	ソフトウェア開発プロセスのモデルなどについて適切に説明できる	ソフトウェア開発プロセスのモデルなどについて説明できる	ソフトウェア開発プロセスのモデルなどについて説明できない		
評価項目3	ソフトウェア開発の要求分析における手順・内容・分析技法を適切に説明できる	ソフトウェア開発の要求分析における手順・内容・分析技法を説明できる	ソフトウェア開発の要求分析における手順・内容・分析技法を説明できない		
評価項目4	ソフトウェアの設計工程における手順や技法を適切に説明できる	ソフトウェアの設計工程における手順や技法を説明できる	ソフトウェアの設計工程における手順や技法を説明できない		
評価項目5	ソフトウェアのテスト工程・テストケース設計・妥当性評価方法・保守について適切に説明できる	ソフトウェアのテスト工程・テストケース設計・妥当性評価方法・保守について説明できる	ソフトウェアのテスト工程・テストケース設計・妥当性評価方法・保守について説明できない		
評価項目6	オブジェクト指向の考え方・分析・設計・プログラミングについて適切に説明できる	ソフトウェアのテスト工程・テストケース設計・妥当性評価方法・保守について説明できる	ソフトウェア再利用の意義・再利用の効果・再利用の手法について説明できない		
評価項目7	ソフトウェア再利用の意義・再利用の効果・再利用の手法について適切に説明できる	ソフトウェア再利用の意義・再利用の効果・再利用の手法について説明できる	ソフトウェアの運用時にどのようなリスクが潜んでいるかを説明できない		
評価項目8	ソフトウェアの運用時にどのようなリスクが潜んでいるかを適切に説明できる	ソフトウェアの運用時にどのようなリスクが潜んでいるかを説明できる	ソフトウェアの運用時にどのようなリスクが潜んでいるかを説明できない		
評価項目9	ソフトウェアの運用時のリスクを最小限に抑えるために, 設計や運用で対策できる事柄を適切に説明できる	ソフトウェアの運用時のリスクを最小限に抑えるために, 設計や運用で対策できる事柄を説明できる	ソフトウェアの運用時のリスクを最小限に抑えるために, 設計や運用で対策できる事柄を説明できない		
評価項目10	情報システムやそれに関連する事柄についてそれぞれが意見を述べ, 適切にまとめられる	情報システムやそれに関連する事柄についてそれぞれが意見を述べ, まとめられる	専門用語の英語⇄日本語のトランスレーションができない		
評価項目11	専門用語の英語⇄日本語のトランスレーションが適切にできる	情報システムやそれに関連する事柄についてそれぞれが意見を述べ, まとめられる	専門用語の英語⇄日本語のトランスレーションができる		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E基準 1 学習・教育到達目標 (d)(1), J A B E E基準 1 学習・教育到達目標 (d)(4), J A B E E基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E基準 1 学習・教育到達目標 (g), 学習目標 II, 学校目標 E (継続的学習), 本科の点検項目 E - ii, 学校目標 F (専門の実践技術), 学校目標 F (専門の実践技術), 本科の点検項目 F - i, 本科の点検項目 F - ii, 学校目標 H (社会と時代が求める技術), 学校目標 H (社会と時代が求める技術), 本科の点検項目 H - i, 学校目標 I (チームワーク), 学校目標 I (チームワーク), 本科の点検項目 I - i					
教育方法等					
概要	ソフトウェアの設計プロセスやそれに関わる運用方法, 情報管理の原則や情報セキュリティの技術的側面や運用面を講義します.				
授業の進め方と授業内容・方法	情報システムの設計開発における作業手順や作業内容, これらに適用される技術・技法を, 主として開発者の観点から捉え, 講義します. また, 実際に用いられている技術トピックも交えながら講義します. これまでに学習したことを実践的に整理するとともに, 実務で使用されている代表的な技法を理解し応用できる能力を育成します. また, 情報処理実習室でグループディスカッション・調査実習を行います. 達成目標に示す試験, 小テスト・レポートを100点法で採点し, 中間試験35%, 定期試験40%, 小テスト・レポート25%の割合で評価します. 成績によっては再試験を行うことがあります.				

注意点	<p>自学自習時間として60時間を考え、本講義項目の達成目標に相当する課題を提示します。演習課題を自学自習として取り組み、その結果をレポートで提出してください。提出物に不備がある場合は再提出を求めます。</p> <p>適宜情報処理実習室で実習を行います。ハンドアウトを必要に応じ配布するので、フォルダを持参してください。レポートの提出期限後の提出は減点の対象となることがあります。</p>
-----	--

授業計画			
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標
後期	1週	ソフトウェアの性質と開発の課題 ソフトウェア開発プロセス	ソフトウェアの役割・特徴・分類・ライフサイクルなどについて適切に説明できる ソフトウェア開発プロセスのモデルなどについて適切に説明できる
	2週	ソフトウェア開発プロセス 要求分析	ソフトウェア開発プロセスのモデルなどについて適切に説明できる ソフトウェア開発の要求分析における手順・内容・分析技法を適切に説明できる
	3週	要求分析	ソフトウェア開発の要求分析における手順・内容・分析技法を適切に説明できる
	4週	ソフトウェア設計	ソフトウェアの設計工程における手順や技法を適切に説明できる
	5週	ソフトウェア設計 ソフトウェアテスト	ソフトウェアの設計工程における手順や技法を適切に説明できる ソフトウェアのテスト工程・テストケース設計・妥当性評価方法・保守について適切に説明できる
	6週	ソフトウェアテスト	ソフトウェアのテスト工程・テストケース設計・妥当性評価方法・保守について適切に説明できる
	7週	ソフトウェアテスト	ソフトウェアのテスト工程・テストケース設計・妥当性評価方法・保守について適切に説明できる
	8週	中間試験	
	9週	オブジェクト指向とモデリング	オブジェクト指向の考え方・分析・設計・プログラミングについて適切に説明できる
	10週	オブジェクト指向とモデリング	オブジェクト指向の考え方・分析・設計・プログラミングについて適切に説明できる
	11週	オブジェクト指向とモデリング	オブジェクト指向の考え方・分析・設計・プログラミングについて適切に説明できる
	12週	ソフトウェア再利用 情報セキュリティ・リスクマネジメント	ソフトウェア再利用の意義・再利用の効果・再利用の手法について適切に説明できる ソフトウェアの運用時にどのようなリスクが潜んでいるかを適切に説明できる ソフトウェアの運用時のリスクを最小限に抑えるために、設計や運用で対策できる事柄を適切に説明できる
	13週	情報セキュリティ・リスクマネジメント	ソフトウェアの運用時にどのようなリスクが潜んでいるかを適切に説明できる ソフトウェアの運用時のリスクを最小限に抑えるために、設計や運用で対策できる事柄を適切に説明できる
	14週	情報セキュリティ・リスクマネジメント	ソフトウェアの運用時にどのようなリスクが潜んでいるかを適切に説明できる ソフトウェアの運用時のリスクを最小限に抑えるために、設計や運用で対策できる事柄を適切に説明できる
	15週	グループディスカッション	情報システムやそれに関連する事柄についてそれぞれが意見を述べ、適切にまとめられる
	16週	定期試験	

評価割合							
	中間試験	小テスト・レポート	定期試験	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	35	25	40	0	0	0	100
専門的能力	35	25	40	0	0	0	100

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	コンピュータグラフィクス
科目基礎情報					
科目番号	J5-4105		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報工学科		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	前期:3 後期:0	
教科書/教材	教科書:「コンピュータグラフィクス -改訂新版-」 CG-ARTS協会 / 教材:紙または電子媒体の資料 / 参考図書:前川他「コンピュータグラフィクス」オーム社, J.D.Foley「Computer Graphics」Addison Wesley, 末松他「画像処理工学」コロナ社, Wilhelm Burger他「Digital Image Processing: An Algorithmic Introduction Using Java」Springer-Verlag New York Inc, 他				
担当教員	中村 庸郎				
到達目標					
1. ピクセルデータの入力・生成・処理といったデジタル画像処理の基礎について説明・実装できる。 2. 様々なデータを可視化するための階調変換や疑似カラーコーディング等の基本的な考え方を説明・実装できる。 3. 3次元CGが、投影、可視判定、陰面消去等と、2次元CGの技法の組合せで実現できることを説明・実装できる。 4. シェーディング、テキストチャマッピング、曲面の近似等の技法により、より精密な描写が可能であることを説明・実装できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	ピクセルデータの入力・生成・処理といったデジタル画像処理の基礎について十分に理解しており、的確に説明し、自力で正しく実装できる。	ピクセルデータの入力・生成・処理といったデジタル画像処理の基礎について理解し、標準的なレベルで説明・実装できる。	ピクセルデータの入力・生成・処理といったデジタル画像処理の基礎について理解が不十分であり、的確な説明あるいは正しい実装ができない。		
評価項目2	様々なデータを可視化するための階調変換や疑似カラーコーディング等の基本的な考え方を十分に理解しており、的確に説明し、自力で正しく実装できる。	様々なデータを可視化するための階調変換や疑似カラーコーディング等の基本的な考え方を理解し、標準的なレベルで説明・実装できる。	様々なデータを可視化するための階調変換や疑似カラーコーディング等の基本的な考え方を十分に理解できておらず、的確な説明あるいは正しい実装ができない。		
評価項目3	3次元CGが、投影、可視判定、陰面消去等と、2次元CGの技法の組合せで実現できることを十分に理解しており、的確に説明し、自力で正しく実装できる。	3次元CGが、投影、可視判定、陰面消去等と、2次元CGの技法の組合せで実現できることを理解し、標準的なレベルで説明・実装できる。	3次元CGが、投影、可視判定、陰面消去等と、2次元CGの技法の組合せで実現できておらず、的確な説明あるいは正しい実装ができない。		
評価項目4	シェーディング、テキストチャマッピング、曲面の近似等の技法により、より精密な描写が可能であることを十分に理解しており、的確に説明し、自力で正しく実装できる。	シェーディング、テキストチャマッピング、曲面の近似等の技法により、より精密な描写が可能であることを理解し、標準的なレベルで説明・実装できる。	シェーディング、テキストチャマッピング、曲面の近似等の技法により、より精密な描写が可能であることを十分に理解できておらず、的確な説明あるいは正しい実装ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E基準1 学習・教育到達目標 (c), J A B E E基準1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E基準1 学習・教育到達目標 (g), 学習目標 II, 学校目標 D (工学基礎), 学科目標 D (工学基礎), 本科の点検項目 D - iv, 学校目標 E (継続的学習), 本科の点検項目 E - ii, 学校目標 F (専門の実践技術), 学科目標 F (専門の実践技術), 本科の点検項目 F - i					
教育方法等					
概要	様々な分野で不可欠な技術である、コンピュータグラフィクスや画像の取扱いの基礎を学ぶ。 具体的な内容は、様々なアプリケーションを開発する際に必要となる、次の基本的な処理である。 1) 画像の表示・生成・変換 2) データのグラフ化や2次元図形の描画を行う2次元CG 3) 3次元の形状を線や面で描画する3次元CG				
授業の進め方と授業内容・方法	重要な基礎理論については、できる限り計算機実習により理解を深めていく方針であり、基本的に実習室で授業を行うものとする。 ほとんどの授業項目において、前に扱った内容が基礎となっているので、授業内で出題される課題については、提出の要・不要を問わず、次回の授業時まで完成させておく必要がある。 授業項目に対する達成目標に関する問題・課題を、定期試験・到達度試験および授業中に提出する。 評価時の重み付けは、定期試験40%、到達度試験35%、課題等25%であり、合格点は60点以上である。 再試験は基本的に実施されないものと考え、継続的に取り組むこと。				
注意点	ベクトル・行列の計算等の基礎知識と自学学習(45時間以上)を必要とする。 提出を要する課題の場合、内容が不適切な場合には再提出を求めることがある。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	画像の生成・表示・処理(1)	デジタル画像のピクセルデータをファイルから入力あるいは生成する方法、および目的に応じた処理を加えて表示するための基本的な方法を説明・実装できる。		
	2週	画像の生成・表示・処理(2)	デジタル画像のピクセルデータをファイルから入力あるいは生成する方法、および目的に応じた処理を加えて表示するための基本的な方法を説明・実装できる。		
	3週	画像の生成・表示・処理(3)	デジタル画像のピクセルデータをファイルから入力あるいは生成する方法、および目的に応じた処理を加えて表示するための基本的な方法を説明・実装できる。		
	4週	色の分類、限定色表示(1)	画像データに含まれる色に着目し、その分類あるいは調整を行う古典的技法である限定色表示について説明・実装できる。		
	5週	色の分類、限定色表示(2)	画像データに含まれる色に着目し、その分類あるいは調整を行う古典的技法である限定色表示について説明・実装できる。		
	6週	ヒストグラム、コントラスト強調(1)	画像データに含まれる色の分布を表すヒストグラムを用いてコントラストの強弱を認識した後、その強調処理について説明・実装できる。		

7週	ヒストグラム, コントラスト強調(2)	画像データに含まれる色の分布を表すヒストグラムを用いてコントラストの強弱を認識した後, その強調処理について説明・実装できる.
8週	階調変換	様々なデータを可視化するための階調変換について説明・実装できる.
9週	疑似カラーコーディングによるデータの可視化	様々なデータを可視化するための疑似カラーコーディング等の基本的な技法について説明・実装できる.
10週	座標系と投影法	3次元特有の手法である投影法と2次元CGの技法の組合せにより, 3次元CGを実現する方法を説明できる.
11週	線分による表現, クリッピング, 3次元幾何変換	3次元空間内における幾何変換やクリッピングも含め, 線分による多面体の描画方法について説明・実装できる.
12週	面の描画	面の塗り潰しによる多面体の描画方法について説明・実装できる.
13週	テクスチャマッピング, シェーディング	3次元CGにおけるテクスチャマッピング技法, シェーディング技法について説明・実装できる.
14週	隠面消去法	隠面消去の方法について説明・実装できる.
15週	曲面の描画とテクスチャマッピング	ポリゴン近似による曲面の描画, 曲面へのテクスチャマッピングについて説明・実装できる.
16週		

評価割合

	定期試験	到達度試験	課題等	合計
総合評価割合	40	35	25	100
基礎的能力	0	0	0	0
専門的能力	40	35	25	100
分野横断的能力	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	情報理論
科目基礎情報				
科目番号	J5-4120	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報工学科	対象学年	5	
開設期	後期	週時間数	前期:0 後期:3	
教科書/教材	教科書: 三木成彦, 吉川英機 「電気・電子系教科書シリーズ22 情報理論」 コロナ社 / 教材: 紙または電子媒体の資料 / 参考図書: 大石進一 「例にもとづく情報理論入門」 講談社サイエンティフィック, 橋本 清 「情報・符号理論入門」 森北出版, 平田廣則 「情報理論のエッセンス」 昭晃堂, 横尾英俊 「情報理論の基礎」 共立出版, 塩野 充 「わかりやすいデジタル情報理論」 オーム社, 今井秀樹 「情報理論」 昭晃堂, 瀧 保夫 「情報論 I」 岩波書店, R. B. Ash 「Information Theory」 Dover Publications, 1990, T. M. Cover, J. A. Thomas 「Elements of Information Theory」 John Wiley & Sons, 1991, 他			
担当教員	中村 庸郎			
到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報量とエントロピーの概念について説明でき, 指示された計算ができる。 2. 情報源符号化の方法とその限界について説明でき, 効率の良い符号を構成できる。 3. ハフマン符号, ランレングス符号, 算術符号について説明でき, 符号化・復号ができる。 4. 各種エントロピーの概念について説明でき, 指示された計算ができる。 5. マルコフ情報源の概念について説明でき, エントロピーを計算できる。 				
ループリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	情報量とエントロピーの概念を十分に理解しており, 自力で正しく計算できる。	情報量とエントロピーの概念を理解し, 標準的なレベルで計算できる。	情報量とエントロピーの概念を十分に理解できておらず, 正しく計算できない。	
評価項目2	情報源符号化の方法とその限界を十分に理解しており, 効率の良い符号を自力で正しく構成できる。	情報源符号化の方法とその限界を理解し, 効率の良い符号を標準的なレベルで構成できる。	情報源符号化の方法とその限界を十分に理解できておらず, 効率の良い符号を正しく構成できない。	
評価項目3	ハフマン符号, ランレングス符号, 算術符号を十分に理解しており, 自力で正しく符号化・復号できる。	ハフマン符号, ランレングス符号, 算術符号を理解し, 標準的なレベルで符号化・復号ができる。	ハフマン符号, ランレングス符号, 算術符号を十分に理解できておらず, 正しく符号化・復号できない。	
評価項目4	各種エントロピーの概念を十分に理解しており, 自力で正しく計算できる。	各種エントロピーの概念を理解し, 標準的なレベルで計算できる。	各種エントロピーの概念を十分に理解できておらず, 正しく計算できない。	
評価項目5	マルコフ情報源の概念を十分に理解しており, 自力で正しくエントロピーを計算できる。	マルコフ情報源の概念を理解し, 標準的なレベルでエントロピーを計算できる。	マルコフ情報源の概念を十分に理解できておらず, 正しくエントロピーを計算できない。	
学科の到達目標項目との関係				
J A B E E基準 1 学習・教育到達目標 (c), J A B E E基準 1 学習・教育到達目標 (d)(1), J A B E E基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E基準 1 学習・教育到達目標 (g), 学習目標 II, 学校目標 D (工学基礎), 学科目標 D (工学基礎), 本科の点検項目 D-iv, 学校目標 E (継続的学習), 本科の点検項目 E-ii, 学校目標 F (専門の実践技術), 学科目標 F (専門の実践技術), 本科の点検項目 F-i				
教育方法等				
概要	情報理論は, デジタル化された情報の表現・伝送を, 確率に基づく数学モデルを通して一般的に扱う理論である。本講義では, 情報理論の基礎的事項である情報源符号化の仕組みを中心に解説する。			
授業の進め方と授業内容・方法	授業項目に対する達成目標に関する問題・課題を, 定期試験・到達度試験および授業中に出題する。評価時の重み付けは, 定期試験45%、到達度試験25%、課題等30%であり, 合格点は60点以上である。講義および課題に取り組む前には, 授業項目の内容整理, 予習復習を行うこと。なお, 再試験は基本的に実施されないものと考えておくこと。			
注意点	「応用数学」, 「情報数学」, 「信号処理 I」, 基本的な計算能力, 説明のための文章力などの前提知識および自学学習 (45時間以上) が必要である。受講に際して, 教科書, ノート, 筆記用具, 関数電卓を持参すること。課題の提出を要する場合には期限を守ること。			
授業計画				
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
後期	1週	情報理論の概略	工学における情報の扱い, 通信システムのモデルとその構成要素, 2つの符号化の役割と例について説明できる。	
	2週	情報源のモデル, 情報量, エントロピー(1)	情報源のモデルと構成要素について説明できる。	
	3週	情報源のモデル, 情報量, エントロピー(2)	情報量とエントロピーの概念とその性質について説明でき, 実際に計算できる。	
	4週	情報源符号化(1)	符号の構成要素, 分類について説明・実践ができる。効率の良い符号が満たすべき性質と具体的な構成方法について説明・実践ができる。	
	5週	情報源符号化(2)	符号の構成要素, 分類について説明・実践ができる。効率の良い符号が満たすべき性質と具体的な構成方法について説明・実践ができる。	
	6週	情報源符号化(3)	符号の構成要素, 分類について説明・実践ができる。効率の良い符号が満たすべき性質と具体的な構成方法について説明・実践ができる。	
	7週	情報源符号の例(1)	シャノン符号や最短符号の例であるハフマン符号の構成方法を説明でき, 構成および復号ができる。	
	8週	情報源符号の例(2)	シャノン符号や最短符号の例であるハフマン符号の構成方法を説明でき, 構成および復号ができる。	
	9週	情報源符号の例(3)	ランレングス符号の構成方法を説明でき, 構成および復号ができる。	
	10週	情報源符号の例(4)	算術符号やZL符号の構成方法を説明でき, 構成および復号ができる。	

11週	各種情報量(1)	複数の情報源間の各種エントロピーや相互情報量について説明でき、具体的に計算できる。
12週	各種情報量(2)	複数の情報源間の各種エントロピーや相互情報量について説明でき、具体的に計算できる。
13週	マルコフ情報源のエントロピー(1)	記憶のある情報源であるマルコフ情報源およびそのエントロピーの概念について説明でき、説明・表現できる。
14週	マルコフ情報源のエントロピー(2)	記憶のある情報源であるマルコフ情報源およびそのエントロピーの概念について説明でき、説明・表現できる。
15週	総合演習	1～14週の内容を総括した演習問題を実際に解くことができる。
16週		

評価割合

	定期試験	到達度試験	課題等	合計
総合評価割合	45	25	30	100
基礎的能力	0	0	0	0
専門的能力	45	25	30	100
分野横断的能力	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	システム工学
科目基礎情報				
科目番号	J5-4140	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報工学科	対象学年	5	
開設期	前期	週時間数	前期:3 後期:0	
教科書/教材	(教科書)森雅夫・松井知己著「オペレーションズ・リサーチ」朝倉書店(参考図書)伏見正則著「理工学者が書いた数学の本:確率と確率過程」講談社 室津義定・大場史憲・米沢政昭・藤井 進 共著「システム工学」森北出版 近藤次郎著「オペレーションズ・リサーチの手法」日科技連 貝原俊也著「オペレーションズ・リサーチ-システムマネジメントの科学-」オーム社 吉岡良雄著「待ち行列と確率分布-情報システム解析への応用-」森北出版 イアン・ブラッドリー著「社会のなかの数理」九州大学出版会 北岡正敏著「確率統計と待ち行列理論」産業図書 鈴木光男著「ゲーム理論入門」共立出版 Leonard Kleinrock:"Queuing Systems: Problems and Solutions" Wiley-Interscience, 1996 (講義及び試験の内容水準確認のための参考資料)情報処理技術者試験 北岡正敏著「確率統計と待ち行列理論」産業図書 甘利直行著「オンラインシステムの設計」オーム社 木下栄蔵著「AHP入門」日科技連 Leonard Kleinrock:"Queuing Systems: Problems and Solutions" Wiley-Interscience, 1996			
担当教員	土居 茂雄			
到達目標				
1)動的計画法を実際の問題に対して適用し, 計算できること. 2)アローダイアグラムで表されるスケジュールのクリティカルパスを計算で求められること. 3)スケジュールをガントチャートで表現できること. 4)線形計画法の概要の説明・問題の定式化ができ, 計算ができるようになること. 5)確率統計やマルコフ連鎖の基本的な計算ができること. 6)待ち行列の代表的なモデルについて, よく知られた公式を理解し, 導出手順を説明できること. 7)意思決定の概要について理解し, 説明できること. 8)ゲーム理論を理解し, 説明できること.				
ループリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	動的計画法を実際の問題に対して適用し, 適切に計算できる	動的計画法を実際の問題に対して適用し, 計算できる	動的計画法を実際の問題に対して適用し, 計算できない	
評価項目2	アローダイアグラムで表されるスケジュールのクリティカルパスを計算で適切に求められる	アローダイアグラムで表されるスケジュールのクリティカルパスを計算で求められる	アローダイアグラムで表されるスケジュールのクリティカルパスを計算で求められない	
評価項目3	スケジュールをガントチャートで適切に表現できる	スケジュールをガントチャートで表現できる	スケジュールをガントチャートで表現できない	
評価項目4	線形計画法の概要の説明・問題の定式化・計算が適切にできる	線形計画法の概要の説明・問題の定式化・計算ができる	線形計画法の概要の説明・問題の定式化・計算ができない	
評価項目5	確率統計やマルコフ連鎖の基本的な計算が適切にできる	確率統計やマルコフ連鎖の基本的な計算ができる	確率統計やマルコフ連鎖の基本的な計算ができない	
評価項目6	待ち行列の代表的なモデルについて, よく知られた公式を理解し, 導出手順を適切に説明できる	待ち行列の代表的なモデルについて, よく知られた公式を理解し, 導出手順を説明できる	待ち行列の代表的なモデルについて, よく知られた公式を理解し, 導出手順を説明できない	
評価項目7	意思決定の概要について適切に説明できる	意思決定の概要について説明できる	意思決定の概要について説明できない	
評価項目8	ゲーム理論を適切に説明できる	ゲーム理論を説明できる	ゲーム理論を説明できない	
評価項目9	英語⇔日本語のトランスレーションが適切にできる	英語⇔日本語のトランスレーションができる	英語⇔日本語のトランスレーションができない	
学科の到達目標項目との関係				
J A B E E基準1 学習・教育到達目標 (d)(1), J A B E E基準1 学習・教育到達目標 (d)(4), J A B E E基準1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E基準1 学習・教育到達目標 (g), 学習目標 II, 学校目標 E (継続的学習), 本科の点検項目 E - ii, 学校目標 F (専門の実践技術), 学科目標 F (専門の実践技術), 本科の点検項目 F - i, 本科の点検項目 F - ii, 学科目標 H (社会と時代が求める技術), 学校目標 H (社会と時代が求める技術), 本科の点検項目 H - i				
教育方法等				
概要	システム工学は, システムを最適に計画・開発・評価・運用するための総合的な学問です。本講義ではその中でも, オペレーションズリサーチと呼ばれるシステムマネジメントに関わる分野を重点的に取り上げて講義します。			
授業の進め方と授業内容・方法	企業などの組織体では, 効率性・生産性・経済性・安全性・信頼性・保全性といった指標の向上が常に求められ, 技術者にもこれらに対応できる資質が要求されます。システム工学では, これらに適用される技術や技法の理解と習得を目指します。講義は座学中心で進めます。理解度把握の観点から講義時に小テストを行うことがあります。達成目標に示す試験, 小テスト・レポートを100点法で採点し, 中間試験35%, 定期試験40%, 小テスト・レポート25%の割合で評価します。成績によっては再試験を行うことがあります。合格点は60点です。			
注意点	自学自習時間として60時間を考え, 本講義項目の達成目標に相当する課題を提示します。配布される演習課題を自学自習として取り組み, その結果をレポートで提出してください。レポートの提出期限後の提出は減点の対象となることがあります。 数学の知識を前提として進めますので, 確率統計・線形代数・固有値・情報数学・微分積分について復習しておいてください。 また, 数学テストでは, 行列と固有値・確率分布・積分・級数計算・微分方程式の問題を出題します。数学テストは数理計算能力把握のために行うもので, 本教科の評価対象とはしません。			
授業計画				
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1週	数学テスト オペレーションズ・リサーチの概要	システム工学で行うオペレーションズリサーチの概要について説明できるようになること。	
	2週	動的計画法	動的計画法について説明し, どのような場面で利用されるかを説明でき, 実際に計算できること。	
	3週	動的計画法	動的計画法について説明し, どのような場面で利用されるかを説明でき, 実際に計算できること。	

4週	プロジェクトスケジューリング	アローダイアグラムで表されるスケジュールのクリティカルパスを計算により求められること。スケジュールをガントチャートで表現できること。
5週	プロジェクトスケジューリング 線形計画法	アローダイアグラムで表されるスケジュールのクリティカルパスを計算により求められること。スケジュールをガントチャートで表現できること。 線形計画問題の利用分野・問題の定式化・最適解の求め方を学び、理解・説明できるようになること。また、線形計画問題を実際に計算し解を導出できること。
6週	線形計画法	線形計画問題の利用分野・問題の定式化・最適解の求め方を学び、理解・説明できるようになること。また、線形計画問題を実際に計算し解を導出できること。
7週	線形計画法	線形計画問題の利用分野・問題の定式化・最適解の求め方を学び、理解・説明できるようになること。また、線形計画問題を実際に計算し解を導出できること。
8週	中間試験	
9週	待ち行列理論	待ち行列理論の公式の導出過程を理解し、実際に公式を導出できるようになること。 待ち行列に関する指標を計算できること。
10週	待ち行列理論	待ち行列理論の公式の導出過程を理解し、実際に公式を導出できるようになること。 待ち行列に関する指標を計算できること。
11週	待ち行列理論	待ち行列理論の公式の導出過程を理解し、実際に公式を導出できるようになること。 待ち行列に関する指標を計算できること。
12週	待ち行列理論	待ち行列理論の公式の導出過程を理解し、実際に公式を導出できるようになること。 待ち行列に関する指標を計算できること。
13週	待ち行列理論 意思決定理論	待ち行列理論の公式の導出過程を理解し、実際に公式を導出できるようになること。 待ち行列に関する指標を計算できること。 意思決定理論について説明できるようになること。意思決定理論について説明でき、実際の意思決定問題に対して適用できるようになること。
14週	意思決定原理・意思決定基準	意思決定理論について説明できるようになること。意思決定理論について説明でき、実際の意思決定問題に対して適用できるようになること。
15週	ゲーム理論	意思決定理論について説明できるようになること。意思決定理論について説明でき、実際の意思決定問題に対して適用できるようになること。
16週	定期試験	

評価割合

	中間試験	小テスト・レポート	定期試験	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	35	25	40	0	0	0	100
専門的能力	35	25	40	0	0	0	100

苫小牧工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	組込みシステム総論
科目基礎情報				
科目番号	J5-4180	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報工学科	対象学年	5	
開設期	前期	週時間数	前期:3 後期:0	
教科書/教材	香取巻男、立田純一 編著、すぐわかる!組込み技術教科書, CQ出版、西野信、杉本英樹、わかりやすい組込みシステム構築技法—ハードウェア編—, 共立出版, 2007 澤田勉、わかりやすい組込みシステム構築技法—ソフトウェア編—, 共立出版, 2007 Ralf Seepold, Solutions on Embedded Systems, Springer-Verlag, 2011			
担当教員	吉村 斎			
到達目標				
<p>(1)組込みシステム、応用システム、カスタムハードウェア、リソースの制約、コンカレント開発、組込みシステムの機能的特長などを理解し、説明できる。</p> <p>(2)組込みエンジニア実態、組込みエンジニアの楽しさ、組込みエンジニアの将来性、組込みエンジニアに求められるもの、ETSSのスキル基準、ETSSのキャリア基準を理解し、説明できる</p> <p>(3)プロセッサ、基本ソフト、支援機能について理解し、説明できる。</p> <p>(4)ストレージ、通信、マルチメディア、計測制御、情報処理、ユーザインタフェースについて理解し、説明できる。</p> <p>(5)組込み開発、ソフトウェア詳細設計、ソフトウェアコード作成とテスト、ソフトウェア結合などを理解し、説明できる。</p> <p>(6)プロジェクトの管理、構成管理、品質マネージメントなどを理解し、説明できる。</p>				
ループリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安
評価項目1 達成目標(1)~(6)に使用する英語を含む用語について理解し、説明できる	80%以上	70%以上80%未満	60%以上70%未満	60%未満
評価項目2 達成目標(1)~(6)の授業ノート・レポート作成し、提出できる。	80%以上	70%以上80%未満	60%以上70%未満	60%未満
評価項目3 (3)達成目標(1)~(6)の演習課題を実施、提出できる。	80%以上	70%以上80%未満	60%以上70%未満	60%未満
学科の到達目標項目との関係				
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (d)(1), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (g), 学習目標 II, 学校目標 E (継続的学習), 本科の点検項目 E - ii, 学校目標 F (専門の実践技術), 学科目標 F (専門の実践技術), 本科の点検項目 F - i, 学科目標 H (社会と時代が求める技術), 学校目標 H (社会と時代が求める技術), 本科の点検項目 H - i				
教育方法等				
概要	情報工学科で学ぶ基礎知識を総合的に適用することで、さまざまな工業製品の開発に適用される組込みシステムの基礎知識を学習する。			
授業の進め方と授業内容・方法	自学自習への取り組み: 授業もしくは授業項目毎に授業中に提示する演習課題を含む授業ノート・レポートと Blackboard で実施する演習課題を提出する必要がある。授業ノート・レポートと演習課題を活用して自学自習に取り組み、中間試験と定期試験に準備することが必要である。授業ノート・レポートと演習課題は、指定された日時までに、ファイルとして指定される Blackboard に保管または実施することで提出されたことを認める。授業ノート・レポートの内容が不適切な場合には再提出を求めることがある。授業ノート・レポートと演習課題をすべて提出または実施することが必要である。			
注意点	準備する用具: ノート、A4レポート用紙、筆記用具、英和辞書、関数電卓。 その他注意事項: 理解度を見るために、授業開始直後に、前回の内容に関する確認を演習課題として行う事があるので復習しておくこと。なお、授業予定に変更がある場合は、授業中に連絡するので注意すること。			
授業計画				
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1週	1. 組込みとは何か 1.1 組込みシステムとは 1.2 応用システム 1.3 カスタムハードウェア 1.4 リソースの制約 1.5 コンカレント開発 1.6 組込みシステムの機能的特長	組込みシステム、応用システム、カスタムハードウェア、リソースの制約、コンカレント開発、組込みシステムの機能的特長などを理解し、説明できる。	
	2週	2. 組込みエンジニアとは何か 2.1 組込みエンジニア実態 2.2 組込みエンジニアの楽しさ 2.3 組込みエンジニアの将来性 2.4 組込みエンジニアに求められるもの 2.5 ETSSのスキル基準 2.6 ETSSのキャリア基準	組込みエンジニア実態、組込みエンジニアの楽しさ、組込みエンジニアの将来性、組込みエンジニアに求められるもの、ETSSのスキル基準、ETSSのキャリア基準などを理解し、説明できる	
	3週	3. 要素技術/プラットフォーム 3.1 プロセッサ 3.2 基本ソフト 3.3 支援機能	プロセッサ、基本ソフト、支援機能について理解し、説明できる。	
	4週	同上	同上	
	5週	同上	同上	
	6週	同上	同上	
	7週	同上	同上	
	8週	中間試験		

9週	4. 要素技術/ドメイン知識 4.1 ストレージ 4.2 通信 4.3 マルチメディア 4.4 計測制御 4.5 情報処理 4.6 ユーザインタフェース	ストレージ、通信、マルチメディア、計測制御、情報処理、ユーザインタフェースについて理解し、説明できる。
10週	同上	同上
11週	同上	同上
12週	同上	同上
13週	5. 組込み開発技術 5.1 組込み開発 5.2 ソフトウェア詳細設計 5.3 ソフトウェアコード作成とテスト 5.4 ソフトウェア結合	組込み開発、ソフトウェア詳細設計、ソフトウェアコード作成とテスト、ソフトウェア結合などを理解し、説明できる。
14週	同上	同上
15週	6. 組込み管理技術 6.1 プロジェクトの管理 6.2 構成管理 6.3 品質マネージメント	プロジェクトの管理、構成管理、品質マネージメントなどを理解し、説明できる。
16週	定期試験	

評価割合

	中間試験	定期試験	授業ノートレポート	課題・小テスト	合計
総合評価割合	20	20	30	30	100
基礎的能力	0	0	0	0	0
専門的能力	20	20	30	30	100

苫小牧工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	信頼性工学
科目基礎情報				
科目番号	J5-4200	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	情報工学科	対象学年	5	
開設期	後期	週時間数	前期:0 後期:2	
教科書/教材	(教科書)福井泰好著「入門 信頼性工学(第2版)」森北出版(参考図書)伏見正則著「理工学者が書いた数学の本: 確率と確率過程」講談社 イアン・ブラッドリー著「社会のなかの数理」九州大学出版会 室津義定・大場史憲・米沢政昭・藤井進 共著「システム工学」森北出版 山田茂著「ソフトウェア信頼性モデル」日科技連 Alessandro Birolini: "Reliability Engineering: Theory and Practice", Springer, 2007 (講義及び試験の内容水準確認のための参考資料)情報処理技術者試験, 大津巨著「設計技術者のための品質管理」日科技連 Alessandro Birolini: "Reliability Engineering: Theory and Practice", Springer, 2007			
担当教員	土居 茂雄			
到達目標				
1)信頼性の理論を理解し, 説明, 応用できること. 2)信頼性の各指標について理解し, 計算できること. 3)システムの故障の系統的分析について理解し, ハザードの発生確率を計算できること. 4)システムの故障によって生じる影響や法的責任について説明できること. 5)品質管理の統計的背景について理解し, 説明, 計算できること. 6)品質管理の技法を利用できること. 7)ソフトウェアにおける品質管理について説明・応用できること. 8)ソフトウェアにおける信頼性モデルについて説明・応用できること.				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	信頼性の理論を適切に説明, 応用できる	信頼性の理論を説明, 応用できる	信頼性の理論を説明, 応用できない	
評価項目2	信頼性の各指標について適切に計算できる	信頼性の各指標について計算できる	信頼性の各指標について計算できない	
評価項目3	システムの故障の系統的分析について適切に説明できる	システムの故障の系統的分析について説明できる	システムの故障の系統的分析について説明できない	
評価項目4	システムの故障によって生じる影響や法的責任について適切に説明できる	システムの故障によって生じる影響や法的責任について説明できる	システムの故障によって生じる影響や法的責任について説明できない	
評価項目5	品質管理の統計的背景について適切に説明, 計算できる	品質管理の統計的背景について理解し, 説明, 計算できる	品質管理の統計的背景について理解し, 説明, 計算できない	
評価項目6	品質管理の技法を適切に利用できる	品質管理の技法を利用できる	品質管理の技法を利用できない	
評価項目7	ソフトウェアにおける品質管理について適切に説明, 応用できる	ソフトウェアにおける品質管理について説明, 応用できる	ソフトウェアにおける品質管理について説明, 応用できない	
評価項目8	ソフトウェアにおける信頼性モデルについて適切に説明, 応用できる	ソフトウェアにおける信頼性モデルについて説明・応用できる	ソフトウェアにおける信頼性モデルについて説明・応用できない	
評価項目9	英語⇄日本語の翻訳が適切にできる	英語⇄日本語の翻訳ができる	英語⇄日本語の翻訳ができない	
学科の到達目標項目との関係				
J A B E E基準 1 学習・教育到達目標 (d)(1), J A B E E基準 1 学習・教育到達目標 (d)(4), J A B E E基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E基準 1 学習・教育到達目標 (g), 学習目標 II, 学校目標 E (継続的学習), 本科の点検項目 E - ii, 学校目標 F (専門の実践技術), 学科目標 F (専門の実践技術), 本科の点検項目 F - i, 本科の点検項目 F - ii, 学科目標 H (社会と時代が求める技術), 学校目標 H (社会と時代が求める技術), 本科の点検項目 H - i				
教育方法等				
概要	規模が巨大化・構造が複雑化・機能が高度化したシステムにおいては, そのシステムに課せられた使命を十分に達成することは, 安全性および経済性の面から困難になりつつあります. システムに課せられた使命を十分に達成するためには, そのシステム固有の技術と運用・管理技術を融合して考える必要が出てきます.			
授業の進め方と授業内容・方法	本講義では, まず一般的なシステムの信頼性と品質管理について学びます. 次に応用例のシステムとしてソフトウェアを考え, ソフトウェア固有の問題と信頼性や品質管理に関する技術をどう適用するかを学びます. 達成目標に示す試験, 小テスト・レポートを100点法で採点し, 中間試験35%, 定期試験40%, 小テスト・レポート25%の割合で評価します. 成績によっては再試験を行うことがあります.			
注意点	自学自習時間として60時間を考え, 本講義項目の達成目標に相当する課題を提示します. 演習課題を自学自習として取り組み, その結果をレポートで提出してください. 数学の知識を前提として進めますので, 確率統計・微分積分について復習しておいてください. レポートの提出期限後の提出は減点の対象となることがあります.			
授業計画				
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
後期	1週	システムの信頼性	信頼性を定義する上で必要となる数式・値の定義を理解し, その意味を説明できること.	
	2週	システムの信頼性	信頼度の計算方法を説明でき, 実際に計算できること. 製品などの故障率の時間変動モデルがどのように表されるかを説明できること.	
	3週	システムの信頼性	構成法が異なるシステムの信頼度の計算方法について説明できること. 実システムでは, 信頼性をどのように向上させているか実例を示して説明でき, その信頼度を計算し, 評価できること.	
	4週	システムの信頼性	構成法が異なるシステムの信頼度の計算方法について説明できること. 実システムでは, 信頼性をどのように向上させているか実例を示して説明でき, その信頼度を計算し, 評価できること.	

5週	故障解析とリスク分析	システムの故障原因を系統的に追求する手法について理解し説明できること。システムの故障に対して、解析を行ないフォールトツリーを構成できること。
6週	故障解析とリスク分析	システムの故障原因を系統的に追求する手法について理解し説明できること。システムの故障に対して、解析を行ないフォールトツリーを構成できること。
7週	故障解析とリスク分析	リスクについて評価でき、リスクとなる原因に対して対処する順番をつけられるようになること。製造物責任法に違反することによって生じる賠償や社会的責任について考察あるいは説明できること。
8週	中間試験	
9週	品質管理	品質管理の目的および品質管理を継続的に行う意義を説明できること。品質評価と一般に用いられている指標について説明できること。品質管理の技法について説明でき、場面に応じた品質管理技法が利用できるようになること。
10週	品質管理	品質管理の目的および品質管理を継続的に行う意義を説明できること。品質評価と一般に用いられている指標について説明できること。品質管理の技法について説明でき、場面に応じた品質管理技法が利用できるようになること。
11週	品質管理	品質管理の目的および品質管理を継続的に行う意義を説明できること。品質評価と一般に用いられている指標について説明できること。品質管理の技法について説明でき、場面に応じた品質管理技法が利用できるようになること。
12週	品質管理 ソフトウェアの信頼性モデル	品質管理の目的および品質管理を継続的に行う意義を説明できること。品質評価と一般に用いられている指標について説明できること。品質管理の技法について説明でき、場面に応じた品質管理技法が利用できるようになること。ソフトウェアにおける品質管理および信頼性のモデルについて説明できること。また、ソフトウェアの信頼性解析に用いられる定性的分類のモデルや数値モデルについて理解・説明できること。
13週	ソフトウェアの信頼性モデル	ソフトウェアにおける品質管理および信頼性のモデルについて説明できること。また、ソフトウェアの信頼性解析に用いられる定性的分類のモデルや数値モデルについて理解・説明できること。
14週	ソフトウェアの信頼性モデル	ソフトウェアにおける品質管理および信頼性のモデルについて説明できること。また、ソフトウェアの信頼性解析に用いられる定性的分類のモデルや数値モデルについて理解・説明できること。
15週	ソフトウェアの信頼性モデル	ソフトウェアにおける品質管理および信頼性のモデルについて説明できること。また、ソフトウェアの信頼性解析に用いられる定性的分類のモデルや数値モデルについて理解・説明できること。
16週	定期試験	

評価割合

	中間試験	小テスト・レポート	定期試験	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	35	25	40	0	0	0	100
専門的能力	35	25	40	0	0	0	100

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	情報学特論
科目基礎情報					
科目番号	J5-4500		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	情報工学科		対象学年	5	
開設期	後期		週時間数	前期:0 後期:2	
教科書/教材	教科書: なし/参考図書: A.-L. パラバシ『新ネットワーク思考～世界のしくみを読み解く』NHK出版, 青木薫訳 (2002), M. ブキヤナン『複雑な世界, 単純な法則 ネットワーク科学の最前線』草思社, 阪本芳久訳 (2005), 井庭崇, 福原義久『複雑系入門 知のフロンティアへの冒険』NTT出版 (1998), メラニー・ミッチェル『ガイドツアー 複雑系の世界』紀伊國屋書店, 高橋洋訳 (2011), 吉永良正『「複雑系」とは何か?』講談社現代新書 (1996), M・ワールドロップ『複雑系—科学革命の震源地・サンタフェ研究所の天才たち』新潮文庫, 田中三彦, 遠山峻征訳 (2000), 古川正志, 荒井誠, 吉村斎, 浜克己『システム工学』コロナ社 (2000)				
担当教員	原田 恵雨				
到達目標					
1) 複雑ネットワークとは何かを説明できる. 2) 複雑ネットワークの振る舞いについて, 基本的な用語を織り交げた文章で説明できる. 3) 複雑ネットワークの簡単な構造分析ができ, 評価できる. 4) 複雑ネットワーク上で起こる振る舞いの簡単なシミュレーションができ, 評価できる.					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	複雑ネットワークとは何かを詳しく説明できる.	複雑ネットワークとは何かを説明できる.	複雑ネットワークとは何かを説明できない.		
評価項目2	複雑ネットワークの振る舞いについて, 基本的な用語を織り交げた文章で詳しく説明できる.	複雑ネットワークの振る舞いについて, 基本的な用語を織り交げた文章で説明できる.	複雑ネットワークの振る舞いについて, 基本的な用語を織り交げた文章で説明できない.		
評価項目3	複雑ネットワークの多様な構造分析ができ, 評価できる.	複雑ネットワークの簡単な構造分析ができ, 評価できる.	複雑ネットワークの構造分析ができず, 評価できない.		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (c), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (d)(4), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (g), 学習目標 II, 学校目標 E (継続的学習), 本科の点検項目 E - ii, 学校目標 F (専門の実践技術), 学習目標 F (専門の実践技術), 本科の点検項目 F - i, 学科目標 H (社会と時代が求める技術), 学校目標 H (社会と時代が求める技術), 本科の点検項目 H - i					
教育方法等					
概要	この授業では, 現実世界の多くの現象が様々な"層"における多数の"要素"の相互作用によって引き起こされていることを発見し, その相互作用をネットワークとして表現したものについて理解を深める。 なんらかのプログラミング言語で計算機上にシミュレーション環境を築くことにより, 複雑な挙動に対する理解を深める。				
授業の進め方と授業内容・方法	本講義では, 複雑ネットワークに関する基礎について学習する。その上で, 理解を深めるための演習 (主にプログラミング) を行う。 講義はスライドおよび配布資料に基づいて行う。適宜, 計算機演習を行い, 講義内容についての理解をより深める。 授業項目に対する達成目標に関する内容の試験および演習で総合的に達成度を評価する。定期試験および中間試験 60%, 演習40%の割合で総合的に評価する。合格点は60点である。なお, レポートは提示後から原則2週間以内に提出されない場合に大幅に減点する。最終評価が合格点に達しない場合, 再試験を行うことがある。				
注意点	授業毎に配布する演習課題を取り組むこと。目標が達成されていない場合には再提出を求める。演習課題の8割以上を提出することが必須である。確率, 統計, 微分積分, 線形代数, 集合論, グラフ理論, プログラミングを復習しておくこと役立つ。 また, 自学自習時間は演習課題に使うこと。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	1週	複雑系および複雑ネットワークの基礎	複雑ネットワークを簡単に説明でき, 現実の複雑ネットワークの例を挙げることができる。		
	2週	使用するプログラミング言語の基本的な文法	なんらかのプログラミング言語を用いて複雑ネットワークを計算機上で取り扱う準備ができる		
	3週	使用するプログラミング言語の基本的な文法	なんらかのプログラミング言語を用いて複雑ネットワークを計算機上で取り扱う準備ができる		
	4週	使用するプログラミング言語の基本的な文法	なんらかのプログラミング言語を用いて複雑ネットワークを計算機上で取り扱う準備ができる		
	5週	ネットワークの各種表現方法	複雑ネットワークを計算機上で取り扱うための, 具体的なデータ構造を用いることができる		
	6週	複雑ネットワークのスマールワールド性	複雑ネットワークのスマールワールド性を説明でき, その有無について計測できる		
	7週	複雑ネットワークのクラスタ性	複雑ネットワークのクラスタ性を説明でき, その有無について計測できる		
	8週	複雑ネットワークのスケールフリー性	複雑ネットワークのスケールフリー性を説明でき, その有無について計測できる		
	9週	中間試験			
	10週	ネットワーク中心性	各種ネットワーク中心性を取り扱うことができる		
	11週	複雑ネットワークのコミュニティ構造	複雑ネットワーク上にコミュニティを定義できる		
	12週	ネットワーク上の情報伝播	ネットワーク上の情報伝播を計算機上でシミュレートでき, 挙動について説明できる		
	13週	ネットワーク上の同期現象	ネットワーク上の同期現象を計算機上でシミュレートでき, 挙動について説明できる		
	14週	その他のネットワーク上のダイナミクス	ネットワーク上の動的な挙動を計算機上でシミュレートでき, 挙動を説明できる		

	15週	その他のネットワーク上のダイナミクス	ネットワーク上の動的な挙動を計算機上でシミュレートでき、挙動を説明できる
	16週		
評価割合			
		試験	課題
		合計	
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	60	40	100
分野横断的能力	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	知識情報工学
科目基礎情報					
科目番号	J5-4510		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報工学科		対象学年	5	
開設期	後期		週時間数	前期:0 後期:3	
教科書/教材	教科書なし (適宜プリント等を配布) / Duda, "Pattern Classification", Willey-Interscience, 2000				
担当教員	三上 剛				
到達目標					
(1) パターン認識の基本的な概念について説明出来る。 (2) パターン認識に関する計算問題を解くことが出来る。 (3) 最近傍法、階層型ニューラルネット、ナイーブベイズ識別器、決定木に関するプログラムを作成できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	パターン認識に関する応用事項に関する計算問題が解ける。	パターン認識に関する基礎的な事項に関する計算問題が解ける。	パターン認識に関する基礎的な事項に関する計算問題が解けない。		
評価項目2	k最近傍識別、ニューラルネットワーク、統計的パターン認識、決定木に関する理論を数式を用いて説明できる。	k最近傍識別、ニューラルネットワーク、統計的パターン認識、決定木に関する概要を説明できる。	k最近傍識別、ニューラルネットワーク、統計的パターン認識、決定木に関する概要を説明できない。		
評価項目3	k最近傍識別、ニューラルネットワーク、統計的パターン認識、決定木に関するプログラムを作成でき、結果の考察を正しくできる。	k最近傍識別、ニューラルネットワーク、統計的パターン認識、決定木に関するプログラムを作成できる。	k最近傍識別、ニューラルネットワーク、統計的パターン認識、決定木に関するプログラムを作成できない。		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (c), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (d)(1), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (g), 学習目標 II, 学校目標 D (工学基礎), 学科目標 D (工学基礎), 本科の点検項目 D-iv, 学校目標 E (継続的学習), 本科の点検項目 E-ii, 学校目標 F (専門の実践技術), 学科目標 F (専門の実践技術), 本科の点検項目 F-i, 本科の点検項目 F-ii					
教育方法等					
概要	OCR (光学的文字認識), 顔画像認証, 指紋照合などの技術はパターン認識と呼ばれ, 知識情報工学において最も重要な分野の1つである。この講義では, パターン認識の基礎的な手法について取り上げ, プログラム作成演習を通して, パターン認識の基礎的な技術を身につける。				
授業の進め方と授業内容・方法	座学を中心とするが, 演習課題 (プログラムの作成など) も課す。演習課題は授業時間内では終了しないので, 放課後に自学自習として行うこと。達成度を評価する試験を適宜実施する。定期試験35%、達成度を計る試験35%、課題レポート等30%の割合で評価する。合格点は60点以上。				
注意点	定期試験の成績によっては再試験を行うこともある。実施する場合には別途その扱いについて連絡するので注意すること。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	1週	パターン認識の基礎概念	パターン認識の基礎的な概念を説明できる。		
	2週	最近傍法と分離境界	最近傍法に関連する計算問題を解くことが出来る。		
	3週	k-最近傍法と演習	最近傍法およびk-最近傍法のプログラムを作成できる。		
	4週	数学の準備(1)	最適化について計算問題を解くことができる。		
	5週	ニューラルネットワーク(1)	単純パーセプトロンの理論を説明出来る。		
	6週	ニューラルネットワーク(2)	多層パーセプトロンと誤差逆伝搬法の概念について説明出来る		
	7週	ニューラルネットワーク(3)	多層パーセプトロンと誤差逆伝搬法のプログラムを作成できる		
	8週	ニューラルネットワーク(4)	線形分離不可能な問題に関して説明出来る。		
	9週	数学の準備(2)	確率、統計の基礎的な問題を解くことができる。		
	10週	ナイーブベイズ識別(1)	ナイーブベイズ識別の概念を説明出来る		
	11週	ナイーブベイズ識別(2)	ナイーブベイズ識別のプログラムを作成できる		
	12週	決定木(1)	CARTの概念を説明出来る。		
	13週	決定木(2)	CARTのプログラムを作成できる		
	14週	交差確認法とブートストラップ法	交差確認法とブートストラップ法のプログラムを作成できる		
	15週	ランダムフォレスト	ランダムフォレストの概念を説明出来る		
	16週				
評価割合					
	定期試験	達成度試験	課題等	合計	
総合評価割合	35	35	30	100	
基礎的能力	0	0	0	0	
専門的能力	35	35	30	100	
分野横断的能力	0	0	0	0	

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	オペレーティングシステムⅡ
科目基礎情報					
科目番号	J5-4515		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報工学科		対象学年	5	
開設期	後期		週時間数	前期:0 後期:3	
教科書/教材	すぐわかる! 組込み技術教科書【「香取巻男・立田純一」CQ出版】/教材:「ITRONプログラミング入門」CQ出版、「μITRON準拠TOPPERSの実践活用」CQ出版、「TRONプログラミング入門」オーム社、「Real-Time Concepts for Embedded Systems」CMP Books				
担当教員	阿部 司				
到達目標					
1. リアルタイムOSを理解し説明できる。 2. カーネルとオブジェクトを理解し説明できる。 3. ハードウェア制御機能を理解し説明できる。 4. リアルタイムOSのソフトウェア開発システムが使える。 5. リアルタイムOSの応用プログラムとハードウェア制御のプログラムの作成ができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
1. リアルタイムOSを理解し説明できる。	リアルタイムOSを理解し説明できる。	リアルタイムOSを理解し基本的な説明ができる。	リアルタイムOSを理解し説明できない。		
2. カーネルとオブジェクトを理解し説明できる。	カーネルとオブジェクトを理解し説明できる。	カーネルとオブジェクトを理解し基本的な説明ができる。	カーネルとオブジェクトを理解し説明できない。		
3. ハードウェア制御機能を理解し説明できる。	ハードウェア制御機能を理解し説明できる。	ハードウェア制御機能を理解し基本的な説明ができる。	ハードウェア制御機能を理解し説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (d)(1), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), 学習目標 II, 学校目標 D (工学基礎), 学科目標 D (工学基礎), 本科の点検項目 D - iv, 学校目標 E (継続的学習), 本科の点検項目 E - ii, 学校目標 F (専門の実践技術), 学科目標 F (専門の実践技術), 本科の点検項目 F - i					
教育方法等					
概要	組込みシステムを実現するために必要不可欠なリアルタイムOSの概念、構造および利用方法を学び、実習により応用プログラム・ハードウェア制御のプログラム作成を行う。				
授業の進め方と授業内容・方法	座学により、組込みシステムを実現するために必要不可欠なリアルタイムOSについて、TOPPERS/ASPカーネルの概念、構造および利用方法を学ぶ。 実習により、リアルタイムOSのソフトウェア開発システムを使用して応用プログラムとハードウェア制御のプログラム作成を行う。 第8週前後に、確認試験を実施する。試験の評価は確認試験50%、定期試験50%である。合格点は60点以上である。				
注意点	4年生の「オペレーティングシステムI」を基礎としているので、学習内容を復習しておくこと。 C言語によるプログラミング能力と説明のための文章力を養っておくこと。 授業で示される演習課題に自学自習により取り組むこと。演習課題は添削後、目標が達成されていることを確認し、返却する。目標が達成されていない場合には、再提出すること。 プリントを綴じるファイルを準備すること。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	1週	リアルタイムOSの概要	リアルタイムOSの概要を理解し説明できる。		
	2週	カーネルの構造	カーネルの構造を理解し説明できる。		
	3週	ソフトウェア開発システム	ソフトウェア開発システムを理解し使用できる。		
	4週	オブジェクトと静的API	オブジェクトと静的APIを理解し説明でき、プログラムを作成できる。		
	5週	スケジューラとスケジューアルゴリズム	スケジューラとスケジューアルゴリズムを理解し説明できる。		
	6週	タスクと状態遷移	タスクと状態遷移を理解し説明でき、タスクを使ったプログラムを作成できる。		
	7週	周期ハンドラとアラーム	周期ハンドラとアラームを理解し説明でき、プログラムを作成できる。		
	8週	セマフォと同期アルゴリズム	セマフォと同期アルゴリズムを理解し説明でき、セマフォを使ったプログラムを作成できる。		
	9週	デッドロックと回避アルゴリズム	デッドロックと回避アルゴリズムを理解し説明できる。		
	10週	イベントフラグ	イベントフラグを理解し説明でき、イベントフラグを使ったプログラムを作成できる。		
	11週	メールボックス	メールボックスを理解し説明でき、メールボックスを使ったプログラムを作成できる。		
	12週	データキュー	データキューを理解し説明でき、データキューを使ったプログラムを作成できる。		
	13週	ハードウェア制御	ハードウェア制御を理解し説明でき、ハードウェア制御プログラムを作成できる。		
	14週	ハードウェア非依存部と依存部	ハードウェア非依存部と依存部を理解し説明できる。		
	15週	割り込みハンドラ	割り込みハンドラを理解し説明でき、割り込みを使ったプログラムを作成できる。		
	16週	定期試験			
評価割合					
	試験 (定期試験・確認試験)	プログラム作成	演習	レポート	合計
総合評価割合	50	30	15	5	100

基礎的能力	25	15	10	5	55
專門的能力	25	15	5	0	45
分野横断的能力	0	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	信号処理Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	J5-4525		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報工学科		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	前期:3 後期:0	
教科書/教材	「教科書」 大類重範著「デジタル信号処理」日本理工出版会 / 「参考書」小川吉彦著「信号処理の基礎」朝倉書店, Richard G. Lyons, "Understanding Digital Signal Processing 2nd ed," Prentice-Hall				
担当教員	佐々木 幸司				
到達目標					
1. フーリエ変換の計算ができ、これに関する公式を適用できる。 2. ラプラス変換の計算ができ、アナログシステムの周波数応答を計算できる。 3. Z変換の計算ができ、これに関する公式を適用できる。 4. デジタルシステムの周波数応答を計算できる。 5. 仕様を満たすデジタルフィルタを設計できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
フーリエ変換の計算と公式について	フーリエ変換の複雑な計算ができ、これに関する公式を導出できる。	フーリエ変換の計算ができ、これに関する公式を適用できる。	フーリエ変換の計算ができず、これに関する公式を適用できない。		
ラプラス変換の計算と、アナログシステムの周波数応答について	ラプラス変換の複雑な計算ができ、複雑なアナログシステムの周波数応答を計算できる。	ラプラス変換の計算ができ、アナログシステムの周波数応答を計算できる。	ラプラス変換の計算ができず、アナログシステムの周波数応答を計算できない。		
Z変換の計算と、これに関する公式について	Z変換の複雑な計算ができ、これに関する公式を導出できる。	Z変換の計算ができ、これに関する公式を適用できる。	Z変換の計算ができず、これに関する公式を適用できない。		
デジタルシステムの周波数応答について	複雑なデジタルシステムの周波数応答を計算できる。	デジタルシステムの周波数応答を計算できる。	デジタルシステムの周波数応答を計算できない。		
デジタルフィルタの設計について	複雑な仕様を満たすデジタルフィルタを設計できる。	仕様を満たすデジタルフィルタを設計できる。	仕様を満たすデジタルフィルタを設計できない。		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (c), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (d)(1), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), 学習目標 II, 学校目標 D (工学基礎), 学科目標 D (工学基礎), 本科の点検項目 D - iv, 学校目標 E (継続的学習), 本科の点検項目 E - ii, 学校目標 F (専門の実践技術), 学科目標 F (専門の実践技術), 本科の点検項目 F - i, 本科の点検項目 F - ii					
教育方法等					
概要	信号処理は電子、電気、情報工学の多様な分野において必要不可欠な技術である。この講義では信号処理の基礎として重要なフーリエ級数、フーリエ変換、アナログ信号のためのラプラス変換、デジタル信号のためのZ変換について重点的に説明する。さらにZ変換の応用として、デジタルシステムの解析についても説明する。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業は座学である。達成目標に関する内容の試験および演習・課題レポートで総合的に達成度を評価する。試験を60%、達成度確認を30%、演習・課題レポートを10%として成績を評価し、60点以上を合格とする。ただし、提出期限が過ぎた課題レポートは成績評価の対象から除外するので、提出期限を厳守すること。再試験は実施することがある。				
注意点	授業中の演習や課題レポートには積極的に自発的に取り組むこと。課題レポートは添削後、返却する。また、関連する分野の専門書等を精読し授業の理解を促進すること(60時間の自学自習が必要です)。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	フーリエ変換(1)	基本的なフーリエ変換の計算ができる。		
	2週	フーリエ変換(2)	フーリエ変換の性質を利用して複雑な計算ができる。		
	3週	デルタ関数への応用	フーリエ変換をデルタ関数に適用した計算ができる。		
	4週	インパルス応答	インパルス応答を求めることができる。		
	5週	ラプラス変換(1)	基本的なラプラス変換の計算ができる。		
	6週	ラプラス変換(2)	ラプラス変換の性質を利用して複雑な計算ができる。		
	7週	ラプラス変換とシステム	ラプラス変換を利用して線形システムを解析できる。		
	8週	達成度確認			
	9週	標本化と量子化	標本化と量子化について、説明できる。		
	10週	離散ラプラス変換	離散時間のラプラス変換を理解できる。		
	11週	Z変換	基本的なZ変換の計算ができる。		
	12週	Z変換の性質	Z変換の性質を利用して複雑な計算ができる。		
	13週	離散時間線形システム(1)	Z変換を利用して線形システムを解析および設計できる。		
	14週	離散時間線形システム(2)	Z変換を利用して線形システムを解析および設計できる。		
	15週	離散時間線形システム(3)	Z変換を利用して線形システムを解析および設計できる。		
	16週				
評価割合					
	試験	達成度確認	課題	合計	
総合評価割合	60	30	10	100	
基礎的能力	0	0	0	0	
専門的能力	60	30	10	100	
分野横断的能力	0	0	0	0	

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	情報通信Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	J5-4531		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 1			
開設学科	情報工学科		対象学年	5			
開設期	前期		週時間数	前期:2 後期:0			
教科書/教材	TCP/IPで学ぶネットワークシステム【「小高知宏著」森北出版】/教材:「マスタリングTCP/IP」オーム社、西田 竹志著「TCP/IP入門」オーム社、Michael J. Donahoo & Kenneth L. Calvert、TCP/IP Sockets in C Practical Guide for Programmers、Elsevier Science 2002						
担当教員	阿部 司						
到達目標							
1. インターネットにおける通信技術を理解し説明できる。 2. クライアントサーバモデルによる応用プログラムを作成できる。 3. TCPプロトコルを理解し、プロトコルを解析できる。 4. IPv6を理解し、応用プログラムを作成できる。 5. プログラムの動作を理解するために、各種コマンドの使用法と出力の解析ができる。							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
1. インターネットにおける通信技術を理解し説明できる。	インターネットにおける通信技術を理解し説明できる。		インターネットにおける基本的な通信技術を理解し説明できる。		インターネットにおける通信技術を説明できない。		
2. クライアントサーバモデルによる応用プログラムを作成できる。	クライアントサーバモデルによる応用プログラムを作成できる。		クライアントサーバモデルによる基本的な応用プログラムを作成できる。		クライアントサーバモデルによる応用プログラムを作成できない。		
3. TCPプロトコルを理解し、プロトコル解析ができる。	TCPプロトコルを理解し、プロトコル解析ができる。		TCPプロトコルを理解し、基本的なプロトコル解析ができる。		TCPプロトコルを理解することが困難で、プロトコルを解析できない。		
学科の到達目標項目との関係							
J A B E E基準 1 学習・教育到達目標 (d)(1), J A B E E基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E基準 1 学習・教育到達目標 (g), 学習目標 II, 学校目標 E (継続的学習), 本科の点検項目 E - ii, 学校目標 F (専門の実践技術), 学科目標 F (専門の実践技術), 本科の点検項目 F - i							
教育方法等							
概要	TCP/IPプロトコルとソケットインタフェースによるプログラム技術学び、設計演習を行う。						
授業の進め方と授業内容・方法	座学により、コンピュータ間通信として広く普及しているインターネットの基盤となっているTCP/IP プロトコルと、UNIX 環境におけるソケットインタフェースによるプログラム技術を学ぶ。 実習により、応用層プログラムのエコープログラム、簡易WWWサーバ、次世代インターネット技術であるIPv6によるプログラム設計演習を行う。 第8週前後に、確認試験を実施する。試験の評価は確認試験50%、定期試験50%である。成績によっては、再試験を行うことがある。合格点は60点以上である。						
注意点	4年生の「情報通信I」を基礎としているので、学習内容を復習しておくこと。 C言語によるプログラミング能力と説明のための文章力を養っておくこと。 授業で示される演習課題に自学自習により取り組むこと。演習課題は添削後、目標が達成されていることを確認し、返却する。目標が達成されていない場合には、再提出すること。 プリントを綴じるファイルを準備すること。						
授業計画							
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標				
前期	1週	クライアントサーバモデル	クライアントサーバモデルの動作を理解し説明できる。				
	2週	トランスポート層と応用層プロトコル	トランスポート層プロトコルを理解し説明できる。				
	3週	ソケットインタフェースの基礎	ソケットインタフェースとプログラミングを理解し説明できる。				
	4週	ソケットアドレス構造体の設定 (IPv4アドレスとポート番号)	IPv4におけるソケットインタフェースとプログラミングを理解し説明できる。				
	5週	UDPネットワークプログラム	ソケットインタフェースを使ったUDPネットワークプログラムを作成できる。				
	6週	UNIXプロセスプログラム	UNIXプロセスプログラムを作成できる。				
	7週	TCPコネクションの確立と切断	TCPの動作原理とプログラミングを理解し説明できる。				
	8週	TCPエコークライアントプログラム	TCPエコークライアントのプログラムを作成できる。				
	9週	TCP反復エコーサーバプログラム	TCP反復エコーサーバのプログラムを作成できる。				
	10週	TCP平行エコーサーバプログラム	TCP平行エコーサーバのプログラムを作成できる。				
	11週	TCP/IPv4プロトコル解析	TCP/IPv4エコープログラムによりTCPのプロトコルを解析し、TCPのコネクションの確立・切断・データ伝送におけるセグメントの意味を説明できる。				
	12週	IPv6対応ネットワークプログラム	IPv6対応のネットワークプログラムが作成できる。				
	13週	ソケットアドレス構造体の設定 (IPv6アドレスとポート番号)	IPv6におけるソケットインタフェースとプログラミングを理解し説明できる。				
	14週	TCP/IPv6プロトコル解析	TCP/IPv6エコープログラムによりTCPのプロトコルを解析し、TCPのコネクションの確立・切断・データ伝送におけるセグメントの意味を説明できる。				
	15週	IPv6/IPv4デュアルスタックへの対応	IPv4からIPv6への移行に関する課題を理解し説明できる。				
	16週	定期試験					
評価割合							
	試験 (定期試験・確認試験)	プログラム作成	演習	レポート	合計		
総合評価割合	50	30	15	5	100		

基礎的能力	25	15	10	5	55
專門的能力	25	15	5	0	45
分野横断的能力	0	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	ソフトウェア工学Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	J5-4540		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	情報工学科		対象学年	5	
開設期	後期		週時間数	前期:0 後期:2	
教科書/教材	平澤 章「オブジェクト指向でなぜつくるのか 第2版」日経BP社, Bernd Bruegge 他「Object Oriented Software Engineering Using UML, Patterns, and Java」Pearson Education, 浅海智晴「UML & Javaオブジェクト指向開発入門編」ピアソン・エデュケーション, 長瀬嘉秀「よくわかる最新UMLの基本と仕組み オブジェクト指向ソフトウェア設計の基礎」秀和システム, ヒーター・コード「UMLによるJavaオブジェクト設計」ピアソン・エデュケーション, 「UML specification」OMG, 他				
担当教員	中村 嘉彦				
到達目標					
1) 計算機実習を通じ, GUIやバージョン管理システムも含めたオブジェクト指向型プログラミング言語によるプロジェクトの開発方法や基本的なUMLダイアグラムとの関係について理解し, 説明・実践できること. 2) オブジェクト指向的手法について理解し, その考え方に基づく問題の分析・設計・実装ができること.					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	オブジェクト指向の基本的な用語の意味を理解し, 詳細な説明ができる.		オブジェクト指向の基本的な用語の意味を理解し, 簡単な説明ができる.		オブジェクト指向の基本的な用語の意味を理解できない.
評価項目2	UMLの意義, 利用方法について理解し適切に利用できる.		UMLの意義, 利用方法について理解しある程度利用できる.		UMLの意義, 利用方法について理解できない.
評価項目3	チーム開発の利点・欠点, および, 具体的な実施方法を理解し, 実践できる.		チーム開発の利点・欠点, および, 具体的な実施方法を理解し, 一部を実践できる.		チーム開発の利点・欠点, および, 具体的な実施方法を理解できない.
評価項目4	オブジェクト指向的手法について理解し, その考え方に基づく問題の分析・設計・実装ができる		オブジェクト指向的手法について理解し, その考え方に基づく問題の分析・設計・実装が部分的にできる		オブジェクト指向的手法について理解し, その考え方に基づく問題の分析・設計・実装ができない
評価項目5	各達成目標に関する専門用語を英語で表現できる. また, 英語の専門用語を日本語で表現できる		各達成目標に関する専門用語の一部を英語で表現できる. また, 英語の専門用語の一部を日本語で表現できる		各達成目標に関する専門用語を英語で表現できない. また, 英語の専門用語を日本語で表現できない
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (d)(1), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (g), 学習目標 II, 学校目標 E (継続的学習), 本科の点検項目 E - ii, 学校目標 F (専門の実践技術), 学科目標 F (専門の実践技術), 本科の点検項目 F - i					
教育方法等					
概要	ソフトウェア工学において重要な手法である, オブジェクト指向設計・開発の基礎を学習する. オブジェクト指向設計段階における標準的な表記であるUML, オブジェクト指向型プログラミング言語を使用した実習, ソースコードを共有するチーム開発について, 学習および実習により理解を深める.				
授業の進め方と授業内容・方法	オブジェクト指向設計段階における標準的な表記であるUML, オブジェクト指向型プログラミング言語を使用した実習, ソースコードを共有するチーム開発について実習を交えながら実施し理解を深める. 達成目標についての問題を中間試験・定期試験・課題レポートで出題し, その答案内容を評価します. 試験, 演習, および課題とレポートを100点法で採点し, 中間試験35%, 定期試験40%, 演習と課題レポート25%の割合で評価します. レポート提出期限後の提出は減点の対象となる場合があります. 合格点は60点以上です. 再試験は基本的に実施されないものと考え, 継続的な学習を心がける必要があります.				
注意点	基本的に, 実習室で授業を行うものとし, 関連文書はプリントで配布, あるいはWebブラウザで閲覧可とする. 授業内で出題される課題については, 提出の要・不要を問わず, 自学自習に取り組むことにより必ず次回の授業時まで完成させておく必要がある. 提出を要する課題の場合, 内容が不適切な場合には再提出を求めることがある. 自学自習時間に必要な時間としては, 日常の授業のための予習復習時間, 理解を深めるための演習課題, および各試験の準備時間を総合したものとして, 30時間とする.				
授業計画					
	週	授業内容・方法		週ごとの到達目標	
後期	1週	オブジェクト指向に関する基本事項 (1)		オブジェクト指向に関する基本的な用語の意味を理解する.	
	2週	オブジェクト指向に関する基本事項 (2)		オブジェクト指向が考案された歴史的な流れから背景を理解する.	
	3週	オブジェクト指向型プログラミング言語によるプロジェクト開発の基本事項 (1)		オブジェクト指向プログラミング言語の開発に利用する統合開発環境について, 仕組みと利用方法を理解する.	
	4週	オブジェクト指向型プログラミング言語によるプロジェクト開発の基本事項 (2)		ソースコードからクラス図, ドキュメントを作成する仕組みと方法を理解する.	
	5週	オブジェクト指向型プログラミング言語によるプロジェクト開発の基本事項 (3)		ソースコードからクラス図, ドキュメントを作成する仕組みと方法を理解する.	
	6週	オブジェクト指向型プログラミング言語によるプロジェクト開発の基本事項 (4)		統合開発環境を用いて, チーム開発に必要なバージョン管理システムの基本的な仕組み, 利用方法を理解する.	
	7週	オブジェクト指向型プログラミング言語によるプロジェクト開発の基本事項 (5)		オブジェクト指向の重要な要素であるクラスと継承について具体的な利用方法を理解する.	
	8週	中間評価試験		第7週までの内容についての理解度を筆記試験により評価する.	
	9週	オブジェクト指向型プログラミング言語によるプロジェクト開発の基本事項 (6)		オブジェクト指向の重要な要素であるポリモーフィズムについて具体的な利用方法を理解する.	
	10週	UMLのダイアグラム		クラス図以外の主要なダイアグラムについて使い方を理解する.	

11週	オブジェクト指向的手法の実践（1）	GUIアプリケーションの作成を通じてオブジェクト指向プログラミングへの理解を深める。
12週	オブジェクト指向的手法の実践（2）	GUIアプリケーションの作成を通じてオブジェクト指向プログラミングへの理解を深める。
13週	オブジェクト指向的手法の実践（3）	与えられた問題の分析・設計・実装を通じてオブジェクト指向プログラミングへの理解を深める。
14週	オブジェクト指向的手法の実践（4）	与えられた問題の分析・設計・実装を通じてオブジェクト指向プログラミングへの理解を深める。
15週	オブジェクト指向的手法の実践（5）	与えられた問題の分析・設計・実装を通じてオブジェクト指向プログラミングへの理解を深める。
16週	定期試験	理解度を筆記試験により評価する。

評価割合

	試験	課題	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	75	25	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	35	10	0	0	0	0	0	45
専門的能力	40	15	0	0	0	0	0	55

苫小牧工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	経営工学
科目基礎情報				
科目番号	J5-4550	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	情報工学科	対象学年	5	
開設期	後期	週時間数	前期:0 後期:2	
教科書/教材	関 利恵子, 石井 宏宗 著「会社の数字がガンガンわかる ゼロからの経営分析ワークブック」 創成社、Martin S. Fridson (著), Fernando Alvarez (著) Financial Statement Analysis: A Practitioner's Guide (Wiley Finance) 4, Kindle版、都崎雅之助、大村實 共著「経営工学概論」森北出版 吉川武男、東海幹夫、木島淑孝 共著「企業経営とコスト」日本生産性本部 藤野信雄 著「経営判断のための採算計算入門」日本経済新聞社 太田雅晴 著「生産情報システム」日科技連 石渡徳彌 著「販売情報システム」日科技連 小川一夫、中島茂喜、吉田恵子 共著「勘定科目便覧」 Robert N. Anthony: "Core Concepts of Accounting", Prentice Hall College Div., 2003			
担当教員	吉村 斎			
到達目標				
(1)財務諸表について理解し、説明できること。 (2)財務諸表の入手方法について理解し、説明できること。 (3)貸借対照表を理解し説明できること。 (4)損益計算書について理解し、説明できること。 (5)キャッシュフロー計算書について理解し、説明できること。 (6)安全性分析について理解し、説明できること。 (7)資本回転期間について理解し、説明できること。 (8)収益性分析について理解し、説明できること。 (9)売上高利益率について理解し、説明できること。 (10)資本回転率と資本回転期間について理解し、説明できること。 (11)生産性分析について理解し、説明できること。 (12)財務分析をするときのポイントについて理解し、説明できること。 (13)管理会計とは生きるための知恵について理解し、説明できること。 (14)経営戦略について理解し、説明できること。 (15)事業戦略について理解し、説明できること。 (16)予算実績差異分析について理解し、説明できること。 (17)CVP分析について理解し、説明できること。 (18)これからの管理会計モデルについて理解し、説明できること。				
ループリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安
評価項目1 達成目標(1)~(18)に対して理解し、これらの概要について説明できるか。	80%以上	70%以上 80%未満	60%以上 70%未満	60%未満
評価項目2 (2)達成目標(1)~(18)に対して授業ノート・レポートを提出しているか。	80%以上	70%以上 80%未満	60%以上 70%未満	60%未満
評価項目3 (3)達成目標(1)~(18)に対して演習課題を提出しているか。	80%以上	70%以上 80%未満	60%以上 70%未満	60%未満
学科の到達目標項目との関係				
J A B E E基準1 学習・教育到達目標 (d)(1), J A B E E基準1 学習・教育到達目標 (d)(4), J A B E E基準1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E基準1 学習・教育到達目標 (g), 学習目標 II, 学校目標 E (継続的学習), 本科の点検項目 E - ii, 学科目標 H (社会と時代が求める技術), 学校目標 H (社会と時代が求める技術), 本科の点検項目 H - i				
教育方法等				
概要	本講義は、経営分析の目的は、貸借対照表、損益計算書 および キャッシュフロー計算書、すなわち財務諸表を使用して、企業の状況を分析、判断することを習得することを目的とする。従来の財務会計を中心とした経営分析のみを扱うのではなく、実務でも役に立つ管理会計もカバーして、まんべんなく経営分析の理論と実践を豊富な演習課題をとおして習得する。			
授業の進め方と授業内容・方法	自学自習への取り組み：授業もしくは授業項目毎に授業中に提示する演習問題を含む授業ノート・レポートと授業中に行う演習課題を提出する必要がある。授業ノート・レポートと演習課題を活用して自学自習に取り組み、中間試験と定期試験に準備することが必要である。授業ノート・レポートと演習課題は、指定されたファイル形式で提出期限までに、Balckboardから提出すること。内容が不適切な場合には再提出を求められることがある。授業ノート・レポートと演習課題をすべて提出することが必要である。 その他注意事項：理解度を見るために、授業開始直後に、前回までの授業内容に関する確認試験を演習問題として行う事があるので復習しておくこと。なお、授業予定に変更がある場合は、授業中に連絡するので注意すること。			
注意点	準備する用具：ノート、A4レポート用紙、筆記用具、英和辞書を持参すること。			
授業計画				
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
後期	1週	1. 財務諸表とは 1-1 財務諸表 1-2 財務分析の方法	財務諸表 (貸借対照表損益計算書・キャッシュフロー計算書) の仕組みと財務諸表の役割、財務分析の4つの視点を理解し、説明できる。	
	2週	2. 財務諸表の入手方法 2-1企業ホームページから入手 2-2金融庁のEDINETから入手	財務諸表の企業ホームページと有価証券報告書 (財務諸表) を金融庁 EDINETから入手する方法を理解し、説明できる。	
	3週	3. 貸借対照表 3-1 貸借対照表 3-2 項目分類基準 3-3 資産負債純資産	貸借対照表から、企業の財政状態を知り、貸借対照表から、企業の資金の調達状況と運用形態を理解し、説明できる。	
	4週	4. 損益計算書 4-1損益計算書 4-2 損益計算書の構造 4-3段階別利益	損益計算書からは、企業の1年間の経営成績を知ることによって損益計算書に記載される5つの利益の意味を理解し、説明できる。	

5週	5. キャッシュフロー計算書 5-1キャッシュフロー計算書 5-2キャッシュフロー計算書の区分と表示 5-3 キャッシュフロー計算書の分析	キャッシュフロー計算書は、企業の資金状況が明らかになる表であり、キャッシュフロー計算書では、企業活動を営業、投資、財務の3つに分類してキャッシュの流れを示していることを理解し、説明できる。
6週	6. 安全性分析① 6-1 安全性分析	貸借対照表を使って企業の財務的安全性を分析し、3つの視点である財務健全度、短期的支払能力、長期的支払能力を理解し、説明できる。
7週	7. 安全性分析② 7-1回転期間による資金繰り分析 7-2 棚卸資産・売上債権・買入債務の回転期間 7-3 その他の指標	安全性分析は、貸借対照表の分析以外に資本回転期間を使って分析することもでき、売上債権、買入債務、棚卸資産の3つの回転期間の関係をみることで、資金繰りを分析することができることを理解し、説明できる。
8週	収益性分析① 8-1収益性の総合指標としての資本利益率 8-2 資本利益率の種類 8-3 資本利益率の分解	資本利益率は、資本を投じて効率的に利益を生み出しているかをみる指標であり、資本利益率は、比率を分解(売上高利益率と資本回転率)することにより、収益性の要因分析が可能になることを理解し、説明できる。
9週	中間試験	
10週	9. 収益性分析② 9-1売上高利益率 9-2 各種売上高利益率と売上高費用率	売上高利益率は、売上高に占める利益の割合をみることで、収益性の要因分析ができ、これをみる場合には、費用分析もするとより詳細な分析ができ、資本利益率の要因の1つでもあることを理解し、説明できる。
11週	10. 収益性分析③ 10-1資本回転率 10-2 資本回転率と資本回転期間 10-3 資本回転率による資産項目ごとの効率性	資本利益率の要因の1つである資本回転率を理解し、これが各種資産項目の効率性について判断する比率であることと、大きな項目から小さな項目へと絞り込んで分析してゆくことを理解し、説明できる。
12週	11. 生産性分析 11-1生産性分析 11-2 付加価値 11-3 生産要員の分析 11-4 分配関係の分析	付加価値の意味、生産性分析の手法および従業員や設備などがどれだけの付加価値を生み出していることを理解し、説明できる
13週	12. 財務分析をするときのポイント 12-1財務分析をするときのポイント 13. 管理会計とは生きるための知恵	財務諸表は、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書の3表が相互に関連していること、これらの3つの比較基準および数値以外の情報も判断基準にすることを理解し、説明できる。 管理会計とは何か、財務会計と管理会計の時間概念の違いおよび意思決定会計と業績評価会計の意味を理解し、説明できる。
14週	14. 経営戦略 15. 事業戦略 16. 予算実績差異分析	なぜ経営戦略としての中期経営計画を策定するのか、経営戦略体系と管理会計のかかわりおよび中期経営計画の策定事例を理解し、説明できる。 予算とは何か、予算作成と損益計算書のかかわりおよび予算の作成事例を理解し、説明できる。 なぜ予算実績差異分析が必要なのか、予算実績差異分析に使用する一般的な項目と手法および予算実績差異分析の実例を理解し、説明できる。
15週	17. CVP分析 18. これからの管理会計モデル 18-1固定収益モデル 12-2 BSC(バランス・スコア・カード)	CVP分析とは何かおよびCVP分析をもちいた損益分岐点の計算方法を理解し、説明できる。 固定収益会計モデルとは何かおよびBSCとは何かを理解し、説明できる。
16週	定期試験	

評価割合

	中間試験	定期試験	授業ノートレポート	課題	合計
総合評価割合	20	20	30	30	100
基礎的能力	0	0	0	0	0
専門的能力	20	20	30	30	100

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	制御工学
科目基礎情報					
科目番号	J5-4570	科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	情報工学科	対象学年	5		
開設期	前期	週時間数	前期:3 後期:0		
教科書/教材	佐藤 和也, 平元 和彦, 平田 研二 著, 「はじめての制御工学 (KS理工学専門書)」, 講談社, 森・小川 共著, 「初めて学ぶ 基礎制御工学」, 電機通信大学出版局 野波・西村 共著, 「MATLABによる制御理論の基礎」, 東京電気大学出版局 明石 一・今井弘之 共著, 「詳解 制御工学演習」, 共立出版 Di Stefano III, Stubberud, Williams, "Feedback and Control Systems", McGraw-Hill, 1967. 明石 一・今井弘之 共著, 「詳解 制御工学演習」, 共立出版 日本機械学会 編, 「JSMEテキストシリーズ 制御工学」, (社)日本機械学会 日本機械学会 編, 「JSMEテキストシリーズ 演習 制御工学」, (社)日本機械学会				
担当教員	吉村 斎				
到達目標					
<p>(1)位置、速度と微分のつながり、工学分野での微分の表記微分方程式の意味、指数関数、制御とは何か、制御方法の違いを理解し、説明できる。制御系の物理モデルを古典と現代の制御理論に適合するモデルとして表現できる。</p> <p>(2)静的システム、動的システムおよび機械系、電気系のモデルの表し方を理解し、説明できる。古典制御理論を用いた制御系の基本的な設計ができ、その説明ができる。</p> <p>(3)ラプラス変換の概念、動的システムの伝達関数、およびシステムのアナロジーを理解し、説明できる。</p> <p>(4)動的システムの応答とは何か、インパルス応答とその求め方、ステップ応答とその求め方を理解し、説明できる。</p> <p>(5)過渡特性、定常特性の意味、1次遅れ系のインパルス応答やステップ応答から、システムの過渡応答特性や定常特性を調べる方法、システムの極とは何か、またその意味を理解し、説明できる。</p> <p>(6)2次遅れ系のインパルス応答の求め方、2次遅れ系の過渡特性の形がシステムのパラメータの違いによってどのように異なるかを理解し、説明できる。</p> <p>システムの定常特性と最終地の定理を用いた定常地</p> <p>(7)値の求め方、極と過渡特性の関係からシステムの安定性調べる方法、ラウスの安定判別法を理解し、説明できる。</p> <p>(8)フィードフォワード制御、フィードバック制御、制御系の設計、内部安定性、コントローラの設計パラメータ、を理解し、説明できる。</p> <p>(9)PID制御、各制御法の役割と違い、を理解し、説明できる。</p> <p>(10)制御系設計において満たすべき望ましい定常特性、種々の目標値や外乱に対する定常誤差の計算方法、定常偏差をおとするコントローラの設計方法を理解し、説明できる。</p> <p>(11)システムの周波数応答、1次遅れ系の数は数特性、ボード線図の読み取り方を理解し、説明できる。</p> <p>(12)ボード線図の合成、2次遅れ系のボード線図の特徴、周波数伝達関数とベクトル軌跡を理解し、説明できる。</p> <p>(13)ナイキストの安定判別法、ゲイン余裕、位相余裕、安定余裕と制御系の応答の関係を理解し、説明できる。</p> <p>(14)制御系の評価とループ成形法の関係、ループ成形法による設計での重要点、位相遅れ。進みコントローラの設計の考え方とフィードバック制御系の特性の関係を理解し、説明できる。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安	
評価項目1 達成目標(1)~(14)に使用する式の意味や英語を含む用語について説明できる。	80%以上	70%以上80%未満	60%以上70%未満	60%未満	
評価項目2 達成目標(1)~(14)に必要な式の導出や計算ができる。	80%以上	70%以上80%未満	60%以上70%未満	60%未満	
評価項目3 達成目標(1)~(14)に必要な数値シミュレーションをプログラムできる。	80%以上	70%以上80%未満	60%以上70%未満	60%未満	
評価項目4 達成目標(1)~(14)を通して、制御系の解析、設計を行うことができる。	80%以上	70%以上80%未満	60%以上70%未満	60%未満	
評価項目5 達成目標(1)~(14)の授業ノート・レポートおよび数値シミュレーションのプログラム・演習を行い、提出できる。	80%以上	70%以上80%未満	60%以上70%未満	60%未満	
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (d)(1), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (g), 学習目標 II, 学校目標 D (工学基礎), 学科目標 D (工学基礎), 本科の点検項目 D - iii, 本科の点検項目 D - iv, 学校目標 E (継続的学習), 本科の点検項目 E - ii, 学校目標 F (専門の実践技術), 学科目標 F (専門の実践技術), 本科の点検項目 F - i					
教育方法等					
概要	日本語、英語、数学、物理、電気、電子および情報の基礎知識を総合的に適用することで、さまざまな工学的応用分野で利用されている古典制御理論を学習する。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業もしくは授業項目毎に授業中に提示する演習問題を含む授業ノート・レポートと授業中に行うプログラミングに説明を加えたプログラム演習課題を提出する必要がある。授業ノート・レポートとプログラム演習課題を活用して自学自習に取り組み、中間試験と定期試験に準備することが必要である。授業ノート・レポートとプログラム・演習は、指定されたファイル形式で提出期限までに、Blackboardから提出すること。内容が不適切な場合には再提出を求められることがある。授業ノート・レポートとプログラム演習課題をすべて提出することが必要である。				
注意点	準備する用具：ノート、A4レポート用紙、筆記用具、英和辞書、関数電卓。 前提となる知識：微分、積分、線形代数、ラプラス変換、電気回路、電子回路、信号処理I、3年次および4年次に行われる情報工学実験の知識が必要になる。また、説明のための文章力も必要である。 その他注意事項：理解度を見るために、授業開始直後に、前回の内容に関する確認試験を演習課題として行う事があるので復習しておくこと。なお、授業予定に変更がある場合は、授業中に連絡するので注意すること。				
授業計画					
	週	授業内容・方法		週ごとの到達目標	

前期	1週	1. 制御工学とは	位置、速度と微分のつながり、工学分野での微分の表記微分方程式の意味、指数関数、制御とは何か、制御方法の違いを理解し、説明できる。
	2週	2. システムの数学モデル	静的システム、動的システムおよび機械系、電気系のモデルの表し方を理解し、説明できる。
	3週	3. 伝達関数の役割	ラプラス変換の概念、動的システムの伝達関数、およびシステムのアナロジーを理解し、説明できる。
	4週	4. 動的システムの応答	動的システムの応答とは何か、インパルス応答とその求め方、ステップ応答とその求め方を理解し、説明できる。
	5週	6. 2次遅れ系の応答	過渡特性、定常特性の意味、1次遅れ系のインパルス応答やステップ応答から、システムの過渡応答特性や定常特性を調べる方法、システムの極とは何か、またその意味を理解し、説明できる。
	6週	6. 2次遅れ系の応答	2次遅れ系のインパルス応答の求め方、2次遅れ系の過渡特性の形がシステムのパラメータの違いによってどのように異なるかを理解し、説明できる。
	7週	7. 極と安定性	の求め方、極と過渡特性の関係からシステムの安定性調べる方法、ラウスの安定判別法を理解し、説明できる。
	8週	中間試験	
	9週	8. 制御系の構成とその安定性	フィードフォワード制御、フィードバック制御、制御系の設計、内部安定性、コントローラの設計パラメータ、を理解し、説明できる。
	10週	9. PID制御	PID制御、各制御法の役割と違い、を理解し、説明できる。
	11週	10. フィードバック制御の定常特性	制御系設計において満たすべき望ましい定常特性、種々の目標値や外乱に対する定常誤差の計算方法、定常偏差をおとするコントローラの設計方法を理解し、説明できる。
	12週	11. 周波数特性の解析	システムの周波数応答、1次遅れ系の数は数特性、ボード線図の読み取り方を理解し、説明できる。
	13週	12. ボード線図の特性と周波数伝達関数	ボード線図の合成、2次遅れ系のボード線図の特徴、周波数伝達関数とベクトル軌跡を理解し、説明できる。
	14週	13. ナイキストの安定判別法	ナイキストの安定判別法、ゲイン余裕、位相余裕、安定余裕と制御系の応答の関係を理解し、説明できる。
	15週	14. ループ成形法による f_y -度バック制御系の設計	制御系の評価とループ成形法の関係、ループ成形法による設計での重要点、位相遅れ。進みコントローラの設計の考え方とフィードバック制御系の特性の関係を理解し、説明できる。
	16週	定期試験	

評価割合					
	中間試験	定期試験	授業ノートレポート	課題	合計
総合評価割合	20	20	30	30	100
基礎的能力	0	0	0	0	0
専門的能力	20	20	30	30	100

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	情報工学実験
科目基礎情報					
科目番号	J5-4810	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	情報工学科	対象学年	5		
開設期	前期	週時間数	前期:4 後期:0		
教科書/教材	教科書:木下 是雄 著「理科系の作文技術」(中公新書), プリント教材・資料/参考図書:木下 是雄 著「レポートの組み立て方」(筑摩書房), 二木 紘三 著「論文・レポートの書き方 理系・技術系編」(日本実業出版社), 鷺田 小彌太、廣瀬 誠 共著「論文レポートはどう書か」(日本実業出版社)				
担当教員	原田 恵雨				
到達目標					
1) 実験テーマの実施を通じて、これまでに講義で学んだ技術の実現能力を高める。 2) 実体験で得た技術的知識、技術的手法、実験の結果・成果を適切な技術文書として纏めることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	各実験テーマにおける学習目標の一般目標に照らして、講義で学んだ技術と関連しつつ、実験項目の基本的知識・原理を説明できる。	各実験テーマにおける学習目標の一般目標に照らして、講義で学んだ技術と関連しつつ、実験項目の基本的知識・原理を一部説明できる。	各実験テーマにおける学習目標の一般目標に照らして、講義で学んだ技術と関連しつつ、実験項目の基本的知識・原理を説明できない。		
評価項目2	各実験テーマにおける学習目標の行動目標に照らして、実験項目を実行し、必要な実験成果物を提示できる。	各実験テーマにおける学習目標の行動目標に照らして、実験項目を実行し、必要な実験成果物を一部提示できる。	各実験テーマにおける学習目標の行動目標に照らして、実験項目を実行できず、必要な実験成果物を提示できない。		
評価項目3	読者の存在を意識した基本的構成がなされた技術文書としての実験報告書を適切に提示できる。	読者の存在を意識した基本的構成がなされた技術文書としての実験報告書を提示できる。	読者の存在を意識した基本的構成がなされた技術文書としての実験報告書を提示できない。		
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (d)(1), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (d)(2), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (d)(4), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e), J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (f), 学習目標 I, 学習目標 II, 学習目標 III, 学校目標 C (コミュニケーション), 本科の点検項目 C - i, 本科の点検項目 C - iii, 学校目標 E (継続的学習), 本科の点検項目 E - ii, 学校目標 F (専門の実践技術), 学校目標 F (専門の実践技術), 本科の点検項目 F - ii, 本科の点検項目 F - iii, 学校目標 I (チームワーク), 学校目標 I (チームワーク), 本科の点検項目 I - i					
教育方法等					
概要	これまでに座学等で学習した知識を活用して、情報技術者に必要な技術を身につけるために実験を行う。この実験では、4年次の実験よりもさらに応用の効いたテーマについて、チーム学習を通じて、より業務に近い形式で実施する。また、実験報告書作成を通じて技術的文書作成能力の向上を目指す。				
授業の進め方と授業内容・方法	班編成による共同実験で実施する。ハードウェア実験は3週で1つの実験テーマを実施し、ソフトウェア実験は、6週間で1つの実験テーマを実施する。実施場所は、4 F 情報通信実験室 (H403)、3 F 情報処理実習室 (H301)、3 F 情報システム実習室 (H302) となる。 授業計画欄に示すのはある班におけるものであって、班によってはその順序が変わる場合がある。 評価は実験テーマ毎に課す実験報告書、学期毎に提出を課す実験ノート、実験成果物の全ての提出を前提とする。中間試験・定期試験を課さない。実験テーマ毎の評価を時間数に応じて重み付け平均し、最終評価とする。各実験テーマにおける評価は、実験中や実験報告書提出時の態度、および実験報告書の内容を総合する。合格点は60点以上とする。				
注意点	ハードウェア実験の指導書は1週間前に配布されるので、実験日までに実験内容を理解しておくこと。実験当日は実験テーマにおいて必要とされる実験ノート・関連教科書・関連電卓・作図用具一式、作業用フラッシュメモリ等を用意すること。 自学自習時間は実験報告書を執筆すること。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	前期実験ガイダンス、実験機器説明	実験の進め方、実験機器の扱い方を説明できる。		
	2週	組み込みシステムとリアルタイムOS	リアルタイムOSの概念を説明できる。		
	3週	組み込みシステムとリアルタイムOS	リアルタイムOSの概念を説明できる。		
	4週	組み込みシステムとリアルタイムOS	リアルタイムOSの概念を説明できる。		
	5週	PC-UNIXサーバ	ネットワーク関連のPC UNIXサーバを構築できる。		
	6週	PC-UNIXサーバ	ネットワーク関連のPC UNIXサーバを構築できる。		
	7週	PC-UNIXサーバ	ネットワーク関連のPC UNIXサーバを構築できる。		
	8週	予備実験、報告書執筆指導	適切な技術文書としての実験報告書の執筆できる。		
	9週	プロジェクト形式によるプログラム開発	チームにより1つのシステムを設計し開発できる。		
	10週	プロジェクト形式によるプログラム開発	チームにより1つのシステムを設計し開発できる。		
	11週	プロジェクト形式によるプログラム開発	チームにより1つのシステムを設計し開発できる。		
	12週	プロジェクト形式によるプログラム開発	チームにより1つのシステムを設計し開発できる。		
	13週	プロジェクト形式によるプログラム開発	チームにより1つのシステムを設計し開発できる。		
	14週	プロジェクト形式によるプログラム開発	チームにより1つのシステムを設計し開発できる。		
	15週	予備実験、報告書執筆指導	適切な技術文書としての実験報告書の執筆ができる。		
	16週				
評価割合					
	実験時・報告書提出時の態度	実験ノート	報告書の体裁	報告書の内容	合計
総合評価割合	20	20	20	40	100
基礎的能力	20	20	20	20	80

專門的能力	0	0	0	20	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0